

作業室甲

茨城県教育財団文化財調査報告第191集

# 島名前野東遺跡

島名・福田坪一体型特定土地地区画整理  
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ

上 卷

平成14年3月

茨 城 県  
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第191集

しま な まえ の ひがし  
島名前野東遺跡

島名・福田坪一体型特定土地地区画整理  
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅷ

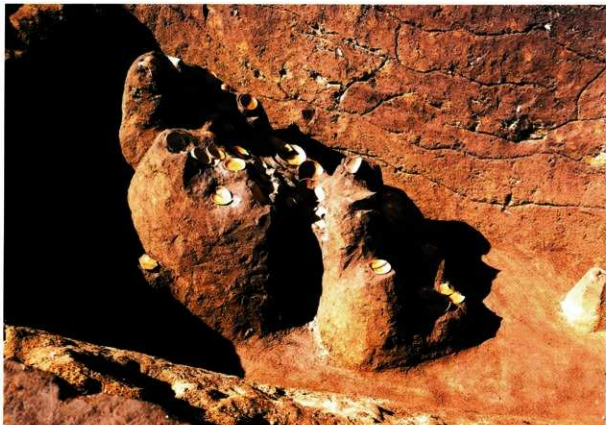
上 卷

平成14年3月

茨 城 県  
財団法人 茨城県教育財団



島名前野東遺跡全景



第3号方形区画溝遺物出土状況

## 序

つくば市は、昭和38年に筑波研究学園都市計画地域の指定を受けて以来、日本の科学技術の研究開発の核としての、さらに、国際交流の拠点としての国際都市にふさわしい町づくりを進めております。

平成17年に開通予定の「つくばエクスプレス」は、新しい町づくりの一環としてつくば市と東京圏を直結し、人・物・情報の交流を盛んにするだけでなく、地域活性化の大きな力となることが期待されています。そこで、平成6年7月に県、市、地権者の三者協議で新線開発の合意に達したのを受けてから、新線整備と沿線開発を一体的に進める土地区画整理事業が進められております。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県より埋蔵文化財発掘調査についての委託を受け、平成7年4月から平成12年3月にかけて熊の山遺跡を、平成11年10月から平成13年5月にかけて烏名前野東遺跡・烏名境松遺跡・谷田部漆遺跡の発掘調査を実施してまいりました。その成果の一部は、すでに当財団の文化財調査報告第120集、第133集、第149集、第166集、第174集、第175集として刊行いたしました。

本書は、平成11～13年度にかけて調査を行った烏名前野東遺跡と、平成12年度に調査を行った烏名境松遺跡・谷田部漆遺跡の調査成果を収録したものであります。本書が学術的な研究資料としてはもとより、教育・文化の向上の一助として、御活用いただければ幸いです。

なお、発掘調査及び整理を進めるにあたり、委託者である茨城県より多大な御協力をいただきましたことに対し、心から御礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、関係各機関及び関係各位から御指導、御協力をいただいたことに対し、衷心より感謝の意を表します。

平成14年3月

財団法人 茨城県教育財団  
理事長 齋藤佳郎

## 例 言

1 本書は、茨城県の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成11～13年度に発掘調査を実施した、茨城県つくば市大字烏名に所在する烏名前野東遺跡及び烏名境松遺跡、茨城県つくば市大字谷田部に所在する谷田部漆遺跡の発掘調査報告書である。

2 3遺跡の発掘期間及び修理期間は以下のとおりである。

烏名前野東遺跡 平成11年10月1日～平成12年8月31日、平成13年4月1日～平成13年6月30日

烏名境松遺跡 平成12年9月1日～平成13年1月31日

谷田部漆遺跡 平成13年2月1日～平成13年3月31日

整 理 平成13年4月1日～平成14年3月31日

3 平成11年度、烏名前野東遺跡の発掘調査は、調査第二課長小泉光正の指揮のもと、調査第二課第二班長横堀孝徳、主任調査員川村満博、同平松孝志、同三谷正、同原信田正夫、同稲田義弘、副主任調査員人塚雅昭が担当した。平成12年度、烏名前野東遺跡、烏名境松遺跡及び谷田部漆遺跡の発掘調査は、調査第二課長鈴木美治の指揮のもと、調査第二課第一班長瓦吹堅、主任調査員寺門千勝、同平松孝志、副主任調査員田原康司、調査員梅澤貴司が担当した。平成13年度、烏名前野東遺跡の発掘調査は、調査第二課長鈴木美治の指揮のもと、調査第二課第二班長矢ノ倉正男、主任調査員藤田哲也、主任調査員青木仁昌、調査員寺門義信が担当した。

4 当遺跡の整理及び本書の執筆・編集は、整理第二課長瓦吹堅の指揮のもと、主任調査員寺門千勝、副主任調査員田原康司、調査員梅澤貴司が担当した。第1章、第2章、第4章は寺門が、第3章は田原が、第5章は梅澤が執筆した。

5 各遺跡から出土した炭化物の樹種同定は、パリノ・サーヴェイ株式会社に依頼し、成果は付巻として収録した。

6 発掘調査及び整理に際して御指導・御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

## 凡 例

1-3 遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標を原点とし、島名前野東遺跡は $X = +6,040\text{m}$ 、 $Y = +20,560\text{m}$ 、島名境松遺跡は $X = +5,400\text{m}$ 、 $Y = +20,520\text{m}$ 、谷田部漆遺跡は $X = +4,160\text{m}$ 、 $Y = +20,400\text{m}$ 、の交点を基準点(A1a1)とした。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA, B, C……、西から東へ1, 2, 3……とし、「A1区」、「B2区」のように呼称した。大調査区内の小調査区は、北から南へa, b, c……、西から東へ1, 2, 3……とし、名称は、大調査区の名称を冠して「A1a1区」、「B2b2区」のように呼称した。

2 全測図・本文・実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 住居跡-SI 掘立柱建物跡-SB 粘土採掘坑-NSK 土坑-SK 井戸跡-SE 柱穴群-Pg  
溝跡-SD 道路跡-SF 土器焼成遺構-SY 不明遺構-SX 遺物包含層-HG ビット-P  
土塁-SA 周溝墓-TM

遺物 土製品-DP 石器・石製品-Q 金属製品-M 拓本記録土器-TP 炭化材-C  
瓦-T

土層 攪乱-K

計測値 現存値-( ) 推定値-[ ]

ただし、実測図・遺物観察表における土器・陶器の記号については、Pを省略し、番号だけを記した。

3 土層と遺物における色調の判定には、「新版標準土色帖」(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。

4 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

- (1) 遺構全体図は前野東・谷田部漆が500分の1、境松が250分の1、遺構実測図は60分の1または80分の1の縮尺で掲載した。
- (2) 遺物実測図は3分の1の縮尺とした。
- (3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

■ 焼土・施釉・赤彩 ■ 炉・織維土器断面・煤 ■ 竈・粘土・炭化物・黒色処理  
■ 柱痕・油煙  
● 土器・拓本土器 ○ 土製品 □ 石器・石製品 △ 鉄製品 --- 硬化面  
■ 炭化材 ▲ 瓦

5 遺物観察表の作成方法については、次のとおりである。

- (1) 計測値の( )内の数値は現存値を、[ ]内の数値は推定値を示した。単位は、法量についてはcm、重量についてはgで示した。
- (2) 備考の欄は、残存率、写真図版番号(PL)及びその他必要と思われる事項を記した。

6 「主軸」は、炉・竈を通る軸線あるいは長軸(径)を通る軸線とし、その主軸が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で示した。(例 N-10°-E, N-10°-W)なお、現存値は( )で、推定値は[ ]を付して示した。

## 抄 録

ふりがな		しほまほまののがしいいぞう しほまほまののついでま ちたてはるしほま									
券名	鳥名前野東道跡、鳥名境松道跡、谷田部漆道跡										
副券名	鳥名・福山坪・体形特定上地区面整理事業地内埋蔵文化財調査報告書										
巻次	Ⅱ										
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告										
シリーズ番号	第191集										
編者名	吉門千勝 山原廣司 梅澤貴司										
編集機関	財団法人 茨城県教育財団										
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL.029 (225) 6587										
発行機関	財団法人 茨城県教育財団										
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL.029 (225) 6587										
発行年月日	2002年(平成14年)3月25日										
ふりがな	ふりがな										
所収道跡	所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因			
鳥名前野東道跡	茨城県つくば市	08230	36度03分38秒	140度03分38秒	14～19m	19991001 20000831 20010401 20010630	15,016㎡	鳥名・福山坪・体形特定上地区面整理事業に伴う事前調査			
鳥名境松道跡	茨城県つくば市	08220	36度02分34秒	140度03分37秒	19～22m	20000901 20010131	9,288㎡				
谷田部漆道跡	茨城県つくば市	08230	36度02分13秒	140度03分40秒	22～23m	20000201 20010331	7,916㎡				
所収道跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		発見事項				
鳥名前野東道跡	その他	旧石器時代	竪穴住居跡 2軒		石器(ナイフ形石斧・骨)		旧石器時代から中世まで長期にわたる生活跡が確認できた複合道跡である。中央の在地の竪土の層跡に伴う方形に区画された跡が確認され、内部には埋蔵建物跡が確認されている。また堀の土層付近から土加賀土の小皿が多数出土している。集落跡は古墳時代が中心となっている。				
	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡 1基			縄文土器(灰黒系、赤)					
		古墳時代	竪穴住居跡 53軒			土製品(埴輪・土器)					
			方形周溝墓 3基			土器(石皿、土製石斧、磨石、石鏡、石臼)					
			土坑 10基			石製品(磨石、灰黒系、赤)					
		奈良・平安時代	竪穴住居跡 16軒			土器(石皿、土製石斧、磨石、石鏡、石臼)					
			掘り柱建物跡 6棟			土製品(埴輪・土器)					
			土坑 6基			石製品(磨石、灰黒系、赤)					
			溝 1条								
	館跡	中世	掘立柱建物跡 7棟			土器(石皿、土製石斧、磨石、石鏡、石臼)					
			土坑 9基								
			井口跡 2基								
			溝 4条								
			土橋跡 2カ所								
			地下式竈 2基								
			柱穴群 6カ所								
	その他	近世・時期不明	竪穴住居跡 1軒								
			竪穴状遺構 1軒								
			土坑 156基								
			溝 31条								
			道跡跡 4条								
鳥名境松道跡	その他	旧石器時代	竪穴住居跡 32軒		石器(ナイフ形石斧・スタンプ)		縄文時代の中頃の集落跡を伴った複合道跡である。竪土の在地の集落跡であるが、縄文時代の生活跡が確認されている。また、縄文時代の他地産品を利用した縄文土製の埴輪も確認されている。				
	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡 3基			縄文土器(灰黒系、赤)					
			土器埋蔵遺構 1基			土製品(埴輪・土器)					
			土器埋蔵遺構 1基			土器(石皿、土製石斧、磨石、石鏡、石臼)					
			土坑 238基			石製品(磨石)					
			大形 4基								
			円筒形 12基								
			フラスコ状 5基								
			その他 217基								
	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡 7軒			土器(石皿、土製石斧、磨石、石鏡、石臼)					
			土坑 451基			土製品(埴輪・土器)					
			不明遺構 4条								
谷田部漆道跡	その他	縄文時代	竪穴住居跡 4基		縄文土器(石皿、土製石斧、磨石、石鏡、石臼)		古墳時代の中頃の集落跡を伴った複合道跡である。遺構、遺物の遺存状態は良好である。中期の土坑には、多数の土坑が一括敷きされたものが確認され、竪土に固定して埋蔵されたものと推定される。				
	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡 26軒			土器(石皿、土製石斧、磨石、石鏡、石臼)					
			土坑 4基			土製品(埴輪・土器)					
		平安時代	土坑 1基			土器(石皿、土製石斧、磨石、石鏡、石臼)					
			土坑 66基			土製品(埴輪・土器)					
		時期不明	溝跡 1条								
			ピット群 1カ所								

# 目 次

—上 卷—

序

例言

凡例

抄録

目次

第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	2
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 鳥名前野東遺跡の調査の成果	9
第1節 遺跡の概要	9
第2節 基本層序	9
第3節 遺構と遺物	11
1 旧石器時代の遺物	11
2 縄文時代の遺構と遺物	13
(1) 竪穴住居跡	13
(2) 陥し穴	16
3 古墳時代の遺構と遺物	16
(1) 竪穴住居跡	16
(2) 方形周溝基	158
(3) 土坑	163
4 奈良・平安時代の遺構と遺物	172
(1) 竪穴住居跡	172
(2) 掘立柱建物跡	209
(3) 土坑	217
(4) 溝跡	224
5 中世の遺構と遺物	227
(1) 東館跡	227
(2) 西館跡	233
(3) 地下式墳	279
6 その他の遺構と遺物	282
(1) 竪穴住居跡	282
(2) 竪穴状遺構	283



(3) 土坑 .....	284
(4) 溝跡 .....	291
(5) 道路跡 .....	291
7 遺構外出土遺物 .....	291
第4節 まとめ .....	301

—中 巻—

第4章 島名境松遺跡の調査の成果 .....	319
第1節 遺跡の概要 .....	319
第2節 基本層序 .....	319
第3節 遺構と遺物 .....	323
1 縄文時代の遺構と遺物 .....	323
(1) 竪穴住居跡 .....	323
(2) 炉跡 .....	422
(3) 土器焼成遺構 .....	424
(4) 土器埋設遺構 .....	429
(5) 土坑 .....	430
ア 大形土坑 .....	430
イ 円筒形土坑 .....	440
ウ フラスコ状土坑 .....	454
エ その他の土坑 .....	458
2 古墳時代の遺構と遺物 .....	524
(1) 竪穴住居跡 .....	524
3 その他の遺構と遺物 .....	559
(1) 土坑 .....	559
(2) 不明遺構 .....	574
4 遺構外 .....	579
(1) 遺構外出土遺物 .....	579
(2) 南斜面部 .....	589
第4節 まとめ .....	591

写真図版

付図

第5章 谷田部漆遺跡の調査の成果 .....	597
第1節 遺跡の概要 .....	597
第2節 基本層序 .....	597
第3節 遺構と遺物 .....	599
1 縄文時代の遺構と遺物 .....	599
(1) 陥し穴 .....	599
2 古墳時代の遺構と遺物 .....	602
(1) 竪穴住居跡 .....	602
(2) 土坑 .....	673
3 平安時代の遺構と遺物 .....	681
(1) 土坑 .....	681
4 その他の時代の遺構と遺物 .....	682
(1) 溝跡 .....	682
(2) 土坑 .....	682
(3) ビット群 .....	684
5 遺構外出上遺物 .....	685
第4節 まとめ .....	689

付章

自然科学分析「炭化材樹種同定」

写真図版

# 第1章 調査経緯

## 第1節 調査に至る経緯

茨城県では、首都圏とつくば研究学園都市を結ぶ「つくばエクスプレス」の早期開通をめざし、つくばエクスプレスの建設とそれに伴う沿線開発に取り組んでいる。

平成6年8月18日、茨城県知事は、茨城県教育委員会に対して、「つくばエクスプレス」沿線地域の開発を行うため、烏名・福田坪一体埋土地区画整理事業地（つくば市烏名地区）内における埋蔵文化財の有無及びその取り扱いについて照会を行った。それを受けて、茨城県教育委員会は、平成6年9月19日～27日にかけて事業地内の現地踏査を行った。その結果、開発予定地内において烏名前野東遺跡・烏名境松遺跡・谷田部漆遺跡の存在を確認し、平成8年11月18日、茨城県教育委員会は、茨城県知事及びつくば市教育委員会にその旨を回答した。

回答を受けた茨城県知事は、平成11年3月4日、茨城県教育委員会に対して、事業地内に所在する烏名前野東遺跡・烏名境松遺跡・谷田部漆遺跡の取り扱いについて協議を求めた。茨城県教育委員会は、烏名前野東遺跡・烏名境松遺跡・谷田部漆遺跡の重要性に鑑み、また文化財保護の立場から慎重に検討を重ねた。そして同年3月15日、現状保存が困難であることから、茨城県教育委員会は茨城県知事あてに、烏名前野東遺跡、さらに平成12年3月8日、烏名前野東遺跡（残り部分）・烏名境松遺跡・谷田部漆遺跡の記録保存する旨を回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

茨城県と茨城県教育財団は、埋蔵文化財発掘調査に関する業務の委託契約を結び、平成11年10月1日～平成13年6月30日にかけて、烏名前野東遺跡・烏名境松遺跡・谷田部漆遺跡の発掘調査を実施することとなった。烏名前野東遺跡の調査は平成11～13年にかけて実施され、平成11年度は平成11年10月1日～平成12年3月31日、平成12年度は平成12年4月1日～8月31日、平成13年度は平成13年4月1日～6月30日まで実施された。烏名境松遺跡は平成12年9月1日～平成13年1月31日に調査が実施され、谷田部漆遺跡は平成13年2月1日～3月31日まで調査が実施された。

## 第2節 調査経過

鳥名前野東遺跡，鳥名城松遺跡，谷田部漆遺跡の調査経過を工程表で示す。

鳥名前野東遺跡工程表

平成11年度

工 程	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
試掘	■											
表土除去・遺構確認作業	■											
遺構調査							■					

平成12年度

工 程	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
表土除去・遺構確認作業	■											
遺構調査			■									

平成13年度

工 程	4月	5月	6月
表土除去・遺構確認作業	■		
遺構調査		■	

鳥名城松遺跡工程表

平成12年度

工 程	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
表土除去・遺構確認作業						■						
遺構調査							■					

谷田部漆遺跡工程表

平成12年度

工 程	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
表土除去・遺構確認作業											■	
遺構調査											■	

## 第2章 位置と環境

### 第1節 地理的環境

島名前野東遺跡は、茨城県つくば市大字島名字前野3839番地の1ほか、島名境松遺跡は茨城県つくば市大字島名字境松3745番地ほか、谷田部漆遺跡は、茨城県つくば市大字谷田部字漆1084番地の5ほかが存在する。3遺跡が位置するつくば市は、標高25～50mの洪積台地である常総台地により占められている。常総台地は霞ヶ浦や北浦を含むいくつかの谷により開析され、鹿島・行方・新治・筑波・稲敷などの台地に分かれている。これらの遺跡が位置する筑波～稲敷台地は、つくば市の西部を流れる東谷田川と西谷田川に挟まれた北西及び南東方向にのびる舌状の台地をなしている。

島名前野東遺跡、島名境松遺跡、谷田部漆遺跡の台地における位置は次の通りである。島名前野東遺跡は台地の東寄り、東谷田川に向かう緩斜面付近に位置している。現在、東谷田川の低地は水田に利用され、東谷田川に下りる緩斜面は主に畑地として利用されている。島名境松遺跡は台地の中央部付近、東谷田川から西方向に向かう支谷の北側に位置している。台地上は主にアカマツやクスギなどの平地林と畑地が分布し、支谷は水田や湿地となっている。支谷との標高差は3mほどである。また谷田部漆遺跡は標高22.5～23mの台地の西縁辺部に位置している。遺跡の西縁は、段丘状の急斜面をなし、その標高差は約10mである。台地上は畑地として利用され、西谷田川の低地は主に水田に、一部微高地は畑地となっている。

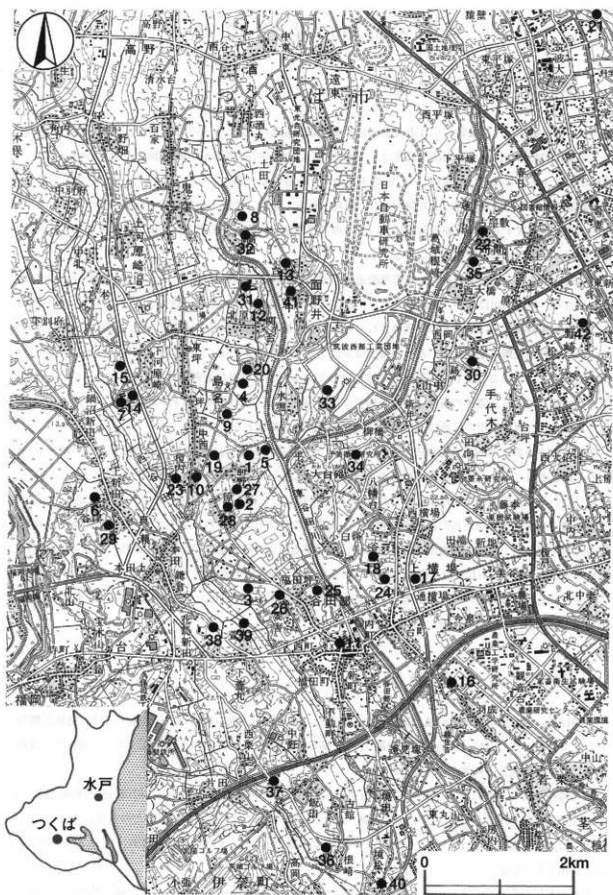
常総台地の地質は第四紀更新世の木下層（成田層とも呼ばれる）、竜ヶ崎砂層及び常総粘土層、関東ローム層から構成されている。木下層は浅い海の堆積物で、ところにより貝化石を多量に含む砂質な地層である。木下層にはいくつかの火山灰層が挟まれており、その年代から12～13万年前に形成されたものと推定されている。それを覆う竜ヶ崎砂層は河川の流路堆積物で、主に粗粒な砂より形成され、厚さは最大で7mである。常総粘土層は竜ヶ崎砂層上部の泥質層で、竜ヶ崎砂層に対応する河川の後背湿地の堆積物である。両層の形成年代は鍵層の対比から13万～6万年前と推定されている。また竜ヶ崎砂層と常総粘土層は合わせて常総層ともいわれる。さらに上部には関東ローム層が重なり、その一般的な厚さは1～3mである。常総台地の関東ローム層は、南関東の武蔵野・立川ローム層に相当する<sup>1)</sup>。

### 第2節 歴史的環境

東谷田川、西谷田川流域の台地上縁辺部や中央部と、東谷田川支流の蓮沼川右岸台地上には、遺跡が数多く存在している。ここでは、島名前野東遺跡<sup>1)</sup>、島名境松遺跡<sup>2)</sup>、谷田部漆遺跡<sup>3)</sup>と同時代の遺跡を中心に、分布状況等の概要を述べることにする。

旧石器時代については、東谷田川支流の蓮沼川左岸の菊間神田遺跡<sup>2)</sup> (35)、西谷田川右岸の根崎遺跡 (36) や西栗山遺跡<sup>3)</sup> (37)、花室川左岸の中原遺跡<sup>4)</sup> などから、ナイフ形石器や尖頭器などの遺物が出土している。なかでも、中原遺跡からは、平成11年度までの調査で石器の集中地点が9か所確認され、ナイフ形石器・石刃などが出土している。

小貝川左岸の台地及び東谷田川、西谷田川に挟まれた台地で遺跡が確認されるのは、縄文時代中期以降である。西谷田川に面した台地の縁辺部に立地する境松貝塚<sup>5)</sup> (40) は、つくば市谷田部の代表的な貝塚であり、



第1図 島名前野東・境松・谷田部漆遺跡周辺遺跡分布図

表1 周辺遺跡一覧表

番 号	遺 跡 名	時 代						番 号	遺 跡 名	時 代									
		旧 石 器	縄 文	弥 生	古 墳	奈 平	中 世			近 世	旧 石 器	縄 文	弥 生	古 墳	奈 平	中 世	近 世		
1	鳥名前野東遺跡		○		○	○	○	22	苜 間 城 跡									○	○
2	鳥名城松遺跡		○		○			23	鳥名ツバタ遺跡	○		○							
3	谷田部漆遺跡		○		○	○		24	谷田部台成井遺跡	○									
4	鳥名熊の山遺跡		○		○	○	○	25	谷田部福田前遺跡	○		○	○						
5	鳥名前野遺跡		○		○	○	○	26	谷田部大塚遺跡									○	○
6	真瀬山田遺跡		○					27	鳥名一町田遺跡	○									
7	下河原崎高山遺跡				○	○		28	鳥名タカドロ遺跡	○		○							
8	高田和台遺跡				○	○		29	真瀬新出谷津遺跡	○									
9	鳥名栗師遺跡				○			30	苜 間 古 墳					○					
10	鳥名榎内南遺跡				○			31	鳥名関の台遺跡					○					
11	谷田部城跡						○	○	32	高 出 遺 跡				○	○				
12	鳥名関の台塚群				○				33	水 堀 遺 跡				○					
13	面野井古墳群				○				34	柳 橋 谷 津 遺 跡									
14	下河原崎高山古墳群				○				35	苜 間 神 田 遺 跡	○	○	○	○	○	○	○	○	○
15	下河原崎古墳群				○				36	根 崎 遺 跡	○	○		○	○				
16	羽 成 古 墳 群				○				37	西 栗 山 遺 跡	○	○		○					
17	上横場道心塚古墳群				○				38	真瀬三度山遺跡	○		○						○
18	谷田部カロード塚古墳				○				39	上笠丸古屋敷遺跡	○							○	○
19	鳥名榎内古墳群				○				40	境 松 貝 塚		○	○						○
20	鳥名熊の山古墳群				○				41	面 野 井 城 跡								○	○
21	柴 崎 遺 跡	○	○	○	○	○	○		42	小 野 崎 館 跡								○	○

縄文時代中期から後期の土器や石器が出土している。貝類は、オキシジミ、ヤマトシジミ、ムラサキガイ、シオフキなどで構成されている。小貝川に臨む台地上に立地する真瀬山田遺跡〈6〉からは、縄文時代中期から後期の土器や石器が広範囲にわたって出土し、大規模な集落跡の可能性が有る。鳥名城松遺跡周辺では、当遺跡の西側に隣接する鳥名タカドロ遺跡〈28〉と北側に隣接する鳥名一町田遺跡〈27〉が位置している。鳥名前野東遺跡の西側に隣接する鳥名前野遺跡<sup>6)</sup>〈5〉からは中期の陥し穴が、鳥名タカドロ遺跡と鳥名一町田遺跡からは中期から後期にかけての遺物が出土しており、東谷田川、西谷田川に挟まれた台地では、縄文時代中期から木格的に人々の生活が営まれるようになったと考えられる。

弥生時代の遺跡は、当地域では少ない。谷田部地区では、中期から後期の遺物の出土した境松遺跡、下河原崎高山遺跡〈7〉などが確認されているのみである。

古墳時代の遺跡は、下横場遺跡、面野井古墳群〈13〉、鳥名関の台古墳群〈12〉、下河原崎古墳群〈15〉などの中小の古墳群が数多く確認されている。大規模古墳はなく、その大半が径7～25mの円墳である。鳥名前野

東遺跡周辺では、当遺跡の1km北側の熊の山遺跡に隣接する鳥名熊の山古墳群(20)、さらに1km北に鳥名岡の台遺跡(31)がある。集落跡としては、西谷田川に面した台地の縁辺部に立地している谷田部漆遺跡、鳥名前野東遺跡に隣接して鳥名前野遺跡、当遺跡の北約500mに鳥名薬師遺跡(9)、さらに北約500mに鳥名熊の山遺跡<sup>7)</sup>(4)、西約500mには鳥名覆内南遺跡(10)がある。いずれの遺跡も東谷田川と西谷田川に挟まれた台地上に立地している。また、東谷田川左岸の台地上には、北東約1.5kmに水壘遺跡(33)、東約1.5kmに柳橋谷津遺跡(34)がある。特に、古墳時代後期から奈良・平安時代にかけての大規模集落である熊の山遺跡は、集落としての起源は古墳時代前期に求められ、同様に古墳時代前期の堅穴住居跡が確認された鳥名前野遺跡とともに、鳥名前野東遺跡との関連が考えられる。なお、谷田部漆遺跡からは中期の遺構や遺物が出土している。

平安時代は、『和名類聚抄』によれば、谷田部地区は河内郡八部郷といい<sup>8)</sup>、かつて、仁徳天皇の妃八田若部女のため八田部を置いた所と言われる<sup>9)</sup>。また、鳥名も『和名類聚抄』にある「鶴名郷」に比定されている。

つくば市谷田部における奈良・平安時代の遺跡は近年まで知られていなかったが、平成7年度から平成11年度までの当財団の調査によって、熊の山遺跡で奈良・平安時代を中心にして堅穴住居跡1300軒以上、掘立柱建物跡100棟以上が確認された。さらに、谷田部漆遺跡の約3.0km南の根崎遺跡にもこの時代の遺構が存在することが、当財団の調査によって明らかになった。

12世紀後半常陸西南部をおおう広大な常安保は南野牧とともに村田荘の一部であったが、南野牧の分離とともに村田荘そのものになり、12世紀末にはさらに下妻荘、田中荘を分出し、八条院領として伝領された。谷田部地区の大部分は田中荘域に入る。常安保の開発領主は平直幹と考えられ、下妻荘、村田荘の下司職は下妻広幹に、田中荘の下司職は多気義幹に伝えられたと推測されている。しかし、鎌倉幕府の成立後、八田知家の入部により義幹は没落し、田中荘は小田氏の支配下に入る。霜月騒動(1285年)により、一時北条得宗家の手に移るが、室町時代になり、また小田氏の手に戻る。当時、小田氏配下の土豪には小野崎の荒井氏、奇間の野中瀬氏、鳥名・面野井の平井氏がいたと伝えられる。<sup>10)</sup>

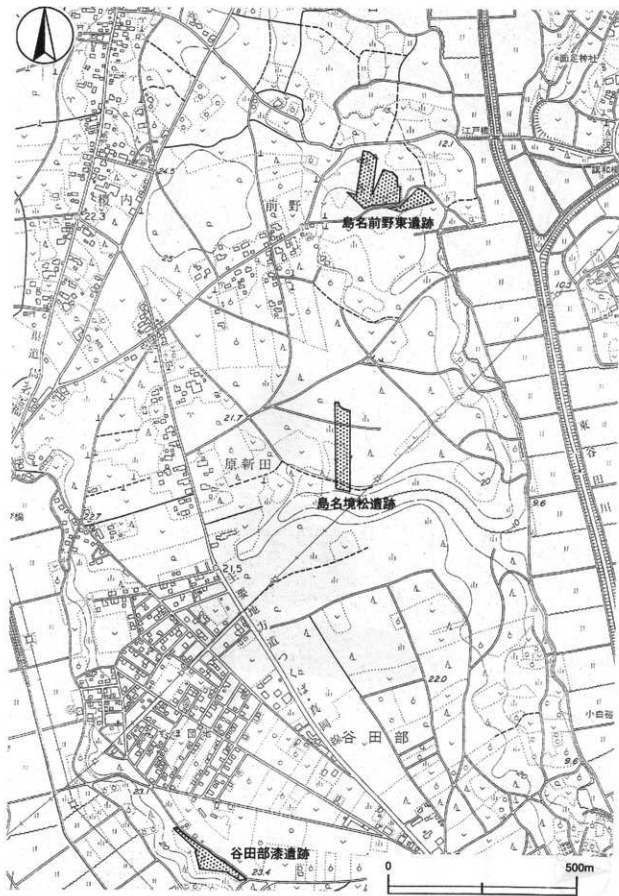
中・近世の遺跡は、つくば市谷田部では城館跡がほとんどであり、谷田部城跡(11)、小野崎館跡(42)、馬岡城跡(22)、面野井城跡(41)、鳥名熊の山城跡、高須賀城跡などがある。鳥名前野東遺跡でも、方形に廻る堀跡から大量の土師質土器が出土しているため、城館跡の可能性が高い。また、利根川、牛久沼を経て移動してきた六軒堂という人々が鳥名地区に店を構え、周辺を開拓していったという伝承もあり、今後の調査の成果が期待できる。なお、近世のつくば市谷田部の大部分は谷田部藩領になっており、鳥名地区は旗本領になっている。

本文中の( )内の番号は、第 図及び周辺遺跡・歴史の該当遺跡番号と同じである。

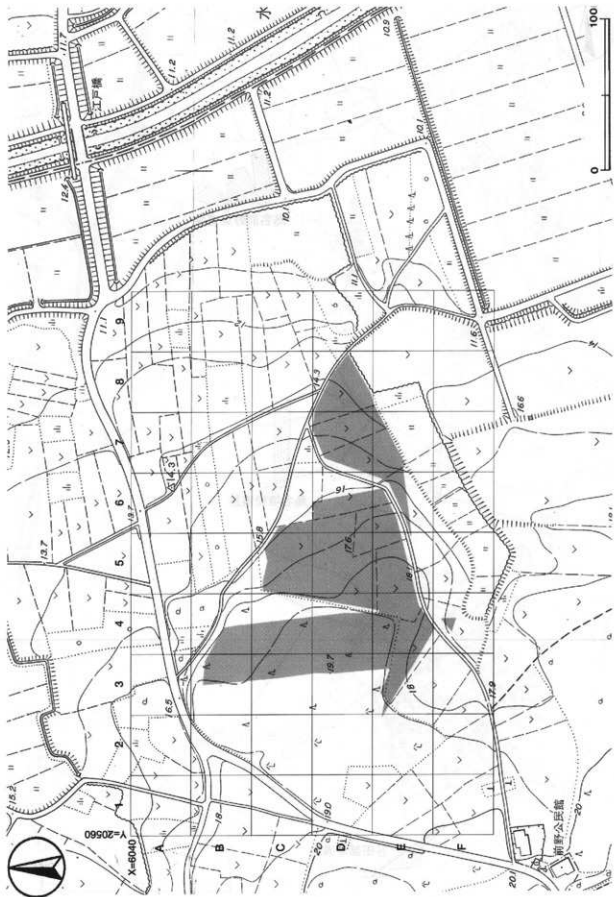
注

- 1) 日本の地質『関東地方』編集委員会『日本の地質3 関東地方』共立出版1986年10月
- 2) 茨城県教育財団 「(仮称) 葛城地区十地区区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ」  
『茨城県教育財団文化財調査報告』第121集 1997年3月
- 3) 茨城県教育財団 「(仮称) 吾久地区十地区区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ」  
『茨城県教育財団文化財調査報告』第119集 1997年3月
- 4) 茨城県教育財団 「中根・金山内特定十地区区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ」  
『茨城県教育財団文化財調査報告』第170集 2001年3月
- 5) 茨城県教育財団 「主要地方道取手筑波線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書」  
『茨城県教育財団文化財調査報告』第41集 1987年3月
- 6) 茨城県教育財団 「鳥名・福田坪一休型特定十地区区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅵ」  
『茨城県教育財団文化財調査報告』第175集 2001年3月
- 7) 茨城県教育財団 「鳥名・福田坪一休型特定十地区区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ」  
『茨城県教育財団文化財調査報告』第174集 2001年3月
- 8) 池邊鑑 「和名類聚抄郡里勝名考證」吉川弘文館 1981年2月
- 9) 中山紀名 「新編常陸国誌」 書堂房(復刻版) 1978年12月
- 10) 谷田部町教育委員会 谷田部の歴史編さん委員会 『谷田部の歴史』1975年9月





第2図 鳥名前野東遺跡・鳥名境松遺跡・谷田部漆遺跡調査区位置図



第3図 島名前野東遺跡調査区設定図

## 第3章 島名前野東遺跡の調査の成果

### 第1節 遺跡の概要

島名前野東遺跡は、つくば市の西部を南流する東谷田川右岸の緩斜面部に位置し、標高は12~14mである。調査区域は総面積15,016㎡で、現況は休耕地である。平成11・12・13年度の調査によって、古墳時代、奈良時代を中心とする集落跡と、中世の堀跡及び掘立柱建物跡が確認できた。

遺構は、縄文時代の堅穴住居跡2軒、陥し穴1基、古墳時代の堅穴住居跡53軒、方形周溝墓3基、土坑10基、奈良時代の堅穴住居跡16軒、掘立柱建物跡6棟、土坑6基、溝跡1条、中世の掘立柱建物跡7棟、溝跡4条、土坑9基、地下式墳2基、井戸跡2基、柱穴群6か所、近世の溝31条、道路跡4条、時期不明住居1軒、堅穴状遺構1基、時期不明土坑156基である。

堅穴住居跡の分布は、調査区域の東部から西部にかけてほぼ全域に確認することができる。時代別にその状況を観察してみると、より低地部に古墳時代前期の堅穴住居跡が分布し、標高が上がるにつれて古墳時代中期、後期の堅穴住居跡の密度が濃くなる。中世の堀跡は、南北約100mで方形に巡ることが推定される。また、この堀跡に伴うと考えられる掘立柱建物跡、井戸、土坑、柱穴群が堀区画内に分布している。

遺物は、縄文早期・中・後期の土器片、土師器、須恵器、土師質土器、陶磁器片、金属製品、鉄滓、石器、石製品、土製品、古銭などが出土している。

### 第2節 基本層序

テストピットは3区のD3e8区に設置した。テストピットの地表面の標高は19.3mで、地表から1.9mほど掘削した。テストピット断面の実測図を第4図に示す。

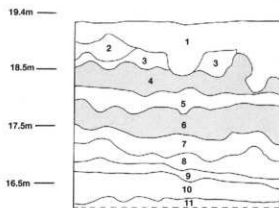
基本土層は、色調・構成粒子・含有物・粘性などから11層に細分される。これらの土層は大きく、表土・関東ローム層・常総粘土層に分類され、第1層は表土、第2層~9層が関東ローム層、10層と11層は常総粘土層に対比される。

表土は多量の腐植物を含む腐植土である。関東ローム層は層厚1.4mで、地表面から深度0.9mに暗色帯が認められる。また最下部にはクラックが発達する土層がみられる。常総粘土層は厚さ0.2m以上で砂質粘土からなり、植物遺体を普通に含むことが特徴である。

遺構は2層の上面または3層上面で確認した。

各層の特徴を述べる。

第1層は黒褐色(7.5YR3/1)を呈する腐植土層で、少量のローム粒子・ローム小ブロック、炭化物をわずかに含み、粘性・しまりはともに弱く、厚さは10~30cmである。



第4図 基本土層図

第2層は褐色(7.5YR4/4)を呈する腐植土層で、少量のローム粒子・ローム小ブロックを含み、粘性・しまりはともに弱く、厚さは10~30cmである。

第3層は明褐色(7.5YR5/8)を呈するローム層である。粘性は弱くしてしまりは強く、厚さは8~25cmである。

第4層は褐色(7.5YR4/6)を呈するローム層で、第I黒色帯に相当する。粘性は弱く、しまりは普通で、厚さは15~30cmである。

第5層は褐色(7.5YR4/4)を呈するローム層である。粘性・しまりはともに弱く、厚さは10~20cmである。

第6層は暗褐色(7.5YR3/3)を呈するローム層で、第II黒色帯に相当する。粘性・しまりは普通で、厚さは20~30cmである。

第7層は暗褐色(7.5YR3/4)を呈するローム層である。粘性は普通でしまりは強く、厚さは20cmである。

第8層は暗褐色(7.5YR3/3)を呈するローム層で、クラックが発達している。粘性・しまりとも普通で、厚さは10~30cmである。

第9層は黄褐色(7.5YR7/8)を呈するローム層で、クラックが発達し粘土化している。粘性・しまりはともに普通で、厚さは8~15cmである。

第10層は浅黄褐色(7.5YR8/4)を呈する砂質粘土層である。植物遺体や暗赤褐色や黒色をした斑点が普通に見られ、粘性・しまりはともに普通で、厚さは20~32cmである。

第11層は灰白色を呈する砂層である。粘上分を普通に含み、植物遺体や暗赤褐色や黒色をした斑点が普通に見られ、粘性は弱くしてしまりは強く、厚さは8cm以上である。

## 第3節 遺構と遺物

### 1 旧石器時代の遺物（第5図）

平成11・12年度の調査区域内から、後期旧石器時代のものと考えられる遺物3点が出土している。出土した旧石器時代の遺物はいずれもナイフ形石器と考えられ、石材はQ198が珪質頁岩、Q199・200は硬質頁岩である。出土位置はQ198がD7 d01の遺構確認面、Q199は表土中、Q200は第3号方形区画溝の覆土中層から出土しており、原位置を想定できるのはQ198だけである。そこで、Q198の出土地点付近に調査区を設定しロームの掘り下げを行ったが、旧石器時代の文化層の把握、石器等の出土は認められなかった。剥片なども出土していないため、調査区域内には石器製作跡は想定されず、生活の痕跡も希薄である。ここでは、出土したナイフ型石器について若干の解説を加え、実測図と一覧表を記載する。

#### (1) 出土遺物

##### Q198（ナイフ形石器）

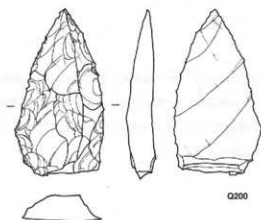
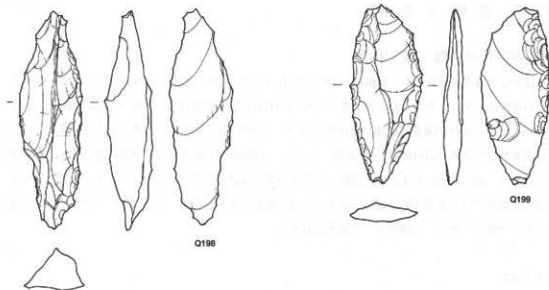
中央に稜を持つ比較的厚みのある縦長0片を素材としている。二側縁にブランティングが施され、右側縁には主要剥離面から急角度の剥離調整と、エッジにこまやかな潰れが認められる。左側縁下端部にも右側縁同様の剥離調整が施され、断面三角形を呈する基部を形成し、刃部の形態は切り出し条を呈している。

##### Q199（ナイフ形石器）

比較的薄い縦長剥片を素材としている。背面には、主要剥離面側と同方向の剥離面が認められる。二側縁にブランティングが施され、右側縁は主要剥離面側から急角度の剥離調整、左側縁上部は向面にわたって剥離調整が施されている。右側縁下部及び左側縁上部は、主要剥離面側からの比較的軟のある剥離調整がなされ、左側縁下部は主要剥離面側からのこまやかな刃状の細部調整が認められる。

##### Q200（ナイフ形石器）

縦長剥片を素材とし、片面調整が施されたナイフ形石器である。下端部は折損と思われる、背面から主要剥離面へのステップフラクチャーが認められる。右側縁は主要剥離面側からの急角度の剥離調整と微細な周縁調整が施されている。背面には右側縁の急角度の剥離調整で施された稜が認められ、その稜上に打点を有する剥離調整が左側縁に向かって施されている。左側縁にはこまやかな周縁調整が認められる。Q200は調整方法からナイフ形石器と考えるが、形態的には木の葉状を呈する尖頭器の可能性も考えられる。



第5図 旧石器出土遺物実測図

旧石器時代出土遺物観察表

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	材質	備考
Q198	ナイフ形石器	5.7	1.6	1.1	8.5	珪質頁岩	PL38
Q199	ナイフ形石器	4.6	1.8	0.5	4.08	礫質頁岩	PL38
Q200	ナイフ形石器	4.4	2.3	0.7	7.08	礫質頁岩	尖頭器の可能性有り。 PL38

## 2 縄文時代の遺構と遺物

今回の調査で、縄文時代の竪穴住居跡2軒、陥し穴1基を確認した。以下、確認された遺構と遺物について記載する。

### (1) 竪穴住居跡

#### 第24号住居跡（第6図）

**位置** 調査区中央部、D6c4区の東方向に傾斜する緩斜面部に立地し、南には第26号住居跡が位置している。

**規模と形状** 耕作による削平で壁を確認することはできないが、炉の位置と硬化面の広がりなどから、長径5.18m、短径4.81mの円形で、主軸はN-70°-Eと推定される。

**床** レンズ状を呈し、硬化面は住居跡と推定した範囲の西部から南部にかけて3か所、炉の東側に1か所確認された。柱穴は確認されなかった。

**炉** 2か所。炉1は中央部からやや北側に付設されており、長径60cm、短径50cm、深さ37cmの地床炉で、炉床面は東部が掘り窪められている。炉2は炉1の東側に付設されており、長径56cm、短径30cm、深さ16cmの地床炉で、炉床面は掘り窪められている。

#### 炉1土層解説

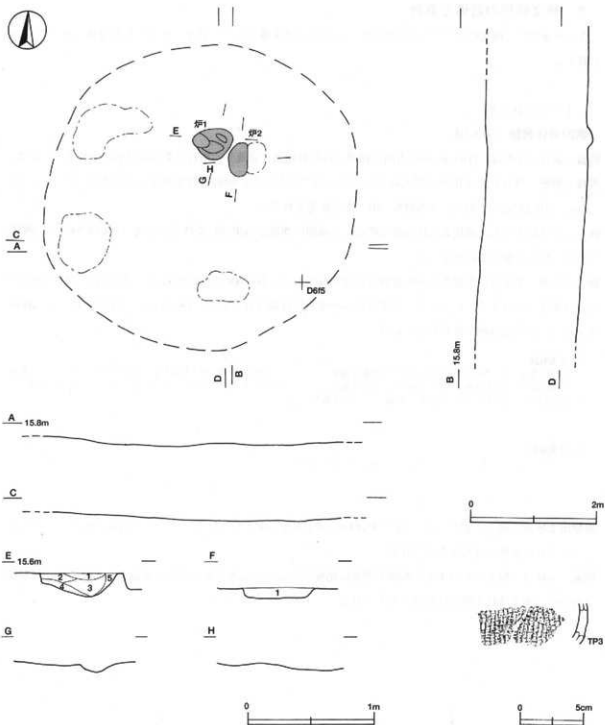
- |        |                       |        |                        |
|--------|-----------------------|--------|------------------------|
| 1 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化砂子微量   | 4 暗赤褐色 | 焼土粒子少量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量   | 5 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量    |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量 |        |                        |

#### 炉2土層解説

- |        |                       |
|--------|-----------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量 |
|--------|-----------------------|

**遺物出土状況** 縄文土器片3点（TP3を含む）が床面から出土している。また、土師器片が1点出土しているが、これは後世の混入と考えられる。

**所見** 本跡は、削平のため本来の形状を明確に把握することができなかったが、確認された炉の形状及び出土遺物から、縄文時代中期の住居跡と考えられる。



第6図 第24号住居跡・出土遺物実測図

第24号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考	
TP3	織	文津	糸	—	(3.3)	—	長石	にぶい粉	普通	PLの半筋織文を施文している。	中央部床面	PL35



## 第26号住居跡（第7図）

**位置** 調査区中央部、D6b4区の東方向に傾斜する緩斜面部に立地し、北には第24号住居跡が位置している。  
**規模と形状** 耕作による削平で形状を明確にすることはできないが、炉が設けられていることと、炉の西側に確認された硬化面及び支柱穴と考えられるピットの広がりから長径4.79m、短径4.34mの楕円形で主軸はN-56°-Eと推定される。

**床** ほほ平坦であったと考えられ、中央部に硬化面が3か所確認されている。

**ピット** 4か所。P1～4の深さは46～63cmで、確認された位置から支柱穴と考えられる。

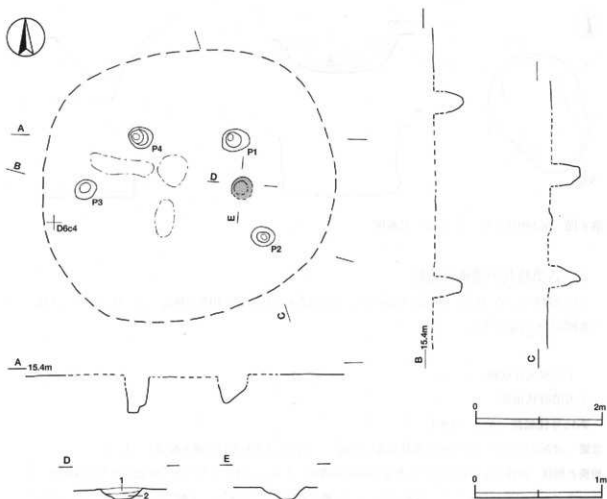
**炉** 炉は、中央部から東側に位置し、長径36cm、短径34cm、深さ20cmの地床炉である。

### 炉土層解説

1 黒暗赤褐色 焼土ブロック・焼土粒子中量、炭化物微量

2 黒暗赤褐色 焼土ブロック・焼土粒子少量、炭化物微量

**所見** 時期は、確認された炉・支柱穴の位置と形状及び本跡の北側に第24号住居跡が位置していることから、縄文時代中期と考えられる。



第7図 第26号住居跡実測図

## (2) 陥し穴

### 第189号土坑（陥し穴）（第8図）

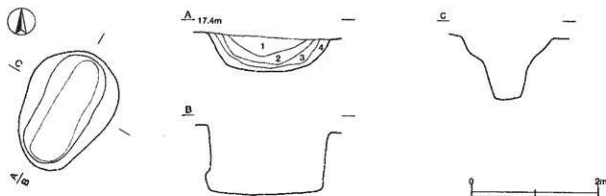
**位置** 調査区北西部、B4e4区の平坦な台地上の縁辺部に立地し、南東に第24・26号住居跡が位置している。  
**規模と形状** 長径1.91m、短径1.45mの不整楕円形で、長径方向はN-28°-Eである。深さは104cmで、北壁下部が約34cmほど内壁で立ち上がり、さらに上面に向かって直立する。南壁下部も約40cmほどやや内壁しながら立ち上がり、さらに上面に向かって直立する。東壁、西壁はともに約70cmほど直立したあと外反する。底面は長径1.75m、短径0.6mの不整楕円形で、ほぼ平坦である。

**覆土** 4層からなる。レンズ状に堆積し、しまりが強いいため自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |       |                     |       |                   |
|-------|---------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量  |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量      | 4 暗褐色 | ローム粒子少量、ロームブロック微量 |

**所見** 本跡は出土遺物がなかったが、遺構の形状及び土層のしまりが強いことから、縄文時代と考えられる。



第8図 第189号土坑（陥し穴）実測図

## 3 古墳時代の遺構と遺物

今回の調査で、古墳時代の竪穴住居跡53軒、方形周溝墓3基、土坑10基を確認した。以下、確認された遺構と遺物について記述する。

### (1) 竪穴住居跡

#### ①古墳時代前期

##### 第15号住居跡（第9・10図）

**位置** 調査区中央部、D6i3区の緩斜面部に立地し、北西には第14号住居跡が位置している。

**規模と形状** 耕作による削平のため本来の形状を明確にすることはできないが、確認された北西壁と主柱穴及び貯蔵穴から規模を推定した。長軸は5.45m、短軸は4.73mの長方形で、主軸はN-58°-Wと考えられる。壁は、最も残りの良い部分の高さが5~12cmである。

**床** ほぼ平坦で、壁溝は北西壁下に確認された。

**炉** 中央部P1寄りに付設され、長径68cm、短径54cmの楕円形で地床である。炉床面は12cmほど掘り窪められて皿状を呈している。

炉土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子微量

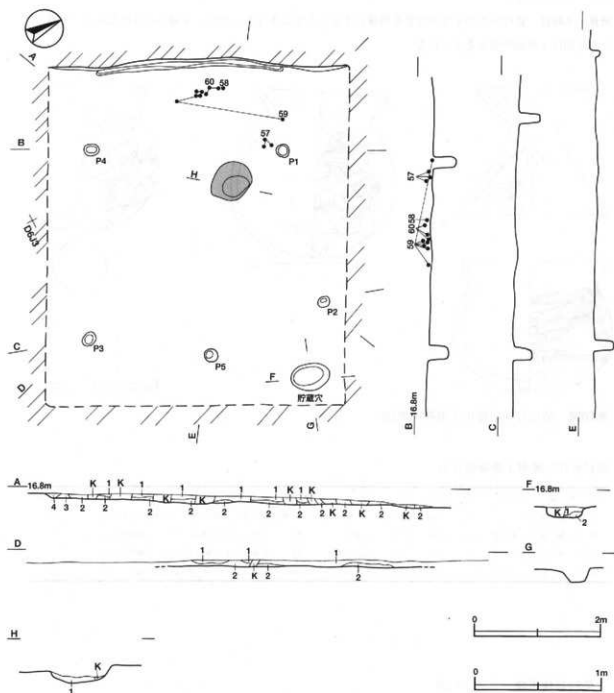
2 赤褐色

ピット 5か所。P1～5は主柱穴で、深さ32～41cmである。出入口施設に伴うピットは確認されなかった。  
貯蔵穴 北東コーナー部に付設され、長径59cm、短径43cmの楕円形で、深さが22cmである。底面は平坦で、壁は外傾している。

貯蔵穴土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子中量、ロームブロック微量



第9図 第15号住居跡実測図

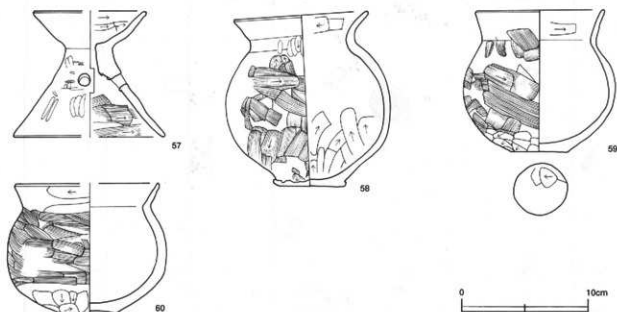
覆土 4層に分層され、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- |        |                   |        |              |
|--------|-------------------|--------|--------------|
| 1 黒褐色  | ロームブロック微量         | 3 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子少量、ロームブロック微量 | 4 暗褐色  | ロームブロック少量    |

遺物出土状況 土師器片178点(器台1, 甕177), 須恵器片2点, 陶器片2点が出土している。削平され形状をつかむことが困難であったが, 土器のほとんどは床面から出土している。とくに58・59・60は, 完形に近い状態で北西壁寄りの1か所から集中して出土し, 本跡に伴うものである。須恵器片と陶器片は, 後世に混入したものと考えられる。

所見 本跡は, 耕作のため本来の形状を明確にすることができなかったが, 床面から良好な状態で土器が出土し, 時期は4世紀中頃と考えられる。



第10図 第15号住居跡出土遺物実測図

第15号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
57	土師器	器台	[ 8.8]	(100)	[32.0]	石英	にぶい橙	普通	器底が傾斜した状態で出土している	北側床面	45%, PL.22
58	土師器	小形甕	10.6	14.0	5.8	砂粒	橙	普通	器底が傾斜した状態で出土している	西壁寄り下層	75%, PL.23
59	土師器	小形甕	10.2	11.3	4.0	長石・石英	橙	普通	器底が傾斜した状態で出土している	西壁寄り床面	75%, PL.22
60	土師器	小形甕	[11.3]	10.3	4.5	長石・石英	明赤褐	普通	器底が傾斜した状態で出土している	西壁寄り床面	70%, PL.22

第22号住居跡 (第11・12図)

位置 調査区中央部東側, E6 a8区の緩斜面部に立地し, 北東部は調査区域外となっている。

重複関係 北東部を第21号住居跡に, 南西部の一部を第19号住居跡にそれぞれ掘り込まれている。

**規模と形状** 北東部が調査区域外であり、また第21号住居跡に掘り込まれているため本来の形状を明確にすることはできないが、確認された長軸5.10m、短軸2.84mで方形または長方形と考えられ、主軸はN-55°-Wであり、壁高は6～8cmである。

**床** ほほ平川で、中央部がやや硬く、壁溝は壁下に確認された。

**ピット** 3か所。P1～3は主柱穴で、深さ23～28cmである。

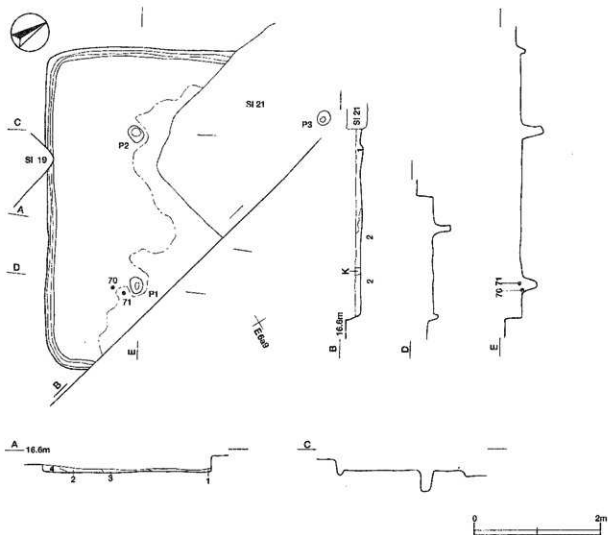
**覆土** 4層に分層され、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

**土層解説**

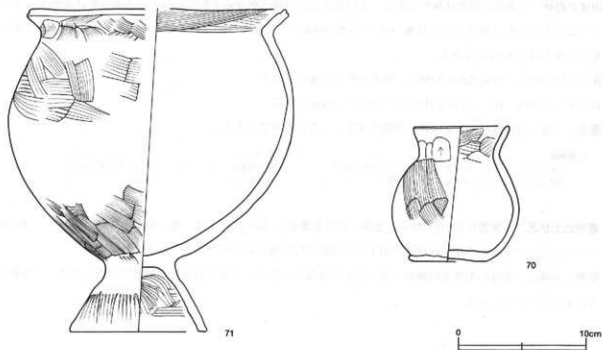
- |       |                       |       |                  |
|-------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量      | 4 暗褐色 | ロームブロック少量        |

**遺物出土状況** 土師器片130点（坏6、甕58、台付き甕66）、須恵器片1点（甕）が出土している。70・71は南コーナー寄り床面から横位の状態で出土し、須恵器片は覆土中からの出土である。

**所見** 本跡は、全体の形状を明確にすることができなかったが、床面から良好な状態で土器が出土し、時期は4世紀中頃と考えられる。



第11図 第22号住居跡実測図



第12図 第22号住居跡出土遺物実測図

第22号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
70	土師器	壺	7.5	10.7	6.0	長石	にぶい橙	普通	口縁内面・底面・外縁・内縁にナ	南コーナー床面	60%, PL22
71	土師器	台付壺	30.0	25.7	10.8	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁外周部・底面・外縁にナ	南コーナー床面	50%, PL23

### 第25号住居跡 (第13図)

**位置** 調査区中央部東側, E 6 c6区の緩斜面部に立地し, 南西には第18号住居跡が位置している。

**重複関係** 北東部を第23号住居跡, 第13号土坑, 中央部は第24号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

**規模と形状** 耕作は床面までに達しており, 南東部は調査区域外のため全体の形状は不明である。

**床** ほほ平坦であり, 南東部がよく踏み固められている。

**炉** 焼土の広がりか硬化面の北に確認され, 炉と考えられる。長径68cm, 短径40cmの楕円形で, 14cmほど掘り窪められている。

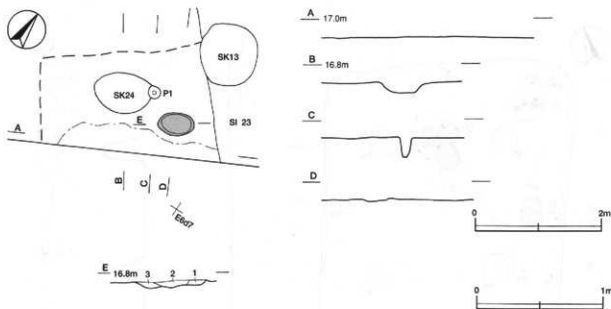
#### 炉土層解説

- |       |                   |       |         |
|-------|-------------------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量  | 3 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |       |         |

**ピット** 1か所。P1は, 深さ32cmで主柱穴と考えられる。

**遺物出土状況** 土師器片9点(坏1, 甕8)が床面から出土しているが, いずれも小破片である。

**所見** 本跡は, 全体の形状を明確にすることができなかった。時期は5世紀前半の第23号住居跡に掘り込まれているためそれ以前と考えられる。



第13図 第25号住居跡実測図

#### 第28号住居跡 (第14・15図)

**位置** 調査区東部, E7 a2区の緩やかに傾斜した台地の縁辺部に立地し, 東には第36号住居跡が位置している。

**規模と形状** 耕作による攪乱のため南壁の一部が確認されなかったが, 長軸4.35m, 短軸3.74mの長方形で, 主軸はN-106°-Wである。壁高は3~21cmで, 各壁は直立している。

**床** はほぼ平坦であり, P5から中央部にかけてよく踏み固められている。

**炉** 2か所。炉1は西壁寄りの中央部に付設され, 長径47cm, 短径35cmの楕円形で, 炉床面は10cmほど掘り窪められている。炉2は中央部北寄りのP1・2を結ぶライン上のほぼ中央に付設され, 長径78cm, 短径20cmの不定形で, 炉床面は8cmほど掘り窪められている。規模と形状から炉2が主として使用されていたと考えられる。

##### 炉1土層解説

- |                      |                                  |
|----------------------|----------------------------------|
| 1 極暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 3 濃い赤褐色 焼土ブロック多量, ローム粒子・炭化物・砂粒微量 |
| 2 極暗赤褐色 焼土ブロック少量     |                                  |

##### 炉2土層解説

- |                      |                                  |
|----------------------|----------------------------------|
| 1 極暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 3 暗赤褐色 焼土ブロック多量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量 |
| 2 極暗赤褐色 焼土ブロック少量     |                                  |

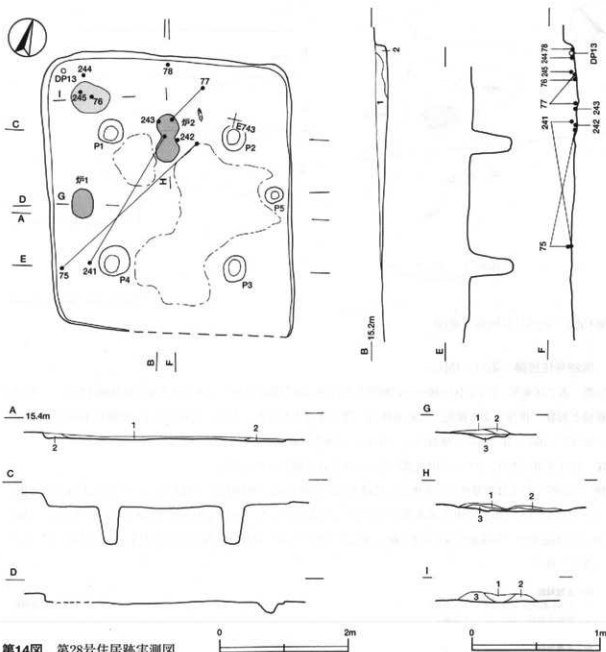
**焼土** 1か所。北西コーナー床面に長径60cm, 短径48cmでしまりの強い焼土が確認されているが, 火災に遭遇したものと考えられる。

##### 焼土土層解説

- |                      |                 |
|----------------------|-----------------|
| 1 極暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 3 極暗褐色 焼土ブロック多量 |
| 2 極暗赤褐色 焼土ブロック少量     |                 |

**ピット** 5か所。P1~4は支柱穴で, 深さ61~66cmである。P5は深さ16cmで, 東壁よりの中央に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**覆土** 2層からなる。堆積の状況と含有物などから自然堆積と考えられる。



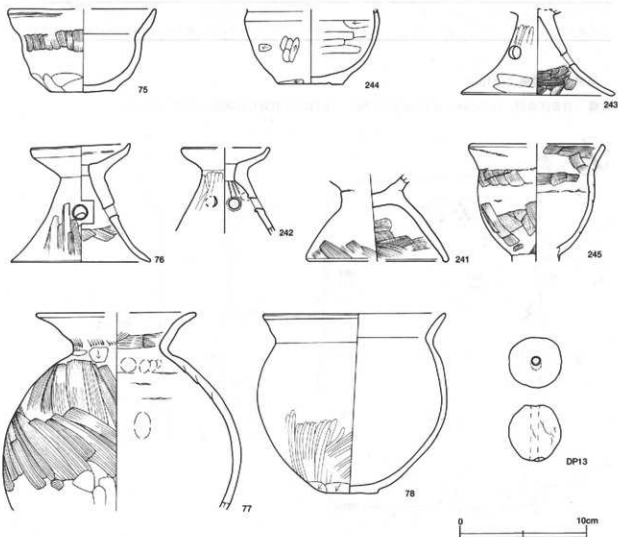
第14図 第28号住居跡実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、粘土粒子・砂粒微量      2 暗褐色 ロームブロック中量、砂粒微量

**遺物出土状況** 土師器片267点(碗4, 高坏2, 器台11, 埴8, 壺4, 小形台付甕4, 甕234), 球状土鍾2点, 縄文土器片1点, 磁器片1点, 陶器片1点, 炭化材1点が出土し, 土師器片のほとんどは覆土下層からの出土である。75は, 南西コーナー寄りの西壁際下層から, 78は北壁際中央部の床面からそれぞれ横位の状態で出土している。76・244・245・DP13は, 北西コーナーに確認された焼土の覆土中及びその周辺から出土し, DP13には痕痕はみられない。77・241・242・243は, 埴2の火床面及び周辺部床面から出土している。また, 77の外面には炭化物が付着しておらず, 体部下端から底部にかけて欠損している。炭化材(長さ20cm, 幅3.5cm, 厚さ2.6cm)は中央部から北寄りの床面からの出土である。縄文土器片と磁器片, 陶器片は覆土中からの出土であり, 流れ込んだものである。





第15図 第28号住居跡出土遺物実測図

所見 本跡は、土器類が床面に残された状態で出土し、炭化材、焼土が出土していることから住居廃絶前に焼失している。時期は出土土器から4世紀中頃と考えられる。

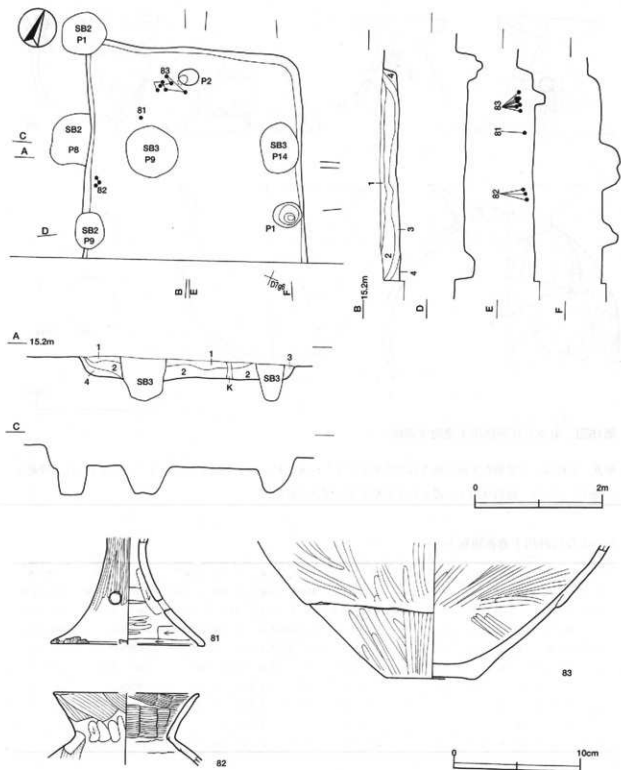
第28号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
75	土器	器 坏	[11.5]	6.6	5.0	長石・石英	明赤陶	普通	鉄器類との間に土器の層が確認	南西コーナー下層	50%、PL23
76	土器	器 台	7.8	9.4	11.0	石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	鉄器類との間に土器の層が確認	北西コーナー床面	95%、PL23
77	土器	器 壺	[12.7]	(15.6)	—	長石	にぶい黄橙	普通	鉄器類との間に土器の層が確認	伊2火床面	60%、PL22
78	土器	器 甕	14.4	14.4	4.8	石英	にぶい橙	普通	鉄器類との間に土器の層が確認	北壁際床面	90%、PL23
241	土器	器 台付 壺	—	(6.9)	[10.8]	長石・石英	橙	普通	土器類との間に土器の層が確認	下層から床面	30%
242	土器	器 器 台	[6.6]	(6.8)	—	長石・石英	浅黄橙	普通	鉄器類との間に土器の層が確認	中央部床面	40%、PL23
243	土器	器 器 台	—	(6.9)	12.0	長石・石英	浅黄橙	普通	鉄器類との間に土器の層が確認	伊2火床面	50%
244	土器	器 胸	—	(5.9)	5.0	長石・砂粒	橙	普通	鉄器類との間に土器の層が確認	北西コーナー床面	40%
245	土器	器 器 台付 壺	[10.4]	(9.4)	—	長石・砂粒	にぶい橙	普通	鉄器類との間に土器の層が確認	北西コーナー床面	30%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重さ	胎土	色調	手法の特徴	出土位置	備考
DP13	球状土鍋	4.1	4.3	0.6	64.9	長石・砂粒	黒	定存、ナデ、両面穿孔、擦痕無し	北西コーナー床面	P1,33

### 第30号住居跡（第16図）

位置 調査区東部，D7e5区の緩斜面部に立地し，北西には第31号住居跡が位置している。



第16図 第30号住居跡・出土遺物実測図

重複関係 第2・3号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱などを受けているため全体の形状を明確にすることができなかったが、確認された長軸3.48m、短軸3.45mで長方形と考えられる。主軸はN-18°-Wで、壁高は25cmほどで、各壁は直立している。

床 ほぼ平坦でやや締まりがある。壁溝は確認されなかった。

炉 調査された住居跡の範囲に炉は確認されなかったが、重複している第3号掘立柱建物跡P9の覆土中に焼土ブロックが含まれていたため、炉はP9によって破壊されたと考えられる。

ピット 2か所。P1・2は深さ23~25cmで性格は不明である。

覆土 4層に分層され、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- |       |           |       |                     |
|-------|-----------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 3 黒褐色 | ロームブロック少量           |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片139点(坏2, 器台1, 壺11, 甕125), 須恵器片10点(坏)が出土している。81・83及び土師器片のほとんどが覆土上層から中層の出土で、北西部に集中しているため投棄されたものと考えられる。82は、西壁中央部北寄りの壁際中層から出土している。

所見 本跡は南部の板敷と第2・3号掘立柱建物跡と重複しているため全体の形状を明確にすることができなかったが、時期は出土土器から4世紀中頃と考えられる。

第30号住居跡出土遺物観察表

番号	機別	形種	口径	器高	口径	出土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
81	土師器	壺	—	(8.5)	[120]	長石・石英	にぶい橙	普通	500℃前後焼成(須恵器)	中央部寄り上層	40%
82	土師器	壺	—	(11.4)	(5.7)	—	にぶい橙	普通	500℃前後焼成(須恵器)	西壁中層	10%
83	土師器	壺	—	(10.8)	7.4	石英・赤色砂子	にぶい橙	普通	500℃前後焼成	北壁寄り上層	50%, P123

第31号住居跡 (第17・18図)

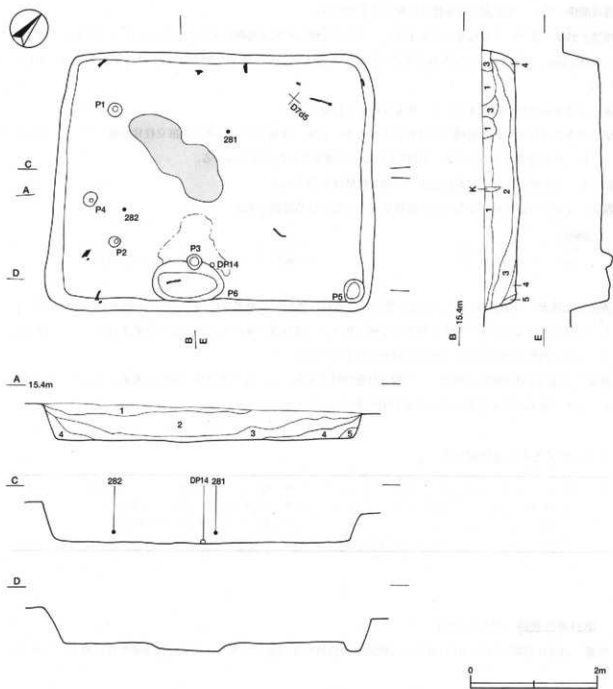
位置 調査区東部、D7d4区の緩やかに傾斜した台地の縁辺部に立地し、南東には第30号住居跡が位置している。

規模と形状 長軸5.15m、短軸4.05mの長方形で、主軸はN-13°-Wである。壁高は48~60cmで、各壁は外傾している。

床 ほぼ平坦で、出入口施設周辺がよく踏み固められている。

ピット 6か所。P1・2は深さ8~13cmで、コーナー寄りに位置して支柱穴と考えられるが、掘り込みが浅いことから断定はできない。P3は南東壁よりの中央部に位置し、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は長軸114cm、短軸63cm、深さ13cmの楕円形で皿上を呈し、P3に隣接していることから本跡に伴い、貯蔵穴的な施設と考えられる。P4・5は深さ13~15cmで性格は不明である。

覆土 5層に分層され、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。



第17図 第31号住居跡実測図

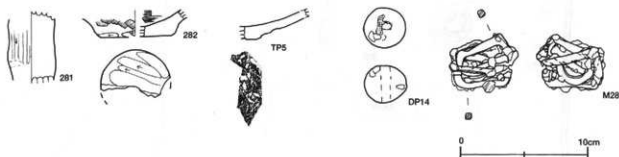
土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

- 4 暗褐色 ロームブロック中量
- 5 極暗褐色 ロームブロック微量

**遺物出土状況** 土師器片451点（坏9，高坏12，台付甕2，甕428），須恵器片20点（坏13，甕7），縄文土器片10点，土師質土器4点，陶器片1点，球状土錘1点，鉸具1点が出土している。DP14は出入口施設周辺部の床面から出土している。多量に出土した土師器片には中実で柱状を呈する高坏脚部（281）や刷毛目調整を施した土器（282）など古墳時代前期と考えられる土器が含まれており、投棄されたものと考えられる。TP5は覆土中からの出土で底面に米の圧痕が確認できる。また床面中央部には、焼土が広がり壁際には上屋構造に使

用されたと考えられる丸太材などの炭化材が出土した。M28及びその他の遺物は、覆土中からの出土である。  
**所見** 本跡は遺構に伴う遺物がほとんど出土していないが、時期は4世紀中頃と考えられる。また、床面に焼土及び炭化材が確認され、住居廃絶後に焼失したと考えられる。



第18図 第31号住居跡出土遺物実測図

第31号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
281	土器	高杯	—	(3.7)	—	長石・砂粒	浅黄緑	普通	中環状胎・中環状底	中央部下層	10%
282	土器	甕	—	(2.1)	[5.5]	長石・砂粒	にぶい赤褐色	普通	斜行条・中環状胎・中環状底	中央部南寄り下層	3%
TP5	土器	器	—	(2.4)	[7.2]	長石・砂粒	にぶい黄褐色	普通	斜行条・中環状胎・中環状底	中央部南寄り覆土中	5%、PL35

番号	器種	径	厚さ	孔径	重さ	胎土	色調	手法の特徴	出土位置	備考
DP14	珠状土師	3.4	2.9	0.9	29.2	長石・砂粒	にぶい黄褐色	各部へナラシ上部・各部縁面を丸み面穿孔	覆土中層	PL35

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	材質	特徴	出土位置	備考
M28	器具	5.4	4.6	2.7	(32.8)	鉄	銅金具可動式(2点)断面矩形	覆土中	黒川、PL36

### 第33号住居跡 (第19図)

**位置** 調査区東部、D7c7区の緩やかに傾斜した台地の縁辺部に立地し、南西には第35号住居跡が位置している。  
**重複関係** 南東部を第34号住居跡及び第49号土坑に掘り込まれている。また中央部から北東壁方向に幅58cmほどの攪乱を受けている。

**規模と形状** 耕作による削平と第34号住居跡に掘り込まれているため全体の形状を明確にすることができず、確認された壁溝から規模を推定した。長軸は3.92m、短軸は3.85mの方形で、主軸はN-20°-Wと考えられ、壁は耕作による削平のためほとんど遺存していない。

**床** ほほ平坦で、壁溝が全周していたと考えられる。硬化面は明確ではない。

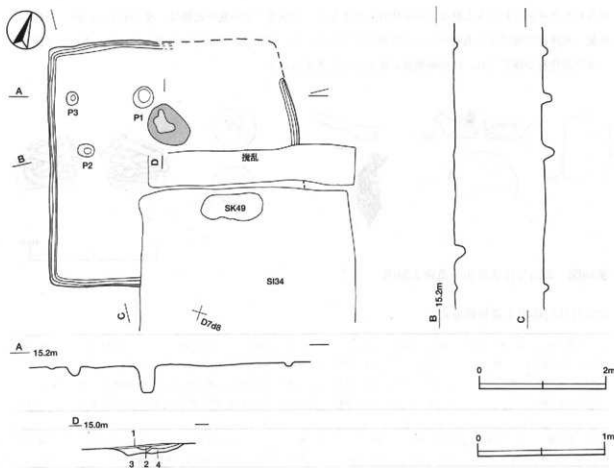
**炉** 中央部に付設され、長径69cm、短径54cmの楕円形の地床炉であり、炉床面は14cmほど掘り窪められている。

#### 炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック少量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化物微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 4 暗赤褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量

**ピット** 3か所。P1～3は深さ15～43cmで主柱穴と考えられるが断定はできない。

**遺物出土状況** 土師器片8点(坏2、甕6)、須恵器片2点(甕1、高台付坏1)が出土しているが、本跡に伴う土器は確認されなかった。



第19図 第33号住居跡実測図

**所見** 本跡は、本来の形状が不明確で、時期判定資料の出土もほとんどないが、4世紀後葉から5世紀前葉の第34号住居跡に掘り込まれているため、時期は4世紀後葉以前と考えられる。

#### 第35号住居跡 (第20～22図)

**位置** 調査区東部、D7f7区の緩やかに傾斜した台地の縁部に立地し、北西には第30号住居跡が位置している。

**重複関係** 第1・4号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸5.50m、短軸5.42mの方形で、主軸は $N-11^{\circ}-W$ である。壁高は20～55cmで、各壁はやや外傾している。

**床** はほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められ、壁溝が周回している。

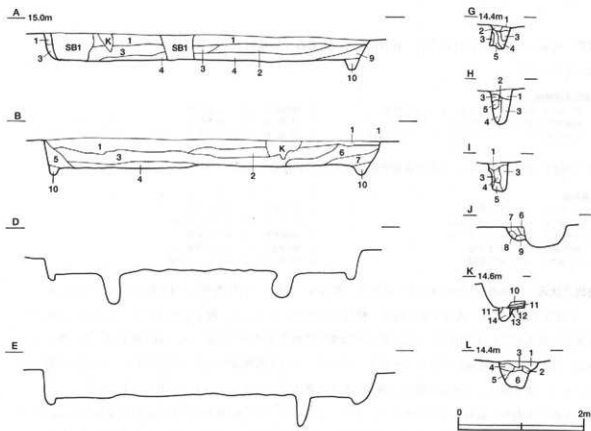
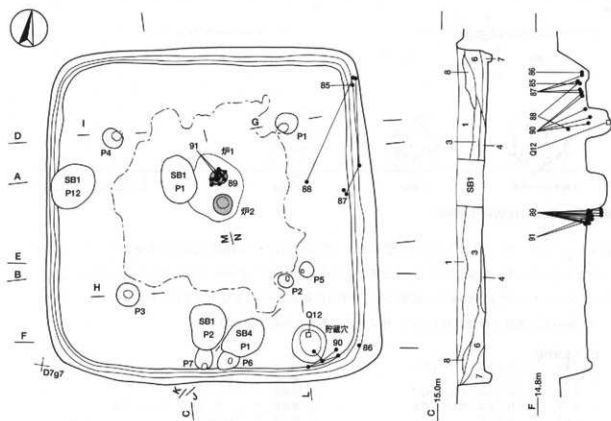
**炉** 中央部に2か所付設されている。炉1は土師器甕体部以下を埋設した炉である。また埋設された甕の底部には別の甕の体部片が敷かれた二重構造である。炉2は炉1の南に付設された長径38cm、短径33cmの楕円形で、炉床面は亦変している。炉1は焼土の堆積状況からみて主体的に使用されていたと考えられるが、炉2は焼土がほとんど無く炉床面が露出した状態で、同時期の使用はないと考える。

##### 炉1 土層解説

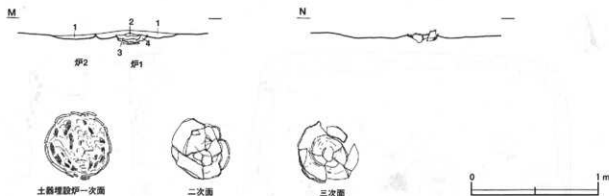
- |                          |                 |
|--------------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子微     | 3 暗赤褐色 焼土ブロック多量 |
| 2 極暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子少量 | 4 極暗褐色 焼土ブロック少量 |

##### 炉2 土層解説

- 1 暗褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量



第20图 第35号住居跡実測图(1)



第21図 第35号住居跡実測図(2)

ピット 7か所。P1～4は主柱穴で、深さは43～57cmである。P6は深さ27cmで南壁よりの中央に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P5は深さ40cm、P7は深さ21cmで補助的な柱穴と考えられるが、P5はP1と直線上で東壁に対して平行に並び、P7は南壁中央部に位置し覆土上層にロームブロックが貼られた痕跡が確認されるため、建て替えのあった可能性が予想できる。

ピット土層解説

- |                      |                         |
|----------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 8 褐色 ローム粒子中量            |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量        | 9 褐色 ローム粒子多量            |
| 3 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 10 暗褐色 ロームブロック多量        |
| 4 黒色 ローム粒子少量、焼土粒子微量  | 11 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 ローム粒子中量        | 12 褐色 ローム粒子多量           |
| 6 黒色 ローム粒子少量         | 13 暗褐色 ローム粒子中量          |
| 7 暗褐色 ローム粒子中量        | 14 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量   |

貯蔵穴 南東コーナー部に付設され、長径64cm、短径56cmの楕円形で、深さは42cmである。底面は平坦で、壁は外傾している。

貯蔵穴土層解説

- |                          |                |
|--------------------------|----------------|
| 1 黒褐色 粘上ブロック少量、ローム粒子微量   | 4 極暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 極暗褐色 ロームブロック少量         | 5 黒褐色 ローム粒子微量  |
| 3 黒褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック微量 | 6 黒褐色 ローム粒子少量  |

覆土 10層に分層され、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

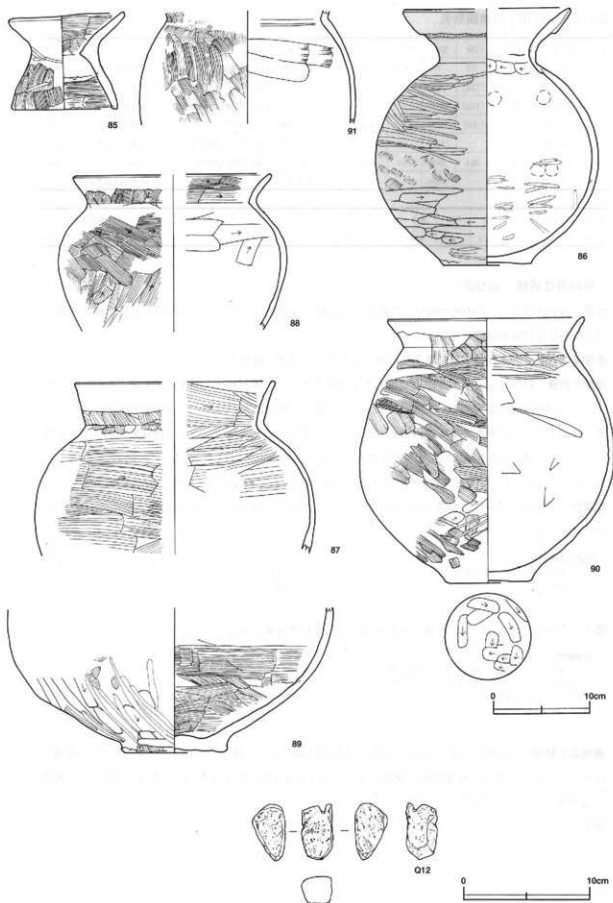
土層解説

- |                  |                  |
|------------------|------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量    | 6 黒褐色 ローム粒子少量    |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量  | 7 黒褐色 ロームブロック微量  |
| 3 極暗褐色 ロームブロック中量 | 8 極暗褐色 ローム粒子少量   |
| 4 極暗褐色 ローム粒子少量   | 9 極暗褐色 ローム粒子微量   |
| 5 黒褐色 ローム粒子微量    | 10 暗褐色 ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片1,020点(坏8, 高坏2, 器台8, 甕916, 台付甕86), 須恵器片26点(坏13, 蓋2, 甕11), 土師質土器片2点, 縄文土器片10点, 軽石1点が出土している。覆土中から出土した多量の土師器片は北東部から南東部にかけて出土し、85・87・88は東壁際覆土下層から床面, 86・90は南東コーナー覆土下層から床面, Q12は貯蔵穴底面からそれぞれ出土している。89は土器埋設炉として使用され, 91は底部に敷かれたものである。須恵器片, 土師質土器片, 縄文土器片は覆土中から出土し, すべて混入である。

所見 本跡は床面から良好な土器が出土し, とくに土器埋設炉は今回調査された古墳時代前期の集落跡が本跡だけであり, 注目される。また, 炉の付設状況や主柱穴, 出入口ピットの確認状況から本跡は建て替えられた可能性が考えられる。時期は出土した土器から4世紀中頃と考えられる。





第22图 第35号住居跡出土遺物実測図

第35号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	口径	胎土	色調	装成	手法の特徴	出土位置	備考
85	土師	器	白	8.8	7.7	8.3	灰石	にない	普通	北東部下層	80% P123
86	土師	器	赤	13.0	20.3	7.0	灰石	にない	普通	南東コーナー下層	70%
87	土師	器	赤	15.8	11.7	-	灰石	にない	普通	東部下層	20%
88	土師	器	赤	13.6	12.3	-	灰石	にない	普通	東部下層	10%
89	土師	器	赤	-	11.5	7.6	灰石	にない	普通	中央部土器埋没部	30%
90	土師	器	赤	20.4	28.0	9.0	雲母・灰石	にない	普通	南東コーナー出層	90% P123
91	土師	器	赤	-	1.8	-	石灰	明赤	普通	中央部土器埋没部内	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	材質	特徴	出土位置	備考	
Q12	埴子	方	4.5	2.4	2.0	4.34	粘土	上層部形痕	貯蔵穴内底面	P126

第44号住居跡 (第23図)

位置 調査区東部、D7e0区の緩やかに傾斜した台地の縁部に立地し、北には第47号住居跡が位置し、南西には第35号住居跡が位置している。

重複関係 中央部南西側は第65号上坑に掘り込まれ、中央部に攪乱を受けている。

規模と形状 耕作による削平と中央部に大きな攪乱があり、全体の形状を明確にすることができないが、長軸5.36m、短軸4.90mの長方形で、主軸はN-36°-Eである。壁高は8~25cmで、各壁はほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められていたと考えられ、南東コーナーの貯蔵穴と居住空間を区切るような幅16cm~18cmの上手状の高まりが床面に2か所みられる。

ピット 4か所。P1~3は支柱穴で、深さ20~30cmである。P4は深さ52cmで性格は不明である。

貯蔵穴 南東コーナー部に付設され、長径80cm、短径58cmの楕円形で、深さは36cmである。底面は平坦で、壁は外傾している。

貯蔵穴土層解説

- |       |           |       |           |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |

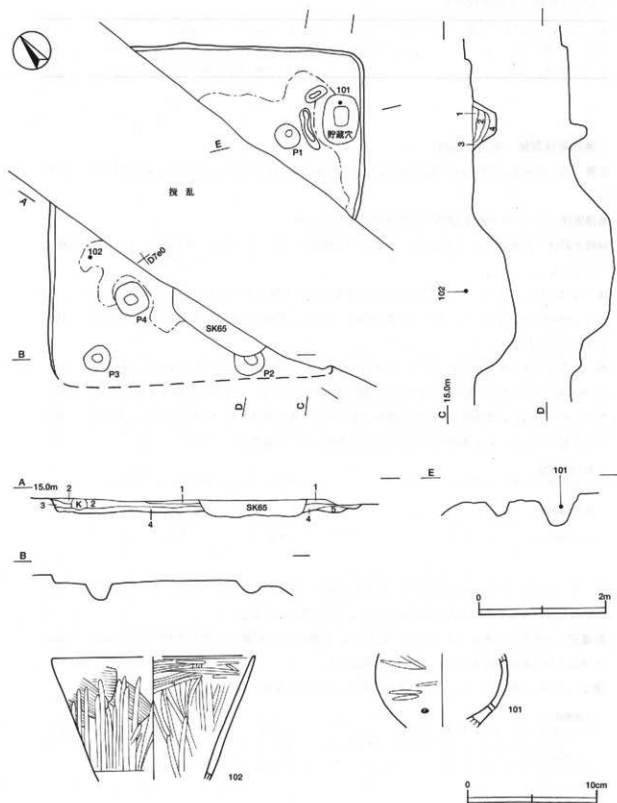
覆土 5層に分層され、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- |       |                     |      |           |
|-------|---------------------|------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量   | 4 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子中量   |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量             |      |           |

遺物出土状況 土師器片51点(埴13, 甕38)、土師質土器片1点、礎2点が出土している。101は貯蔵穴の覆土中層から出土し、体部には焼成後に穿孔された口径4mmほどの孔が1か所みられる。102は北西壁寄りの中央部下層からの出土である。

所見 本跡の時期は出土した土器から4世紀中頃と考えられる。



第23图 第44号住居跡・出土遺物実測图

第44号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	形態	寸法	高さ	奥行	粘土	色	焼成	手取の特徴	出土位置	備考
101	土師器	埴	-	(55)	-	長石・赤色粒子	明赤色	普通	ゴロツキ・ツルツル・細孔・粗面	貯蔵穴中層	10%
102	土師器	埴	(160)	(95)	-	砂鉄	にぶい橙	普通	縦割れ・均整感・粗	北西壁寄り土層	13%

## 第45号住居跡 (第24・25図)

位置 調査区東部、D8c2区の緩やかに傾斜した台地の縁辺部に立地し、南西には第44号住居跡が位置している。

重複関係 北コーナーを第230号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.52m、短軸4.40mの方形で、主軸はN-57°-Wである。壁高は6~16cmで、各壁はほぼ直立している。

床 ほぼ平坦であるが、P3からP4のラインを軸に南西壁間が中央部よりもやや高くなっており、床面全体はよく踏み固められている。また、壁溝が周回している。貯蔵穴の周囲には幅17cm~30cmの土手状の高まりが床面にみられる。

炉 中央部に2か所付設されている。炉1は長径50cm、短径25cmの不定形で6cmほど掘り窪められ、炉2は長径80cm、短径52cmの楕円形で10cmほど掘り窪められている。いずれも底面は亦変して風状を呈している。また、炉1の上面には未焼成の灰や小礫が含まれた粘土塊が確認され、灰層があるいは土器台として使用されていたと想定される。粘土塊の存在から炉1の廃棄後に炉2が構築されたと考えられる。

## 炉1土層解説

- |                 |                        |
|-----------------|------------------------|
| 1 灰褐色 粘土粒子・砂鉄多量 | 2 陶灰色 粘土粒子・砂鉄多量、灰・小礫中量 |
|-----------------|------------------------|

## 炉2土層解説

- |                 |                        |
|-----------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 3 暗褐色 ロームブロック多量        |
| 2 黒褐色 ロームブロック中量 | 4 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 |

ピット 6か所。P1~4は土柱穴で、深さ40~48cmである。P5は深さ17cm、P6は深さ20cmで南東壁中央に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

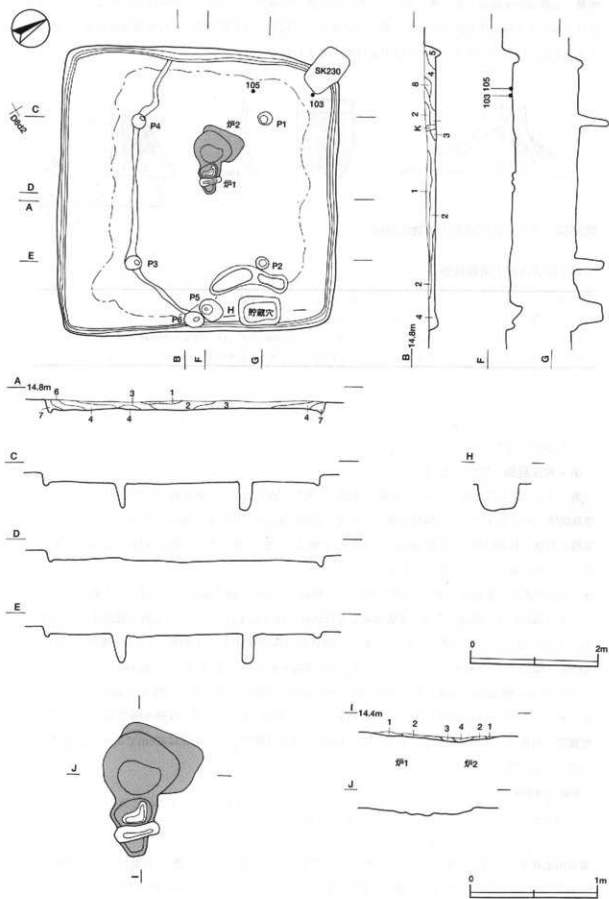
貯蔵穴 南東壁から東コーナー寄りに付設され、長軸66cm、短軸43cmの長方形で、深さは45~52cmである。底面は平坦であるが南東壁方向に傾斜し、壁は外傾している。

覆土 8層に分層され、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

## 土層解説

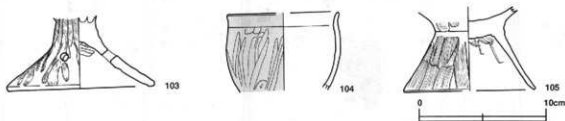
- |                             |                                |
|-----------------------------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量     | 5 暗赤褐色 ロームブロック、焼土ブロック中量、炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量    |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量             | 7 褐色 ロームブロック多量                 |
| 4 暗褐色 ロームブロック中量             | 8 黒褐色 ロームブロック中量                |

遺物出土状況 土師器片147点(埴1、埴1、器台1、甕137、土台甕7)、須恵器片1点(埴)、磁器片1点、縄文土器片3点、石畿1点が出土している。103は北コーナー床面から逆位の状態で出土し、105はP1の北西壁寄りの床面から出土している。また、104は貯蔵穴覆土中からの出土である。



第24图 第45号住居跡实测图

所見 本跡は炉床面から粘土塊が出土し、他の住居跡では確認されなかった炉の使用が確認された。また、本跡は土器の出土量が比較的少ないが、覆土中に焼土・炭化物の含有量が多く、住居廃絶後に焼失した可能性が考えられる。時期は、出土土器から4世紀中頃と考えられる。



第25図 第45号住居跡出土遺物実測図

第45号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
103	土器	高杯	—	(5.7)	11.7	長石	にぶい黄粉	普通	裏器外面へ少量の面へずれ孔は所	北コーナー床面	30%
104	土器	小形変	[ 8.7]	(6.2)	—	砂粒	にぶい黄粉	普通	口縁部へ少量の面へずれ孔は所	貯蔵穴覆土中	20%
105	土器	台付甕	—	(6.6)	[10.3]	長石・赤色粒子	にぶい黄	普通	裏器内外面へ少量の面へずれ孔は所	北西壁寄り床面	5%

## ②古墳時代中期

### 第4号住居跡 (第26・27図)

位置 調査区中央部北側，D5e4区の緩斜面部に立地し，南には第5号住居跡が位置している。

重複関係 中央部よりやや北西側を第5号土坑，北東部を第3号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.09m，短軸5.88mの方形で，主軸はN-29°-Wである。壁高は11～19cmで，西・東壁の状況からやや外傾していたと考えられる。

床 ほほ平坦で，北部から南部に向けて緩やかに傾斜している。硬化面は，中央部から東側コーナー部と西側コーナー部にかけて確認できた。壁溝は第3号住居跡に掘り込まれているため正確に把握することはできないが，ほほ全周していたと考えられる。また，間仕切り溝が床面から4か所(a～d)確認された。a(長さ100cm，幅22cm)は東壁下から，b(長さ124cm，幅24cm)・c(長さ122cm，幅36cm)は南壁下から，dは(長さ172cm，幅32cm)西壁下からそれぞれ中央に向かって延び，深さは5～24cmである。

ピット 8か所。P1～4は主柱穴で，深さ24～47cmである。P5～8は，性格不明である。

貯蔵穴 南東コーナー部に付設されている。径92cmほどの楕円形で，深さは40cmであり，底面は平坦で，壁は直立している。

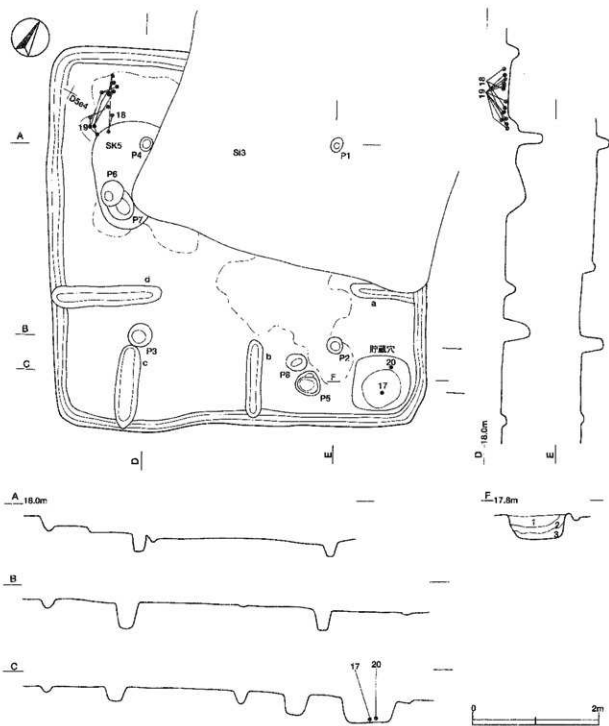
#### 貯蔵穴土層解説

- |  |                         |
|--|-------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量                | 3 暗褐色 ローム粒子中量，ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック微量 |                         |

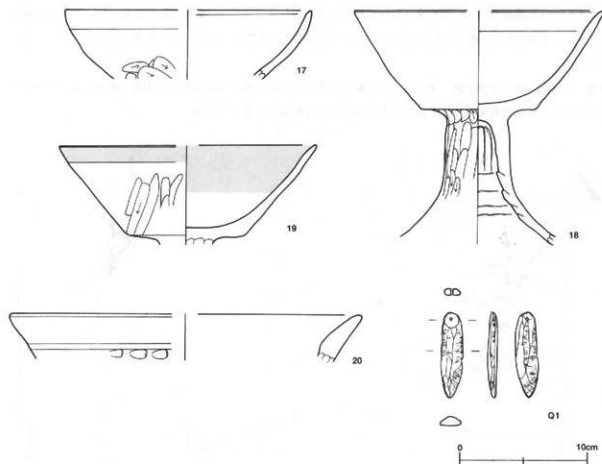
遺物出土状況 土器器片402点(坏33，甕224，高坏145)，須恵器片1点(甕)，石製品1点(剣形)，磁器片1点出土している。17，20は，貯蔵穴の覆土下層から出土しているため本跡に伴うものと考えられる。18・19は，北西コーナー部の床面及び覆土下層中から器種を把握することのできない多数の土器器片とともに集中し

て出土し、住居廃絶直後に一括投棄された可能性が考えられる。Q1の石製模造品(剣形)は、剣先が貯蔵穴の覆土中、基部がP2の覆土中から出土している。須恵器片、磁器片については、後世に混入したものと考えられる。

所見 本跡は、第3号住居跡、第5号土坑に掘り込まれているため、本来の形状を明確に把握することができなかったが、時期は貯蔵穴内より出土した土器から5世紀前半と考えられる。



第26図 第4号住居跡実測図



第27図 第4号住居跡出土遺物実測図

第4号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
17	土器	鉢	高	19.2	5.3	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外縁に磨り跡あり	貯蔵穴下層	10%
18	土器	鉢	高	19.7	18.6	—	砂粒	にぶい黄橙	普通	外縁に磨り跡あり	北西コーナー下層	50%、PL21
19	土器	鉢	高	20.0	7.9	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部に磨り跡あり	北西コーナー下層	30%、PL21
20	土器	器	瓶	27.5	3.7	—	長石・石英	にぶい橙	普通	胎土に磨り跡あり	貯蔵穴下層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	朝鮮陶器	6.8	1.2	0.8	11.9	滑石	孔縁2面両面及び斜縁着色面磨り跡あり	貯蔵穴・P2層土中	PL38

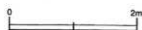
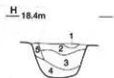
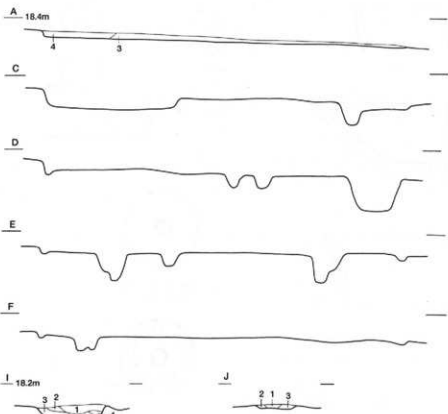
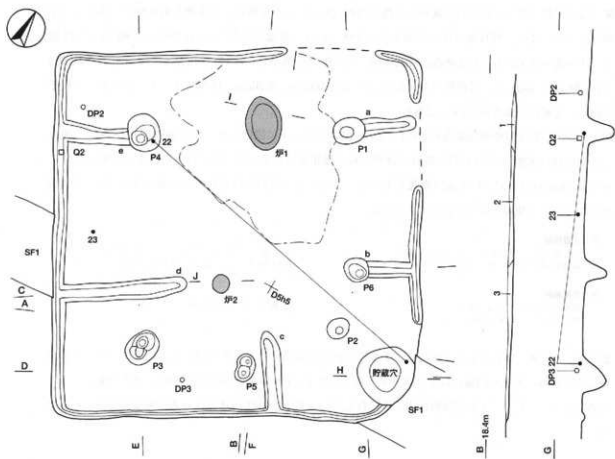
#### 第5号住居跡（第28・29図）

位置 調査区中央部、D5 g4区の緩斜面部に立地し、北には第4号住居跡が位置している。

重複関係 東部から西部の上面に第1号道路跡が構築されている。

規模と形状 長軸5.79m、短軸5.77mの方形で、主軸はN-34°-Wである。壁は削平され、残存状態の良好な壁高は8～14cmである。





第28图 第5号住居跡実測图

床 ほぼ平坦であり、炉1周辺部がよく踏み固められている。壁溝は、北壁側と東壁側の一部を除いてほぼ全周している。また、間仕切り溝が床面から5か所(a~e)確認された。a(長さ82cm, 幅24cm)は東壁北東コーナー寄りから、b(長さ69cm, 幅24cm)は東壁中央部から、c(長さ122cm, 幅29cm)は南壁から、d(長さ200cm, 幅28cm)は西壁中央部から、e(長さ100cm, 幅26cm)は西壁コーナー寄りからそれぞれ中央に向かって延び、深さ10~24cmである。

炉 2か所。炉1は中央部北寄りのP1とP4を結ぶライン上に設けられ、長径86cm, 短径55cmの地床炉であり、炉床面は床面から13cmほど掘りくぼめられて皿状を呈している。炉2は中央部からやや南寄りに設けられた径30cmの円形で、炉床面は赤変している。また、2か所の炉は規模と炉床面の赤変硬化した状態から、炉1が主として使用されていたと考えられる。

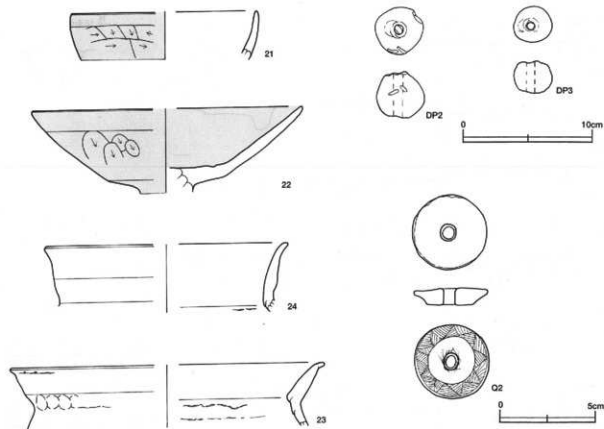
炉1土層解説

- |                        |                       |
|------------------------|-----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック微量   | 3 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子微量 |
| 2 極暗赤褐色 ローム粒子・焼土ブロック少量 | 4 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量   |

炉2土層解説

- |                 |               |
|-----------------|---------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック多量 | 3 暗褐色 ローム粒子中量 |
| 2 褐色 ローム粒子多量    |               |

ピット 6か所。P1~4は主柱穴で、深さ37~46cmである。P5は深さ22cmで、南壁よりの中央に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ36cmで、形状と深さが他のピットと同様であることと、P1・4と同様間仕切り溝に接していることから住居跡に伴う補助的な柱穴であると考えられる。



第29図 第5号住居跡出土遺物実測図

貯蔵穴 径90cmほどの円形で、深さが54cmであり、南東コーナー部に付設されている。底面は平坦で、壁は外傾している。

貯蔵穴土層解説

- |       |                   |      |                   |
|-------|-------------------|------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量         | 4 褐色 | ローム粒子少量、ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、ロームブロック微量 | 5 褐色 | ローム粒子少量           |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量         |      |                   |

覆土 4層に分層される。含有物などから人為堆積の可能性がある。

土層解説

- |       |                  |       |           |
|-------|------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量          | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片269点（坏10、板1、高坏24、甕233、瓶1）、須恵器片4点、土製品2点（球状土錘）、石製品1点（紡錘車）、磁器片1点が出土している。出土遺物のほとんどは、南東コーナー部と南西コーナー部の覆土中から散乱した状態で出土している。また、本跡は耕作による削平で壁がかなり削られていることから、出土した21～24は全て覆土下層部からの出土で、本跡に伴うものと考えられる。DP2は西コーナーから、DP3は南壁際からいずれも床面から浮いた状態で出土し、Q2は南西壁際の覆土下層から出土している。須恵器片と磁器片は、後世に混入したものと考えられる。

所見 本跡は、削平のため本来の形状を明確にすることができなかった。球状土錘（DP3）は、孔部に擦痕が認められる。石製紡錘車（Q2）の石材は滑石で、表面に鋸歯文の線刻が施されている。紡錘車としては厚みもなく実用性に欠けることから、模造品としての可能性が考えられる。時期は覆土下層及び床面から出土した土器から5世紀前半と考えられる。

第5号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	施文	手法の特徴	出土位置	備考
21	土師器	高坏	14.6	3.8		長石	に白い粒	普通	100% 100% 100% 100%	覆土中	5%
22	土師器	高坏	21.2	6.7		長石・石英	粗	普通	100% 100% 100% 100%	貯蔵穴・P14覆土中	30%
23	土師器	甕	24.7	5.0		石英	洗滌粒	普通	100% 100% 100% 100%	北西壁寄り下層	3%
24	土師器	甕	19.0	5.5		長石	に白い粒	普通	100% 100% 100% 100%	覆土中	5%

番号	器種	径	厚さ	高さ	胎土	色調	施文	手法の特徴	出土位置	備考
DP2	球状土錘	3.8	3.5	4.1	石英・雲母	粗	孔径0.8,孔周辺へラ削り,体部ナア,片面穿孔		西コーナー下層	100%, P1,36
DP3	球状土錘	3.0	3.5	3.5	砂粒	に白い黄粒	孔径0.7,孔周辺へラ削り,体部ナア,片面穿孔		南コーナー下層	100%, P1,35

番号	器種	径	長さ	厚さ	高さ	材質	施文	手法の特徴	出土位置	備考
Q2	紡錘車	3.8	3.9	0.9	17.8	滑石	孔径0.8,表面に鋸歯文の線刻,両面穿孔		南西壁際覆土下層	複製品へ, P1,36

第7号住居跡（第30・31団）

位置 調査区中央部南寄り，E4J8区の東方向に傾斜する緩斜面部に立地している。北には第8号住居跡が位置し，南には第9号住居跡が位置している。

重複関係 中央部から南側を第2号土坑に掘り込まれ，東を第3号土坑と第4号溝に掘り込まれている。また，本跡は第1号土坑上面に構築されている。

**規模と形状** 耕作による削平と第2・3号土坑、第4号溝に掘り込まれているため、西側部分を残すのみで全容は不明である。確認できた北西軸は2.1mで、南西軸は1.9mである。壁は最も残りの良い部分の高さが6cmで、西コーナー部が直角であることから方形または長方形と推定される。

**床** ほほ平坦であり、中央部から南西部にかけてよく踏み固められている。

**炉** 中央部から南西寄りに設けられ、長径74cm、短径48cmの地床炉であり、炉床面は床面から8cmほど掘り窪められ皿状を呈している。

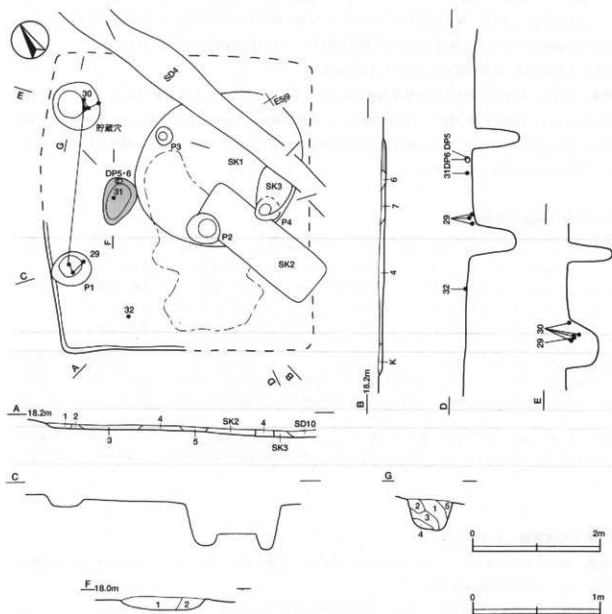
**伊土層解説**

1 赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子中量

2 極暗赤褐色 ローム粒子多量、ロームブロック・焼土粒子少量

**ピット** 4か所。P1～4は深さ15～72cmで、性格は不明である。

**貯蔵穴** 径76cmの円形で深さが51cmであり、北コーナーに付設されている。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。



第30図 第7号住居跡出実測図

貯蔵穴土層解説

- |       |                               |       |                   |
|-------|-------------------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量・ロームブロック微量             | 4 暗褐色 | ローム粒子中量           |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量   | 5 暗褐色 | ローム粒子中量・ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量・ロームブロック・粘土ブロック・粘土粒子微量 |       |                   |

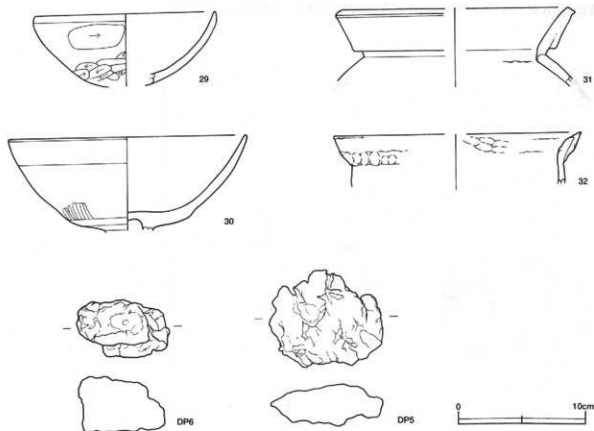
覆土 7層に分層され、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- |       |                        |        |                                 |
|-------|------------------------|--------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量    | 5 黒褐色  | ローム粒子少量                         |
| 2 褐色  | ローム粒子中量、ロームブロック微量      | 6 暗赤褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 褐色   | ローム粒子多量、ロームブロック少量               |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量、ロームブロック微量      |        |                                 |

遺物出土状況 土師器片438点（坏23、高坏7、甕406、瓶2）、縄文土器片2点、焼成粘土塊2点が出土している。遺物のほとんどは、北西部覆土中及び床面から散乱した状態で出土している。29はP1と貯蔵穴の覆土上層から出土し、30は貯蔵穴中層から横位の状態で出土している。32はP1の西コーナー寄りの床面から出土し、いずれも本跡に伴うものと考えられる。DP5・6の焼成粘土塊は、2点とも火熱を受けた状態で炉の覆土中から出土している。

所見 本跡は、耕作による削平と第2・3号土坑、第4号溝に掘り込まれているため本来の形状を明確にすることができなかったが、時期は5世紀代と考えられる。



第31図 第7号住居跡出土遺物実測図

### 第7号住居跡出土遺物観表

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
20	土器	坏	14.3	( 5.8)	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	(瀬部川流域から河内郡まで)	貯蔵穴・P1上層	50%、P1.21
30	土器	高坏	18.8	( 7.4)	—	石英	成黄橙	普通	(瀬部川流域から河内郡まで)	貯蔵穴中層	40%
31	土器	甕	[17.8]	( 6.2)	—	長石	にぶい橙	普通	(瀬部川流域まで)	中央部下層	5%
32	土器	飯	[19.6]	( 4.4)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	(瀬部川流域から河内郡まで)	西コーナー床面	5%

番号	器種	幅	長さ	厚さ	重さ	胎土	色調	手法の特徴	出土位置	備考
DP5	粘土瓶	8.9	7.6	3.4	150.0	砂粒・長石	橙	火熱を受けている	貯蔵穴下層	貯蔵穴 <sup>○</sup>
DP6	粘土瓶	7.2	4.6	4.3	95.1	砂粒・長石	橙	火熱を受けている	貯蔵穴下層	貯蔵穴 <sup>○</sup>

### 第8号住居跡 (第32図)

**位置** 調査区中央部南寄り、D5 h7区の東方向に傾斜する緩斜面部に立地し、南側には第7号住居跡が位置している。

**重複関係** 東側を第4号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 耕作による削平と第4号溝に掘り込まれているため全容は不明である。炭化材、焼土、及び硬化面から規模と形状は、長軸4.8m、短軸3.12mの長方形と考えられる。

**床** ほほ平坦であり、中央部がよく踏み固められている。柱、柱穴は削平のため確認されなかった。

**遺物出土状況** 出土状況土器片が21点(甕20、高坏1)が出土している。



第32図 第8号住居跡実測図

所見 本跡は、耕作による削平のため、本来の形状を明確にすることができなかった。また、炭化材と焼土が出土していることから住居廃絶後に焼失住居と考えられ、周辺部に同様の住居跡が確認されていることから、本跡の時期は5世紀代と考えられる。

#### 第12号住居跡 (第33・34図)

位置 調査区中央部、E5a1区に立地し、北東には第11号住居跡が位置している。

重複関係 西部を第3号溝、西部から東部を第5号溝に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による削平と南部の攪乱及び第3・5号溝との重複のため全容を把握することはできない。確認された長軸は7.62m、短軸は6.13mで、形状は方形または長方形と考えられる。主軸はN-37°-Wで、壁高は5~10cmで、各壁はやや外傾している。

床 はほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。壁溝は明確に把握することはできないが、ほぼ全周していたと考えられる。また、間仕切り溝が1か所確認され、北東境中央部から中央に向かって延び、規模は長さ74cm、幅20cm、深さ4~8cmである。

炉 地床炉が中央部に3か所付設され、炉1は径28cmの円形で、8cmほど掘り窪められて皿状を呈している。炉2は長径76cm、短径22cmの不定形で、東部が15cm掘り窪められている。炉3は長径64cm、短径42cmの楕円形で、9cmほど掘り窪められている。

##### 炉1土層解説

1 赤褐色 炭土粒子多量、焼土ブロック微量

##### 炉2土層解説

1 赤褐色 炭土粒子多量、ローム粒子・焼土ブロック微量

##### 炉3土層解説

1 赤褐色 炭土粒子多量、ローム粒子・焼土ブロック微量

ピット 2か所。P1・2は深さ49~62cmで主柱穴であるが、他のピットは床面精査を行ったが確認することができなかった。

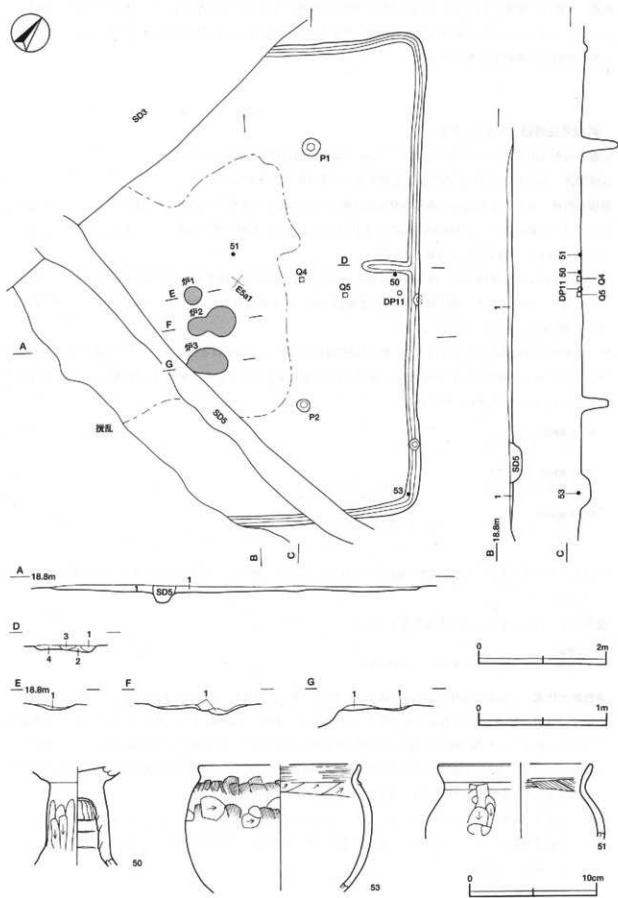
覆土 単一層からなり、自然堆積と考えられる。

##### 土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量、炭土粒子・炭化粒子微量

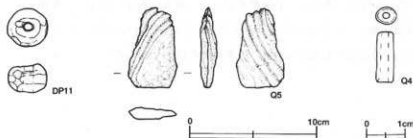
遺物出土状況 土師器片209点(坏36、鉢1、高坏10、埴1、甕161)須恵器片1点(甕)、土製品2点(球状土鉢1、不明土製品1)、石製品1点(管玉)、石器1点(不明)、陶器片1点が出土している。図示した遺物は床面から出土した本跡に伴うもので、確認面及び覆土中から出土した土師器片は摩滅が激しく、混入したものと考えられる。また、DP11には孔部両端に擦痕が確認でき、Q5は下部部を直線的に施いた痕跡が確認できる。須恵器片、陶器片については、後世に混入したものと考えられる。

所見 本跡は、本来の形状を明確にすることができなかったが、時期を判断できる良好な土器が出土している。また、床面より管玉(Q4)が出土し、住居廃棄時の祭祀が行われた可能性が考えられる。時期は出土した土器から5世紀前半と考えられる。



第33图 第12号住居跡出土遺物実測図





第34図 第12号住居跡出土遺物実測図

第12号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
S0	土師器	高坏	—	(7.8)	—	砂粒	浅黄澄	普通	無須内面への施し内面編織A様	床面	20%
S1	土師器	小形壺	[12.0]	(6.0)	—	砂粒	にぶい橙	普通	底部内面への施し内面へナゲへの施し	床面	10%
S3	土師器	壺	[12.7]	(10.1)	—	雲母・長石	にぶい赤陶	普通	底部への編織施への施し内面へナゲ	床面	30%、PL22

番号	器種	径	厚さ	孔径	高さ	胎土	色調	手法の特徴	出土位置	備考
DP11	球状土鉢	3.2	2.2	0.7	18.8	長石・砂粒	黒黒	孔底面への施し内面への施しナゲへの施し	床面	焼成有、PL35

番号	器種	径	孔径	厚さ	高さ	材質	特徴	出土位置	備考	
Q4	管	玉	0.5	1.3	0.2	0.5	滑石	片割穿孔	床面	PL38
Q5	不明	—	—	—	28.9	雲母片岩	長さ63、幅3.6、厚さ1.0下部断面磨削	床面		

### 第20号住居跡 (第35・36図)

位置 調査区中央部東側、D6g7区に立地し、南には第21号住居跡が位置している。

重複関係 西部から東部を第6号溝に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による削平と東部が調査区域外のため全容を把握することはできない。確認された長軸は6.47m、短軸は3.57mで、形状は方形または長方形と考えられる。主軸はN-25°-Wで、壁高は7~29cmで、各壁は直立している。

床 ほほ平坦で、中央部がよく踏み固められている。壁溝は壁下を巡っている。また、間仕切り溝が2か所確認された。a(長さ198cm、幅20cm)は南西コーナー寄りから、b(長さ118cm、幅18cm)は北西コーナー寄りからそれぞれ中央に向かって延び、深さは19~20cmである。

炉 中央部に1か所付設され、直径は26cmの円形で、6cmほど掘り窪められた地床炉である。

#### 炉土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量

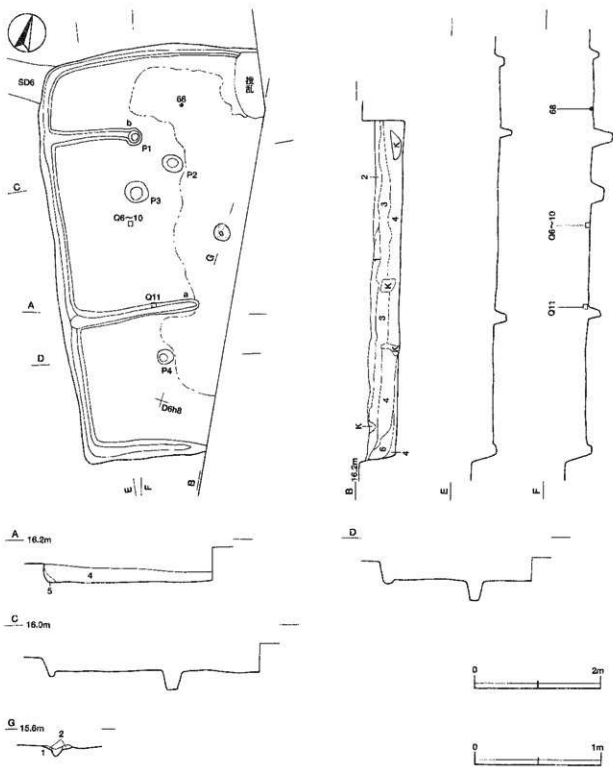
ピット 4か所。P1(深さ33cm)・P4(深さ33cm)は主柱穴である。P2・3については性格は不明である。

覆土 6層からなる。堆積状況などから自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

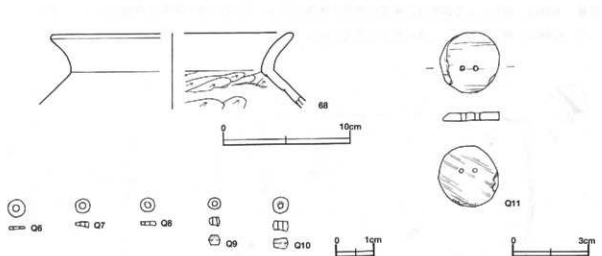
- |       |           |       |                   |
|-------|-----------|-------|-------------------|
| 1 黒色  | ローム粒子少量   | 4 黒褐色 | ローム粒子多量、ロームブロック中量 |
| 2 黒色  | ローム粒子微量   | 5 褐色  | ローム粒子多量、ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量         |

遺物出土状況 土師器片190点(坏12, 高坏28, 羹130), 石製模造品6点(双孔円板1, 白玉5)が出土している。68など出土した土師器片は東部床面からの出土で, 赤彩されたものも確認されている。Q6~10は, 中央部床面から1か所に集中して出土し, Q11は中央部から南寄りの床面から出土している。



第35図 第20号住居跡実測図

所見 本跡は、東部が調査区域外であることから本来の形状を明確にすることができなかった。また、床面より白玉(Q6~10)・双孔円板(Q11)が出土し、住居廃棄時に祭祀が行われた可能性が考えられる。時期は出土した土器から5世紀後半と考えられる。



第36図 第20号住居跡出土遺物実測図

第20号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
68	土製	器	18.4	5.5	—	石英	に白い粒	普通	（瀬部焼ヤブ漆塗）ヤブ内取付ナフ	北壁寄り床面	5%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重さ	材質	特徴	出土位置	備考
Q6	白玉	0.41	0.42	0.18	0.03	滑石	厚みのほとんどない円板状	中央部床面	PL37
Q7	白玉	0.37	0.39	0.17	0.02	滑石	厚みのほとんどない円板状、上表面研磨	中央部床面	PL37
Q8	白玉	0.39	0.38	0.15	0.02	滑石	厚みのほとんどない円板状、上下表面研磨	中央部床面	PL37
Q9	白玉	0.36	0.26	0.15	0.04	滑石	厚縁玉状、表面縦位の研磨、上下表面研磨	中央部床面	PL37
Q10	白玉	0.42	0.44	0.15	0.07	滑石	厚縁玉状、表面縦位の研磨、上下表面研磨	中央部床面	PL37
Q11	双孔円板	2.36	0.29	0.20	3.14	滑石	両面一方向研磨、片面穿孔	中央部床面	PL36

第23号住居跡（第37図）

位置 調査区中央部東側、E6c7区に立地し、北には第19号住居跡が位置している。

重複関係 南西部で第25号住居跡を掘り込み、南西壁際を第13号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による削平で床面が露出し、南東部は調査区域外のため全体の形状を明確にすることができないが、確認できた南西軸は4.82mである。形状は北西コーナーとピット及び炉の位置から推定でき、方形または長方形と考えられる。

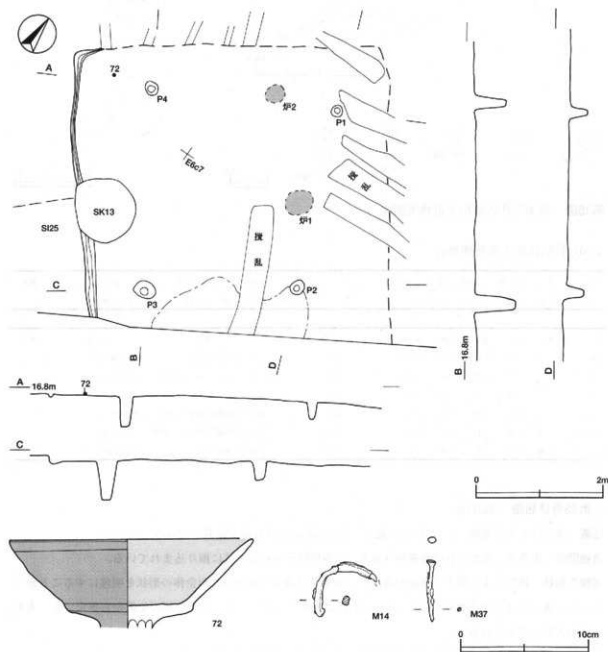
床 はほぼ平坦であり、南東部がよく踏み固められ、壁溝は南西壁下に確認されている。

炉 2か所。炉1は長径44cm、短径38cmの楕円形で中央部からやや東寄りに位置し、炉2は径32cmの円形で中央部のやや北寄りに付設されている。いずれも掘り込みがみられない。

ピット 4か所。P1~4は、深さ28~65cmで支柱穴である。

遺物出土状況 土師器片が26点（高坏21，甕5），須恵器片2点（坏），土師質土器片1点，縄文土器片2点，鉄製品1点（鉸具）が出土している。72は北西コーナー部床面から正位の状態出土し，M14・須恵器片・土師質土器片・縄文土器片は覆土中からの出土である。

所見 本跡は，耕作による削平と南東部が調査区域外であることから全体の形状を明確にすることができなかった。時期は，出土土器から5世紀前半と考えられる。



第37図 第23号住居跡・出土遺物実測図

第23号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
72	土師器	高坏	19	(7.3)	—	長石・石英	橙	普通	坏部内・外面ナア,内面赤影	北西コーナー床面	50%

番号	型種	長さ	幅	厚さ	重さ	M 質	特徴	出土位置	備考
M14	板	共 (4.0)	(5.0)	0.7	(9.5)	灰	土器穴	甕上穴	
M37	釘	4.9	0.7	0.3	1.6	灰	完全焼成形形の磁器器台蓋部片	甕上中	

### 第29号住居跡 (第38・39区)

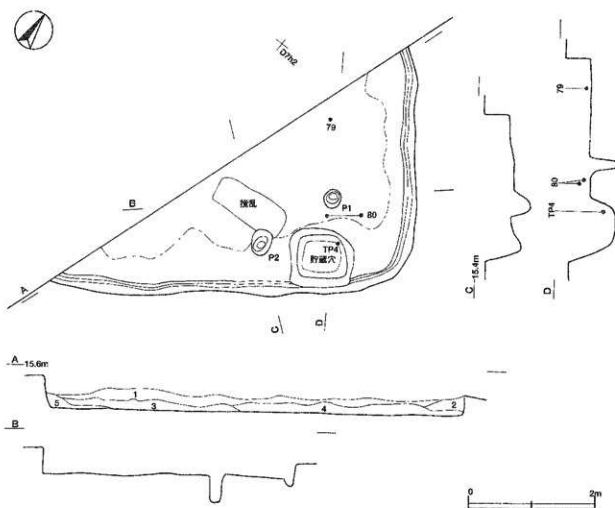
**位置** 調査区東部、D7h2区の緩斜面部に立地し、北には第28号住居跡が位置している。

**規模と形状** 北西部が調査区域外のため全体の形状を明確にすることができないが、確認されたのは約2分の1で長軸5.45m、短軸3.50mの方形または長方形と考えられ、主軸はN-38°-Wである。壁高は12~34cmで、各壁は直立している。

**床** ほぼ平坦で、床面全体がよく踏み固められ、壕溝が周回している。

**ピット** 2か所。P1は支柱穴で、深さ46cmである。P2は深さ38cmで南東壁寄り、貯蔵穴際に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。

**貯蔵穴** 東コーナーに付設され、長径100cm、短径94cmの楕円形で、深さは40cmである。底面は平坦で、壁は外傾している。



第38図 第29号住居跡実測図

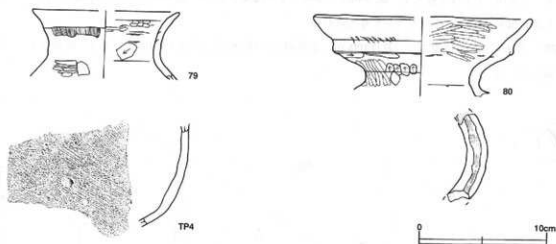
覆土 5層からなる。堆積状況の含有物から自然堆積と考えられる。

土層解説

- |        |           |        |           |
|--------|-----------|--------|-----------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子微量   | 4 極暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色  | ローム粒子少量   | 5 極暗褐色 | ローム粒子微量   |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック中量 |        |           |

遺物出土状況 土師器片118点(壺20, 甕98), 須恵器片1点(坏), 縄文土器片1点, 陶器片1点が出土している。79・80は覆土下層, TP4は貯蔵穴の覆土下層から出土している。また, 覆土下層から細片のため器種を明確にすることのできない土師器片も出土している。須恵器片, 縄文土器片, 陶器片は覆土上層から出土したものが混入したものと考えられる。

所見 本跡は, 全体の形状を明確にすることができなかったが, 出土した土師器片や確認された形状などから時期は5世紀前半と考えられる。



第39図 第29号住居跡出土遺物実測図

第29号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
79	土師器	壺	[11.6]	(5.3)	—	長石	黄灰	普通	器底に縄文土器片の残片が認められる	北西部下層	10%
80	土師器	壺	[17.0]	(6.4)	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	器底に縄文土器片の残片が認められる	東コーナー下層	10%, 下層に須恵
TP4	土師器	甕	—	(8.2)	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	器底に縄文土器片の残片が認められる	貯蔵穴下層	

第34号住居跡 (第40・41図)

位置 調査区東部, D7c8区の緩やかに傾斜した台地の縁辺部に立地し, 南西には第35号住居跡が位置している。

重複関係 北西部で第33号住居跡を掘り込み, 北西壁際を第49号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による削平を受けているが, 長軸3.43m, 短軸3.12mの方形で, 主軸はN-13°-Wである。壁高は10~17cmで, 各壁は外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で, 中央部がよく踏み固められている。壁溝は北西コーナーから北東コーナーを除き壁下を巡っている。

炉 中央部からやや東に付設され、長径50cm、短径42cmの楕円形で、炉床面は16cm掘り窪められて皿状を呈している。

炉土層解説

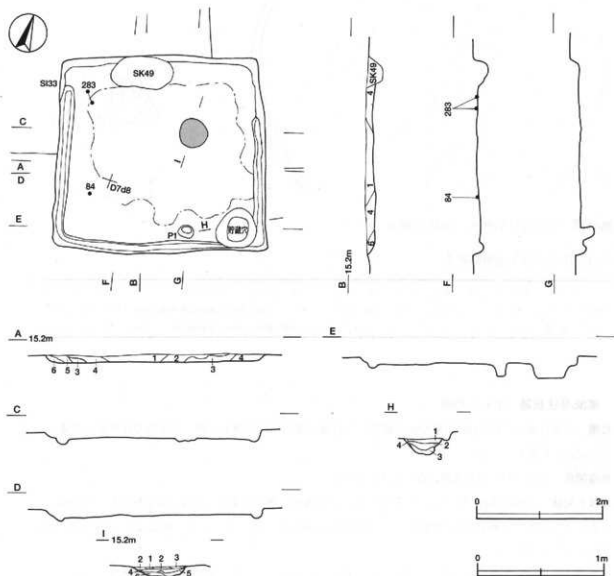
- |                  |                  |
|------------------|------------------|
| 1 極暗赤褐色 焼土ブロック中量 | 4 暗褐色 焼土ブロック中量   |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック少量  | 5 極暗赤褐色 焼土ブロック少量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック微量  | 6 黒褐色 焼土ブロック微量   |

ピット 1か所確認され、深さは20cmで南東壁際に位置するため出入口施設に伴うピットと考えられる。他のピットは確認することができなかった。

貯蔵穴 南東コーナーに付設され、長径68cm、短径62cmの楕円形で、深さは26cmである。底面は平坦で、壁は外傾している。

貯蔵穴土層解説

- |                 |               |
|-----------------|---------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック微量 | 3 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | 4 暗褐色 ローム粒子微量 |



第40図 第34号住居跡実測図

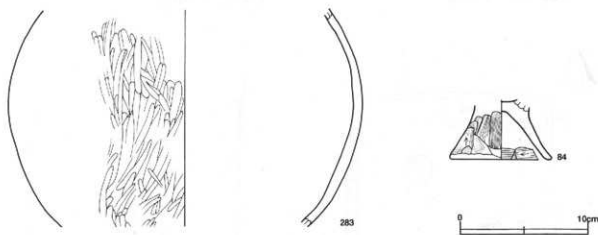
覆土 6層に分層され、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- |        |           |        |           |
|--------|-----------|--------|-----------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子微量   | 4 黒褐色  | ロームブロック少量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック微量 | 5 黒褐色  | ローム粒子少量   |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック少量 | 6 極暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片40点(碗1, 台付甕1, 甕38)須恵器片4点(坏1, 高台付坏2, 甕1), 土師質土器片1点, 陶器片1点, 炭化材が出土している。遺物のほとんどは細片で、覆土中からの出土である。84は南西コーナー寄りの床面, 283は北西コーナー寄りの床面から出土している。また, 炭化材が84の南西部床面から出土している。

所見 本跡は, 良好な遺物の出土が少なく, 炭化材が床面より出土しているため住居廃絶後に焼失したと考えられ, 時期は4世紀後葉から5世紀前葉と考えられる。



第41図 第34号住居跡出土遺物実測図

第34号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
84	土師器	台付甕	—	(47)	80	長石・砂粒	橙	普通	台部厚く中腹内縁ノミノ調整	南西コーナー床面	10%
283	土師器	甕	—	(17)	—	長石	にぶい黄橙	普通	底部厚く内縁調整ノミ	北西コーナー床面	10%

第36号住居跡 (第42・43図)

位置 調査区東部, D7J4区の緩やかに傾斜した台地の縁辺部に立地し, 西には第28号住居跡, 北東には第35号住居跡が位置している。

重複関係 第22・23・24号溝跡に掘り込まれている。

規模と形状 本跡は耕作による削平と第22・23・24号溝跡に掘り込まれているため全体の形状を明確にすることができないが, 長軸4.90m, 短軸4.61mの方形で, 主軸はN-11°-Wである。壁高は3~17cmで, 各壁は外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦でやや締まりが強く, 南東方向に緩やかに傾斜している。壁溝は確認されなかった。



ピット 4か所。P1～4は、深さ12～18cmで支柱穴と考えられるが、P1・2が第24号溝跡に掘り込まれているため本来の形状及び深さを明確にすることができない。また、P3・4との掘り方に差がみられる。

貯蔵穴 北西コーナーに付設され、径34cmの円形で深さは13cmである。底面は平川で、壁は外傾している。

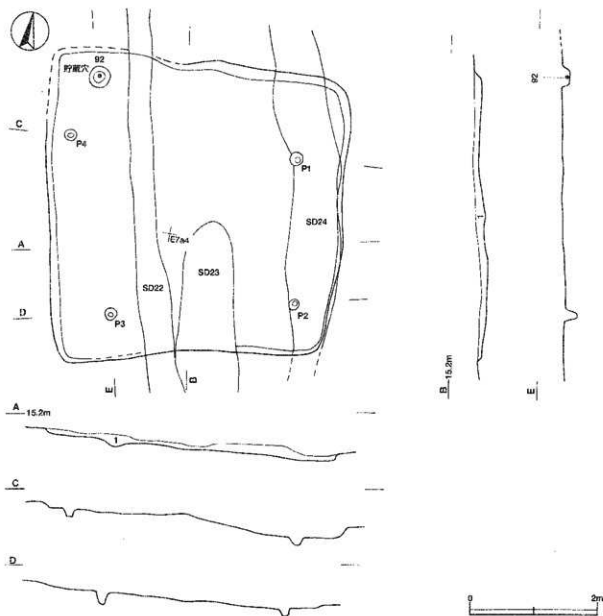
覆土 耕作による削平のため確認できた覆土は最下層の1層である。

土層構成

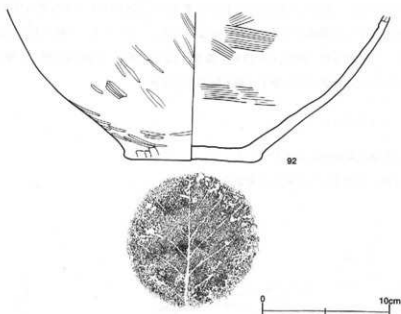
- 1 褐色 コームブロック中量、炭化粒子・砂粒微量

遺物出土状況 92が貯蔵穴底面から出土している。

所見 本跡の時期は出土土器から5世紀代と考えられる。



第42図 第36号住居跡実測図



第43図 第36号住居跡出土遺物実測図

第36号住居跡出土遺物観察表

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
92	土	土	—	(11.7)	10.9	長石	にぶい赤褐色	普通	外壁片断へ付着した内面ハシ調整	貯蔵穴底面	10%

#### 第49号住居跡 (第44・45図)

**位置** 調査区東部、D7b0区に立地し、南には第21号住居跡が位置している。

**重複関係** 中央部から南西部を第47号住居跡に掘り込まれ、北西部で擾乱を受けている。

**規模と形状** 耕作による削平及び擾乱と第47号住居跡に掘り込まれているため全体を把握することはできないが、確認された長軸は5.90m、短軸は5.40mで、形状は方形または長方形と考えられる。主軸はN-13°-Wで、壁高は4~6cmであり、各壁はやや外傾していたと考えられる。

**床** ほぼ平坦で、やや硬く、壁溝は確認されていない。

**炉** P1の西に1か所付設され、長径70cm、短径47cmの楕円形の地床炉であり、皿状に5cmほど掘り窪められている。

##### 炉土層解説

- |   |        |                  |   |    |                  |
|---|--------|------------------|---|----|------------------|
| 1 | にぶい赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量 | 3 | 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子少量 |
| 2 | 暗赤褐色   | ロームブロック・焼土ブロック多量 | 4 | 褐色 | ロームブロック中量        |

**ピット** 4か所。P1・2は支柱穴で、深さは58~60cmである。P3・4は性格不明である。

**貯蔵穴** 南東コーナーに付設され、径60cmの円形で、深さは83cmである。底面は平坦で、壁は外傾している。

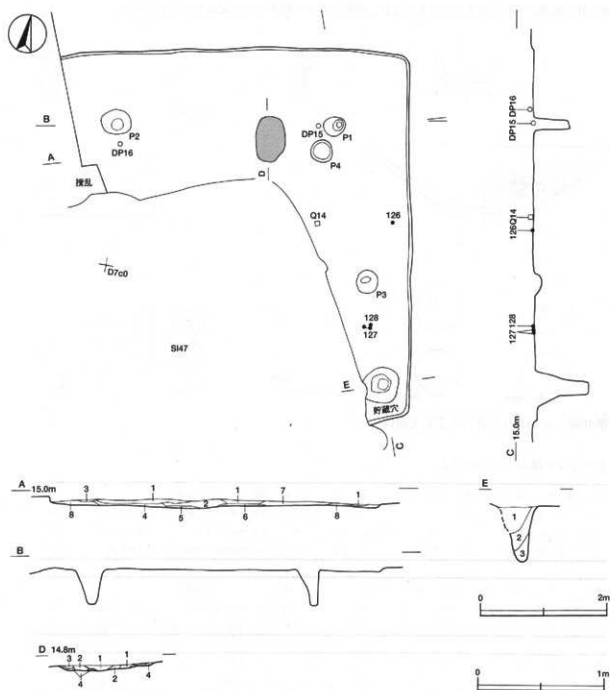
##### 貯蔵穴土層解説

- |   |     |                   |   |     |           |
|---|-----|-------------------|---|-----|-----------|
| 1 | 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量   | 3 | 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 | 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化物粒子少量 |   |     |           |

覆土 8層に分層され、ロームブロックを比較的多く含み、不自然な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

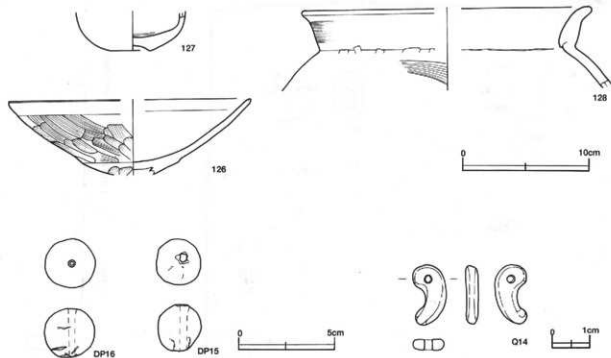
- |       |                   |       |                          |
|-------|-------------------|-------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量、ロームブロック少量 | 5 黒褐色 | ローム粒子多量、ロームブロック中量        |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量         | 6 黒褐色 | ローム粒子・焼土ブロック中量、ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子多量、ロームブロック中量 | 7 黒褐色 | ローム粒子多量、ロームブロック中量        |
| 4 褐色  | ロームブロック多量         | 8 暗褐色 | ロームブロック中量                |



第44図 第49号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片118点（高坏11、器台1、埴5、甕101）、須恵器片6点（坏4、甕2）、土製品2点（球状土錘）、石製模造品1点（勾玉）が出土し、北東コーナー床面には、炭化材が出土している。覆土中から出土した遺物のほとんどが細片で器種を明確にすることができないが、図示した遺物は床面からの出土である。126～128は東壁際から逆位の状態で出土し、DP16はP2の南側、DP15はP1の西側、Q14はP4の南側からそれぞれ出土している。また、DP15・16の球状土錘の孔には擦痕が確認できる。

所見 本跡は、石製模造品（勾玉）が出土しているが、住居内での祭祀行為の有無については不明である。本跡は住居廃絶に当たり焼失したと想定され、時期は出土土器から5世紀前半と考えられる。



第45図 第49号住居跡出土遺物実測図

第49号住居跡出土遺物観察表

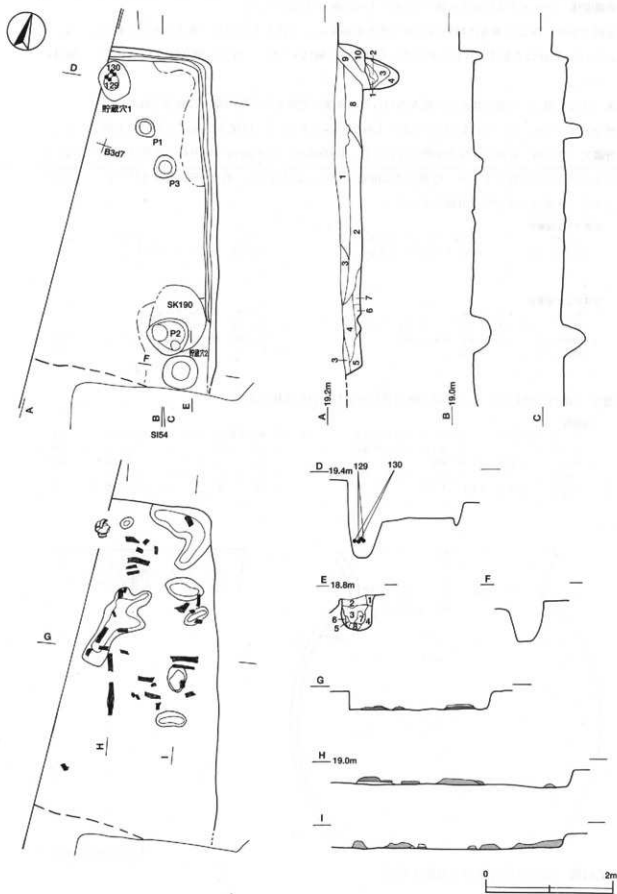
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
126	土師器	高坏	19.0	5.80	—	長石	にぶい橙	普通	坏部外面へハ目調整、内面ナテ	東壁際床面	50%
127	土師器	埴	—	3.1	3.0	長石・石英	橙	普通	体部内・外面ナテ	東壁際床面	10%
128	土師器	甕	22.9	6.50	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面へハ目調整、内面ナテ	東壁際床面	5%

番号	器種	径	厚さ	孔径	長さ	胎土	色調	手法の特徴	出土位置	備考
DP15	球状土錘	2.4	2.4	0.4	11.5	長石	にぶい黄橙	ナテ、内面穿孔、擦痕無し	P1西側床面	PL35
DP16	球状土錘	2.7	2.5	0.3	14.4	長石	灰黄緑	ナテ、片面穿孔、ヘラ当て痕、擦痕無し	P2南側床面	PL35

番号	器種	幅	長さ	厚さ	高さ	材質	特徴	出土位置	備考
Q14	勾玉	0.79	1.49	0.35	0.57	滑石	孔径0.2、孔部周辺内面研磨	P4南側床面	PL36

第51号住居跡（第46・47図）

位置 調査区西部北側、B3d7区の緩斜面部に立地し、東には第52号住居跡が位置している。



第46図 第51号住居跡実測図

**重複関係** 南東部を第54号住居跡と第190号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 西部が調査区域外のため全体を把握することはできないが、確認された長軸は5.27m、短軸は2.35mで、形状は方形または長方形と考えられる。主軸はN-20°-Wで、壁高は22~30cmで、各壁は直立している。

**床** ほほ平坦で、床面全体がよく踏み固められ、壁溝が北壁から東壁の壁下に確認された。

**ピット** 3か所。P1・2は主柱穴で深さは30~39cmである。P3は深さ15cmで、性格は不明である。

**貯蔵穴** 2か所。貯蔵穴1は北壁際に付設され、長径64cm、短径50cmの楕円形で深さは56cmである。底面は皿状を呈し壁は外傾している。貯蔵穴2は南東コーナーに付設され、直径が52cmの円形を呈し、深さは50cmである。底面は平坦で壁は外傾している。

**貯蔵穴1土層解説**

- |        |                       |       |                |
|--------|-----------------------|-------|----------------|
| 1 暗赤褐色 | ロームブロック、焼土ブロック・炭化粒子少量 | 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色  | 焼土ブロック中量、ロームブロック少量    | 4 暗褐色 | ロームブロック少量      |

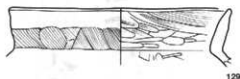
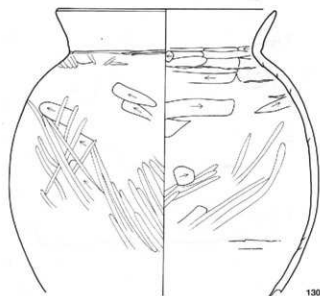
**貯蔵穴2土層解説**

- |       |                     |        |                       |
|-------|---------------------|--------|-----------------------|
| 1 褐色  | ロームブロック中量           | 5 明褐色  | ローム粒子中量               |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 褐色   | ロームブロック少量             |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量    | 7 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 4 明褐色 | ロームブロック中量           | 8 褐色   | ローム粒子中量               |

**覆土** 10層に分層され、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

**土層解説**

- |       |                         |        |                       |
|-------|-------------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒色  | 炭化物少量、ロームブロック・焼土粒子微量    | 6 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、炭化材中量、ローム粒子微量  |
| 2 褐色  | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量    | 7 褐色   | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化材微量  |
| 3 褐色  | ローム粒子・焼土粒子微量            | 8 褐色   | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子・砂粒微量 | 9 明褐色  | ロームブロック少量             |
| 5 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量            | 10 褐色  | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化材微量  |



第47図 第51号住居跡出土遺物実測図

**遺物出土状況** 土師器片101点(坏4, 碗3, 高坏1, 器台1, 埴8, 甕84), 縄文土器片4点が出土している。129・130は貯蔵穴1の覆土中層から出土し, その他の土師器片, 縄文土器片は覆土下層から中層にかけて出土している。また, 本跡の北壁から中央部の床面には多量の炭化材が出土した。出土した炭化材は丸材, 角材等で, 上層構造構築のために使用されていた材木と考えられる。

**所見** 本跡は全体の形状が不明確で, 時期判定資料の出土も少ないが, 貯蔵穴1より出土した土器から, 時期は5世紀前半と考えられる。また, 本跡に伴う遺物は少なく, 炭化材及び焼土が床面より出土しているため住居廃絶直後に焼失したと考えられる。

第51号住居跡出土遺物観察表

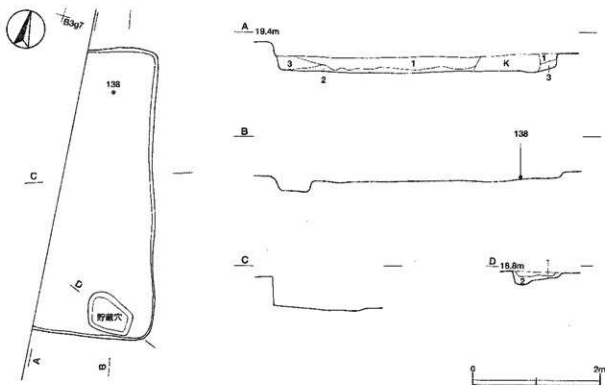
番号	種別	器種	口径	器高	口径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
129	土師器	片	17.5	(4.6)		長石	橙	普通	口縁部の内面	貯蔵穴中層	3%
130	土師器	片	17.2	(2.27)		長石・玄部	にじい橙	普通	口縁部の内面・中層の内面	貯蔵穴中層	30%, PL.36

第53号住居跡 (第48・49区)

**位置** 調査区西部北側, B3g7区の緩斜面部に立地し, 南には第56号住居跡が位置している。

**規模と形状** 西部が調査区域外のため全体を把握することはできないが, 確認された長軸は4.62m, 短軸は1.84mで, 形状は方形または長方形と考えられ, 主軸はN-15°-Wである。壁高は4~16cmで, 各壁はやや外傾している。

**床** ロームブロックで構築され, やや縮まりがあるものの全体的に凹凸がある。



第48図 第53号住居跡実測図

**貯蔵穴** 南東コーナーに付設され、長径54cm、短径52cmの不定形で深さは25cmである。底面は平坦で壁は外傾している。

**貯蔵穴土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量  
2 暗褐色 ロームブロック中量

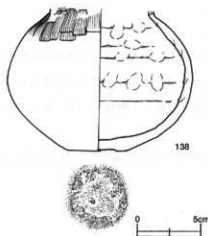
**覆土** 3層に分層される。第1・3層はレンズ状の堆積状況を示した自然堆積で、第2層はロームブロックを比較的多く含み、埋め戻された堆積状況を示した人為堆積である。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子少量  
2 暗褐色 ローム粒子中量  
3 黒褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 土師器片44点（高坏1，埴31，甕12），は覆土下層から出土しており、そのほとんどが細片である。138は北壁寄りの床面から正位の状態で出土している。

**所見** 本跡の時期は、出土した土器から5世紀前半と考えられる。



第49図 第53号住居跡出土遺物実測図

第53号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
138	土師器	埴	—	(11.2)	4.6	長石・石英	にぶい赤褐	普通	北壁寄り床面	北壁寄り床面	80%

第60号住居跡（第50～52図）

**位置** 調査区西部，C3b8区の緩やかに緩斜面部に立地し，南東には第63号住居跡が位置している。

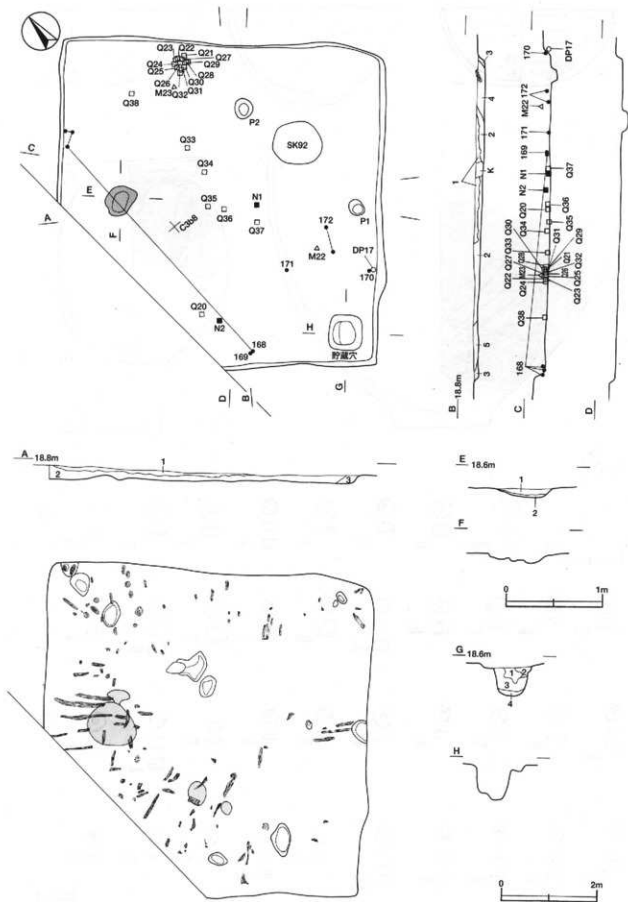
**重複関係** 南東部を第92号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 西部が調査区域外のため全体の形状を明確にすることはできないが，長軸6.86m，短軸6.82mの方形と考えられる。主軸はN-44°-Wで，壁高は12～20cmで，各壁は外傾している。

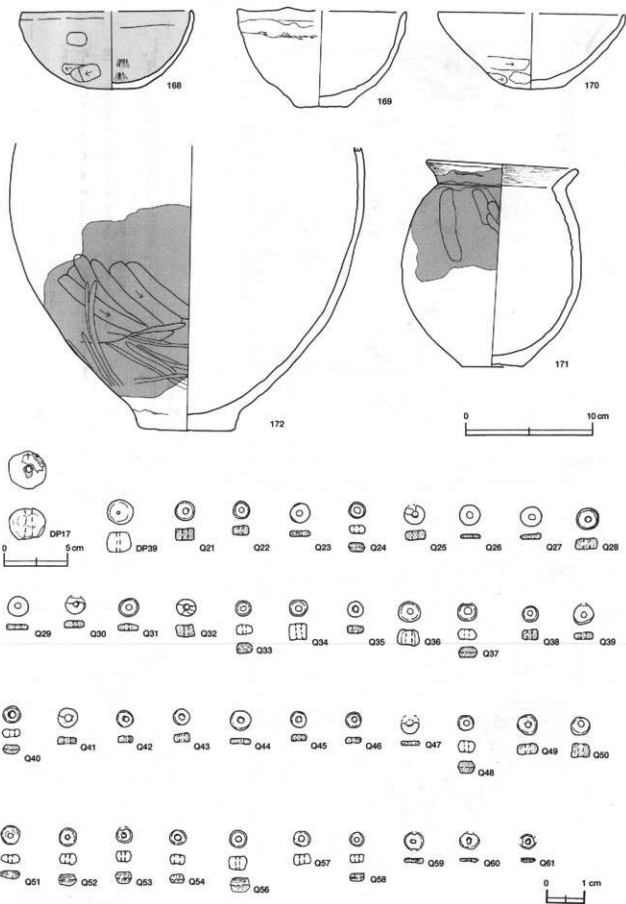
**床** ほは平坦で，床面はロームブロックで構築され，やや締まりがある。

**炉** 中央部から北西に付設され，長径63cm，短径34cmの不定形で8cmほど掘り窪められ，皿状を呈している。

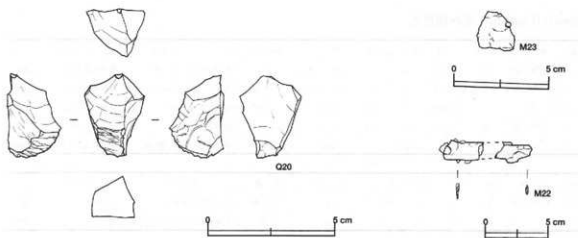




第50图 第60号住居跡実測图



第51图 第60号住居跡出土物実測图(1)



第52図 第60号住居跡出土遺物実測図(2)

炉土層解説

- 1 赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量      2 明褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量

ピット 2か所。P1は深さは15cmで南東壁中央部に位置し、出入口施設に伴うピットと考えられる。P2は深さは17cmで性格は不明であり、他のピットは確認されなかった。

貯蔵穴 南コーナーに付設され、長軸65cm、短軸64cmの方形を呈し、深さは66cmである。北西壁側の底面は10cmほどの高まりがあり、壁は外傾している。

貯蔵穴土層解説

- 1 明褐色 ローム粒子中量, 炭化物少量      3 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量  
2 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量      4 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土ブロック微量

覆土 5層に分層され、第1層は腐植土を含む自然堆積で、第2～5層はロームブロック、焼土粒子、炭化物を多く含むため焼失時に堆積した層で、火災に伴う消火作業、または屋根部に土を盛る習慣があったことが考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量      4 明褐色 ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化材少量  
2 にぶい赤褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化材少量      5 明褐色 ローム粒子中量, 炭化物少量, 焼土粒子・炭化材微量  
3 明赤褐色 ロームブロック・焼土粒子中量, 炭化物微量

遺物出土状況 土師器片516点(坏5, 椀14, 高坏23, 甕474), 土師質土器片18点, 土製品2点(小玉1, 土玉1), 石製模造品39点(白玉), ガラス製品1点(ガラス玉), 鉄製品2点(手鎌1, 不明1), 炭化物4点(種子2, 米2), 炭化材が出土している。168～170は北西壁から南西壁の壁際から出土, 171・172は中央部から南東壁寄りの床面から覆土下層にかけて出土している。DP17は170とともに南東壁際から出土している。Q21～32は北東壁際中央部の床面にまとまって出土し, Q33・35～38・34(ガラス玉)は床面全体から散在した状態で出土している。N1は中央部床面, N2は覆土下層からの出土である。M22・23は覆土上層からの出土で後世の混入である。

所見 本跡から出土した坏, 椀類は北西壁, 南西壁, 南東壁と壁際に限定され, 北東壁からは土器が出土せず白玉がまとまって12点出土し, 中央部床面からは白玉が散在して出土するという意図的な出土形態がみられ, 住居廃絶時に祭祀的な行為が行われた可能性が考えられる。また, 本跡は炭化材が床面から多量に出土しているため, 住居廃絶と同時に焼失したと考えられる。時期は, 出土土器から5世紀後半と考えられる。

第60号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
168	土	部 罎	13.31	6.2		長石・石英	赤	普通	底面の隅丸みあり	西北隅部床面	50%、PL25
169	土	部 罎	13.4	7.6	4.1	長石・石英	にんべい型	普通	底面の隅丸みあり	南西隅部床面	50%、PL25
170	土	部 罎	14.81	6.0	5.0	石英	にんべい型	普通	底面の隅丸みあり	南西隅部土層	50%
171	土	部 罎	11.8	16.4	4.8	石英	にんべい型	普通	底面の隅丸みあり	中央部床面	50%、PL25
172	土	部 罎	—	(22.6)	7.6	長石	浅黄緑	普通	底面の隅丸みあり	南東壁寄り床面	外面保存率40%

番号	器種	径	厚さ	孔径	長さ	胎土	色調	手法の特徴	出土位置	備考
DP17	環状土器	2.9	2.5	0.7	(19.5)	長石	にんべい型	ナメ孔周辺に刺状あり	北東壁際下層	90%
DP39	小 玉	0.7	0.5	0.1	0.3	長石	黒濁	ナメ孔周囲が平坦な太鼓状	掘上中	90%、PL36

番号	器種	径	厚さ	孔径	長さ	材質	特 徴	出土位置	備考
Q21	白 玉	0.46	0.96	0.15	0.18	滑石	側面が直線的な円筒状、片面穿孔	北東隅部床面	
Q22	白 玉	0.10	0.40	0.15	0.06	滑石	側面が直線的な円筒状、片面穿孔	北東隅部床面	
Q23	白 玉	0.48	0.13	0.13	0.01	滑石	厚みのほとんどない円盤状、片面穿孔	北東隅部床面	
Q24	白 玉	0.39	0.22	0.15	0.05	滑石	側面に棱をもつ筒筒玉状、片面穿孔	北東隅部床面	
Q25	白 玉	0.51	0.24	0.13	(0.06)	滑石	一部欠損、側面が直線的な円筒状、片面穿孔	北東隅部床面	
Q26	白 玉	0.48	0.09	0.13	0.04	滑石	厚みのほとんどない円盤状、片面穿孔	北東隅部床面	PL37
Q27	白 玉	0.30	0.13	0.15	0.05	滑石	厚みのほとんどない円盤状、片面穿孔	北東隅部床面	
Q28	白 玉	0.51	0.20	0.12	0.12	滑石	側面が若干膨らむ円筒状、片面穿孔	北東隅部床面	PL37
Q29	白 玉	0.40	0.13	0.12	0.06	滑石	厚みのほとんどない円盤状、片面穿孔	北東隅部床面	PL37
Q30	白 玉	0.18	0.13	0.12	(0.04)	滑石	厚みのほとんどない円盤状、片面穿孔	北東隅部床面	PL37
Q31	白 玉	0.46	0.15	0.12	0.04	滑石	一部欠損、孔周囲が若干膨らむ、片面穿孔	北東隅部床面	PL37
Q32	白 玉	0.43	0.31	0.13	0.09	滑石	一部に縦行痕あり、一部自然面	北東隅部床面	PL37
Q33	白 玉	0.36	0.28	0.11	0.04	滑石	側面に棱をもつ筒筒玉状、片面穿孔	中央部床面	PL37
Q34	白 玉	0.44	0.36	0.17	0.18	ガラス	緑青色を呈する、側面が直線的な円筒状	中央部床面	PL37
Q35	白 玉	0.37	0.18	0.14	0.03	滑石	厚みのほとんどない円盤状、片面穿孔	中央部床面	PL37
Q36	白 玉	0.51	0.28	0.12	0.18	滑石	側面が膨らむ太鼓状、片面穿孔	中央部床面	PL37
Q37	白 玉	0.46	0.26	0.19	0.07	滑石	側面に棱をもつ筒筒玉状、片面穿孔	中央部床面	PL37
Q38	白 玉	0.37	0.24	0.13	0.05	滑石	側面が直線的な円筒状、片面穿孔	北東隅部床面	PL37
Q39	白 玉	0.48	0.16	0.13	(0.06)	滑石	一部欠損、厚みのほとんどない円盤状、片面穿孔	PL37	
Q40	白 玉	0.42	0.20	0.18	0.06	滑石	側面が膨らむ太鼓状、片面穿孔	PL37	
Q41	白 玉	0.18	0.16	0.13	0.03	滑石	厚みのほとんどない円盤状、片面穿孔	PL37	
Q42	白 玉	0.29	0.17	0.13	0.04	滑石	厚みのほとんどない円盤状、片面穿孔	PL37	
Q43	白 玉	0.38	0.20	0.13	0.05	滑石	側面が直線的な円筒状、片面穿孔	PL37	
Q44	白 玉	0.48	0.12	0.13	0.04	滑石	厚みのほとんどない円盤状、片面穿孔	PL37	
Q45	白 玉	0.38	0.17	0.13	0.05	滑石	側面が直線的な円筒状、片面穿孔	PL37	
Q46	白 玉	0.39	0.18	0.15	0.03	滑石	側面が膨らむ太鼓状、片面穿孔	PL37	
Q47	白 玉	0.48	0.10	—	(0.01)	滑石	一部欠損、厚みのほとんどない円盤状、片面穿孔	PL37	
Q48	白 玉	0.29	0.26	0.10	0.07	滑石	側面に棱をもつ筒筒玉状、片面穿孔	PL37	
Q49	白 玉	0.50	0.24	0.13	0.11	滑石	側面が膨らむ太鼓状、片面穿孔	PL37	
Q50	白 玉	0.46	0.33	0.14	0.10	滑石	側面が直線的な円筒状、片面穿孔	PL37	
Q51	白 玉	0.50	0.20	0.10	0.07	滑石	側面が直線的な円筒状、片面穿孔	PL37	
Q52	白 玉	0.45	0.30	0.15	0.11	滑石	側面に棱をもつ筒筒玉状、片面穿孔	PL37	
Q53	白 玉	0.40	0.30	0.10	(0.08)	滑石	側面が膨らむ太鼓状、片面穿孔	PL37	
Q54	白 玉	0.40	0.25	0.15	0.06	滑石	側面が膨らむ太鼓状、片面穿孔	PL37	
Q56	白 玉	0.45	0.35	0.10	0.11	滑石	側面に棱をもつ筒筒玉状、片面穿孔	PL37	

番号	器種	径	高さ	厚さ	重さ	材質	下法の特徴	出土位置	備考	
Q57	白	玉	0.45	0.30	0.15	0.07	滑石	側面が直線的な円筒状片面穿孔		P137
Q58	白	玉	0.40	0.20	0.10	0.05	滑石	側面が直線的な円筒状片面穿孔		
Q39	白	玉	0.30	0.10	0.10	(0.04)	滑石	一部欠損のみのほとんどない円筒状片面穿孔		
Q60	白	玉	0.50	0.10	0.15	(0.03)	滑石	一部欠損のみのほとんどない円筒状片面穿孔		
Q61	白	玉	0.40	0.10	0.10	(0.02)	滑石	一部欠損のみのほとんどない円筒状片面穿孔		

番号	器種	径	長さ	厚さ	重さ	材質	特徴	出土位置	備考	
Q20	割	片	1.55	2.15	1.45	2.68	緑色凝灰岩	器底に敲打痕有り、器底表面	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	材質	特徴	出土位置	備考	
M27	手	鉢	9	1.4	0.1	(4.8)	灰	対部一部欠損	覆土上層	90%
M25	不	明	(20)	1.9	—	(2.06)	灰	劣化が激しく形状不明	覆土上層	90%

### 第61号住居跡（第53図）

位置 調査区西部、C3c9区の緩斜面部に立地し、西には第60号住居跡が位置している。

重複関係 中央部から南西部を第35号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.53m、短軸3.34mの方形で、主軸はN-48°-Eである。壁高は8～14cmで、各壁は外傾している。

床 ほぼ平坦で、北部がよく踏み固められている。

炉 中央部から南東に付設され、長径88cm、短径32cmの不定形で、炉体面は6～10cmほど掘り窪められて皿状を呈している。

#### 土層解説

- 1 明赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量      2 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

ピット 2か所。P1・2は深さ23～27cmで支柱穴と考えられるが、対応する柱穴は確認されていない。

貯蔵穴 北コーナーに付設され、長径56cm、短径32cmの楕円形で、深さは30cmである。底面は平坦で、壁は外傾している。

#### 貯蔵穴土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量      2 明褐色 ローム粒子中量

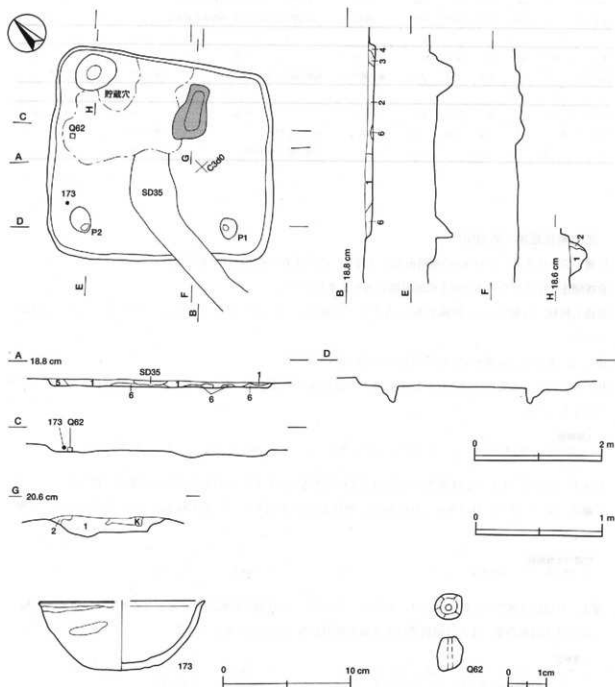
覆土 6層に分層され、覆土中にロームブロック、焼土、炭化物を比較的多く含むため焼失時に堆積した層で、火災に伴う消火作業、または屋根部に上を流る習慣があったことが考えられる。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、炭化物微量      4 明褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量  
2 にぶい赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量      5 暗褐色 ローム粒子少量  
3 暗褐色 ローム粒子・炭化物少量      6 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

遺物出土状況 土師器片217点（坏50、高坏14、甕153）、石製品1点（白玉）が出土している。173・Q62は北西噴寄りの床面から覆土下層にかけて出土している。その他の土師器片は後世の混入である。

所見 本跡は、覆土中に焼土や炭化物を含むため焼失住居と考えられ、同時期と考えられる住居跡の中では小形であり、確認された硬化面の位置から出入口施設は北西壁もしくは北東壁側に位置していたと考えられる。第60・63号住居跡に付随していた住居の可能性が考えられ、時期は出土土器から5世紀後半と考えられる。



第53図 第61号住居跡・出土遺物実測図

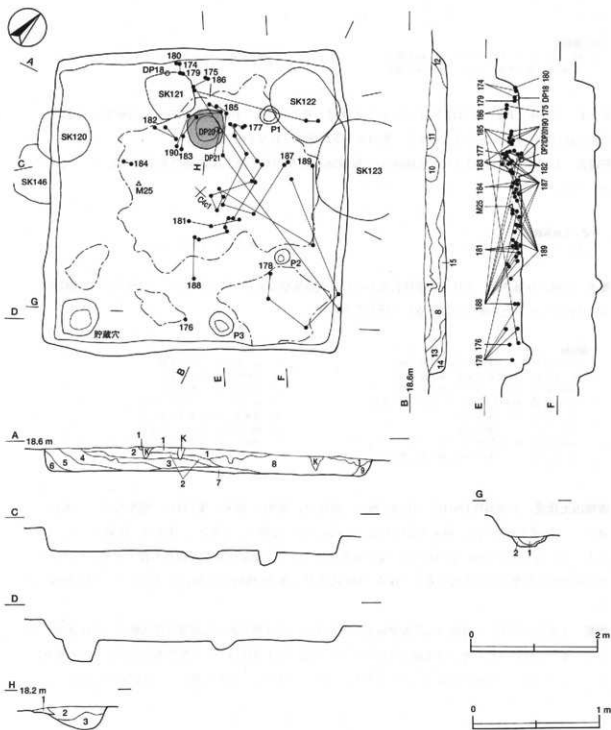
第61号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
173	土器	杯	13.0	5.5	—	赤色黏土	に濃い焼	普通	体部外面へウ張り内面ナシ	北西壁寄り下層	50%, PL25

番号	器種	径	厚さ	孔径	重さ	材質	特徴	出土位置	備考
Q62	白 玉	0.9	0.7	0.1	0.6	滑石	切子玉状片無穿孔	北西側断层面	PL37

### 第63号住居跡 (第54～56図)

位置 調査区西部, C 3 c0区の緩やかに緩斜面部に立地し, 南西には第61号住居跡が位置している。



第54図 第63号住居跡実測図

**重複関係** 南西部で第146号土坑を掘り込み、北東部から南西部にかけて第120・121・122・123号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸4.82m、短軸4.75mの方形で、主軸はN-42°-Wである。壁高は26～38cmで、各壁は外傾している。

**床** ほぼ平坦で、床面は全体がよく踏み固められている。

**炉** 中央部から北西に付設され、長径63cm、短径58cmの楕円形で、炉床面は24cmほど掘り窪められ、外傾している。

**炉土層解説**

- |       |                  |        |                  |
|-------|------------------|--------|------------------|
| 1 橙 色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 3 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 赤褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 |        |                  |

**ピット** 3か所。P1・2は深さ11～21cmで主柱穴と考えられる。P3は深さ17cmで南東壁中央部に位置し、出入口施設に伴うピットと考えられる。他のピットは確認されなかった。

**貯蔵穴** 南コーナーに付設され、長軸68cm、短軸58cmの楕円形で深さは38cmである。底面は平坦で、壁は外傾している。

**貯蔵穴土層解説**

- |       |           |       |           |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量 | 2 暗褐色 | ロームブロック少量 |
|-------|-----------|-------|-----------|

**覆土** 15層に分層され、不自然な堆積状況を示した人為堆積である。また、第4・7層は焼土を比較的多く含み、床面上であるため焼失時に堆積した層と考えられる。

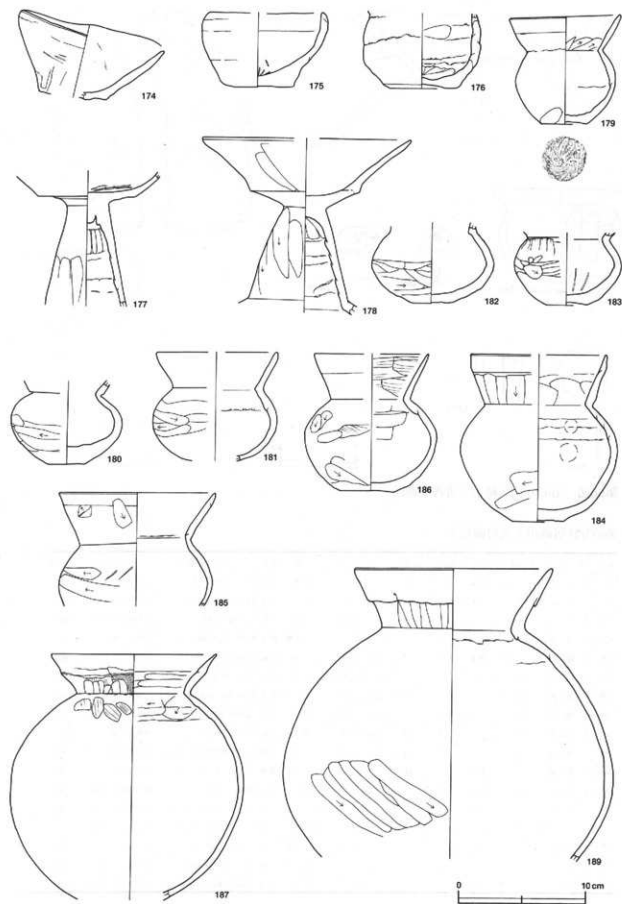
**土層解説**

- |         |                  |        |                |
|---------|------------------|--------|----------------|
| 1 黄褐色   | ローム粒子少量、焼土粒子微量   | 9 褐色   | ローム粒子少量        |
| 2 暗褐色   | ローム粒子少量、焼土粒子微量   | 10 暗褐色 | ローム粒子少量        |
| 3 焼褐色   | ロームブロック・焼土粒子微量   | 11 明褐色 | ローム粒子中量        |
| 4 暗赤褐色  | 焼土粒子中量、ロームブロック微量 | 12 褐色  | ロームブロック少量      |
| 5 暗褐色   | ローム粒子少量          | 13 暗褐色 | ローム粒子少量        |
| 6 褐色    | ローム粒子少量          | 14 褐色  | ロームブロック少量      |
| 7 産暗赤褐色 | 焼土粒子少量、ロームブロック微量 | 15 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 8 明褐色   | ローム粒子中量、焼土粒子微量   |        |                |

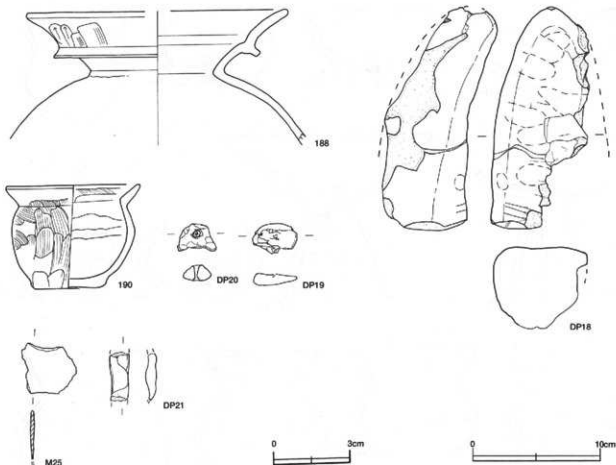
**遺物出土状況** 土師器片1,964点(坏26, 椀2, 高坏91, 埴396, 甗6, 甕1443)、須恵器5点(坏1, 壺1, 甗3)、土師質土器片3点、縄文土器片1点、土製品3点(支脚1, 不明2)、礫1点、鉄製品1点(不明)が出土している。174～190, DP18～21, 及び多量に出土した土師器片は、床面から覆土上層にかけて出土し、その状況から投棄されたものと考えられる。M25などは、覆土中層から上層にかけて出土し、後世の混入である。

**所見** 本跡から出土した遺物は人為堆積層からの出土で、同時期である周辺部の住居跡からの投棄場と考えられる。また、確認された焼土は床面に検出され、その他の出土遺物はその上部であるため、住居の廃棄時に焼失させ、その後に土器類が投棄されたものと考えられる。時期は、出土土器から5世紀前半である。





第55图 第63号住居跡出土遺物実測図(1)



第56図 第63号住居跡出土遺物実測図(2)

第63号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 澤	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
174	土 師 器	手 押	11.3	6.6	5.4	長石	にぶい澄	不良	断面部への調整欠け有り	北西壁際下層	65%、PL25
175	土 師 器	椀	[ 8.8]	5.9	5.6	長石・石英	澄	不良	断面部への調整欠け有り	北西壁際中層	55%、PL25
176	土 師 器	椀	—	(6.0)	5.9	長石・石英	にぶい澄	普通	断面部への調整欠け有り	南東壁際中層	40%、PL25
177	土 師 器	高 杯	—	(10.8)	—	長石	にぶい黄澄	普通	断面部への調整欠け有り	中央部上層	30%
178	土 師 器	高 杯	[16.4]	(13.9)	—	長石・石英	にぶい澄	普通	断面部への調整欠け有り	東コーナー下層	60%
179	土 師 器	埴	8.7	8.7	3.5	長石・赤色粒子	にぶい澄	普通	断面部への調整欠け有り	北西壁際中層	95%、PL25
180	土 師 器	埴	—	(6.7)	2.8	長石・石英	澄	普通	断面部への調整欠け有り	北西壁際床面	80%、PL25
181	土 師 器	埴	[9.5]	(8.6)	—	長石・石英	澄	普通	断面部への調整欠け有り	中央部下層～床面	40%
182	土 師 器	埴	—	(6.5)	2.9	長石・石英	澄	普通	断面部への調整欠け有り	中央部上層	40%、PL26
183	土 師 器	埴	—	(5.7)	3.1	長石・石英	にぶい澄	普通	断面部への調整欠け有り	中央部上層	40%
184	土 師 器	埴	[10.6]	13.2	4.0	長石	にぶい濁	普通	断面部への調整欠け有り	中央部中層	50%
185	土 師 器	埴	12.3	(9.0)	—	長石	澄	普通	断面部への調整欠け有り	覆土中層～床面	30%
186	土 師 器	埴	[10.0]	10.9	4.4	砂粒	にぶい濁	普通	断面部への調整欠け有り	北西壁際上層	40%
187	土 師 器	甕	13.0	(19.5)	—	砂粒	明赤濁	普通	断面部への調整欠け有り	中央部上～中層	50%、PL26
188	土 師 器	椀	[20.4]	(10.7)	—	長石・石英	にぶい黄澄	普通	断面部への調整欠け有り	覆土上～中層	20%、PL26
189	土 師 器	甕	15.4	(23.1)	—	長石	にぶい黄澄	普通	断面部への調整欠け有り	覆土中～下層	30%、PL25
190	土 師 器	小 形 甕	10.3	8.2	5.5	砂粒	明赤濁	普通	断面部への調整欠け有り	中央部下層～床面	80%、PL25

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	胎土	色調	手法の特徴	出土位置	備考
DF18	杯	17.5	(7.8)	(6.5)	(6.30)	粘土・砂粒	明赤釉	器面・表面装飾調整不明	北西壁寄り下層	60%
DF19	不明	3.5	2.5	1.1	(6.8)	長石・砂粒	橙	表面中央部に黄褐色有り、一部欠損	覆土中	
DF20	不明	2.2	3.0	1.3	4.9	長石・砂粒	橙	径0.6の孔1つあり、断面穿孔状造出	炉床面	100%
DF21	不明	(2.0)	0.8	0.5	(0.6)	砂粒	浅黄橙	土下層部欠損	炉床面	

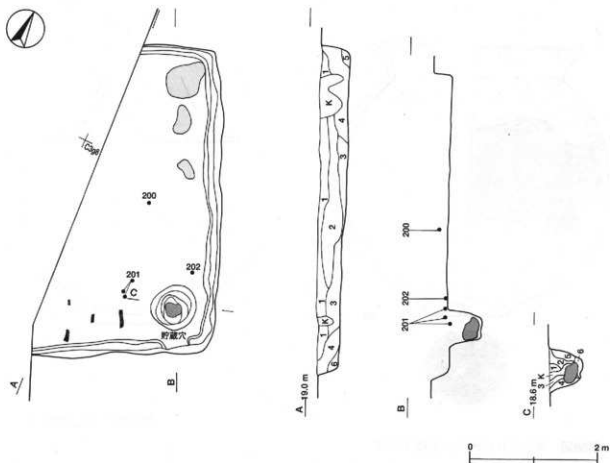
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	材質	特徴	出土位置	備考
M25	不明	(2.2)	(2.0)	0.2	(2.2)	鉄	錆化が激しく形状不明	覆土中層	

### 第71号住居跡 (第57・58図)

位置 調査区西部, C3g8区の平坦部に立地し, 北には第66号住居跡が位置している。

規模と形状 西部が調査区域外のため全体を把握することはできないが, 確認された長軸は4.90m, 短軸は2.87mで, 形状は方形または長方形と考えられ, 主軸はN-24°-Wである。壁高は22~30cmで, 各壁はやや外傾している。

床 ほぼ平坦で, やや締まりがある。調査部分では柱穴及び炉は確認されていない。また, 北東コーナー床面には焼土, 南壁寄りには炭化材が出土しており, 焼失住居と考えられる。



第57図 第71号住居跡実測図

**貯蔵穴** 南東コーナーに付設され、径72cmの円形で深さは54cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。また、覆土下層には粘土の塊が出土している。

**貯蔵穴土層解説**

- |       |               |       |                  |
|-------|---------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量       | 4 明褐色 | ローム粒子少量、炭化物微量    |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 5 淡黄色 | 粘土ブロック多量         |
| 3 明褐色 | ローム粒子中量       | 6 明褐色 | 粘土ブロック中量、ローム粒子少量 |

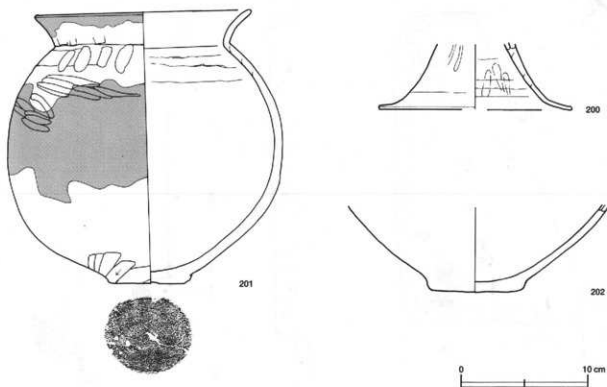
**覆土** 6層に分層され、不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

**土層解説**

- |        |                  |        |                  |
|--------|------------------|--------|------------------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子少量、焼土粒子微量   | 4 黒暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量   | 5 黒暗褐色 | ローム粒子少量          |
| 3 黒褐色  | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色  | ロームブロック中量        |

**遺物出土状況** 土師器片112点（高坏11，甕101），土師質土器7点，縄文土器片1点，炭化材が出土している。201は南壁寄りの床面から横位の状態で炭化材とともに、202は南東コーナー寄りの床面より出土している。200は覆土中層からの出土であり、その他の土師器片は覆土下層から中層にかけての出土である。

**所見** 本跡は、遺物が残された状態で焼土、炭化材が確認されているため住居廃絶前に焼失したもので、覆土の堆積状況から見ると、火災に伴う消化作業、または屋根部に土を盛る習慣があったことが考えられる。時期は出土土器から、5世紀前半と考えられる。



第58図 第71号住居跡出土遺物実測図

## 第71号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
200	十 師	器 高 杯	—	13.1	13.2	長石・スロリア	橙	普通	輪郭正十ヶ角状、底面形状不明	中央部中層	30%
201	七 師	器 葉	16.9	21.5	6.2	長石	浅黄橙	普通	自然器形	溝壑寄り床面	93%、PI.20
202	上 師	器 葉	—	6.8	7.2	石灰	橙	普通	焼のうら	南東コーナー床面	20%

## 第74号住居跡（第59・60号）

位置 調査区西部，C3j9区の平坦地に立地し，南東には第75号住居跡が位置している。

重複関係 中央部を第35号溝，西部を第46号溝にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.64m，短軸4.10mの長方形で，主軸はN-30°-Wである。壁高は8～14cmで，各壁はやや外傾している。

床 ほぼ平坦で，床面はロームブロックで構築され，やや締まりがある。

炉 中央部から南西に付設され，長径102cm，短径69cmの不定形で炉床面には凹みがあり，赤変している。

### 炉土層解説

- |                        |                        |
|------------------------|------------------------|
| 1 明褐色 ローム粒子中量，焼土粒子微量   | 3 赤褐色 焼上ブロック中量，ローム粒子微量 |
| 2 明褐色 ローム粒子中量，焼土ブロック微量 | 4 暗赤褐色 焼土ブロック少量        |

ピット 5か所。P1～4は深さ16～34cmで主柱穴である。P5は南壁側の貯蔵穴寄りに位置し，深さは29cmで出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 3か所。貯蔵穴1は南西コーナーに付設された長径88cm，短径80cmの楕円形で，深さは18cmである。底面は平坦で壁は外傾している。貯蔵穴2は南西壁寄りの中央部に付設された長径60cm，短径58cmの楕円形で，深さは46cmである。底面は平坦で壁はやや外傾している。貯蔵穴3は北東コーナーに付設された長径36cm，短径54cmの円形で深さは56cmである。底面は皿状を呈し，壁はやや外傾している。

### 貯蔵穴1土層解説

- |                        |                 |
|------------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子微量 | 4 明褐色 ローム粒子中量   |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量          | 5 明褐色 ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量        |                 |

### 貯蔵穴2土層解説

- |                        |                        |
|------------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量        |
| 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 焼土粒子少量，ローム粒子微量   |                        |

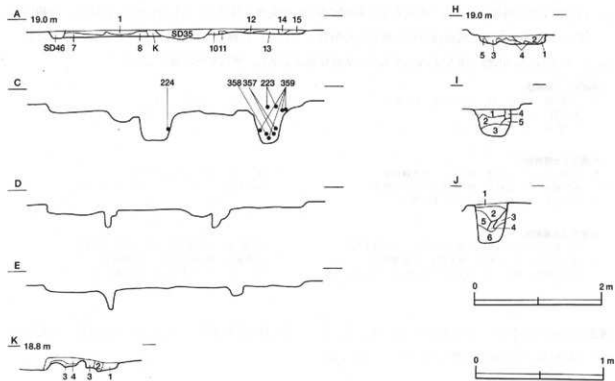
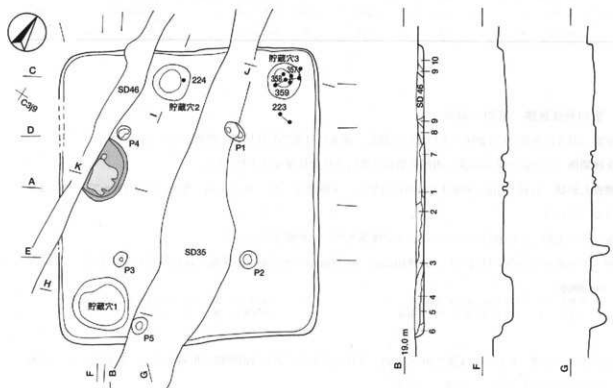
### 貯蔵穴3土層解説

- |                             |                          |
|-----------------------------|--------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量   | 4 暗褐色 炭化物中量，ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量      | 5 暗褐色 焼土粒子少量，炭化物微量       |
| 3 暗褐色 焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 ローム粒子少量，炭化物微量      |

覆土 15層に層別され，覆土中にロームブロック，焼土，炭化材を比較的多く含むため，火災に伴う消化作業，または根根部に土を盛る習慣があったことが考えられる。

土層解説

- |       |                   |       |                     |
|-------|-------------------|-------|---------------------|
| 1 赤黒色 | 焼土粒子少量, ロームブロック微量 | 4 褐色  | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量  | 5 褐色  | ローム粒子少量             |
| 3 褐色  | ロームブロック・炭化物少量     | 6 明褐色 | ローム粒子中量             |



第59図 第74号住居跡実測図

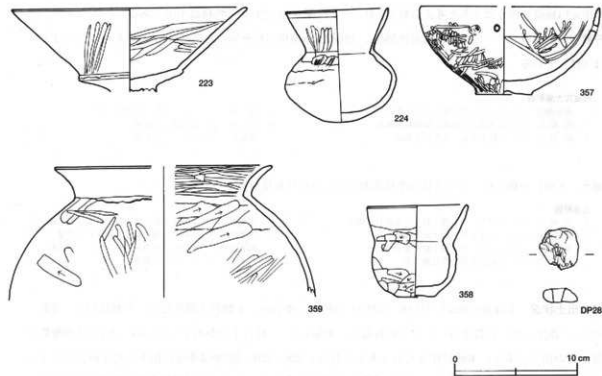
- 7 赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量  
 8 明褐色 ロームブロック中量  
 9 黒褐色 ローム粒子微量  
 10 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化材微量  
 11 明褐色 ロームブロック中量

- 12 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量  
 13 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量  
 14 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量  
 15 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化材微量

### 第60図 第74号住居跡出土遺物実測図

**遺物出土状況** 土師器片260点(坏11, 碗6, 高坏13, 埴8, 壺3, 甕219), 土師質土器片22点, 土製品2点(不明), 縄文土器片1点, 古銭1点, 炭化材が出土している。土師器片の多くは北東コーナー床面及び貯蔵穴3の覆土中から出土し, これらの土器は, 埴, 高坏等の供献土器と内・外面に磨きのある供膳土器, 煮炊土器である。また, 357の口縁部には孔径4.5mmの孔が穿孔されている。224は貯蔵穴2の覆土中層から正位の状態出土し, DP28など覆土中層からの出土品は後世の混入である。壁際には上屋構造に使用されたと考えられる丸太材などの炭化材が出土している。

**所見** 本跡から出土した土器からは, 特定された場所に同類土器を置くという当時の生活習慣を窺うことができる。また, これらの土器がその場所に置かれた状態で出土していることから, 住居廃絶前に焼失したと考えられる。時期は, 出土土器から5世紀前半と考えられる。



第60図 第74号住居跡出土遺物実測図

第74号住居跡出土遺物観察表

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
223	土師器	高坏	18.9	(6.9)	—	長石・石英	橙	普通	口縁部・外周部・底面磨き	北東隅寄り下層	30%
224	土師器	埴	8.5	9.3	—	長石・石英	橙	良	口縁部・外周部・底面磨き	貯蔵穴2中層	95%, PL27
357	土師器	碗	[14.5]	7.2	4.6	長石・砂粒	暗赤褐色	普通	口縁部・外周部・底面磨き	貯蔵穴3中層	45%, PL26
358	土師器	埴	8.0	7.4	3.0	砂粒・石英	に近い橙	普通	口縁部・外周部・底面磨き	貯蔵穴3中層	50%, PL27
359	土師器	甕	[17.4]	(10.7)	—	砂粒	橙	普通	口縁部・外周部・底面磨き	貯蔵穴3上〜下層	30%, PL27

番号	器種	長さ	幅	厚さ	素地	胎土	色調	装束	手法の特徴	出土位置	備考
DP28	木 刷	3.4	3.2	1.2	(10.3)	長石・伊粒	橙	漆塗	丸印0.35-1.65片面穿孔	象土中	土製品

### 第75号住居跡 (第61・62図)

位置 調査区西部，D4a2区の平坦部に立地し，南東には第77号住居跡が位置している。

重複関係 中央部を第94号土坑，東壁中央部を第98号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.35m，短軸5.14mの方形で，主軸はN-26°-Wである。壁高は18～30cmで，各壁は外傾している。

床 ほぼ平坦で，中央部から北東部にかけてよく踏み固められている。

炉 中央部から北西に付設され，長径46cm，短径32cmの楕円形を呈し，炉床面は4cmほど掘り窪められた皿状を呈している。

#### 伊土層解説

- 1 にふい褐色 ローム粒子中量，焼土粒子少量

ピット 9か所。P1～5は深さ33～68cmで主柱穴である。P6は南東壁寄りの中央部に位置し，深さは28cmで出入り施設に伴うピットと考えられる。P7～9は深さ12～21cmで性格は不明である。

貯蔵穴 南西コーナーに付設され長径58cm，短径53cmの楕円形を呈し，深さは65cmである。底面は平坦で壁は外傾している。

#### 貯蔵穴土層解説

- |       |                  |       |                |
|-------|------------------|-------|----------------|
| 1 赤褐色 | ロームブロック少量，炭化物微量  | 4 褐色  | ローム粒子少量，炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 | 5 褐色  | ロームブロック中量      |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量   | 6 暗褐色 | ロームブロック少量      |

覆土 8層に分層され，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

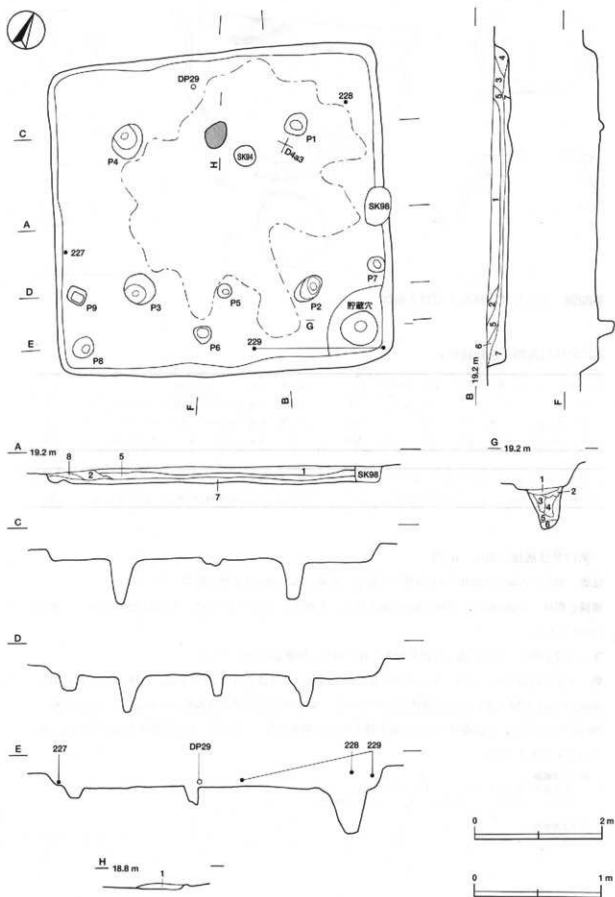
#### 土層解説

- |       |                     |       |                       |
|-------|---------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量   |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量      | 6 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量     |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量      | 7 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化物少量       | 8 黒褐色 | ロームブロック微量             |

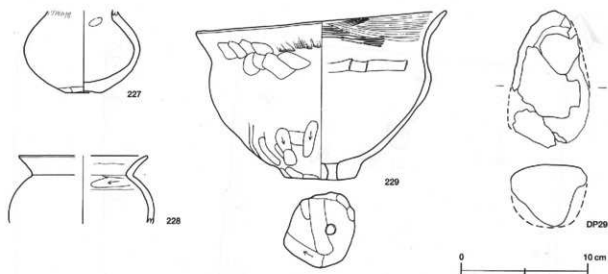
遺物出土状況 土師器片525点(環16，高環28，埴171，甕310)，土師質土器片22点，土製品10点(支脚5，不明5)，鉄滓1点，石器2点(ナイフ形石器1，黒曜石1)，軽石1点が出土している。227は南西壁際露土下層からの出土であり，本跡に伴うものと考えられる。228・229・DP29は多量に出土した土師器片とともに覆土中層から下層にかけて出土で，本跡の遺物と時期差がないことから，住居廃絶直後に投棄されたものと考えられる。その他の遺物は覆土上層からの出土であり，後世の混入である。

所見 本跡の時期は，出土土器から5世紀前半と考えられる。





第61图 第75号住居跡実測図



第62図 第75号住居跡出土遺物実測図

第75号住居跡出土遺物観察表

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
227	土師器	埴	—	(6.5)	3.0	砂粒	にぶい橙	普通	北東への傾斜、外縁部調整不明	南西壁際下層	50%
228	土師器	小形壺	10.0	(5.4)	—	砂粒	にぶい橙	普通	(土師器内不詳) 北東への傾斜	北東コーナー中層	10%
229	土師器	瓶	19.6	13.7	5.6	砂粒	橙	普通	非内内傾斜、北東への傾斜	南東部中～下層	90%、PL27

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
DP29	伊 器 台	(10.9)	(6.0)	4.9	(186)	砂粒	にぶい黒	良	表面磨き、不規則な角を削ぎ取った	北西壁寄り下層	65%

### 第77号住居跡 (第63～65図)

位置 調査区西部、D4d4区の平坦部に立地し、南東には第79号住居跡が位置している。

規模と形状 長軸5.83m、短軸5.28mの長方形で、主軸はN-13°-Wである。壁高は32～44cmで、各壁はやや外傾している。

床 ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められており、壁溝が周囲している。

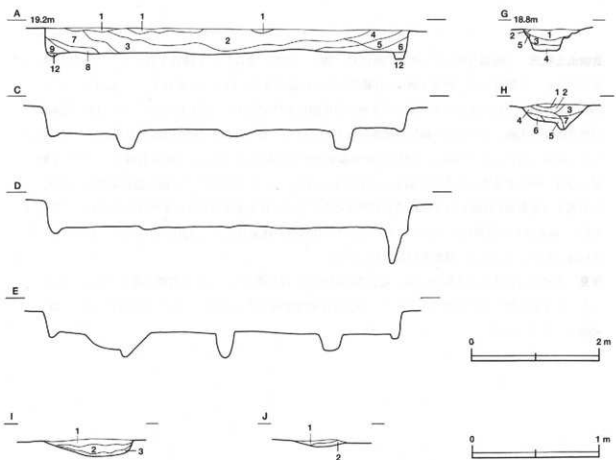
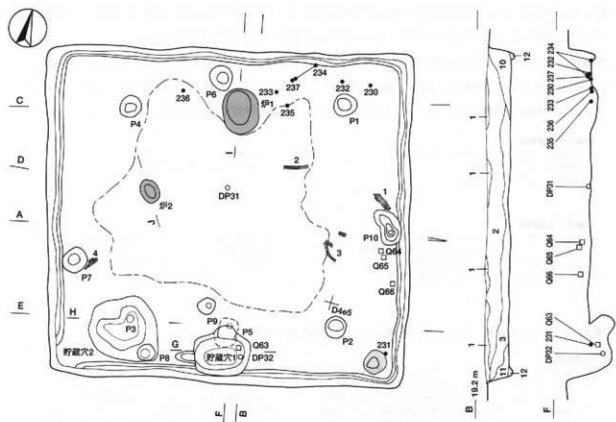
炉 2か所付設されている。炉1は中央部から北西寄りに付設された長径74cm、短径57cmの楕円形で、炉床面は24cmほど掘り窪められて皿状を呈している。炉2は中央部から南西寄りに付設された長径38cm、短径28cmの楕円形で、炉床面は7cmほど掘り窪められて皿状を呈している。主に使用されていたのは、規模などから炉1と考えられる。

#### 炉1土層解説

- |                               |                       |
|-------------------------------|-----------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化物微量     | 3 褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物微量 |                       |

#### 炉2土層解説

- |                     |                           |
|---------------------|---------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化物中量 | 2 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量 |
|---------------------|---------------------------|



第63图 第77号住居跡実測图

ピット 10か所。P1～4は深さ26～38cmで支柱穴である。P5は南壁寄りの中央部に位置し、深さは42cmで出入口施設に伴うピットと考えられる。P6～10は、深さ18～57cmで性格不明である。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は南壁中央部に付設され、長径86cm、短径66cmの楕円形を呈し、深さは38cmである。底面は平坦で壁は外傾し、出入口施設に伴うP5と接している。貯蔵穴2は南西コーナーに付設され、長径106cm、短径96cmの楕円形を呈し、深さは35cmである。底面は平坦で壁は外傾している。

#### 貯蔵穴1土層解説

- |                        |                 |
|------------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子微量          | 5 褐色 ロームブロック中量  |
| 3 暗褐色 ロームブロック微量        |                 |

#### 貯蔵穴2土層解説

- |                            |                            |
|----------------------------|----------------------------|
| 1 褐色 ローム粒子中量、炭化物微量         | 5 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、炭化物微量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量     |
| 3 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量        | 7 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量      |
| 4 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量     |                            |

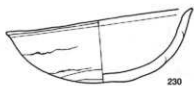
覆土 12層に分層され、レンズ状の堆積を示した自然堆積である。

#### 土層解説

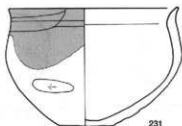
- |                               |                               |
|-------------------------------|-------------------------------|
| 1 褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量    | 7 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量         |
| 2 黒色 ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量     | 8 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量         |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量  | 9 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量           |
| 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量 | 10 黒褐色 炭化材少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量        | 11 暗褐色 ロームブロック少量、炭化材・焼土粒子微量   |
| 6 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量         | 12 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量         |

遺物出土状況 土師器片897点（坏34、高坏44、鉢5、埴37、甕777）、土師質土器片6点、縄文土器片2点、陶器片1点、土製品3点（球状土錘）、石製品5点（双孔円板3、白玉1、砥石1）、炭化材が出土している。230・232～235・237は北コーナー寄りの下層から床面にかけて出土し、231は南東コーナー床面、236は北西壁中央部寄りの床面からそれぞれ横位の状態で出土している。また、235・236の体部には擦痕がみられ転用砥石として使用されたと考えられる。DP31は中央部床面からの出土で、DP32・Q63は貯蔵穴1の覆土下層から中層、Q64～66は東壁寄りの覆土中層からそれぞれ出土している。DP30とその他の遺物は後世の混入である。中央部から北東部の床面には土層構造に使用されたと考えられる丸太材などの炭化材が出土している（「付章」参照）。同定された樹種はクスギ・コナラであり、住居用の建築材として多用されたものと考えられ、第79号住居跡においてもコナラ一種類が同定されている。

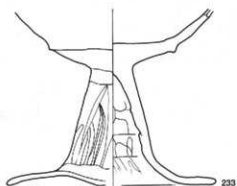
所見 本跡から出土した土器からは、定位置に同類の土器を置くという生活習慣を窺うことができる。また、これらの土器が置かれた状態で出土しているため住居廃絶前の焼失が考えられる。時期は、出土土器から5世紀前半と考えられる。



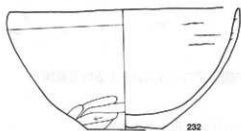
230



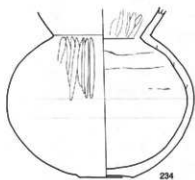
231



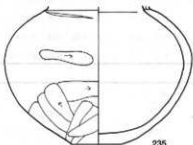
233



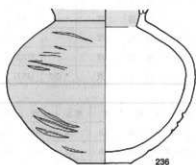
232



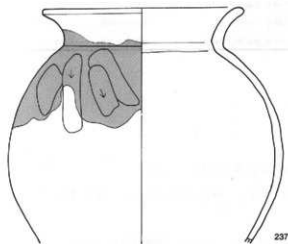
234



235



236



237



DP30



DP31



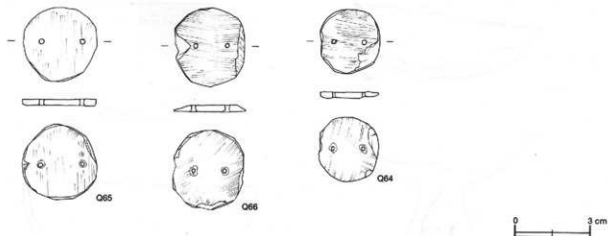
DP32



Q63



第64图 第77号住居跡出土遺物実測図(1)



第65図 第77号住居跡出土遺物実測図(2)

第77号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
230	土師器	杯	14.7	6.0	3.3	長石・石英	黄褐色	不良	口縁部外縁部から胎土が厚く残る	北東コーナー床面	90%、PL27
231	土師器	椀	13.2	9.4	4.2	砂粒	にぶい橙	普通	口縁部外縁部から胎土が厚く残る	南東コーナー床面	90%、PL26
232	土師器	鉢	18.1	9.7	5.9	長石・スコリア	にぶい黄褐色	普通	口縁部外縁部から胎土が厚く残る	北東コーナー床面	95%、PL27
233	土師器	高杯	—	(13.7)	[16.4]	—	砂粒	普通	口縁部外縁部から胎土が厚く残る	北壁寄り床面	65%、PL27
234	土師器	埴	—	(13.4)	4.2	石英・角閃石	明褐色	普通	口縁部外縁部から胎土が厚く残る	北壁際下層	60%
235	土師器	埴	—	(10.9)	4.1	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部外縁部から胎土が厚く残る	北壁寄り床面	70%、PL27
236	土師器	埴	—	(12.2)	4.0	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	口縁部外縁部から胎土が厚く残る	北壁寄り床面	85%、PL27
237	土師器	罍	15.5	(18.7)	—	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部外縁部から胎土が厚く残る	北壁際床面	50%、PL28

番号	器種	径	厚さ	孔径	重さ	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
DP30	球状土師	2.8	2.4	0.6	(15.6)	砂粒	黒	普通	ナゲ上下面へ胎土が厚く残る	覆土中	70%、PL35
DP31	球状土師	3.0	2.2	0.7	(16.6)	砂粒	橙	普通	ナゲ上下面へ胎土が厚く残る	中央部床面	PL35
DP32	球状土師	2.5	2.0	0.6	(11.8)	長石・砂粒	橙	不良	ナゲ上下面へ胎土が厚く残る	貯蔵穴1下層	孔部断破有り

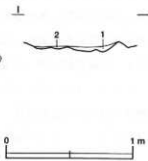
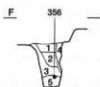
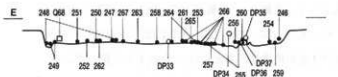
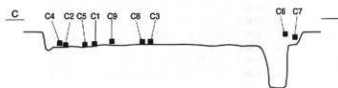
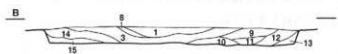
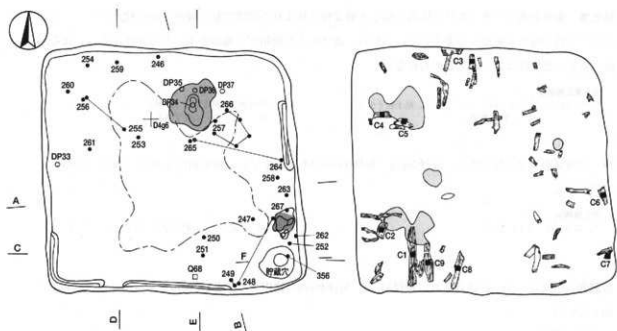
番号	器種	径	厚さ	孔径	重さ	材質	特徴	出土位置	備考
Q63	白玉	0.45	0.2	0.1	0.07	滑石	やや厚めの太鼓状、片面穿孔	貯蔵穴1下層	
Q64	瓦孔円板	2.4	0.25	0.15	(2.72)	滑石	表面縦位の研削、裏面縦位の研削、片面穿孔	東壁寄り中層	PL37
Q65	瓦孔円板	2.88	0.28	0.18	(4.44)	滑石	両面縦位の研削、片面穿孔	東壁寄り中層	PL37
Q66	瓦孔円板	3.1	0.25	0.15	(4.18)	滑石	表面斜位の研削、裏面縦位の研削	東壁寄り中層	PL37

第79号住居跡 (第66~69図)

位置 調査区西部、D4 g6区の平坦部に立地し、南には第88号住居跡が位置している。

規模と形状 長軸4.10m、短軸3.90mの方形で、主軸はN-0°である。壁高は20~24cmで、各壁はやや外傾している。

床 ロームブロックではほぼ平坦に構築され、中央部がよく踏み固められている。壁溝は東壁と南西コーナーの一部に確認された。



第66图 第79号住居跡実測图

**粘土塊** 東壁南東コーナー寄りの床面に版と土製支脚に挟まれた状態で粘土塊が1か所検出された。土製支脚の出土と粘土塊の表面がやや赤変しているため、電気の火を使用する施設があった可能性が考えられるが、床面に赤色した痕跡はほとんど認められない。

**粘土塊土層解説**

- |        |                                 |        |                  |
|--------|---------------------------------|--------|------------------|
| 1 暗赤褐色 | 赤化した粘土ブロック中草、粘土粒子少量、<br>ローム粒子微量 | 2 暗灰褐色 | 粘土ブロック多量、ローム粒子微量 |
|        |                                 | 3 褐色   | ローム粒子多量          |

**炉** 中央部から北に付設され、長径75cm、短径63cmの不定形を呈し、炉床面は4cmほど掘り窪められてやや凹凸がある。

**炉土層解説**

- |        |        |      |                  |
|--------|--------|------|------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土粒子中量 | 2 褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック少量 |
|--------|--------|------|------------------|

**貯蔵穴** 南東コーナーに付設され、長径54cm、短径46cmの楕円形で深さは70cmである。底面は平坦で壁は外傾している。

**貯蔵穴土層解説**

- |       |                        |       |                         |
|-------|------------------------|-------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量       | 4 暗褐色 | ローム粒子、炭化材少量、焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 炭化材中草、焼土粒子少量、ロームブロック微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量     |
| 3 暗褐色 | 炭化物少量、ロームブロック・焼土粒子微量   |       |                         |

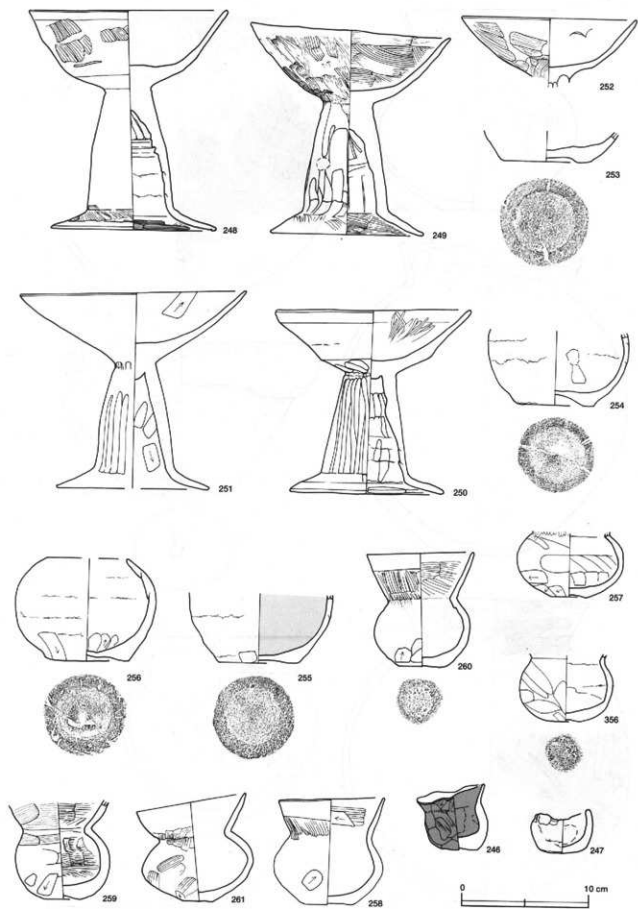
**覆土** 15層に分層され、覆土中にロームブロック、焼土、炭化物を比較的多く含む焼土時に堆積した層で、火災に伴う消火作業、または屋根部に盛られた土が崩落した層と考えられる。

**土層解説**

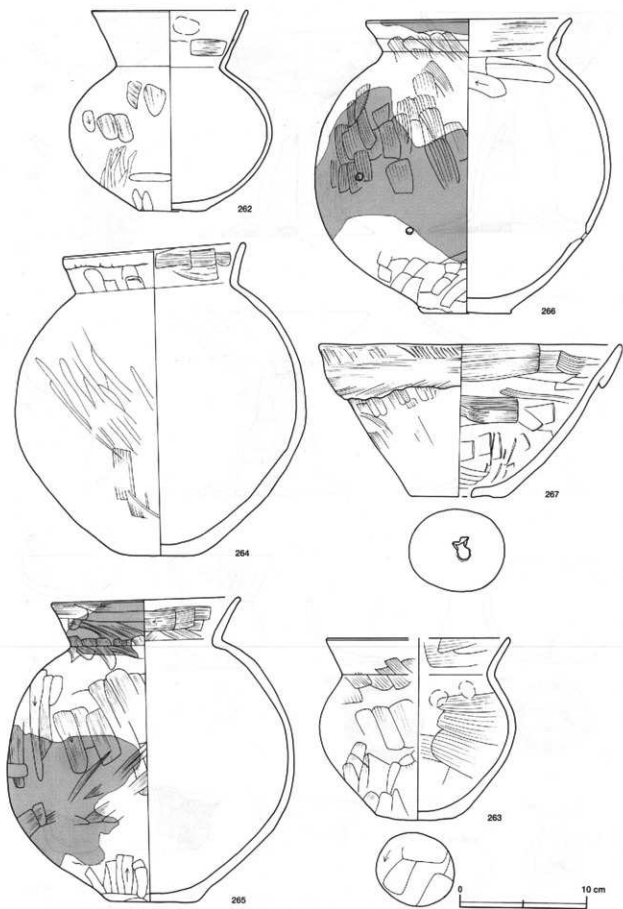
- |       |                       |        |                       |
|-------|-----------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 9 暗褐色  | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量   |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・炭化物少量、焼土粒子微量    | 10 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量  |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化材少量  | 11 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量       |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化材微量    | 12 暗褐色 | 焼土粒子・炭化材少量、ロームブロック微量  |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量   | 13 黒褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量        | 14 黒褐色 | 炭化物少量、ロームブロック・焼土粒子微量  |
| 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量   | 15 暗褐色 | ロームブロック・炭化材少量、焼土粒子微量  |
| 8 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量      |        |                       |

**遺物出土状況** 土師器片827点（子埴2、碗112、高坏60、埴49、甕571、甗33）、須恵器1点（甕）、土師質土器片10点、土製品5点（鏡形模造品カ1、菱形模造品カ1、支脚3）、石製品1点（砥石）、鉄製品1点（不明）、炭化材が出土している。246は北壁中央部の覆土下層、253～256・259～261・DP33は、中央部から北西コーナー寄りの下層から床面にかけての出土である。DP33は鏡形模造品と考えられ、3分の1が欠損している。257・258・264～266・DP34～37は、炉床面及びその周辺部の床面、DP34は菱形模造品と考えられる。247～252・262・263・267・356・Q68は中央部から南東コーナーよりの床面及び貯蔵穴覆土下層からの出土である。また、中央部を除いた床面からは上層構造に使用されたと考えられる炭化材が多量に出土している（『付草』参照）。出土した炭化材の多くは丸太材で直径10cm以内のものが多く、直径10cmを超える丸太材は6点（C1・2・4・5・8・9）出土しており、住居構築に用いる部材として主要な部分に使われていたものと考えられる。角材と見られる炭化材は3点（C3・6・7）確認され、いずれも壁際から斜位の状態で出土し、同定の結果、試料のすべてはコナラであった。

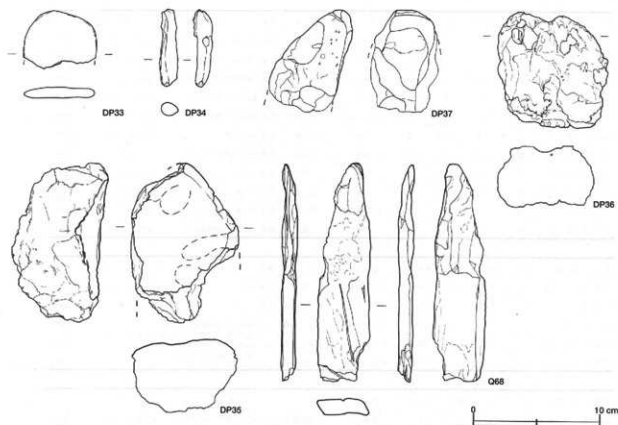




第67图 第79号住居跡出土遺物実測図(1)



第68图 第79号住居跡出土遺物実測図(2)



第69図 第79号住居跡出土遺物実測図(3)

所見 本跡から出土した土器を出土位置別に観察してみると、北西コーナーでは椀・小形埴等の土器が多く出土し、炉の周辺部には煮炊き具、南東コーナーからは高坏・埴等の祭祀に用いられたと考えられる供献土器が多く出土している。このように本跡の土器の出土位置からは、器種によって置く場所が決められていたという当時の生活習慣を窺うことができる。また、多量の炭化材が土器と共に出土しているため、住居廃絶前に焼失したと考えられる。炭化材の上層部には焼けたロームブロックなどが含まれているため屋根部に土を盛る習慣があったことも考えられる。本跡の時期は、出土土器から5世紀前半と考えられる。

#### 第79号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
246	土器	手 椀	5.3	5.3	2.8	長石・スコリア	黒褐	普通	片割へり内面割	北壁下層	100%、PL27
247	土器	手 椀	4.2	3.5	3.4	砂粒	橙	普通	片割成部割	南東部床面	95%、PL27
248	土器	高 坏	15.5	17.5	12.8	長石・角閃石	にぶい橙	良	片割成へり内面割ナリ、割部割成	南東コーナー床面	70%、PL27
249	土器	高 坏	15.7	16.7	12.1	長石・石英	にぶい橙	普通	片割成部へり割ナリ割部割成ナリ割	南東コーナー床面	90%、PL28
250	土器	高 坏	15.3	15.0	12.0	長石・スコリア	にぶい橙	良	片割成部ナリ内面割成部割成へり割	南東部床面	95%、PL28
251	土器	高 坏	17.8	15.3	[120]	砂粒	赤褐	普通	片割成部割成部不現割成部へり割	南東部床面	80%、PL27
252	土器	高 坏	13.6	(5.5)	—	長石	にぶい橙	普通	片割成部へり割ナリ	南東コーナー床面	50%、PL29
253	土器	椀	—	(2.3)	7.1	長石・石英	橙	普通	片割成ナリ	中央部床面	10%
254	土器	椀	—	(5.9)	6.0	長石・石英	にぶい黄橙	普通	片割成部割ナリ	北西コーナー下層	50%
255	土器	椀	—	(5.5)	6.3	長石	橙	普通	片割成部割成部ナリ内面割	中央部床面	55%、PL29
256	土器	椀	6.2	8.1	6.4	石英	橙	普通	片割成部へり割成部割	北西コーナー下層	65%、PL28
257	土器	埴	—	(5.1)	2.7	長石・石英	橙	普通	片割成部へり割成部へり割ナリ	中央部床面	85%

番号	種類	器種	口径	径長	高さ	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
258	土師器	用	8.2	8.5	3.6	長石	黄	普通	焼成温度不明	東芝寄り床面	90%、PL29
259	土師器	用	—	17.8	2.2	砂粒	にぶい黄	普通	焼成温度不明	北西部床面	80%、PL29
260	土師器	用	8.4	9.1	3.5	長石	にぶい黄	普通	焼成温度不明	北西コーナー下層	95%、PL29
261	土師器	用	8.6	8.5	2.4	砂粒	にぶい黄	普通	焼成温度不明	西壁寄り下層	93%、PL29
262	土師器	用	12.2	16.0	3.1	長石・石英	にぶい黄	普通	焼成温度不明	南東コーナー床面	90%、PL29
263	土師器	小形	14.6	14.4	6.2	砂粒	明赤	普通	焼成温度不明	南東寄り床面	50%、PL29、PL35
264	土師器	美	11.1	25.0	6.4	砂粒	明赤	普通	焼成温度不明	中央部床面	80%、PL28
265	土師器	美	14.8	24.3	7.2	砂粒	明赤	普通	焼成温度不明	中央部床面	80%、PL29
266	土師器	美	16.1	23.6	7.0	砂粒	にぶい黄	普通	焼成温度不明	中央部床面	70%、北西部・北東部、PL29
267	土師器	飯	23.8	12.4	7.4	長石・石英	明赤	普通	焼成温度不明	南東コーナー床面	80%、北西部、PL29
268	土師器	用	—	1.34	3.0	砂粒	黄	普通	焼成温度不明	貯蔵穴下層	60%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
DP33	不明	(4.6)	3.7	1.0	(24.5)	長石・砂粒	黄	普通	海面ナダ	西壁寄り床面	70%、北西部、PL29
DP34	不明	(6.1)	1.5	1.2	(11.3)	長石・石英	にぶい赤	普通	ナダ	中央部1層	80%、北西部、PL29
DP35	器蓋	(12.6)	(8.5)	(5.8)	(42.9)	長石・石英	にぶい赤	良	断面が直線的で縁部不明、底の裏面が凹み付いたため、きの火穴による蓋面が特徴	中央部1層	4%
DP36	器蓋	(9.2)	(8.7)	(4.9)	(37.1)	長石・石英	にぶい赤	良	同上	中央部1層	35%
DP37	器蓋	(8.0)	(5.5)	(6.5)	(16.2)	長石・石英	にぶい赤	良	同上	中央部1層	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	材質	特徴	出土位置	備考
Q98	瓶	17.2	4.1	1.2	(93.7)	粘板岩	上部部底裏有り、下部部に溝状の積層有り	南壁寄り下層	PL36

### 第85号住居跡 (第70区)

位置 調査区西部、D4e7区の平坦部に立地し、西には第77号住居跡が位置している。

重複関係 南部を第86号住居跡、西コーナーを第43号溝にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 東部が調査区域外に延びているため全体を把握することはできないが、確認された長軸は1.73m、短軸は2.63mであり、形状は方形または長方形と考えられ、主軸はN-18°-Wである。壁高は50cmで、各壁はやや外傾している。

床 ほぼ平坦で、全体的によく踏み固められている。柱穴及び炉は調査部分では確認されていない。

貯蔵穴 北西壁際に付設され、長径77cm、短径70cmの楕円形と推定され、深さは68cmである。底面はほぼ平坦に掘り込まれており、北方向に傾斜している。壁は外傾して立ち上がっている。

#### 貯蔵穴土層解説

- |                      |                 |
|----------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子微量        |                 |

覆土 4層に分層され、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

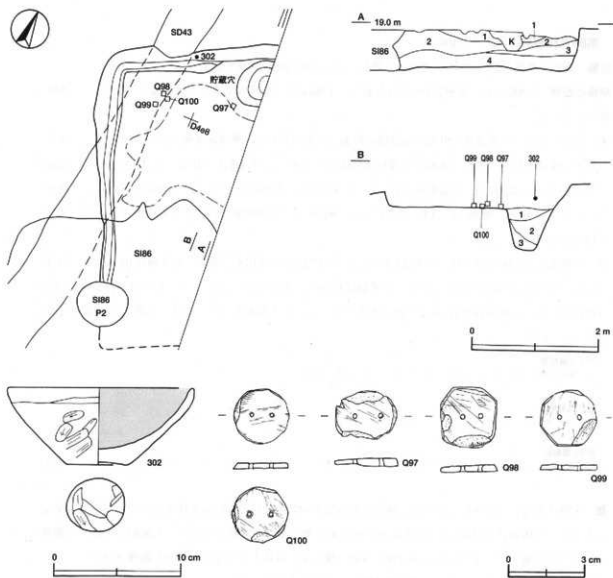
#### 土層解説

- |                        |                             |
|------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量   | 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片180点(坏14、高坏21、埴9、甕134、飯2)、須恵器片2点(坏1、甕1)、土師質土器片1点、縄文土器片2点、石製品4点(双孔円板)が出土している。302は北西壁際から出土、Q97~100は西コーナー床面からの出土で、いずれも木跡に伴うものと考えられる。覆土下層から出土した土師器片も同時

期のものであるが、住居廃絶後に投棄されたものと考えられる。その他の土師器片は覆土中層から上層の出土で後世の混入である。

所見 本跡は炭化材が出土していないが、覆土下層には炭化物が比較的多く含まれているため焼失住居の可能性が考えられる。また、双孔円板が4点床面より出土し、祭祀の性格の強い住居の可能性も想定され、時期は出土土器から5世紀後半と考えられる。



第70図 第85号住居跡・出土遺物実測図

第85号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
302	土師器	碗	14.5	6.1	4.6	長石	明赤褐色	普通	体部外面へツクリ、内面磨きナシ	北西壁際中層	95%、PI.30

番号	品名	積	寸法	孔径	長さ	材質	特徴	出土位置	備考
Q97	瓦孔円板	2.5	0.3	0.2	(2.58)	滑石	底面に少量の炭化物を認め、	西コーナー床面	PL37
Q98	瓦孔円板	2.4	0.25	0.2	(2.52)	滑石	底面に少量の炭化物を認め、	西コーナー床面	PL37
Q99	瓦孔円板	2.3	0.2	0.2	(2.62)	滑石	底面に少量の炭化物を認め、	西コーナー床面	PL37
Q100	瓦孔円板	2.3	0.2	0.2	(2.28)	滑石	底面に少量の炭化物を認め、	西コーナー床面	PL37

### 第88号住居跡（第71～73図）

位置 調査区西部、E.4 a5区の平坦部に立地し、北には第79号住居跡が位置している。

規模と形状 長軸7.82m、短軸7.20mの長方形で、主軸はN-25°-Wである。壁高は4～12cmで、各壁はやや外傾している。

床 ほぼ平地で、中央部及び出入口施設周辺がよく踏み固められ、壁溝が北西コーナーと南東コーナーを除いた壁下に確認された。また、床面から間仕切り溝が6か所（a～f）確認された。a（長さ142cm、幅28cm）・b（長さ134cm、幅26cm）は北東壁から、c（長さ172cm、幅30cm）・d（長さ166cm、幅26cm）は南東壁から、e（長さ186cm、幅28cm）・f（長さ172cm、幅28cm）は南西壁からいずれも中央に向かって延び、深さは14～22cmである。

炉 中央部に3か所付設され、炉1は長径43cm、短径32cmの楕円形であり、炉床面は10cmほど掘り窪められている。炉2は径41cmの円形であり、炉床面は12cmほど掘り窪められている。炉3は長径57cm、短径50cmの楕円形であり、炉床面は16cmほど掘り窪められ、いずれも皿状を呈している。本跡には小規模ながら竈も付設されている。

#### 炉1土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量

#### 炉2土層解説

- 1 に近い赤褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量

#### 炉3土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量      2 暗褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化物微量

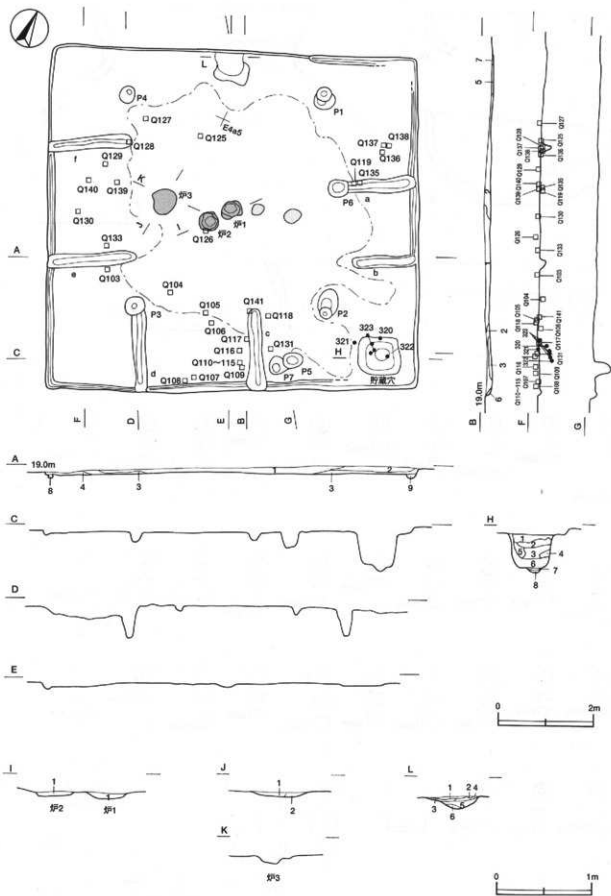
竈 北壁中央部に付設されているが、耕作による削平のため焚口と火床面を残すだけで全体を把握することはできない。火床面は長径56cm、短径47cmの楕円形で焚口から北西壁まで延び、火床面から長い時間使用されていたことが窺える。また、火床面の掘り方面の覆土中には粘土が含まれ、粘土が竈構築材の部材として使用されていたと想定できる。また、煙道部は壁外へ掘り込まれていない。

#### 竈土層解説

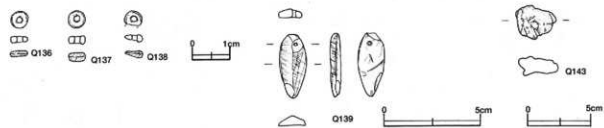
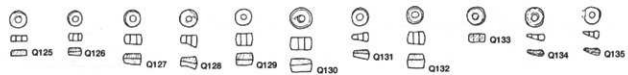
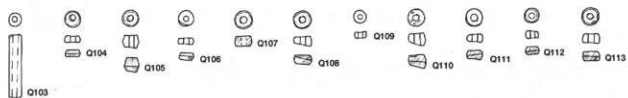
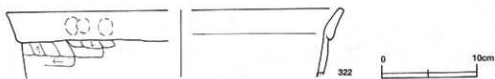
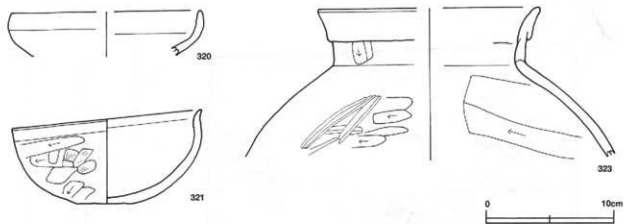
- 1 暗赤褐色 焼土ブロック多量      4 に近い赤褐色 焼土粒子多量、ロームブロック微量  
2 暗赤褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量      5 に近い赤褐色 焼土ブロック多量、粘土粒子少量、炭化物微量  
3 暗赤褐色 焼土粒子多量、ロームブロック少量      6 褐色 焼土ブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量

ピット 7か所。P1～4は深さ57～68cmで主柱穴である。P5は南東壁の貯蔵穴寄りに位置し、深さは35cmで出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ26cmで、P1と2のほぼ中間に位置するため補助的な柱穴と考えられる。P7は深さ11cmで性格は不明である。

貯蔵穴 南東コーナーに付設され、長軸92cm、短軸78cmの長方形で深さは79cmである。底面は平坦で壁はやや外傾している。また、底面中央部には、長径34cm、短径24cmで10cmほど掘り込まれた小穴がある。

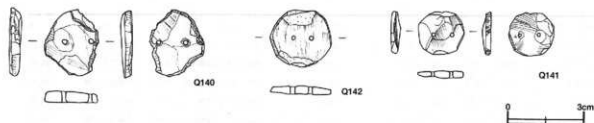


第71图 第88号住居跡実測图



第72图 第88号住居跡出土遺物実測図(1)





第73図 第88号住居跡出土遺物実測図(2)

貯蔵穴土層解説

- |       |                 |       |                   |
|-------|-----------------|-------|-------------------|
| 1 褐色  | ロームブロック少量       | 5 褐色  | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 灰褐色 | ロームブロック, 炭化粒子微量 | 6 褐色  | ロームブロック少量         |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック, 炭化物微量    |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量         | 8 暗褐色 | ローム粒子少量           |

覆土 9層に分層され、レンズ状の堆積を示した自然堆積である。

土層解説

- |       |                        |       |                 |
|-------|------------------------|-------|-----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量    | 6 褐色  | ローム粒子微量         |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色  | ローム粒子中量, 炭化物微量  |
| 3 黒褐色 | ロームブロック微量              | 8 暗褐色 | ロームブロック, 炭化粒子微量 |
| 4 褐色  | ローム粒子中量                | 9 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 5 赤褐色 | 焼土粒子多量                 |       |                 |

遺物出土状況 土師器片1444点(坏114, 碗9, 高坏115, 増28, 壺1, 甕1, 177), 須臾器片1点(坏), 土師質土器片7点, 石製品40点(管玉1, 白玉35, 剣形模造品1, 双孔円板3), 軽石1点, 礫4点が出土している。320~323は東南コーナー寄りの床面及び貯蔵穴から出土し, Q103~143は覆土下層及び床面から散在した状態で出土している。その他は覆土上層からの出土で後世の混入である。

所見 本跡は確認された同時期の住居跡の中では最大規模で, 炉と竈が付設され, このような形態を示す住居跡は本跡のみである。また, 床面から石製模造品が散在して出土し, 祭祀的な性格を持つ住居と想定されるが, 焼失した痕跡が認められる。時期は, 出土土器から5世紀後半と考えられる。

第88号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
320	土師器	環	[148]	(3.5)	—	砂粒	橙	普通	体部内外面ナデ	貯蔵穴上層	10%
321	土師器	坏	15.0	7.4	4.4	赤色粒子	橙	普通	体部内面ナデ, 底部ヘラ削	南東コーナー床面	70%, PL30
322	土師器	甕	[35.0]	(7.0)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部・体部内面ナデ, 底部削	貯蔵穴中層	5%
323	土師器	甕	[17.2]	(12.0)	—	長石	にぶい黄橙	普通	口縁部削ナデ, 体部内面ヘナデ	貯蔵穴中層	5%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重さ	材質	特徴	出土位置	備考
Q103	管玉	0.35	1.65	0.18	0.36	滑石	細長い竹管状, 片面穿孔	西壁寄り床面	PL38
Q104	白玉	0.42	0.18	0.14	0.05	滑石	断面に横をもつ算盤玉状片面穿孔	中央部床面	PL37
Q105	白玉	0.43	0.35	0.15	0.11	滑石	断面に横をもつ算盤玉状片面穿孔	中央部床面	PL37
Q106	白玉	0.41	0.21	0.15	0.05	滑石	断面に横をもつ算盤玉状片面穿孔	中央部床面	PL37
Q107	白玉	0.45	0.27	0.15	0.09	滑石	断面が膨らむ太鼓状, 片面穿孔	西壁寄り床面	PL37
Q108	白玉	0.48	0.25	0.18	0.08	滑石	断面が膨らむ太鼓状, 片面穿孔	南壁寄り下層	PL37
Q109	白玉	0.32	0.17	0.16	0.02	滑石	断面が直線的な円筒状, 片面穿孔	西壁寄り下層	PL37
Q110	白玉	0.45	0.32	0.18	0.09	滑石	断面に横をもつ算盤玉状片面穿孔	南壁寄り下層	PL37

番号	器種	径	高さ	口径	厚さ	材質	特徴	出土位置	備考	
Q111	Fi	木	0.42	0.23	0.18	0.07	滑石	裏面に残存する漆痕。片面穿孔	南壁寄り下層	PL37
Q112	Fi	玉	0.38	0.18	0.18	0.04	滑石	裏面に残存する漆痕。片面穿孔	南壁寄り下層	PL37
Q113	Fi	木	0.47	0.21	0.15	0.09	滑石	裏面に残存する漆痕。片面穿孔	南壁寄り下層	PL37
Q114	Fi	木	0.50	0.23	0.17	0.11	滑石	裏面に残存する漆痕。片面穿孔	南壁寄り下層	PL37
Q115	Fi	玉	0.46	0.17	0.18	0.07	滑石	裏面に残存する漆痕。片面穿孔	南壁寄り下層	PL37
Q116	Fi	木	0.47	0.15	0.15	(0.06)	滑石	裏面に残存する漆痕。片面穿孔	南壁寄り下層	PL37
Q117	Fi	木	0.45	0.28	0.16	(0.09)	滑石	裏面に残存する漆痕。片面穿孔	南壁寄り床面	PL37
Q118	Fi	木	0.44	0.23	0.18	0.09	滑石	裏面に残存する漆痕。片面穿孔	南壁寄り床面	PL37
Q119	Fi	木	0.43	0.21	0.18	0.08	滑石	裏面に残存する漆痕。片面穿孔	壁際掘土中	PL37
Q120	Fi	木	0.46	0.27	0.17	0.11	滑石	裏面に残存する漆痕。片面穿孔	南壁寄り下層	PL37
Q121	Fi	木	0.42	0.15	0.17	0.05	滑石	裏面に残存する漆痕。片面穿孔	掘土下層	PL37
Q122	Fi	木	0.46	0.17	0.17	0.06	滑石	裏面に残存する漆痕。片面穿孔	掘土下層	PL37
Q123	Fi	木	0.43	0.16	0.19	0.04	滑石	裏面に残存する漆痕。片面穿孔	掘土下層	PL37
Q124	Fi	木	0.41	0.24	0.15	0.06	滑石	裏面に残存する漆痕。片面穿孔	掘土下層	PL37
Q125	Fi	木	0.45	0.14	0.15	0.06	滑石	裏面に残存する漆痕。片面穿孔	中央部床面	PL37
Q126	Fi	木	0.39	0.20	0.17	0.05	滑石	裏面に残存する漆痕。片面穿孔	中央部下層	PL37
Q127	Fi	木	0.45	0.28	0.18	0.09	滑石	裏面に残存する漆痕。片面穿孔	西壁寄り床面	PL37
Q128	Fi	木	0.45	0.32	0.15	0.10	滑石	裏面に残存する漆痕。片面穿孔	壁際掘土中	PL37
Q129	Fi	木	0.45	0.31	0.20	0.11	滑石	裏面に残存する漆痕。片面穿孔	西壁寄り床面	PL37
Q130	Fi	木	0.38	0.33	0.18	0.21	滑石	裏面に残存する漆痕。片面穿孔	西壁寄り床面	PL37
Q131	Fi	木	0.45	0.24	0.16	0.06	滑石	裏面に残存する漆痕。片面穿孔	西壁寄り床面	PL37
Q132	Fi	木	0.43	0.37	0.18	0.11	滑石	裏面に残存する漆痕。片面穿孔	掘土下層	PL37
Q133	Fi	木	0.47	0.21	0.17	0.08	滑石	裏面に残存する漆痕。片面穿孔	西壁寄り床面	PL37
Q134	Fi	木	0.46	0.17	0.17	0.06	滑石	裏面に残存する漆痕。片面穿孔	掘土下層	PL37
Q135	Fi	木	0.43	0.19	0.15	0.04	滑石	裏面に残存する漆痕。片面穿孔	壁際掘土中	PL37
Q136	Fi	木	0.44	0.17	0.18	0.05	滑石	裏面に残存する漆痕。片面穿孔	東壁寄り床面	PL37
Q137	Fi	木	0.45	0.30	0.17	0.07	滑石	裏面に残存する漆痕。片面穿孔	東壁寄り床面	PL37
Q138	Fi	木	0.45	0.17	0.17	0.04	滑石	裏面に残存する漆痕。片面穿孔	東壁寄り床面	PL37

番号	器種	径	高さ	口径	厚さ	材質	特徴	出土位置	備考
Q139	銅製投石	3.30	1.4	0.15	3.10	滑石	表面に鋸歯状の縦溝。西壁寄り床面		PL38

番号	器種	径	高さ	口径	厚さ	材質	特徴	出土位置	備考
Q143	瓦石	φ	3.2	2.7	1.7	3.4	滑石	表面滑潤。縦溝あり	掘土下層

番号	器種	径	高さ	口径	厚さ	材質	特徴	出土位置	備考
Q140	瓦孔円板	2.36	0.42	0.15	(3.38)	滑石	裏面は縦方向の縦溝。片面穿孔	西壁寄り床面	PL37
Q141	瓦孔円板	1.72	0.28	0.13	1.48	滑石	片面は縦・横方向。片面穿孔	南壁寄り床面	PL37
Q142	瓦孔円板	2.30	0.3	0.2	(3.08)	滑石	片面は縦方向の縦溝。片面穿孔	掘土下層	PL37

### ③ 古墳時代後期

#### 第1号住居跡(第74・75図)

位置 調査区中央部北側、C5e7区の緩斜面部に立地し、東には第4号溝跡が位置している。

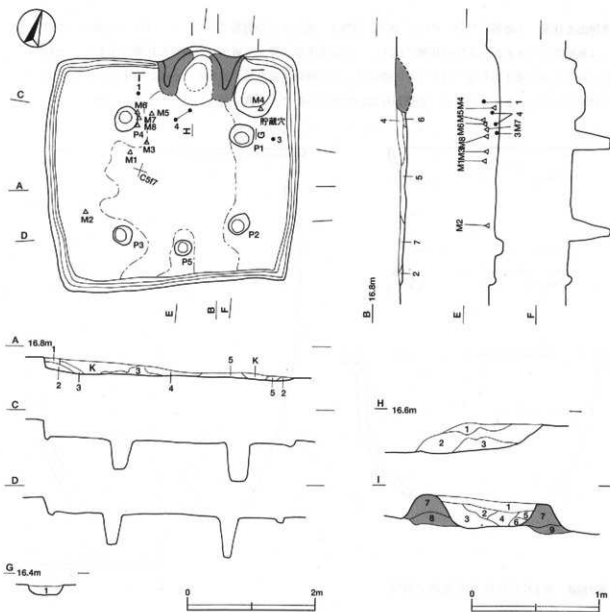
規模と形状 長軸3.96m、短軸3.68mの方形で、主軸はN-13°-Wである。壁高は24cmで、壁は北・西壁の状況から直立していたと考えられる。

床 は平坦であり、P5の付近から竈の前にかけてよく踏み固められ、壁溝は全周している。

竈 北壁中央部よりやや東側に付設され、砂質粘土とロームで構築されている。規模は、焚口から煙道部までの最大長98cm、両袖幅129cmである。天井部及び両袖部上面は、削平のため遺存状態が悪く、竈土層断面中第3層は、焼土を多く含んでいるため燃焼部であったと考えられ、煙道部は壁外へ18cm掘り込み、火床面から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- |        |   |          |                              |
|--------|---|----------|------------------------------|
| 1 暗褐色  | ローム粒子中量、ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量         | 6 灰褐色    | ローム粒子・焼土ブロック・砂粒・粘土粒子少量       |
| 2 暗赤褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック・砂粒少量、ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 7 にふい赤褐色 | 粘土粒子多量、砂粒中量、ローム粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子少量、砂粒・粘土粒子微量    | 8 暗褐色    | ローム粒子・粘土粒子中量、砂粒少量、焼土粒子微量     |
| 4 暗褐色  | ロームブロック・焼土ブロック少量、ロームブロック微量              | 9 暗褐色    | ローム粒子中量                      |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子少量、砂粒・粘土粒子微量              |          |                              |



第74図 第1号住居跡実測図

ピット 5か所。P1～4は支柱穴で、深さ48～65cmである。P5は深さ16cmで、南壁寄りの中央に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 径68cmほどの円形で、深さが28cmであり、北東コーナー部に付設されている。底面は平坦で、壁は外傾している。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量

覆土 7層からなる。第1・2層は自然堆積と考えられ、第3～7層は堆積の状況と含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説

1 褐色 ローム粒子中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量

4 暗褐色 ローム粒子・ロームブロック・炭化粒子微量

5 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

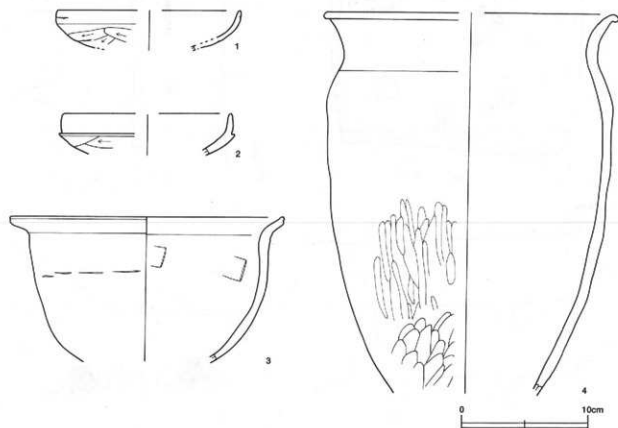
2 暗褐色 ローム粒子中量、ロームブロック・炭化粒子微量

6 暗褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量

3 暗褐色 ローム粒子中量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

7 黒褐色 ローム粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片176点(坏2, 鉢1, 高坏1, 甕172), 須恵器片9点(坏), 鉄滓8点が出土している。3は東壁寄りの床面から正位の状態出土し、4は竈手前の覆土下層からつぶれた状態で出土し、いずれも本跡に伴うものと考えられる。M1～8の鉄滓は、土層断面中第5・6層から一か所に集中して出土しているため投棄されたものと考えられる。須恵器片はいずれも小片で、後世に混入したのと考えられる。



第75図 第1号住居跡出土遺物実測図

所見 本跡は削平されているため、本来の形状を明確にすることができなかったが、調査区内で確認された同時期の住居跡の中では小規模である。出土遺物は土師器片がほとんどであるが、覆土下層や床面から良好な土器が出土している。また、鉄洋が覆土中から8点出土しているため本跡の周辺部に後世竪穴施設が存在していた可能性が考えられる。時期は出土土器から6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。

第1号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	直径	高さ	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	杯	[14.4]	(3.2)	—	長石・石英	褐色	普通	器底に多少の赤褐色の斑點あり	覆土下層	10%
2	土師器	杯	[13.2]	(3.0)	—	長石	にぶい褐色	普通	器底に多少の赤褐色の斑點あり	覆土中	5%
3	土師器	鉢	21.5	(11.5)	—	赤母・赤色靫子	にぶい赤褐色	普通	器底に多少の赤褐色の斑點あり	覆土下層	80%、P121
4	土師器	甕	[23.4]	(30.0)	—	赤母・長石・石英	にぶい赤褐色	普通	器底に多少の赤褐色の斑點あり	覆土下層	60%、P121

### 第6号住居跡（第76・77区）

位置 調査区中央部、D6d2区の東方向に傾斜する緩斜面部に立地し、北西にはコーナーに竈を持つ第39号住居跡が位置し、南西には第14号住居跡が位置している。

規模と形状 長軸4.52m、短軸4.49mの方形で、主軸はN-23°-Wである。壁高は35~46cmで、各壁は直立している。

床 ほほ平坦であり、P5の付近から竈の前にかけてよく踏み固められ、壁溝が副回している。

竈 北西壁中央部に付設され、砂質粘土で構築されている。焚口から煙道部までの最大長100cm、両袖部幅116cmで、天井部も一部遺存し、良好な状態で確認されている。第1層は粘土ブロック、砂粒を多く含むことから天井部と考えられる。第2~4層は焼土ブロックを比較的多く含む燃焼部と考えられ、第5層は火床部と考えられる。煙道部は壁外へ33cm掘り込み、火床面から外傾して立ち上がっている。

#### 覆土層解説

1 黒褐色	粘土ブロック・砂粒少量、ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量	9	にぶい赤褐色	焼土粒子・粘土粒多量、粘土ブロック・砂粒中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
2 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量、焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック・砂粒微量	10	灰褐色	砂粒中量、焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック少量、焼土ブロック微量
3 暗褐色	砂粒少量、ローム粒子・焼土ブロック	11	黒褐色	砂粒中量、粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
4 暗赤褐色	ローム粒子・焼土ブロック・砂粒少量、ロームブロック・炭化粒子・粘土粒微量	12	暗赤褐色	砂粒少量、焼土粒子・粘土ブロック少量、炭化粒子微量
5 暗赤褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・砂粒少量、ロームブロック微量	13	黒褐色	ローム粒子・砂粒中量、ローム粒子・焼土粒子微量
6 暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量、焼土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロック微量	14	灰褐色	粘土ブロック・砂粒中量、ローム粒子・炭化粒子微量
7 暗赤褐色	ローム粒子少量、焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量	15	灰褐色	粘土粒子・砂粒中量、粘土ブロック・炭化粒子少量
8 暗赤褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量、焼土ブロック微量	16	黒褐色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量、ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量

ピット 5か所。P1~4は主柱穴で、深さ62~67cmである。P5は深さ27cmで、南東隅寄りの中央に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。

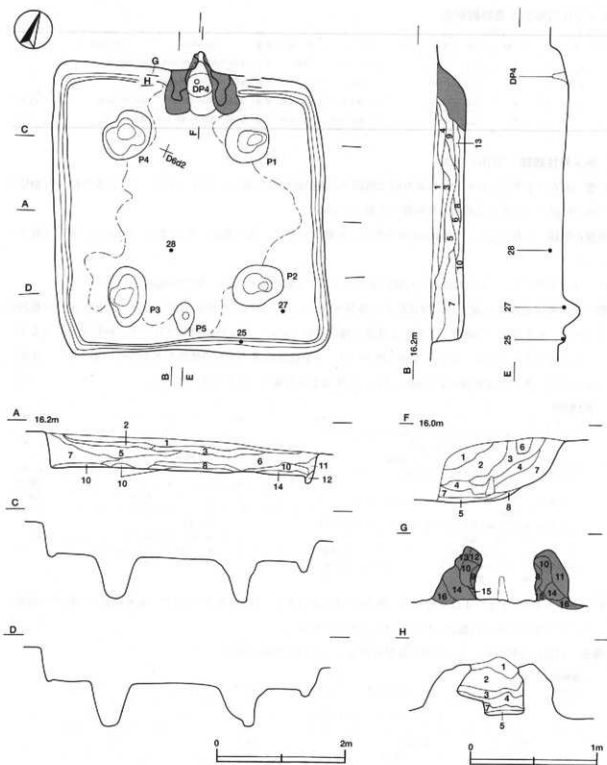
覆土 14層に分層され、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

#### 土層解説

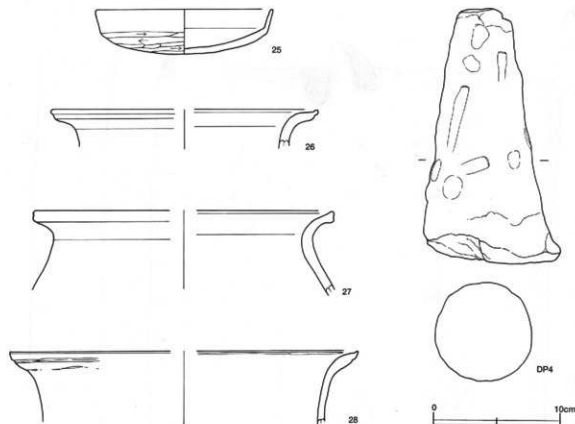
1 黒褐色	ローム粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	8 黒褐色	ローム粒子少量、粘土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	9 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、粘土ブロック微量
3 黒褐色	ローム粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	10 褐色	ローム粒子多量、ロームブロック少量
4 黒褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量	11 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、粘土粒子微量
5 黒褐色	ローム粒子少量、ロームブロック・粘土粒子・炭化粒子微量	12 黒褐色	ローム粒子少量
6 黒褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量	13 黒褐色	ローム粒子少量、ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量
7 黒褐色	ローム粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	14 黒褐色	ローム粒子中量、ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片408点(坏21, 高坏7, 碗1, 甕379), 須恵器片17点(坏7, 蓋3, 甕7), 土製品1点(支脚)が出土している。25は南東壁際の壁溝底面から逆位の状態で出土し, 竈内部から赤変したDP4が置かれたままの状態でも出土している。その他の遺物は後世の混入である。

所見 本跡の時期は, 出土土器から, 7世紀末から8世紀初頭と考えられる。



第76図 第6号住居跡実測図



第77図 第6号住居跡出土遺物実測図

第6号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
25	土	鉢	13.9	3.6	—	長石・石英	にぶい赤褐	普通	(胎土層ナシ)胎土層ナシ(胎土層ナシ)	南東壁際床面	65%、Pl.21
26	土	鉢	20.9	(3.1)	—	雲母・石英	にぶい橙	普通	(胎土層ナシ)	覆土中	5%
27	土	鉢	23.4	(6.2)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	(胎土層ナシ)胎土層ナシナシ	東コーナー床面	5%
28	土	鉢	27.4	(5.9)	—	雲母・長石	にぶい黄褐	普通	(胎土層ナシ)胎土層ナシ(胎土層ナシ)	中央部中層	5%

番号	器種	高さ	径	重さ	胎土	色調	手法の特徴	出土位置	備考	
DP4	支	脚	20.2	4.5~11.4	1,300	長石・石英	橙	体部指頭状・ヘラ張り	竈火床面	95%

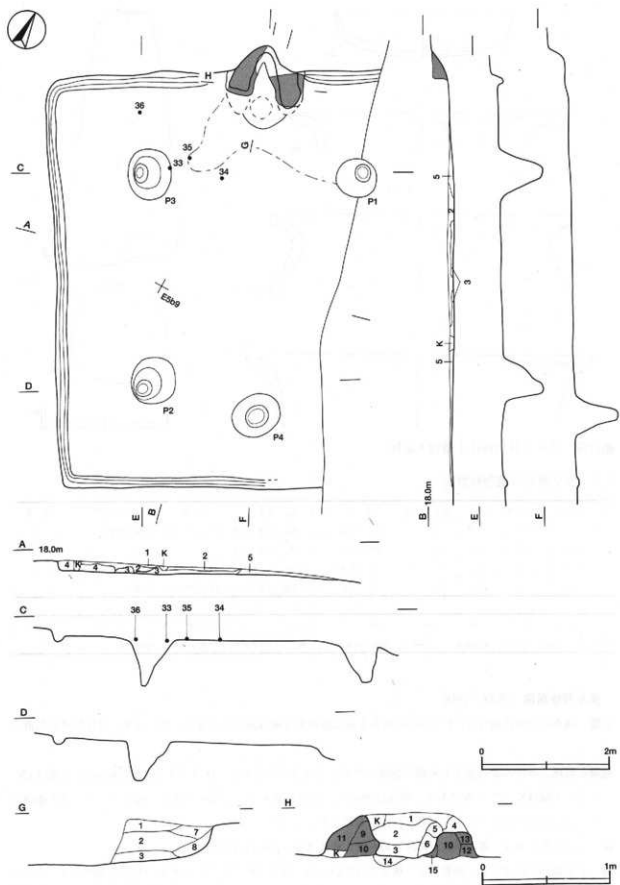
### 第9号住居跡 (第78・79図)

**位置** 調査区中央部南寄り、E5 a9区の南東方向に傾斜する緩斜面部に立地し、北には第7号住居跡が位置している。

**規模と形状** 耕作による削平と東側の攪乱のため、全容は不明である。確認できた長軸は6.56m、短軸は5.5mである。主軸はN-27°-Wであり、壁高は10cmで、各壁は直立している。形状は、北西コーナー部と南西コーナー部が直角であることから方形または長方形と考えられる。

**床** ほほ平坦であり、竈の手前が踏み固められ、壁溝は壁下に確認された。

**竈** 北壁東部に付設され、砂質粘土で構築されているが、削平されているため本来の形状を明確にすることはできない。焚口から煙道部までの最大長132cm、両袖部幅119cmで、第3・14層は焼土を比較的多く含む燃焼部と考えられ、煙道部は壁外へ42cm掘り込み、火床面から緩やかに立ち上がりその後直立する。



第78图 第9号住居跡实测图

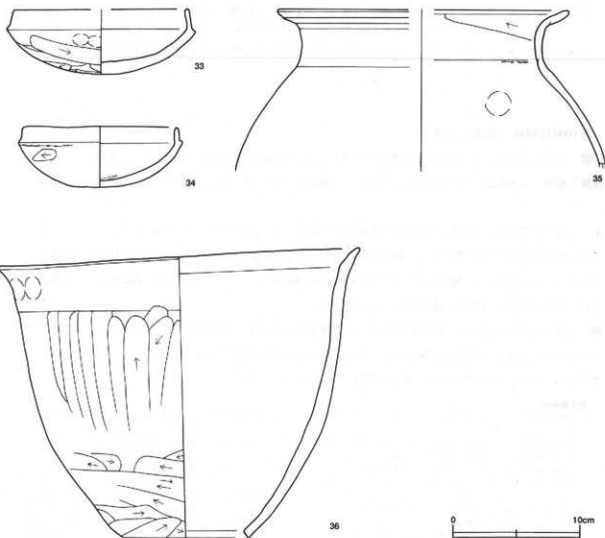


覆土層解説

- |        |                                    |           |                                 |
|--------|------------------------------------|-----------|---------------------------------|
| 1 暗褐色  | ロームブロック・ローム粒子少量                    | 10 にぶい黄褐色 | 粘土粒子・砂粒中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 灰褐色  | ローム粒子中量, 粘土粒子・砂粒少量, 焼土ブロック微量       | 11 にぶい黄褐色 | 砂粒多量, 粘土粒子中量, ローム粒子少量           |
| 3 暗赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック少量                  | 12 にぶい赤褐色 | 粘土粒子・砂粒中量, ローム粒子・焼土粒子少量         |
| 4 暗褐色  | ロームブロック少量                          | 13 暗褐色    | ローム粒子・砂粒少量, ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 5 灰褐色  | ローム粒子中量, 粘土粒子・砂粒少量, 焼土粒子微量         | 14 暗赤褐色   | ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量        |
| 6 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子少量                    | 15 暗赤褐色   | 焼土粒子・粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, 砂粒微量     |
| 7 灰褐色  | 粘土粒子中量, ローム粒子・砂粒少量                 |           |                                 |
| 8 暗褐色  | ローム粒子・粘土粒子少量, 砂粒微量                 |           |                                 |
| 9 暗褐色  | 粘土粒子・砂粒中量, ローム粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量 |           |                                 |

ピット 4か所。P1～3は主柱穴で、深さ62～70cmである。四本柱が想定されるが、あと1か所は確認されなかった。P4は、深さ70cmで南東壁際に位置し、竈に対して一直線状に並び出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層からなる。第2・5層は、堆積状況から自然堆積と考えられる。第4層のロームブロックは、住居壁の崩落土と考えられ、第1・3層は不自然な堆積状況と含有物から人為堆積と考えられる。



第79図 第9号住居跡出土遺物実測図

## 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量  
 2 黒褐色 ロームブロック微量  
 3 黒暗褐色 ロームブロック少量  
 4 暗褐色 ローム粒子中量、ロームブロック少量  
 5 褐色 ローム粒子多量

遺物出土状況 土師器片70点(環14, 甕33, 瓶23), 磁器片1点が出土している。34はP3東側床面から正位の状態、36はP3の北西側床面から横位の状態それぞれ出土していることから本跡に伴うものと考えられ、33・35はほぼ同時期と考えられるが、覆土の堆積状況と出土位置からみて住居廃絶直後に投棄されたものと考えられる。確認面から出土した土師器片、磁器片は後世の混入と考えられる。

所見 本跡は耕作による削平と攪乱のため形状を明確にすることができなかったが、床面からの出土土器からみて、時期は6世紀後半と考えられる。

## 第9号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	11冊	器高	底径	胎土	色調	製造	手法の特徴	出土位置	備考
33	土師器	環	112.6	5.1	—	ゴ母・灰白・石英	黄	普通	手揉み成形・削平・削割	四上層	75%, PL21
34	土師器	環	12.2	4.8	—	長石	にぶい黄	普通	手揉み成形・削平・削割	四上層床面	80%, PL21
35	土師器	甕	22.6	12.9	—	赤母・灰白・石英	にぶい黄	普通	手揉み成形・削平・削割	四上層床面	
36	土師器	瓶	28.6	23.1	9.9	長石	にぶい黄	普通	手揉み成形・削平・削割	四上層床面	80%, PL21

## 第10号住居跡(第80~82図)

位置 調査区中央部、D5区2の緩斜面部に立地し、南には第11号住居跡、西には第3号溝が位置している。

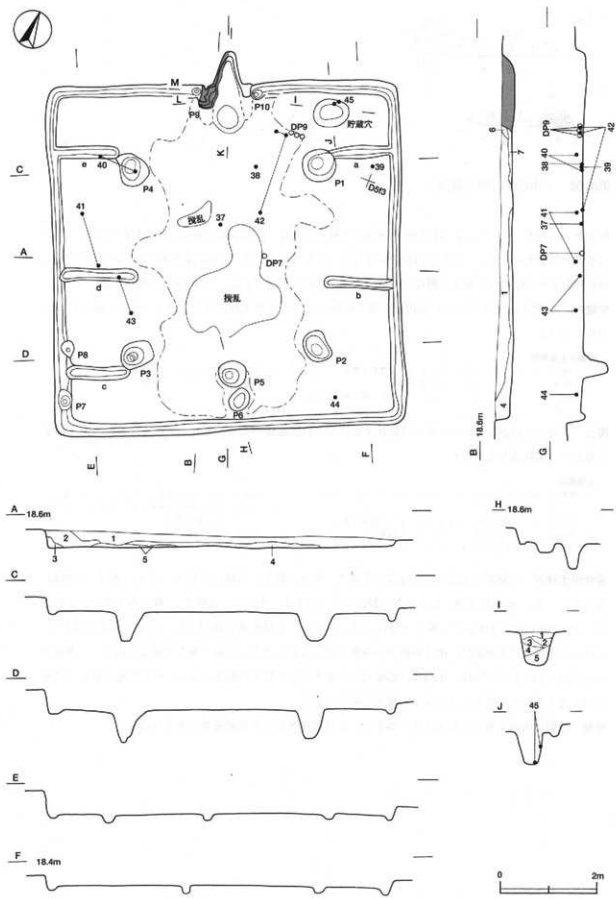
規模と形状 長軸7.27m, 短軸7.19mの方形で、主軸はN-22°-Wである。壁高は14~41cmで、各壁は直立している。

床 はほぼ平坦であり、南壁際中央部から北壁際中央部までよく踏み固められ、壁溝は全周している。また、床面から間仕切り溝が5か所(a-c)確認された。a(長さ126cm, 幅26cm)・b(長さ140cm, 幅22cm)は東壁から、c(長さ131cm, 幅26cm)・d(長さ162cm, 幅24cm)・e(長さ127cm, 幅23cm)は西壁から、いずれも中央に向かって延び、深さは10~16cmである。

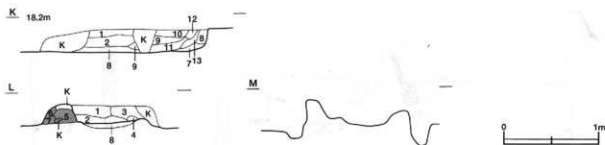
竈 北壁中央部に付設され、砂質粘土とロームで構築されている。天井部は削平されている。焚口から煙道部までの最大長168cm, 両袖部は幅112cmである。第8層下辺が変色し締まりが強いいため火床部と考えられる。煙道部は、壁外へ68cm掘り込み、煙道は外傾して立ち上がっている。

## 土層解説

- 1 黒暗赤褐色 ローム粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量  
 2 黒暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、焼土ブロック微量  
 3 暗赤褐色 ローム粒子・焼土ブロック微量  
 4 暗褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子微量  
 5 暗褐色 粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子・粘土ブロック少量、焼土ブロック微量  
 6 灰褐色 粘土粒子中量、ローム粒子・砂粒少量、ロームブロック微量  
 7 黒褐色 粘土粒子中量、ローム粒子・砂粒少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量  
 8 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量  
 9 にぶい赤褐色 粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、焼土ブロック微量  
 10 にぶい赤褐色 粘土粒子多量、砂粒中量、焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック少量  
 11 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物・粘土粒子・砂粒少量、ロームブロック・焼土ブロック微量  
 12 暗赤褐色 粘土粒子・砂粒中量、焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量  
 13 灰褐色 粘土粒子多量、砂粒中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量



第80图 第10号住居跡実測图(1)



第81図 第10号住居跡実測図②

ピット 10か所。P1～4は、深さ58～63cmで主柱穴である。P5は深さ16cm、P6は深さ22cmで、いずれも南壁寄りの中央に位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P9は深さ16cm、P10は深さ22cmで竈の袖を挟むように位置し、竈上の棚などの施設に伴うものと想定される。P7・8は不明である。

貯蔵穴 長径70cm、短径58cmの楕円形で深さが58cmであり、竈東側に付設されている。底面は平坦で、壁は外傾している。

貯蔵穴土層解説

- |       |                          |       |                |
|-------|--------------------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量    | 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量         | 5 黒褐色 | ロームブロック少量      |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量・ロームブロック少量、焼土粒子微量 |       |                |

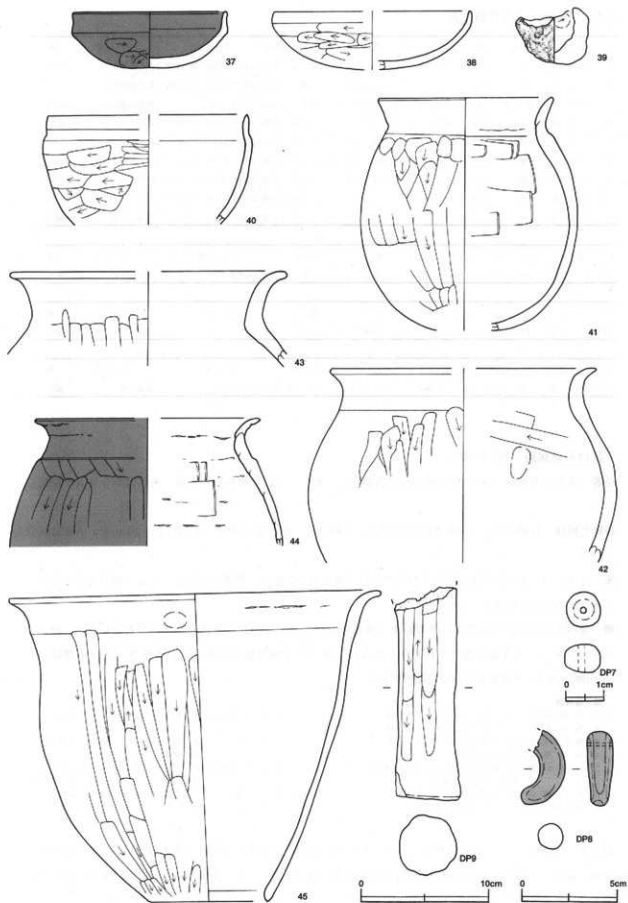
覆土 7層に分層され、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。第6・7層に含まれる粘土粒子と砂粒は竈からの流れ込みである。

土層解説

- |       |                            |       |                                |
|-------|----------------------------|-------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量、ロームブロック少量              |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、ロームブロック・炭化粒子微量     | 6 黒褐色 | ローム粒子・砂粒少量、焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量  |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量、ロームブロック微量          | 7 暗褐色 | ローム粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量、ロームブロック・炭化粒子微量     |       |                                |

遺物出土状況 土師器片1,955点(坏177, 手捏1, 碗3, 鉢2, 高坏12, 埴1, 壺1, 甕1715, 瓶43), 須恵器片1点(甕), 磁器片1点, 瓦1点, 土製品5点(勾玉1, 小玉1, 支脚3), 礫5点が出土している。37～40・42・DP7・9は床面から覆土下層にかけて出土し、45は貯蔵穴底面からつぶれた状態で出土している。これらの土器及び土製品は、出土位置から本跡に伴うものと考えられる。覆土中層より出土した多量の土師器片及び41・43・44・DP8は、床面及び貯蔵穴から出土した土器と時期差がないため住居焼絶直後に投棄されたものと考えられる。磁器片は、後世の混入と考えられる。

所見 時期は床面や覆土下層の出土土器から、6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。



第82图 第10号住居跡出土遺物実測図

第10号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	産地	手法の特徴	出土位置	備考
37	土師器	杯	12.1	4.5		長石	にぶい橙	普通	口縁部が、口縁部へは、厚縁部	中央部床面	30%、PL22
38	土師器	杯	15.4	4.6	—	長石・石英	灰緑	普通	口縁部が、口縁部へは、厚縁部	掘り跡床面	45%、PL21
39	土師器	手捏土器	4.2	4.5		石英	茶褐色	普通	口縁部が、口縁部へは、厚縁部	壁面・掘り跡床面	100%、PL22
40	土師器	鉢	19.4		—	石英	にぶい橙	普通	口縁部が、口縁部へは、厚縁部	北西コーナー部	30%
41	土師器	甕	13.8	18.5	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部が、口縁部へは、厚縁部	西壁寄り下層	75%、PL22
42	土師器	甕	21.1	12.0	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部が、口縁部へは、厚縁部	中央部床面	23%
43	土師器	甕	22.0	7.5	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部が、口縁部へは、厚縁部	西壁寄り下層	10%
44	土師器	甕	17.4	10.3	—	長石	にぶい黄橙	普通	口縁部が、口縁部へは、厚縁部	南東コーナー部	10%
45	土師器	甕	29.3	24.7	9.2	長石	にぶい橙	普通	口縁部が、口縁部へは、厚縁部	貯蔵穴底面	60%、PL22

番号	器種	径	厚さ	口径	高さ	胎土	色調	手法の特徴	出土位置	備考
D17	小工	0.9	0.7	0.2	0.6	雲母	黒	ナデ、両面穿孔	中央部床面	90%、PL36

番号	器種	径	高さ	口径	高さ	胎土	色調	手法の特徴	出土位置	備考
D18	勺	1.4	3.9	0.20	1.70	砂粒	橙	ナデ、赤彩	掘り上	80%、PL36

番号	器種	径	高さ	口径	高さ	胎土	色調	手法の特徴	出土位置	備考
D19	支那	4.8	11.0	—	45.0	長石・石英	にぶい橙	表面部へずり	掘り上	80%

第11号住居跡（第83～85図）

位置 調査区中央部、D5Ⅱ区の緩やかな斜面部に立地し、北には第10号住居跡、西には第3号溝が位置している。

規模と形状 長軸5.77m、短軸5.74mの方形で、主軸はN-37°-Wである。壁高は32～39cmで、各壁は直立している。

床 ほぼ平坦であり、中央部から主柱穴にかけて硬化面が広がり、壁溝が全周している。掘り方はとくに壁際を掘り深め住居を構築している。

竈 北西壁中央部に付設され、砂質粘土で構築されている。焚口から煙道部までの最大長158cm、両袖部幅110cmであり、天井部は削平され遺存していない。第1～4層は焼土を多く含む燃焼部で、煙道部は壁外へ55cm掘り込み、火床面から緩やかに外傾している。

竈土層解説

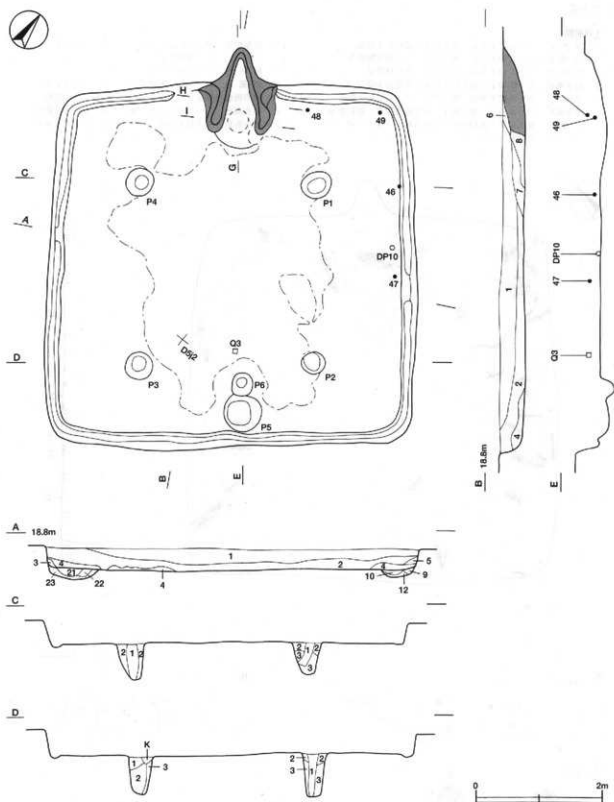
1	暗赤褐色	ローム粒子・焼土ブロック少量	8	暗赤褐色	粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子・焼土ブロック少量、炭化粒子微量
2	暗赤褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量	9	灰褐色	粘土粒子中量、ローム粒子・砂粒少量、焼土粒子微量
3	暗赤褐色	ローム粒子・焼土ブロック少量	10	にぶい赤褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
4	暗赤褐色	焼土粒子中量	11	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・砂粒微量
5	にぶい赤褐色	粘土粒子少量、焼土粒子・砂粒少量、ローム粒子・炭化粒子微量			
6	暗赤褐色	焼土粒子多量、ローム粒子少量			
7	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量			

ピット 6か所。P1～4は主柱穴で、深さ52～74cmである。P1・2・4の第1層にしまりの弱い柱抜き取り痕、第2・3層にしまりの強い埋土に相当する層が確認された。P5は深さ18cm、P6は深さ23cmで南東壁寄りの中央に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P1~4 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量  
 2 褐色 ローム粒子多量, ロームブロック中量

- 3 褐色 ローム粒子多量, ロームブロック中量

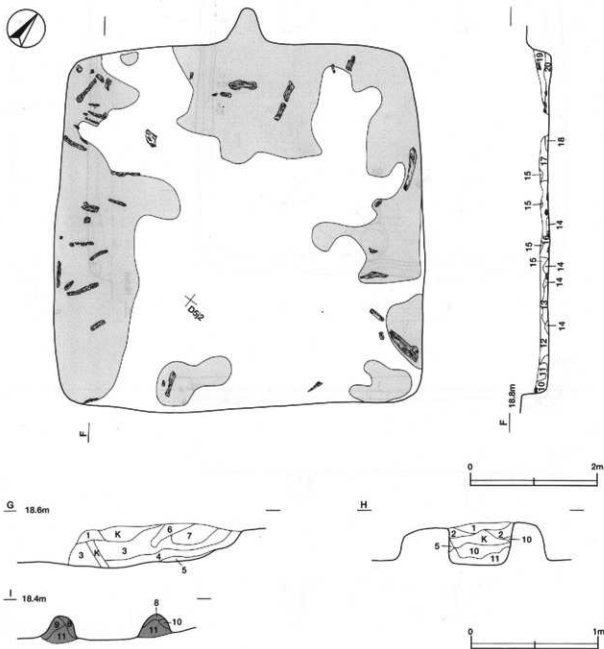


第83図 第11号住居跡実測図(1)

**覆土** 23層からなる。本跡の埋戻全域から焼土及び炭化材が出土していることから、焼失住居と考えられる。第1・2層は出土した炭化材の上面に堆積しており、焼失後に自然堆積した層と考えられる。第4・6～20層は焼土及び炭化物を比較的多く含み、焼失時に堆積した層と考えられる。第21～23層は床を構築するための客土である。

**土層解説**

- |        |                               |         |                             |
|--------|-------------------------------|---------|-----------------------------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量           | 8 暗赤褐色  | ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 |
| 2 暗褐色  | ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化物微量          | 9 暗褐色   | ローム粒子中量                     |
| 3 黒褐色  | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化材微量            | 10 黒褐色  | ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子少量         |
| 4 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量、炭化物少量            | 11 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量       |
| 5 暗褐色  | ローム粒子多量、焼土ブロック・炭化粒子微量         | 12 暗赤褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量        |
| 6 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、砂粒微量        | 13 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量         |
| 7 灰褐色  | 粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子少量 |         |                             |

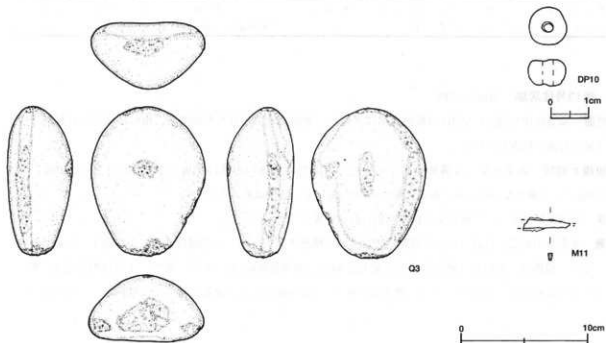
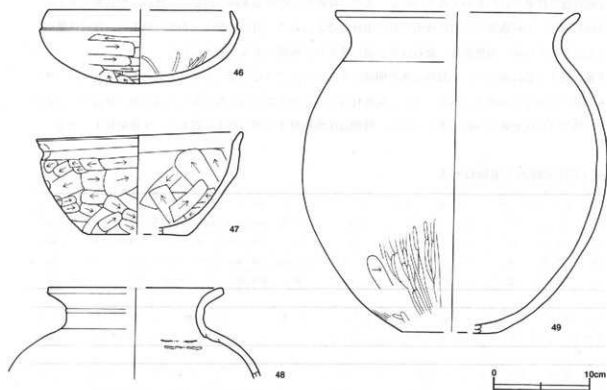


第84図 第11号住居跡実測図(2)



- 14 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量  
 15 黒褐色 ローム粒子・炭化物少量、焼土ブロック微量  
 16 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化物少量  
 17 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化物少量  
 18 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物微量

- 19 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量  
 20 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物微量  
 21 黒褐色 ローム粒子微量  
 22 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量  
 23 暗褐色 ローム粒子少量



第85図 第11号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片690点(坏134, 碗5, 鉢3, 高坏2, 甕545, 瓶1), 須恵器片4点(坏1, 甕3), 土製品5点(小玉1, 支脚3, 不明1), 鉄製品1点(刀子茶部), 石器1点(敵石)が出土している。46・47・DP10は北東壁際の床面及び床面より浮いた状態で出土し, 49も北東コーナー部覆土下層から出土しており, 本跡に伴うものと考えられる。中央部から多量に出土した土師器片は覆土下層からの出土であるが, 住居廃絶直後に投棄されたものと考えられる。また, 壁際から中央部床面に向かって傾斜した状態で出土した炭化材は角材で, 上層構築のために使用された木材と考えられる。M11は掘り方面から出土し, 住居構築時に混入したと考えられる。須恵器片, 敵石は第2層に含まれ, 後世の混入と考えられる。

所見 出土土器は細片のため器種全体を明確にすることはできないが, いずれも北東壁際・北東コーナー部の床面及び下層からの出土である。また, 炭化材はこれらの土器と同じ高さもしくは上面で確認されており, 本跡の焼失は住居廃絶と同時に考えられる。時期は床面や覆土下層の出土土器から, 6世紀後半である。

第11号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
46	土師器	坪	14.41	5.9		灰石	にぶい橙	普通	700℃前後(約)で焼成(中)	北東壁際下層	90%, PL22
47	土師器	鉢	16.2	8.3	8.5	灰石	橙	普通	700℃前後(約)で焼成(中)	北東壁際下層	40%, PL22
48	土師器	甕	13.81	(7.3)		長石・石英	にぶい赤褐色	普通	700℃前後(約)で焼成(中)	北コーナー部	10%
49	土師器	甕	25.8	33.9	10.0	長石・石英	橙	普通	700℃前後(約)で焼成(中)	覆土中	30%, PL22

番号	器種	径	高さ	口径	底径	胎土	色調	手法の特徴	出土位置	備考	
DP10	小	丸	L0	0.7	0.3	0.7	砂粒	色	ナマ	北東壁際床面	100%, PL36

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	材質	特徴	出土位置	備考	
Q3	炭	石	11.9	9.9	3.3	676.0	安山岩	首尾両側に溝を有し, 穴開き付いている。	出入口付近中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	材質	特徴	出土位置	備考	
M11	刀	子	(3.7)	0.8	0.3	(1.6)	鉄	基部の破片, 基部・刃部欠損	掘り方	10%, PL28

### 第13号住居跡(第86・87図)

位置 調査区中央部, C5j2区の緩斜面部に立地し, 東部には第2号方形周溝墓, 南には第17号住居跡, 西には第3号溝が位置している。

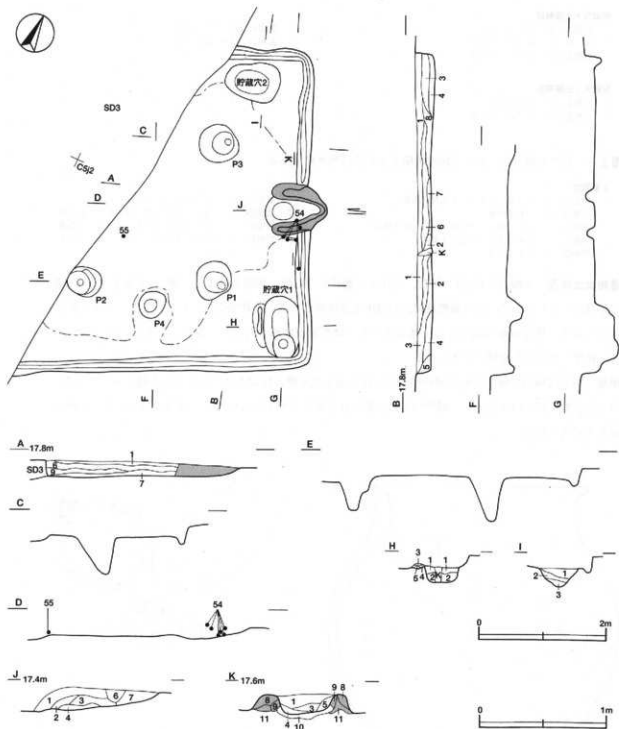
規模と形状 西側を第3号溝跡に掘り込まれているため全体の形状は把握できないが, 長軸5.20m, 短軸4.70mで, 主軸はN-65°-Eである。壁高は19~33cmで, 各壁は直立している。

床 ほぼ平坦であり, 全面がよく踏み固められ, 炭溝が全周している。

竈 北東壁中央部に付設され, 砂質粘土とロームで構築されている。天井部は耕作による削平のため残存していない。規模は, 焚口から煙道部までの最大長96cm, 両袖部幅81cmである。第2~4層は燃焼部で, 焼土粒子や灰が比較的多く含まれている。煙道部は壁外へ28cm掘り込み, 煙道は緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- |         |                              |            |                                  |
|---------|------------------------------|------------|----------------------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量, 焼土ブロック微量  | 7 暗 赤 褐 色  | ローム粒子中量, 焼土ブロック少量, 炭化物・粘土粒子・砂粒微量 |
| 2 赤 褐 色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子少量, 粘土粒子・砂粒微量 | 8 灰 褐 色    | 粘土粒子・砂粒中量, ロームブロック・焼土粒子微量        |
| 3 極暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 粘土粒子・砂粒微量      | 9 暗 赤 褐 色  | 粘土粒子・砂粒中量, 焼土粒子少量・炭化粒子微量         |
| 4 暗 褐 色 | 焼土粒子・粘土粒子・砂粒・灰少量             | 10 暗 赤 褐 色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量, 炭化粒子微量  |
| 5 赤 褐 色 | 粘土粒子中量, 焼土ブロック・砂粒微量          | 11 暗 褐 色   | ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量                  |
| 6 灰 褐 色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック少量, 粘土粒子・砂粒微量 |            |                                  |



第86図 第13号住居跡実測図

ピット 4か所。P1～3は、深さ59～71cmで主柱穴である。P4は深さ20cmで南東壁寄りの中間に位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は南東コーナー部に付設され、長径96cm、短径58cmの楕円形である。底面は南東部が一段低く掘り込まれ、深さは41cmで、壁は外傾して立ち上がっている。また、貯蔵穴1の周囲にはロームが馬の背状に貼付されていた。貯蔵穴2は北東コーナー部に付設された長径86cm、短径52cmの不定形の貯蔵穴で深さは30cmである。底面は平坦で壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴1土層解説

- |                 |               |
|-----------------|---------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子中量   | 4 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 褐色 ロームブロック中量  | 5 暗褐色 ローム粒子中量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量 |               |

貯蔵穴2土層解説

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子中量   | 3 黒褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 |                 |

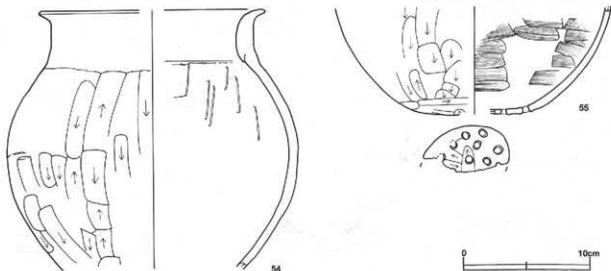
覆土 9層に分層され、レンズ状の堆積を示した自然堆積である。

土層解説

- |                           |                                   |
|---------------------------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量    | 6 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・砂粒微量           |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量             | 7 暗褐色 ローム粒子・砂粒少量、炭化粒子・粘土粒子微量      |
| 3 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量         |
| 4 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量      | 9 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 ローム粒子少量             |                                   |

遺物出土状況 土師器片199点(坏12, 高坏4, 甕173, 瓶10), 須恵器片1点(甕), 土製品1点(支脚), 鉄滓1点が出土している。54は竈燃焼部, 55は中央部床面から浮いた状態で出土しているが、本跡に伴うものと考えられる。覆土中から出土した土師器片の多くは断面が摩滅しており、混入したものと考えられ、須恵器片・鉄滓(M24)も同様と考えられる。

所見 調査区域内で確認された同時期の住居跡で竈が北東壁に付設されているのは本跡のみであった。また、出土した瓶(55)は多孔式で、同型のものは他の住居跡から出土していない。時期は出土土器などから6世紀後半と考えられる。



第87図 第13号住居跡出土遺物実測図

第13号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
54	土師器	釜	19.6	20.7	—	長石	にじい橙	普通	体部裏へ内面内面へナナ	竈燃焼部	30%, PL22
55	土師器	瓶	—	8.6	—	長石・石英	明赤褐	普通	体部裏へ内面内面へナナ	中央部下部	10%

第17号住居跡 (第88図)

位置 調査区中央部, D5 b2区の緩斜面部に立地し, 北には第13号住居跡が位置している。

重複関係 南東コーナーが遺存するのみで, 第3号溝に掘り込まれている。

規模と形状 確認された長軸は4.18m, 短軸は2.25mで, 南東コーナーは直角で平面上は方形または長方形と考えられ, 壁高は16cmで, 各壁は直立している。

床 ほぼ平坦であり, P1周辺がよく踏み固められ, 壁溝は確認された壁下を巡っている。

ピット 確認されたピットは1か所で, コーナー寄りに位置することから支柱穴の一部と考えられる。

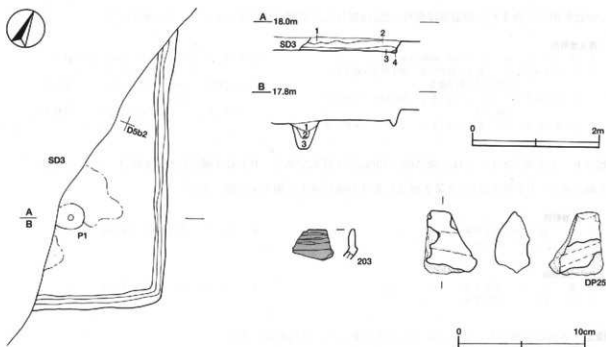
P1土層解説

- |                 |               |
|-----------------|---------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子中量   | 3 暗褐色 ローム粒子多量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 |               |

覆土 4層に分層され, レンズ状の堆積を示した自然堆積である。

土層解説

- |                          |                       |
|--------------------------|-----------------------|
| 1 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 3 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量          | 4 黒褐色 ローム粒子中量         |



第88図 第17号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片21点（環3，甕18），土製品1点（羽口），縄文土器片1点が出土している。覆土中から出土した土師器片は混入で，羽口，縄文土器片も同様と考えられる。203の口縁部は本跡に伴うものと考えられる。

所見 本跡は大部分を第3号溝に掘り込まれ形状を明確にすることができず，遺構に伴う土器は少ないが，時期は6世紀代と考えられる。

#### 第17号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
203	土師器	環	—	(24)	—	長石・石英	灰褐色	普通	口縁部へ7割3厘斜削面へ7割	覆土中	3%

番号	器種	長さ	径	口径	高さ	胎土	色調	下地の特徴	出土位置	備考
D125	環	口 (43)	—	—	42.9	長石・石英	橙	ヘラ削り	覆土中	

#### 第18号住居跡（第89・90岡）

位置 調査区中央部東側，E6 d3区の緩斜面部に立地し，東には第25号住居跡が位置している。

規模と形状 南東部が調査区域外のため調査できなかったが，長軸4.82m，短軸3.50mの方形または長方形で，主軸はN-43°-Wである。壁高は13~23cmで，各壁はほぼ直立している。

床 ほぼ平坦であり，中央部がよく踏み固められ，壁溝は北西壁の一部以外の壁下に確認された。

壁 北西壁中央部に付設され，砂質粘土とロームで構築され，天井部は耕作による削平のため遺存していない。規模は，焚口から煙道部までの最大長112cm，両袖部幅93cmである。第3層は燃焼部で，焼土粒了，炭化粒子が比較的多く含まれ，煙道部は壁外へ22cm掘り込んで緩やかに立ち上がり，その後直立する。

##### 覆土層解説

- |         |                               |         |                             |
|---------|-------------------------------|---------|-----------------------------|
| 1 暗褐色   | ローム粒子中量，砂粒少量                  | 5 暗赤褐色  | 砂粒少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 2 濃い赤褐色 | ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量 | 6 濃い赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量    |
| 3 暗赤褐色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量     | 7 灰褐色   | ローム粒子中量，粘土粒子・砂粒少量           |
| 4 暗赤褐色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量          |         |                             |

ピット 2か所。P1・2は，深さ69~73cmで主柱穴である。P1第3層とP2第3層は，しまりの弱い柱抜き取り痕で，P1第2層とP2第2層はしまりの強い埋土に相当する層である。

##### P1土層解説

- |      |         |      |              |
|------|---------|------|--------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量 | 3 褐色 | ローム粒子少量，砂粒微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子多量 |      |              |

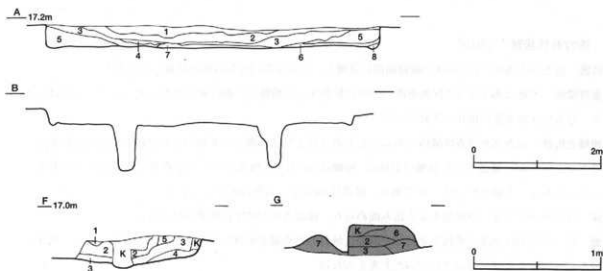
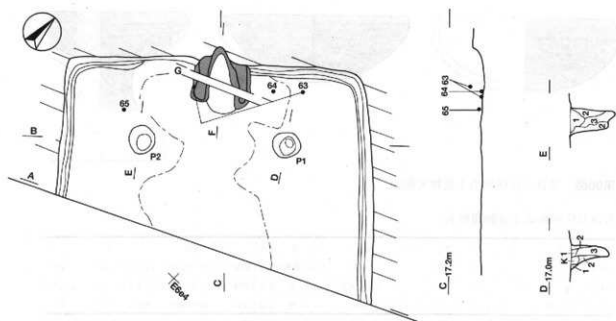
##### P2土層解説

- |      |         |      |              |
|------|---------|------|--------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量 | 3 褐色 | ローム粒子多量，砂粒微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子多量 |      |              |

覆土 8層に分層され，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

##### 土層解説

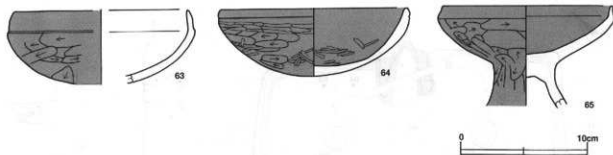
- |       |                |       |                  |
|-------|----------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子中量          |
| 2 暗褐色 | ロームブロック微量      | 6 暗褐色 | ローム粒子多量，焼土ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量        | 7 暗褐色 | ローム粒子多量          |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量        | 8 暗褐色 | ローム粒子多量          |



第89図 第18号住居跡実測図

**遺物出土状況** 土師器片191点(坏20, 高坏18, 甕153), 須恵器片1点(高台付坏), 鉄製品2点(不明), 陶器片3点, 磁器片3点が出土している。63~65は床面からの出土で本跡に伴うものである。覆土中から出土した土師器片の多くは混入したもので、須恵器片, 鉄製品, 陶磁器片もこれである。

**所見** 本跡の南東部が調査区域外のため形状を明確にすることができなかったが, 床面から良好な土器が出土し, 時期は6世紀後半と考えられる。



第90図 第18号住居跡出土遺物実測図

第18号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
63	土器	坏	[13.8]	(5.8)	—	石英	にぶい黄橙	普通	口縁部斜下が深長形へう形内面ナ	北東壁寄り床面	40%, PL23
64	土器	坏	14.8	5.4	—	長石・石英	にぶい黄	普通	口縁部斜下が深長形へう形内面ナ	北東壁寄り床面	60%, PL23
65	土器	器高 坏	13.5	(8.1)	—	砂粒	にぶい橙	普通	口縁部斜下が深長形へう形内面ナ	北西壁寄り床面	65%

### 第27号住居跡 (第91図)

**位置** 調査区中央部、D4 e0区の緩斜面部に立地し、北には第13号住居跡が位置している。

**重複関係** 本跡は第3号方形区画東溝の中央に位置する土橋跡の上面に確認され、北コーナーと南コーナーを第3号方形区画東溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 北西部が調査区域外であることと第3号方形区画溝との重複のため全体の形状を把握することはできなかったが、確認された長軸は3.90m、短軸は3.82mで、南東コーナーが直角であることから方形であると考えられる。主軸はN-24°-Wであり、壁高は28cmで、各壁は直立している。

**床** はほぼ平坦であり、中央部がよく踏み固められ、確認された壁下に壁溝が見られる。

**竈** 第3号方形区画溝の重複と北西部が調査区域外のため竈を明確にすることができなかったが、火床面の位置から北西壁中央部に付設されていたと考えられる。

**ピット** 3か所。P1・2は深さ41~55cmで主柱穴である。P3は南東壁中央部よりに位置するため出入口施設に伴うピットと考えられる。

**覆土** 3層に分層され、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

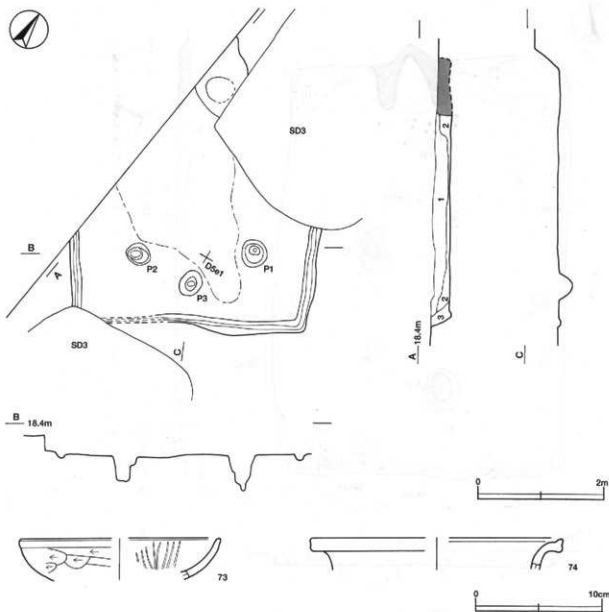
#### 土層解説

- |                        |                        |
|------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |                        |

**遺物出土状況** 土器器片14点(坏3, 高坏1, 甕10)が出土し、73・74は覆土下層から出土している。

**所見** 本跡の北西部が調査区域外であることと第3号方形区画溝と重複しているため全体の形状を明確にすることができなかったが、時期は出土土器から7世紀代と考えられる。





第91図 第27号住居跡・出土遺物実測図

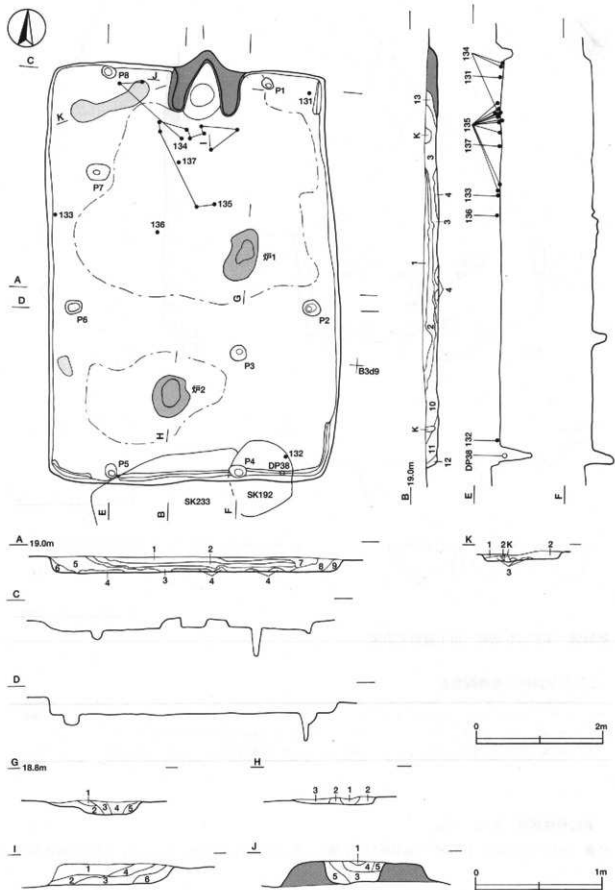
第27号住居跡出土遺物観察表

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 質	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
73	土 器	杯	[15.8]	( 3.3)	—	砂粒	橙	普通	各部外周へうねり内面放射状の幅絞	覆土下層	5%
74	土 器	葉	[19.8]	( 2.5)	—	砂粒	にぶい橙	普通	下縁部縮みナデ	覆土下層	5%

### 第52号住居跡 (第92・93図)

位置 調査区西部北側, B 3 c 8 区の緩斜面部に立地し, 西には第51号住居跡, 南には第3号方形区画溝が位置している。

重複関係 南部で第192・233号土坑を掘り込んでいる。



第92图 第52号住居跡実测图

**規模と形状** 長軸6.70m、短軸4.62mの長方形で、主軸はN-4°-Wである。壁高は12~28cmで、各壁は直立している。

**床** ほぼ平坦であり、中央部から北部と炉2の周辺部がよく踏み固められ、壁溝は南壁と北東壁下に確認された。

**焼土塊** 炭化材を含む焼上の塊が北西コーナーと南西コーナー寄りの西壁際に確認された。この焼土塊は、ロームブロックを多く含む堆積層と同じ層位で確認されており住居焼失時のものと考えられる。

**焼土層解説**

- |        |                        |       |                |
|--------|------------------------|-------|----------------|
| 1 暗赤褐色 | ローム粒子中量、焼上ブロック・炭化物少量   | 3 黒 色 | ローム粒子多量、焼土粒子少量 |
| 2 黒 褐色 | ロームブロック・炭化材少量、焼上ブロック微量 |       |                |

**炉** 2か所。炉1は中央部からやや東寄りに付設され、長径86cm、短径45cmの不定形を呈し、10cmほど掘り窪められて皿状を呈している。炉2は中央部から南壁寄りに付設され、長径66cm、短径58cmの楕円形を呈し、5cmほど掘り窪められて皿状を呈している。

**炉1土層解説**

- |          |                  |        |                |
|----------|------------------|--------|----------------|
| 1 にぶい赤褐色 | ローム粒子・焼上ブロック中量   | 4 暗赤褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量 |
| 2 にぶい赤褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量   | 5 暗 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 3 暗 赤 褐色 | ロームブロック・焼上ブロック中量 |        |                |

**炉2土層解説**

- |        |                  |        |                |
|--------|------------------|--------|----------------|
| 1 黒 褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量   | 3 黒 褐色 | ロームブロック・焼土粒子中量 |
| 2 暗赤褐色 | ロームブロック・焼上ブロック中量 |        |                |

**竈** 北壁中央部に付設され、砂質粘土で構築されている。焚1から煙道部までの最大長は111cm、両袖部幅は113cmで、天井部は崩落している。第2~6層は燃焼部に堆積した焼土層で、煙道部は外壁へ60cm延び、火床面から外傾して立ち上がっている。

**竈土層解説**

- |          |                                 |        |                               |
|----------|---------------------------------|--------|-------------------------------|
| 1 暗赤褐色   | 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量           | 4 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、粘土粒子・砂粒少量、ローム粒子微量      |
| 2 暗 赤 褐色 | 焼上ブロック中量、粘土粒子・砂粒少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 暗 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量          |
| 3 暗 赤 褐色 | 焼土粒子多量、粘土粒子・砂粒少量、ローム粒子微量        | 6 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、粘土粒子・砂粒少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |

**ピット** 8か所。P1・P3~P6・P8は、深さ14~52cmで主柱穴であり、特異な上層構造と考えられる。

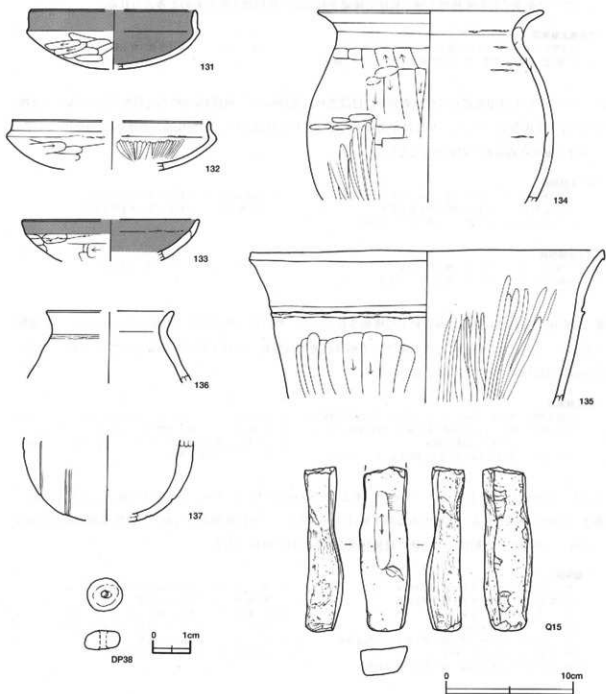
**覆土** 13層に分層される。下層である第4層はロームブロックを比較的多く含み、不自然な堆積状況を示す人為的堆積で、中層から上層はレンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

**土層解説**

- |        |                      |         |                      |
|--------|----------------------|---------|----------------------|
| 1 黒 色  | ローム粒子少量、焼土粒子微量       | 8 黒 色   | ローム粒子少量、炭化物微量        |
| 2 暗 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量       | 9 明 褐色  | ロームブロック中量            |
| 3 黒 色  | ローム粒子少量              | 10 暗 褐色 | ローム粒子・砂粒少量、焼土粒子微量    |
| 4 明 褐色 | ローム粒子少量              | 11 黒 色  | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物微量 |
| 5 黒 色  | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量 | 12 黒 色  | ロームブロック微量            |
| 6 明 褐色 | ロームブロック中量            | 13 暗 褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量         |
| 7 明 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量   |         |                      |

**遺物出土状況** 土師器片868点(坏15、甕853)、須恵器片16点(坏13、フラスコ瓶1、甕2)、土師質土器片2点、陶器片1点、土製品9点(支脚4、小玉1、不明4)、石製品1点(砥石)が出上している。竈子前からは散在した状態で多くの土師器片や須恵器片が出上している。Q15は覆土下層から床面の出土で、I31・I33~I37も同様である。また、I32・DP38は南東コーナー寄りの覆土下層から壁溝底面にかけてそれぞれ出土している。

所見 調査区域内に、南北軸が長く、住居内に竈と炉が付設されている同時期の住居跡は検出されていないが、時期は出土土器から6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。また、本跡の遺物は床面及び覆土下層からの出土が多く、同じ層位から焼土が出土しているため住居廃絶前に焼失したものと考えられる。また、柱穴は南北壁のものが対になり、P2・6が棟持ち柱と想定され、特異な上屋構造と想定される。



第93図 第52号住居跡出土遺物実測図

### 第52号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴	出土位置	備考
131	土師器	杯	13.0	4.7	—	砂粘	にぶい色	普通	器底に内面が削ア	北東コーナー床面	40%, PL21
132	土師器	杯	16.6	4.0	—	石英	にぶい色	普通	器底に内面が削ア	南東コーナー床面	20%
133	土師器	杯	14.0	3.3	—	長石	にぶい色	普通	器底に内面が削ア	西壁部床面	20%
134	土師器	壺	17.9	15.2	—	灰黒	普通	器底に内面が削ア	東側壁部床面	40%, PL25	
135	土師器	壺	27.8	12.2	—	雲母・長石	にぶい色	普通	器底に内面が削ア	北西コーナー床面	20%
136	土師器	小形壺	9.8	5.7	—	砂粘	黒	普通	器底が削ア	中央部下層	15%
137	灰土器	長頸瓶	—	6.5	—	砂粘	灰白	普通	器底が削ア	北西コーナー床面	10%, プラスコ製

番号	器種	径	高さ	口径	器高	胎土	色調	地成	手法の特徴	出土位置	備考	
DP38	小	3	0.9	0.4	0.2	0.3	—	黒	普通	器底に内面が削ア	南東コーナー隅部	PL36

番号	器種	径	高さ	口径	器高	胎土	色調	地成	特徴	出土位置	備考
Q15	灰土	石	13.0	3.9	2.3	0.9	—	黒灰岩	方柱状片角欠底、底径4cm	東土層	PL36

### 第54号住居跡 (第94~98区)

位置 調査区西部北側、B3d8区の緩斜面部に立地し、南には第56号住居跡が位置している。

重複関係 中央部を第3号方形区画溝に、北壁を第233号十坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.58m、短軸7.51mの方形で、主軸は、N-18°-Wである。壁高は32~36cmで、各壁はやや外傾している。

床 はほぼ平坦であり、P2周辺部と北壁から中央部にかけてよく踏み固められ、壁溝は北西コーナーを除き、全周していたと考えられる。また、北西コーナーには焼土の広がりが確認された。

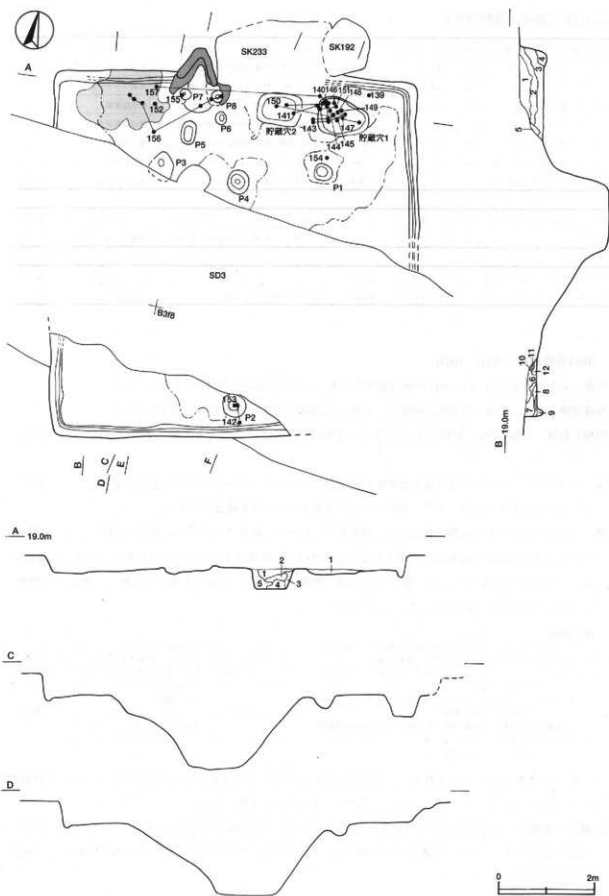
竈 北壁中央部よりやや西側に付設され、砂質粘土とロームで構築されている。袖部の部材として土師器が利用され、逆位の状態で両袖部から出土している。焚口から煙道部までの最大長は134cm、両袖部幅は123cmであり、天井部は崩落している。第2・5層は、燃焼部に堆積した焼土を多く含む層で、煙道部は壁外へ56cm伸び、火床面から緩やかに立ち上がっている。

#### 竈土層解説

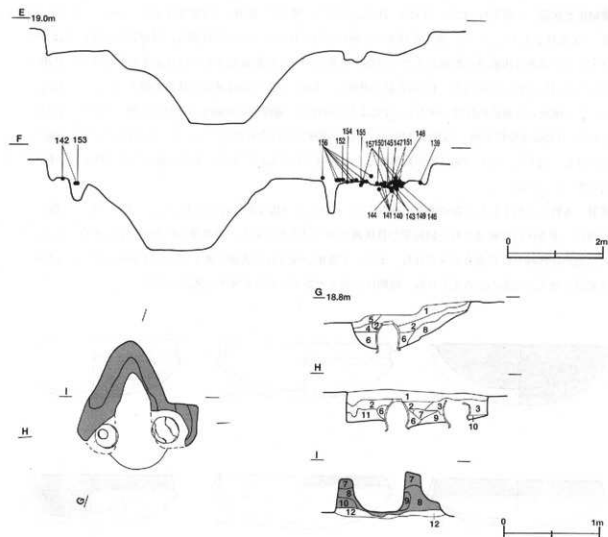
1 暗褐色	粘土粒子・砂粘多量、焼土粒子中量、ローム粒子少量	7 箱	色	粘土粒子・砂粘中量、ローム粒子少量
2 暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粘中量	8	にぶい褐色	粘土粒子・砂粘多量、赤化した粘土粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粘少量、炭化粒子微量	9	にぶい赤褐色	赤化した粘土粒子中量、粘土粒子・砂粘少量
4 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・粘土粒子・砂粘少量、炭化粒子微量	10	褐色	粘土粒子・砂粘少量、ローム粒子・赤化した粘土粒子少量
5 暗赤褐色	粘土粒子・砂粘中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	11	暗赤褐色	ローム粒子・焼土ブロック中量、炭化物・砂粘微量
6 黒褐色	粘土粒子・砂粘中量、焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量	12	褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック微量

ピット 6か所。P1・5は主柱穴で、深さ25~68cmである。P2は深さ47cmで南東壁寄りの中央に位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。他のピットの性格は不明である。

貯蔵穴 竈東側に2か所付設され、貯蔵穴1は長径110cm、短径68cmの楕円形であり、11cm掘り溜められ、底面は皿状を呈している。貯蔵穴2は長軸94cm、短軸64cmの長方形を呈して43cm掘り溜められ、底面は平坦で壁は外傾している。



第94图 第54号住居跡实测图(1)



第95図 第54号住居跡実測図(2)

貯蔵穴1土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・炭化物少量

貯蔵穴2土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量  
 2 褐色 ロームブロック少量  
 3 褐色 ローム粒子少量

- 4 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

- 5 褐色 ロームブロック少量

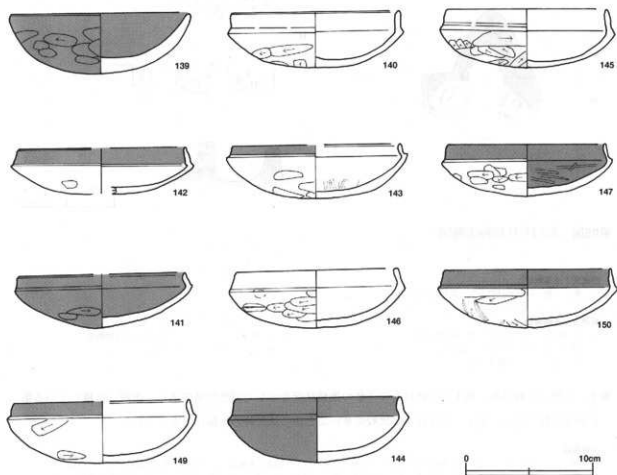
覆土 12層に分層され、第1～5層はレンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。南側に堆積している第7～12層は下層であり、焼土・炭化粒子が比較的多いことから焼失時の堆積層と考えられる。

土層解説

- |       |                       |         |                     |
|-------|-----------------------|---------|---------------------|
| 1 褐色  | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 濃い赤褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック微量    |
| 2 褐色  | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 赤褐色   | 焼土ブロック少量、炭化粒子微量     |
| 3 褐色  | ロームブロック少量、焼土粒子微量      | 9 暗赤褐色  | 焼土ブロック少量、炭化粒子微量     |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量             | 10 暗褐色  | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 褐色  | ロームブロック少量             | 11 暗褐色  | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 褐色  | ローム粒子少量、焼土粒子微量        | 12 暗褐色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量   |

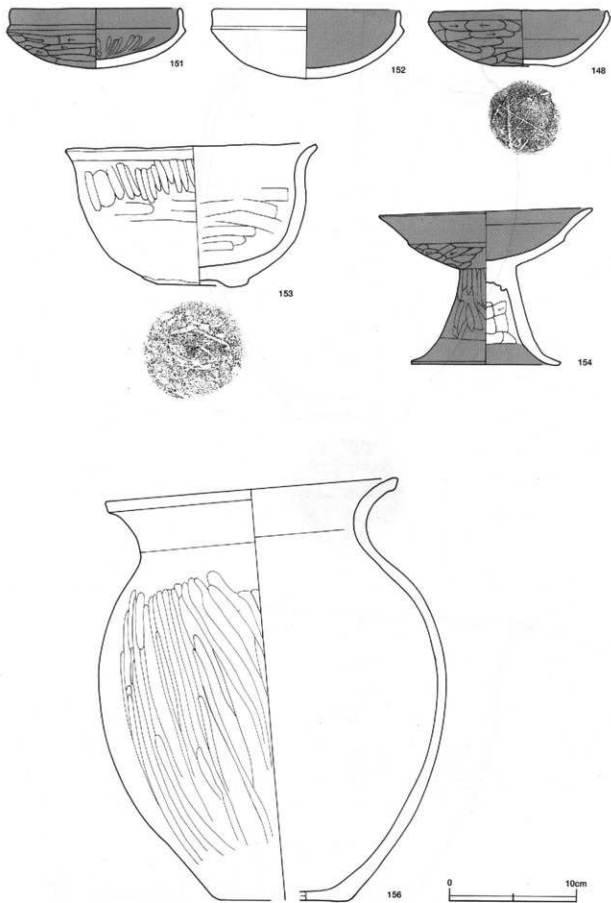
遺物出土状況 土師器片342点(坏125, 鉢2, 高坏7, 甕187, 甌21), 須恵器片2点(坏), 土製品1点(支脚), 炭化材が出土している。覆土上層から中層にかけて出土している土師器片, 須恵器片は量的には少なく, ほとんどの遺物は床面及び貯蔵穴1からの出土である。とくに貯蔵穴1からは坏が重なり合うように出土し, 図示した141・143~146・149~151は正位の状態, 140・147・148は逆位の状態で出土している。139は北東コーナー床面から逆位の状態で出土し, 152は大形の坏で, 竈西側の床面から正位の状態と157とともに出土している。142は南壁際床面, 153はP2内から正位の状態それぞれ出土している。154はP1北側の床面から横位の状態で出土し, 155・156は竈の袖部材として利用されたものである。また本跡からは, 焼土とともに炭化材が出土している。

所見 本跡から出土した土器の構成比をみると, 高坏1点の他は供膳具の出土が多く, 次いで煮沸土器である。本跡は, 調査区内で確認された同時期の住居跡の中では大形であり, 竈構架やP2内に鉢が埋納されている点など他の住居跡とは相違点がみられた。また, 土器類が残された状態で焼土・炭化材が出土しているため住居廃絶前に焼失したものと考えられる。時期は, 出土土器から6世紀後半と考えられる。

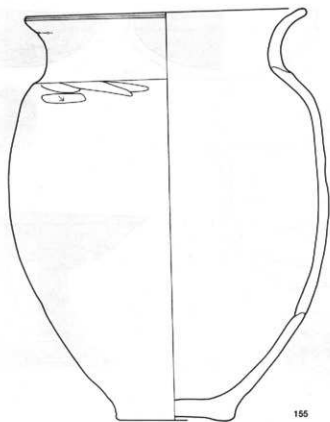


第96図 第54号住居跡出土遺物実測図(1)

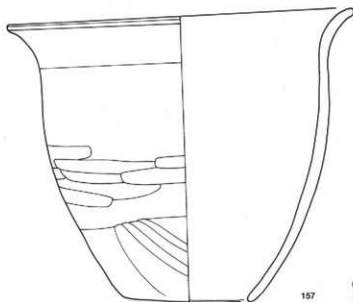
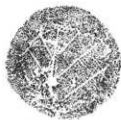




第97图 第54号住居跡出土遺物実測図(2)



155



157



第98図 第54号住居跡出土遺物実測図(3)

第54号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色澤	焼成	丁法の特徴	出土位置	備考
130	土師器	杯	14.0	4.7	—	炭粒・赤色粒子	褐色	普通	割線・割線跡	北東コーナー床面	88%, PL24
140	土師器	杯	13.2	4.1	—	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	割線・割線跡	貯蔵穴1底面	75%, PL21
141	土師器	杯	[13.1]	4.2	—	長石・赤色粒子	にぶい黄	普通	割線・割線跡	貯蔵穴1底面	50%, PL24
142	土師器	杯	[18.2]	3.6	—	長石	にぶい黄	普通	割線・割線跡	西壁床面	30%, PL24
143	土師器	杯	[13.3]	4.3	—	長石・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	割線・割線跡	貯蔵穴1底面	90%, PL21
144	土師器	杯	13.0	5.1	—	石英	にぶい黄	普通	割線・割線跡	貯蔵穴1底面	90%, PL24
145	土師器	杯	12.6	4.6	—	石英・黒石	にぶい赤褐色	普通	割線・割線跡	貯蔵穴1底面	90%, PL24
146	土師器	杯	12.8	4.7	—	赤色粒子	明褐色	普通	割線・割線跡	貯蔵穴1底面	90%, PL21
147	土師器	杯	12.5	4.1	—	砂粒	にぶい黄褐色	普通	割線・割線跡	貯蔵穴1底面	95%, PL24
148	土師器	杯	13.9	4.5	3.0	砂粒	にぶい黄	普通	割線・割線跡	貯蔵穴1底面	90%, PL24
149	土師器	杯	[13.8]	4.9	—	長石・赤色粒子	黄	普通	割線・割線跡	貯蔵穴1底面	90%, PL21
150	土師器	杯	13.1	4.6	—	長石	にぶい黄	普通	割線・割線跡	貯蔵穴1底面	80%, PL24
151	土師器	杯	13.4	4.7	—	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	割線・割線跡	貯蔵穴1底面	98%, PL24
152	土師器	杯	14.6	5.4	—	長石・石英	にぶい黄	普通	割線・割線跡	掘内西壁面	98%, PL24
153	土師器	鉢	19.5	11.3	8.2	長石・石英	にぶい黄	普通	割線・割線跡	P 2 土層	90%, PL24
154	土師器	蓋	16.6	12.4	11.7	炭屑・長石	にぶい黄	普通	割線・割線跡	P 2 北壁床面	90%, PL25
155	土師器	甌	21.8	32.7	8.0	長石	にぶい黄褐色	普通	割線・割線跡	掘内北壁	95%, PL25
156	土師器	甌	23.0	33.5	10.6	長石・石英	にぶい黄	普通	割線・割線跡	掘内北壁	90%, PL25
157	土師器	甌	27.0	33.2	9.8	長石・石英	にぶい黄	普通	割線・割線跡	掘内西壁面	93%, PL24

## 第56号住居跡 (第99~101区)

位置 調査区西部北側、B3 8区の緩斜面部に立地し、北には第54号住居跡が位置している。

重複関係 東部を第32号溝と第91号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.96m、短軸5.94mの方形で、主軸はN-18°-Wである。壁高は22~56cmで、各壁は直立している。

床 ほぼ平坦で、床面全体がよく踏み固められており、掘り方はとくに壁際を掘り窪め床を構築し、壁溝が周回している。また、西部に焼土の広がりが確認された。

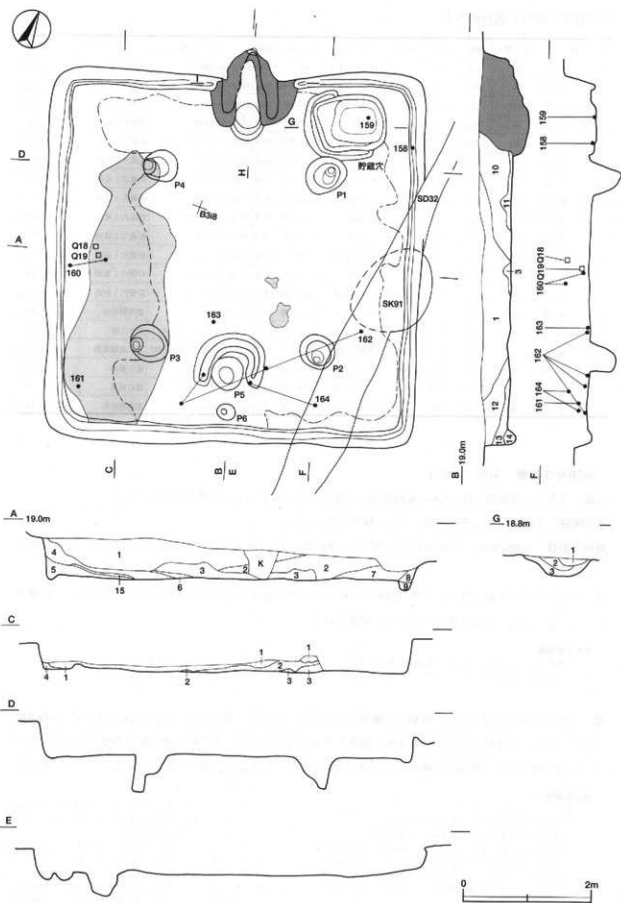
## 掘土層解説

- |        |                      |      |                |
|--------|----------------------|------|----------------|
| 1 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子少量  | 3 褐色 | ロームブロック少量      |
| 2 暗赤褐色 | 炭化物中量、ロームブロック・焼土粒子少量 | 4 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |

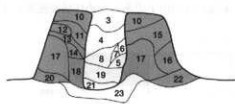
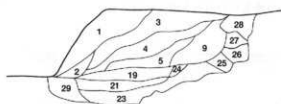
竈 北壁中央部に付設され、砂質粘土で構築されている。焚口から煙道部までの最大長は143cm、両袖部幅は132cmである。第4層は粘土層で天井部が崩落したものと考えられ、第5層や第24層は燃焼部に堆積した焼土を多く含む層である。煙道部は壁外へ53cm掘り込んでおり、火床面から緩やかに立ち上がり、その後直立する。

## 掘土層解説

- |        |                               |           |                               |
|--------|-------------------------------|-----------|-------------------------------|
| 1 褐色   | 粘土粒子中量                        | 8 黒褐色     | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量          |
| 2 黒褐色  | 粘土粒子中量、焼土粒子・砂粒少量              | 9 暗赤褐色    | 焼土粒子・粘土粒子中量、砂粒少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色  | 粘土粒子中量、焼土粒子・砂粒少量              | 10 暗褐色    | ローム粒子・砂粒中量、焼土粒子・炭化粒子微量        |
| 4 灰黄褐色 | 粘土粒子多量、ローム粒子・砂粒少量、焼土粒子少量      | 11 褐色     | ローム粒子・砂粒少量、炭化粒子・粘土粒子微量        |
| 5 暗褐色  | 粘土粒子多量、焼土粒子中量、ローム粒子少量         | 12 褐色     | 砂粒中量、ローム粒子・炭化粒子微量             |
| 6 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量      | 13 暗褐色    | ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量          |
| 7 暗褐色  | 粘土粒子多量、焼土粒子・砂粒少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 14 にぶい赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量          |



第99图 第56号住居跡実測图(1)



第100図 第56号住居跡実測図(2)

- |         |                                 |        |                            |
|---------|---------------------------------|--------|----------------------------|
| 15 褐色   | ローム粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量         | 22 褐色  | ローム粒子中量, 焼土粒子微量            |
| 16 暗褐色  | ローム粒子少量, 炭化粒子・砂粒微量              | 23 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量   |
| 17 褐色   | ローム粒子中量, 焼土粒子・砂粒少量, 炭化粒子・粘土粒子微量 | 24 橙褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・砂粒少量       |
| 18 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量, ローム粒子・砂粒微量    | 25 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物・砂粒少量 |
| 19 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子・粘土粒子微量       | 26 暗褐色 | ローム粒子・焼土ブロック中量, 砂粒微量       |
| 20 暗褐色  | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物・砂粒微量          | 27 褐色  | ローム粒子中量, 砂粒少量              |
| 21 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子少量, ロームブロック・砂粒微量    | 28 褐色  | ロームブロック少量, 焼土粒子少量          |
|         |                                 | 29 暗褐色 | ロームブロック中量                  |

**ピット** 6か所。P1～4は主柱穴で、深さは49～68cmである。P5・6は深さ20～36cmで南壁寄りの中央に位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。また、P5の周囲には、弧状で厚さ6cm程の馬の背状に構築されたロームの高まりが確認された。

**貯蔵穴** 北東コーナーに付設され、長軸80cm, 短軸70cmの長方形を呈し、31cm程掘り窪められている。底面は平坦で、壁は外傾している。また、貯蔵穴の周囲にはP5と同様に弧状で厚さ5cm程の馬の背状に構築されたロームの高まりが確認された。

**貯蔵穴土層解説**

- |       |           |       |         |
|-------|-----------|-------|---------|
| 1 黒色  | ロームブロック少量 | 3 暗褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子多量   |       |         |

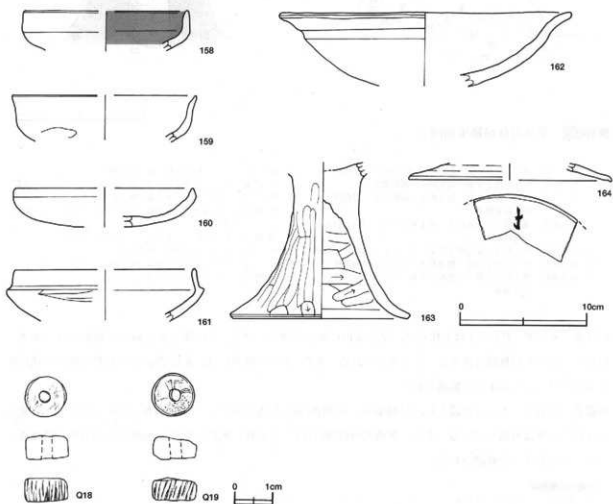
**覆土** 15層に分層され、焼土及び炭化物を含む焼失時の堆積層（上層部）とレンズ状の堆積状況を示した自然堆積（下層部）に分けられる。

**土層解説**

- |       |                           |          |                          |
|-------|---------------------------|----------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | 炭化粒子中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 9 橙褐色    | ローム粒子多量                  |
| 2 褐色  | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量       | 10 におい褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化物・砂粒微量 |
| 3 褐色  | ローム粒子中量, 炭化粒子少量           | 11 暗褐色   | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量     |
| 4 橙褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量           | 12 明褐色   | ロームブロック中量, 炭化粒子微量        |
| 5 明褐色 | ローム粒子多量                   | 13 褐色    | ロームブロック少量, 炭化物微量         |
| 6 赤褐色 | ローム粒子・焼土ブロック中量, 炭化粒子少量    | 14 褐色    | ローム粒子中量                  |
| 7 褐色  | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量      | 15 暗赤褐色  | ローム粒子・焼土粒子中量             |
| 8 明褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子微量           |          |                          |

**遺物出土状況** 土師器片544点（坏53, 高坏23, 甕468）、須恵器片7点（坏2, 蓋4, 甕1）、土師質土器片20点、土製品3点（小玉1, 支脚1, 不明1）、石製品2点（白玉）が出土している。壁際及び床面から出土した158～163は破片で散在した状態で出土しているものがほとんどであるが、本跡に伴うものと考えられる。164は南東壁寄りの自然堆積層から出土し、判読不明であるが外周部内面に墨書されている。また、Q18・19も西壁よりの上層から下層の出土したものであり、後世の混入である。

所見 本跡の時期は出土土器から6世紀後半と考えられる。また、出土した土器はいずれも破片で、焼土層及び床面からの出土であるため住居廃絶後に土器類を投棄して焼失したものと考えられる。



第101図 第56号住居跡出土遺物実測図

第56号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
158	土器	器	環	[12.8]	(3.2)	—	赤色粒子	普通	口縁部ナデ	北東コーナー床面	10%	
159	土器	器	環	[14.4]	(3.7)	—	砂粒	普通	体部外面へう張り内面ナデ	貯蔵穴底面	5%	
160	土器	器	環	[14.0]	(3.1)	—	砂粒	普通	内面割落	西壁寄り中～下層	25%	
161	土器	器	環	[14.2]	(4.0)	—	砂粒	普通	体部外面へう張り内面ナデ	南西コーナー中層	20%	
162	土器	器	高環	22.8	(6.0)	—	長石・石英	にふい煙	普通	体部内・外面とも表面割落	南壁床面	20%
163	土器	器	高環	—	(12.4)	13.6	長石・石英	浅黄煙	普通	脚部外面へう張り内面へう張り	中央部床面	50%
164	瓶	器	蓋	[15.8]	(1.3)	—	砂粒	灰白	普通	外周部凹凸成形	南壁上～中層	内面青[ ]+10%

番号	器種	径	長さ	孔径	重さ	材質	特徴	出土位置	備考	
Q18	白	玉	1.0	0.6	0.3	1.2	澄石	側面が直線的な円筒状、片面穿孔	西壁寄り上層	100%、PL37
Q19	白	玉	1.2	0.5	0.3	1.0	澄石	側面がわずかに膨らむ太筒状、片面穿孔	西壁寄り下層	100%、PL37

第66号住居跡 (第102・103図)

位置 調査区西部、C 3 e8区の平坦部に立地し、南には第71号住居跡が位置している。

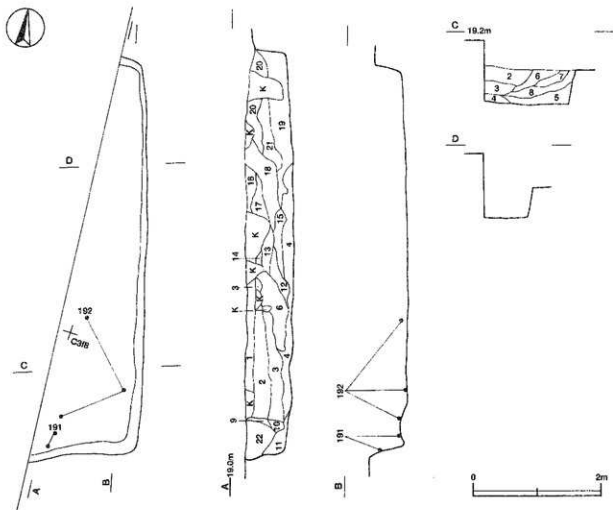
規模と形状 西部の大半が調査区域外のため全体を把握することはできないが、確認された長軸は6.30m、短軸は1.50mで、形状は方形または長方形と考えられ、主軸はN-14°-Wである。壁高は42~46cmで、各壁はやや外傾している。

床 ほぼ平坦で、やや締まりがある。

覆土 22層に分層され、不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

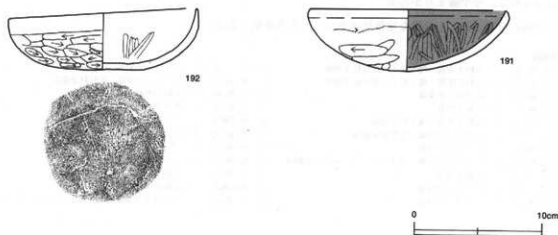
- |        |                         |        |                       |
|--------|-------------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量     | 12 黒色  | ロームブロック少量             |
| 2 黒褐色  | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量     | 13 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量      |
| 3 黒褐色  | ロームブロック少量               | 14 暗褐色 | ローム粒子中量               |
| 4 暗褐色  | ローム粒子中量                 | 15 黒褐色 | ロームブロック少量             |
| 5 暗褐色  | ローム粒子多量、焼土粒子微量          | 16 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量      |
| 6 黒色   | ロームブロック少量、炭化粒子微量        | 17 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量      |
| 7 黒褐色  | ロームブロック少量               | 18 暗褐色 | ロームブロック少量             |
| 8 暗褐色  | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 19 暗褐色 | ロームブロック中量             |
| 9 黒褐色  | ローム粒子多量                 | 20 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子微量        |
| 10 黒色  | ロームブロック少量               | 21 暗褐色 | ローム粒子中量               |
| 11 黒褐色 | ロームブロック少量               | 22 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |



第102図 第66号住居跡実測図

**遺物出土状況** 土師器片64点（坏27，皿1，甕36），土師質土器片14点，炭化種子1点が出土している。191は南壁際の覆土上層から下層にかけて出土し，192は中央部から南壁寄りの覆土下層から床面にかけての出土である。N4は覆土中層から出土している。

**所見** 本跡は西部が調査区域外であるため全体の形状を把握することができないが，時期は出土土器から6世紀後半と考えられる。



第103図 第66号住居跡出土遺物実測図

第66号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
191	土師器	坏	15.6	4.9	—	石英	灰褐色	普通	体部外面へう張り内面へう張り	南壁際上～下層	80%, PL25
192	土師器	坏	14.8	5.0	—	砂粒	にぶい橙	普通	体部外面へう張り内面へう張り	南壁寄り下層～床面	75%, PL25

### 第73号住居跡（第104～106図）

**位置** 調査区西部，C4区の平坦部に立地し，西には第74号住居跡が位置している。

**重複関係** 西部を第140号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸4.94m，短軸3.85mの長方形で，主軸はN-20°-Wである。壁高は38～42cmで，各壁は直立している。

**床** ほほ平坦であり，全面がよく踏み固められ，壁溝がほほ全周している。

**竈** 北西壁中央部に付設され，砂質粘土とロームで構築されている。焚口から煙道部までの最大長は156cm，両袖部幅は107cmである。上層部の第1・2・5・7層は粘土層で，天井部が崩落したものと考えられ，第3・4・6・8層は燃焼部に堆積した焼土を多く含む層である。また，煙道部は壁外へ34cm掘り込んでおり，火床面から平坦に掘り込まれた後，外傾して立ち上がる。

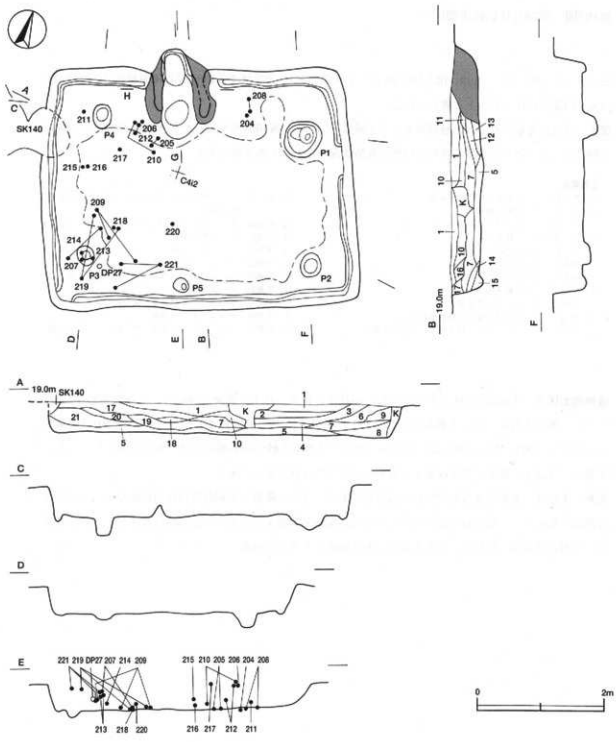
#### 覆土層解説

- |        |                       |          |                                |
|--------|-----------------------|----------|--------------------------------|
| 1 褐色   | 粘土粒子多量，ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 4 にぶい赤褐色 | 粘土粒子多量，焼土粒子中量，ロームブロック少量，炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色  | 粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子少量 | 5 褐色     | 粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量          |
| 3 暗赤褐色 | 粘土粒子多量，焼土粒子中量，炭化粒子微量  |          |                                |

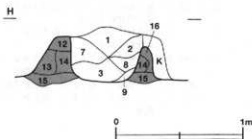
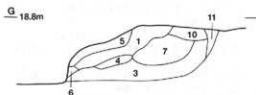


- 6 暗赤褐色 粘土粒子中量, ローム粒子・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 7 褐色 粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 にぶい赤褐色 粘土粒子・赤化した粘土粒子少量, ローム粒子・焼土ブロック・炭化物微量
- 9 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 10 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物・粘土粒子微量

- 11 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 12 褐色 砂粒少量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 13 にぶい褐色 粘土粒子多量, 砂粒少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・赤化した粘土粒子微量
- 14 暗赤褐色 砂粒少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・赤化した粘土粒子微量
- 15 黒褐色 ロームブロック・炭化物・砂粒微量
- 16 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・砂粒微量



第104図 第73号住居跡実測図(1)



第105図 第73号住居跡実測図(2)

ピット 5か所。P1～4は、深さ10～30cmで主柱穴である。P5は深さ10cmでの南東壁寄りの中央に位置し、出入口施設に伴うピットと考えられる。

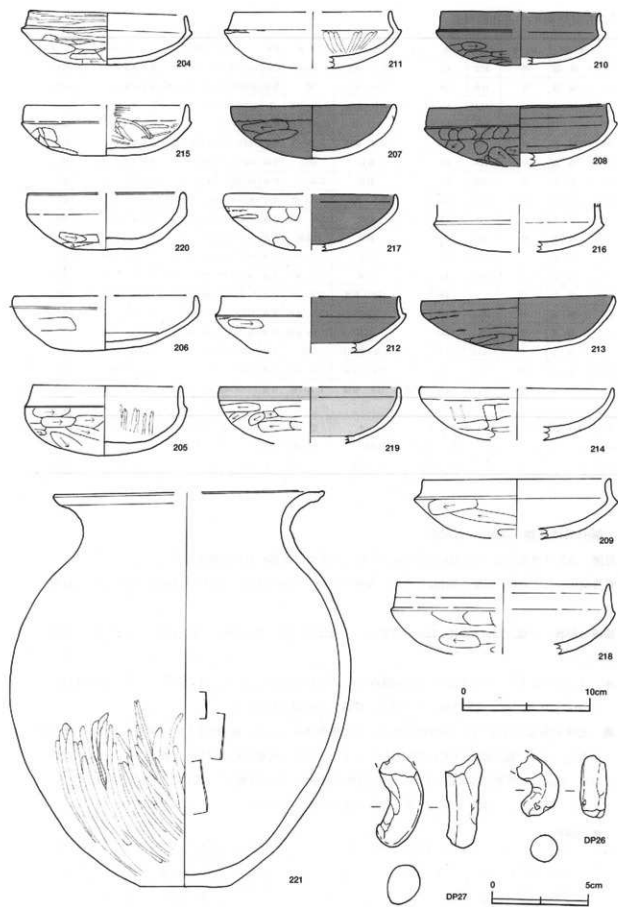
覆土 21層に分層される。上層部の第1～4層はレンズ状の堆積状況を示した自然堆積であり、下層の第5～21層はロームブロックを多く含む不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- |        |                     |        |                            |
|--------|---------------------|--------|----------------------------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子・炭化粒子少量        | 12 褐色  | ローム粒子中量、粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒色   | ローム粒子微量             | 13 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量   |
| 3 黒色   | ロームブロック少量           | 14 暗褐色 | ローム粒子中量                    |
| 4 黒色   | ローム粒子少量             | 15 黒褐色 | ローム粒子中量                    |
| 5 褐色   | ロームブロック多量           | 16 黒褐色 | ロームブロック少量                  |
| 6 黒褐色  | ロームブロック少量           | 17 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量      |
| 7 暗褐色  | ロームブロック中量           | 18 黒褐色 | ローム粒子少量                    |
| 8 暗褐色  | ローム粒子中量             | 19 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量           |
| 9 暗褐色  | ロームブロック少量           | 20 黒褐色 | ロームブロック少量                  |
| 10 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量      | 21 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量      |
| 11 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |        |                            |

遺物出土状況 土師器片が1,273点（坏275，高坏4，埴3，鉢1，甕987，甔3），土師質土器片230点，陶器片2点，縄文土器片3点，土製品3点（勾玉1，不明2），礫6点が出土している。204・208は竈東側の床面から出土し，205～207・209～221・DP26・27などは西部上層から床面にかけて多量に出土している。土師質土器片，陶器片，縄文土器片は覆土上層からの出土で後世の混入である。

所見 本跡は，小形で東西方向に長い長方形である。また，隣接する同時期の住居跡がなく，遺物の出土状況も西部に集中し，土製の勾玉が混入しているため集落を廃絶するにあたり祭祀的行為を行った後，投棄されたものと想定される。時期は，出土土器から6世紀後半と考えられる。



第106图 第73号住居跡出土遺物実測図

第73号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	器種	口径	高さ	底径	底厚	胎土	色調	施文	手法の特徴	出土位置	備考
204	土師器	杯	12.2	4.3			長石・石英	褐色	普通	陶器の成形方法不明	電業部床前	95% PL26
205	土師器	杯	11.6	3.9			長石・石英	褐色	普通	陶器の成形方法不明	電工部床前	90% PL26
206	土師器	杯	14.4	4.4			長石・石英	褐色	良	土師器の成形方法不明	電工部上層	90% PL26
207	土師器	杯	12.9	4.1			スコリア	にぶい黄褐色	普通	土師器の成形方法不明	西壁寄り上層	90% PL26
208	土師器	杯	14.2	(6.0)			雲母・砂粒	にぶい褐色	普通	土師器の成形方法不明	電業部床前	60% PL26
209	土師器	杯	14.8	(4.8)			砂粒	褐色	普通	土師器の成形方法不明	西壁下層～床前	40% PL26
210	土師器	杯	12.6	4.1			長石	にぶい褐色	普通	土師器の成形方法不明	西壁上層～下層	40% PL26
211	土師器	杯	13.4	(4.5)			長石・砂粒	にぶい褐色	普通	土師器の成形方法不明	北西コーナー層	40%
212	土師器	杯	14.0	(4.3)			砂粒	にぶい黄褐色	普通	土師器の成形方法不明	電工部上層～下層	30% PL26
213	土師器	杯	13.2	3.4			砂粒	黄褐色	普通	土師器の成形方法不明	北西コーナー下層	50% PL26
214	土師器	杯	13.2	(4.0)			長石	にぶい褐色	普通	土師器の成形方法不明	西壁寄り下層	30%
215	土師器	杯	12.7	4.0			石英	にぶい褐色	普通	土師器の成形方法不明	西壁寄り中層	20%
216	土師器	杯		(3.8)			長石・石英	にぶい褐色	普通	土師器の成形方法不明	西壁寄り下層	30%
217	土師器	杯	13.4	4.5			長石	にぶい黄褐色	普通	土師器の成形方法不明	西壁寄り上層	30%
218	土師器	杯	16.7	(5.6)			長石	にぶい赤褐色	普通	土師器の成形方法不明	西壁寄り床前	30%
219	土師器	杯	14.2	(4.4)			石英・角閃石	褐色	普通	土師器の成形方法不明	南西端上層～床前	20%
220	土師器	杯	12.2	4.5			長石・石英	にぶい褐色	普通	土師器の成形方法不明	中央部上層	25%
221	土師器	盃	(21.4)	31.5	7.0		石英・雲母	にぶい褐色	普通	土師器の成形方法不明	北西コーナー下層	90% PL26

番号	器種	長さ	幅	高さ	底径	胎土	色調	施文	手法の特徴	出土位置	備考
DP26	不明	(8.3)	(2.2)	1.4	(7.65)	砂粒	黄褐色	普通	ナギ	機上土層	70% 炭化土ナ
DP27	不明	(5.0)	(2.4)	1.8	(18.5)	長石・砂粒	にぶい褐色	良	孔徑(0.4)ナギ	南西コーナー中層	80%

## 第81号住居跡 (第107・108号)

位置 調査区西部南側、E4b1区の平坦部に立地し、南東には第87号住居跡が位置している。

重複関係 柱穴群D、南壁を第101号土坑、西壁を第102・105号土坑、北壁を第110号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

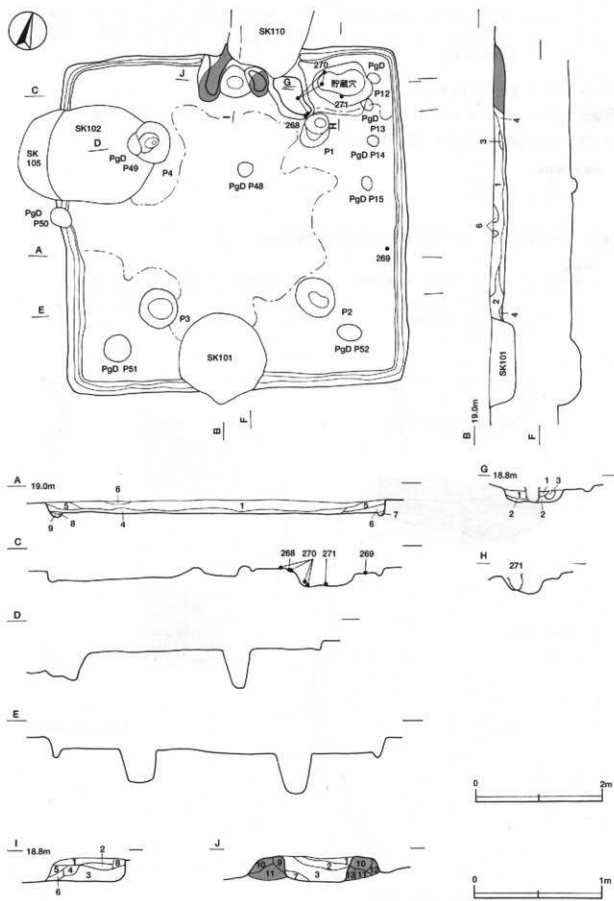
規模と形状 長軸5.43m、短軸5.32mの方形で、主軸はN-18°-Wである。壁高は8～20cmで、各壁はやや外傾している。

床 はほぼ平坦であり、中央部がよく踏み固められ、壁溝が周囲している。また、東コーナーは中央部よりも10～15cmほど床部が高く構築され、その部分に貯蔵穴が付設されている。

竈 北壁中央部に付設され、砂質粘土とロームで構築されている。第110号土坑に掘り込まれて、また耕作による削平のために竈全体の形状を把握することはできない。両側部幅は114cmと推定され、天井部は遺存していない。袖部には燃焼部に堆積した焼土層と内壁が崩落した層が堆積し、竈の作り換えとも考えられる。また、火床面から煙道部への掘り込みは平坦で、煙道部は外傾して立ち上がっている。

## 遺土層解説

- |        |                          |       |                              |
|--------|--------------------------|-------|------------------------------|
| 1 暗褐色  | ローム粒子・焼上粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | 粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼上粒子・炭化粒子微量   |
| 2 暗赤褐色 | 粘土粒子少量、ローム粒子・焼上粒子・炭化粒子少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・焼上粒子・粘土粒子少量            |
| 3 暗赤褐色 | 焼上粒子・粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量 | 7 暗褐色 | 粘土粒子中量、ローム粒子・焼上ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 灰褐色  | 粘土粒子中量、ローム粒子・焼上粒子少量      | 8 暗褐色 | 粘土粒子中量、ローム粒子・焼上ブロック少量        |



第107图 第81号住居跡実測图

- 9 にぶい赤褐色 赤化した粘土粒子中量、炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量  
 10 褐色 粘土粒子・砂粒少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

- 11 灰褐色 粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子・炭化粒子微量  
 12 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量  
 13 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子・砂粒・赤化した粘土粒子微量

ピット 4か所。P1～4は主柱穴で、深さ44～64cmである。

貯蔵穴 北東コーナーの床面より10cm程高い面に付設され、長径94cm、短径72cmの楕円形を呈し、24cm程掘り窪められて底面は皿状を呈し、壁は外傾している。

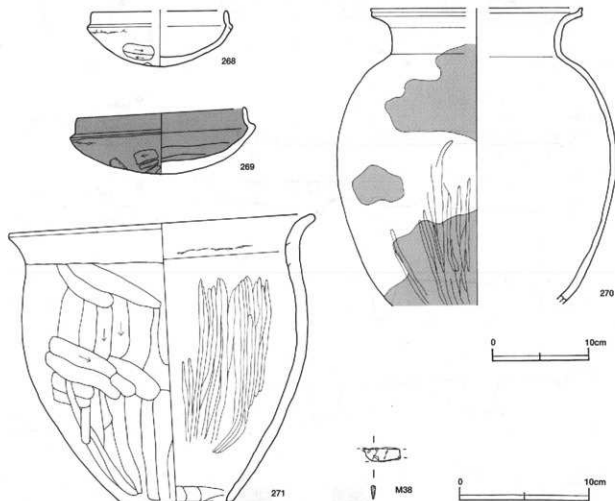
貯蔵穴土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量  
 2 褐色 ローム粒子少量  
 3 暗褐色 ローム粒子多量

覆土 9層に分層され、レンズ状の堆積を示した自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量  
 2 暗褐色 ローム粒子少量  
 3 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量  
 4 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量  
 5 褐色 ローム粒子少量  
 6 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量  
 7 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量  
 8 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量  
 9 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量



第108図 第81号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片161点(坏30, 柄1, 高坏14, 壺115, 瓶1), 土師質土器片9点, 石製品1点(銅形模造品), 鉄製品1点(刀子)が出土している。268は竈北東の床面, 270は竈の北東床面から貯蔵穴にかけて散在した状態で出土している。271は貯蔵穴の底面, 269は東壁寄りの床面からそれぞれ正位の状態でも出土している。M38は覆土上層からの出土で, 後世の混入である。

所見 本跡から出土した遺物は量的には少量であるが, 貯蔵穴及び床面から良好な土器が出土した。時期は, 出土土器から6世紀後半と考えられる。

第81号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	口径	新上	色調	焼成	下位の特徴	出土位置	備考
268	土師器	坏	10.5	4.1	—	砂粒・雲母	にぶい橙	普通	竈の北東床面から	竈北東床面	60%
269	土師器	坏	13.2	5.3	—	砂粒・石英	にぶい黄橙	普通	竈の北東床面から	東壁寄り床面	90%, PL27
270	土師器	壺	22.2	13.4	—	鉄石・石英	にぶい黄橙	普通	貯蔵穴の底面から	貯蔵穴底面	90%, PL30
271	土師器	瓶	24.0	22.8	8.8	長石・雲母	にぶい橙	普通	貯蔵穴の底面から	貯蔵穴底面	98%, PL30

番号	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	材質	特徴	出土位置	備考
M38	刀	7.0	3.1	0.3	2.8	鉄	刃部の破片, 切欠・彫刻痕	覆土上層	

### 第82号住居跡 (第109~111図)

位置 調査区西部南側, E4d6区の平坦部に立地し, 北西には第87号住居跡が位置している。

重複関係 南西部を第42号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.95m, 短軸5.85mの方形で, 主軸は, N-10°-Wである。壁高は12~56cmで, 各壁は直立している。

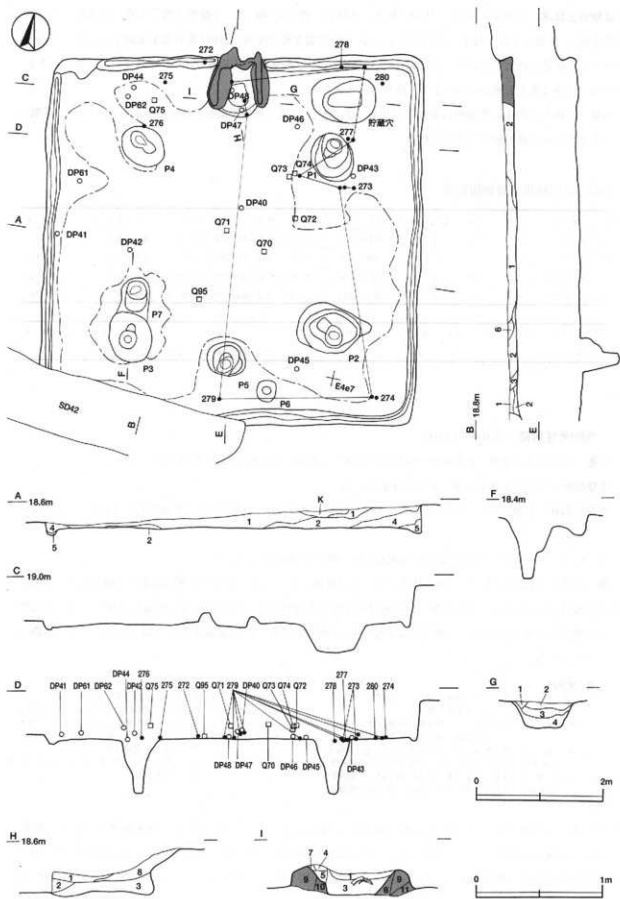
床 ほほ平坦であり, 全面がよく踏み固められ, 壁溝が周回している。

竈 北壁中央部に付設され, 砂質粘土とロームで構築されている。焚口から煙道部までの最大長は130cm, 両袖部幅は97cmである。上層の第1・8層は粘土粒を比較的多く含む天井部が崩落した層で, 第3層は燃焼部に堆積した焼土層である。煙道部は壁外へ49cm掘り込まれて, 火床面は平坦に掘り込まれ, 煙道は直立して立ち上がる。

#### 竈土層解説

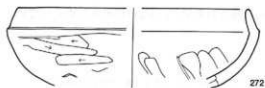
1	灰褐色	粘土粒・砂粒少量, ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量	7	褐色	粘土粒・砂粒少量, 炭化粒子微量
2	暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量, ロームブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒微量	8	にぶい褐色	粘土粒・砂粒少量, ローム粒子・炭化物微量
3	暗褐色	焼土粒中量, ローム粒子少量, 炭化物微量	9	にぶい褐色	粘土粒・砂粒少量, ローム粒子・炭化物微量
4	にぶい赤褐色	赤化した粘土粒子・砂粒少量, 炭化粒子微量	10	にぶい赤褐色	赤化した粘土粒・砂粒少量, ローム粒子・焼土粒・炭化粒子微量
5	暗赤褐色	赤化した粘土粒子多量, 粘土粒・砂粒微量	11	褐色	ローム粒子多量, 焼土粒・炭化粒子・粘土粒・砂粒微量
6	にぶい赤褐色	赤化した粘土粒・砂粒少量, 炭化物微量			

ピット 7か所。P1~4は, 深さ85~98cmで主柱穴である。P5は深さ62cmで南東壁寄りの中央に位置し, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。P7は深さ24cmで, P3とP4を結ぶライン上に位置するためP3の補助的な柱穴の可能性が考えられる。P6の性格は不明である。また, P1~5の上端から底面の中間にはいずれも掘り込みがあり, 柱の抜き取り穴と考えられる。



第109图 第82号住居跡実測图

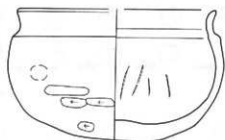




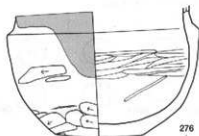
272



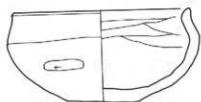
273



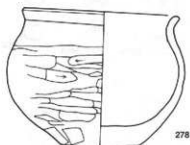
274



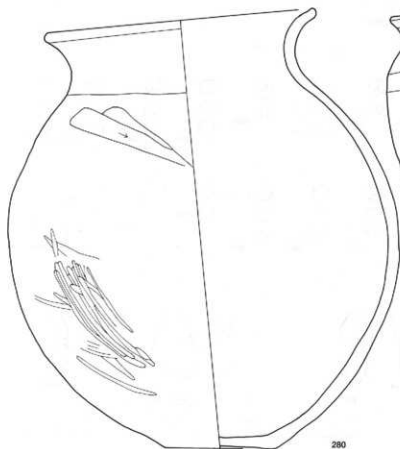
276



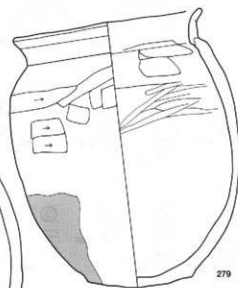
275



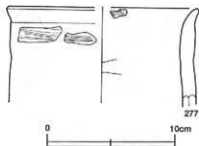
278



280



279



277

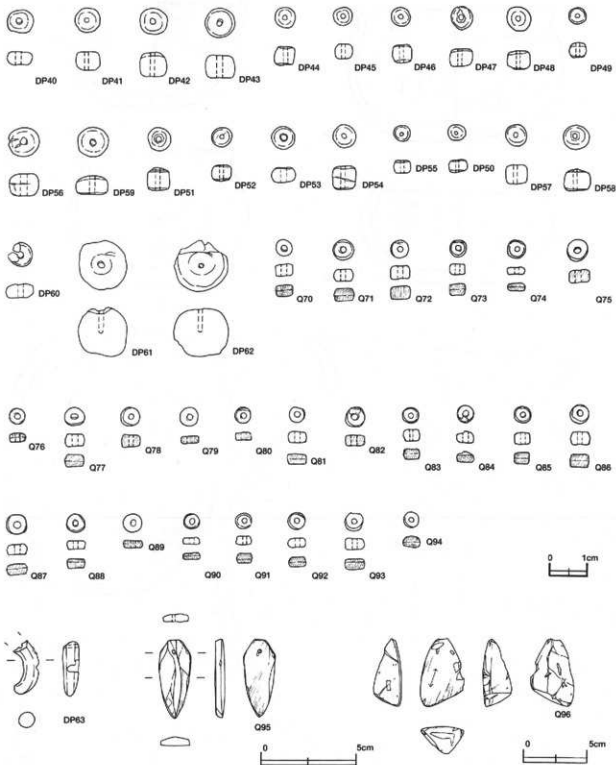
第110图 第82号住居跡出土遺物実測図(1)

貯蔵穴 北東コーナーに付設され、長径100cm、短径70cmの楕円形を呈し、45cm程掘り窪められている。底面は平坦を呈し、壁は外傾している。

貯蔵穴土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量  
2 暗褐色 ローム粒子少量

- 3 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量  
4 褐色 ローム粒子中量



第111図 第82号住居跡出土遺物実測図(2)

覆土 6層に分層され、レンズ状の堆積を示した自然堆積である。

土層解説

- |       |           |       |           |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 4 褐色  | ローム粒少量    |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 5 暗褐色 | ローム粒少量    |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片1,088点(環280, 椀1, 鉢10, 高坏12, 甕785), 須恵器片1点(蓋), 土師質土器片11点, 磁器片5点, 土製品27点(小玉23, 勾玉1, 支脚1, 不明2), 石製品34点(白玉30, 剣形模造品1, 双孔円板1, 砥石2), 鉄製品1点(不明), 鉄滓1点, 炭化米が出土している。272~280は全て床面から出土しており, 本跡に伴うものである。また, DP40~62・Q95は下層から床面にかけて多量の土師器片とともに散在した状態で出土している。DP63・Q70~94・96・N5は覆土上層から中層にかけて出土しており, 後世の混入である。

所見 本跡の時期は, 出土土器から6世紀後半と考えられ, 覆土下層から出土した多量の土師器片は住居廃絶直後に投棄されたものと考えられる。また, これらの土師器片とともに小玉が23点出土している。

第82号住居跡出土遺物観察表

発掘	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	装成	手法の特徴	出土位置	備考
272	土師器	環	18.2	1.63	—	長石・石英	黒	普通	多量層への埋没面へのナナ	遺物埋没面	20%
273	土師器	環	15.4	4.9	—	長石・石英	黒	普通	多量層への埋没面へのナナ	中央部床面	60%, PL28
274	土師器	椀	115.5	10.6	—	長石・石英	にぶい黄緑	普通	多量層への埋没面へのナナ	直東コーナー床面	70%, PL28
275	土師器	椀	13.8	7.5	5.6	石英・赤色砂粒	浅黄緑	普通	多量層への埋没面へのナナ	遺物埋没面	100%, PL28
276	土師器	甕	—	100.0	6.8	岩母・長石	黒	普通	多量層への埋没面へのナナ	遺物埋没面	80%埋没層付L29
277	土師器	蓋	14.9	1.76	—	石英・長石	にぶい赤黒	普通	多量層への埋没面へのナナ	遺物埋没面	5%
278	土師器	小形蓋	12.1	10.9	6.2	砂粒	灰黒	普通	多量層への埋没面へのナナ	遺物埋没面	98%, PL31
279	土師器	甕	14.7	22.2	8.3	長石	浅黄緑	普通	多量層への埋没面へのナナ	遺物埋没面	80%埋没層付L31
280	土師器	甕	21.2	35.0	8.4	長石・石英	にぶい黒	普通	多量層への埋没面へのナナ	北東コーナー床面	80%, PL31

番号	器種	径	高さ	口径	底径	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP40	小玉	1.30	0.35	0.20	0.21	砂粒	黒	断面がわずかに膨らむ太鼓状片面穿孔	中央部中層	PL36
DP41	小玉	0.65	0.50	0.20	0.26	砂粒	にぶい黒	断面がわずかに膨らむ太鼓状片面穿孔	西側壁下層	PL36
DP42	小玉	0.70	0.50	0.10	0.38	砂粒	にぶい黒	断面がわずかに膨らむ太鼓状片面穿孔	中央部下層	PL36
DP43	小玉	0.80	0.60	0.30	0.40	長石・砂粒	黒	断面がわずかに膨らむ太鼓状片面穿孔	下1東側壁面	PL36
DP44	小玉	0.60	0.30	0.10	0.20	砂粒	にぶい黒	断面がわずかに膨らむ太鼓状片面穿孔	北西部床面	PL36
DP45	小玉	0.50	0.50	0.10	0.11	砂粒	にぶい黒	断面がわずかに膨らむ太鼓状片面穿孔	南東部床面	PL36
DP46	小玉	0.50	0.50	0.10	0.14	砂粒	暗灰黄	断面が丸みを帯びた筒状片面穿孔	遺物埋没面	PL36
DP47	小玉	0.60	0.50	0.10	0.18	石英・砂粒	明黄緑	断面が丸みを帯びた筒状片面穿孔	遺物中層	PL36
DP48	小玉	0.65	0.50	0.10	0.24	砂粒	にぶい黒	断面がわずかに膨らむ太鼓状片面穿孔	基礎壁部火床面	PL36
DP49	小玉	0.45	0.40	0.10	0.08	砂粒	黒	断面がわずかに膨らむ太鼓状片面穿孔	覆土中	PL36
DP50	小玉	0.50	0.45	0.10	0.08	砂粒	黒	断面がわずかに膨らむ太鼓状片面穿孔	覆土中	PL36
DP51	小玉	0.60	0.60	0.10	0.23	石英・砂粒	にぶい黒	断面が丸みを帯びた筒状片面穿孔	覆土中	PL36
DP52	小玉	0.50	0.40	0.10	0.12	砂粒	黒	断面が丸みを帯びた筒状片面穿孔	覆土中	PL36
DP53	小玉	0.60	0.40	0.20	0.15	砂粒	黒	断面がわずかに膨らむ太鼓状片面穿孔	覆土中	PL36
DP54	小玉	0.60	0.40	0.10	0.24	岩母・砂粒	灰黄緑	断面が丸みを帯びた筒状片面穿孔	覆土中	PL36
DP55	小玉	0.40	0.30	0.10	0.07	砂粒	黒	断面がわずかに膨らむ太鼓状片面穿孔	覆土中	PL36
DP56	小玉	0.80	0.60	0.20	0.32	砂粒	黒	太鼓状片面穿孔	覆土中	PL36

番号	器種	径	厚さ	孔径	高さ	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP57	小	E	0.53	0.50	0.10	0.19	砂鉄	にぶい趣 横筋が部分的に数珠片状穿孔	覆土中	PL36
DP58	小	K	0.70	0.60	0.10	0.26	砂鉄	にぶい趣 縦筋が内側の分層状の片状穿孔	覆土中	PL36
DP59	小	W	0.80	0.50	0.10	0.34	砂鉄	星 彫の小孔列がやや内側に伏し穿孔	覆土中	PL36
DP60	小	H	0.63	0.40	0.10	0.12	砂鉄	にぶい趣 縦筋が内側の分層状の片状穿孔	覆土中	PL36
DP61	大	E	1.30	1.20	0.15	1.80	砂鉄	縦筋 ナメテ削からの穿孔であるが直線ではない	西壁寄り下層	100%
DP62	丸	E	1.40	1.20	0.15	1.70	石英・砂鉄	星 ナメテ削からの穿孔であるが直線ではない	北内面中層	90%

番号	器種	長さ	幅	孔径	高さ	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP63	匂	正	12.8	0.6	0.2	2.42	砂鉄	粗 上層部欠損	覆土中	60%

番号	器種	径	厚さ	孔径	高さ	材質	特徴	出土位置	備考	
Q70	E	E	0.38	0.20	0.12	0.03	滑石	縦筋が中心部の環状の片状穿孔	中央部上層	PL37
Q71	E	E	0.53	0.30	0.14	0.11	滑石	縦筋が中心部の環状の片状穿孔	中央部上層	PL37
Q72	F	木	0.45	0.40	0.10	0.09	滑石	縦筋が中心部の環状の片状穿孔	中央部上層	PL37
Q73	E	E	0.39	0.30	0.10	0.06	滑石	縦筋が中心部の環状の片状穿孔	中央部上層	PL37
Q74	E	E	0.46	0.17	0.11	0.05	滑石	縦筋が中心部の環状の片状穿孔	中央部上層	PL37
Q75	F	玉	0.52	0.25	0.16	0.10	滑石	縦筋が中心部の環状の片状穿孔	北西部上層	PL37
Q76	E	E	0.40	0.19	0.12	0.03	滑石	縦筋が中心部の環状の片状穿孔	覆土上～中層	PL37
Q77	E	天	0.48	0.36	0.18	0.08	滑石	縦筋が中心部の環状の片状穿孔	覆土上～中層	PL37
Q78	F	木	0.45	0.20	0.12	0.08	滑石	縦筋が中心部の環状の片状穿孔	覆土上～中層	PL37
Q79	E	天	0.45	0.15	0.14	0.05	滑石	縦筋が中心部の環状の片状穿孔	覆土上～中層	PL37
Q80	F	玉	0.37	0.16	0.12	0.03	滑石	縦筋が中心部の環状の片状穿孔	覆土上～中層	PL37
Q81	F	E	0.36	0.26	0.12	0.04	滑石	縦筋が中心部の環状の片状穿孔	覆土上～中層	PL37
Q82	E	天	0.48	0.25	0.13	0.06	滑石	縦筋が中心部の環状の片状穿孔	覆土上～中層	PL37
Q83	F	木	0.39	0.23	0.12	0.06	滑石	縦筋が中心部の環状の片状穿孔	覆土上～中層	PL37
Q84	E	E	0.36	0.30	0.12	0.04	滑石	縦筋が中心部の環状の片状穿孔	覆土上～中層	PL37
Q85	E	E	0.41	0.25	0.12	0.06	滑石	縦筋が中心部の環状の片状穿孔	覆土上～中層	PL37
Q86	E	玉	0.13	0.30	0.13	0.09	滑石	縦筋が中心部の環状の片状穿孔	覆土上～中層	PL37
Q87	F	E	0.40	0.34	0.15	0.08	滑石	縦筋が中心部の環状の片状穿孔	覆土上～中層	PL37
Q88	F	木	0.47	0.21	0.13	0.07	滑石	縦筋が中心部の環状の片状穿孔	覆土上～中層	PL37
Q89	F	E	0.47	0.15	0.15	0.05	滑石	縦筋が中心部の環状の片状穿孔	覆土上～中層	PL37
Q90	F	E	0.37	0.15	0.15	0.02	滑石	縦筋が中心部の環状の片状穿孔	覆土上～中層	PL37
Q91	E	土	0.37	0.23	0.13	0.04	滑石	縦筋が中心部の環状の片状穿孔	覆土上～中層	PL37
Q92	F	E	0.40	0.23	0.14	0.05	滑石	縦筋が中心部の環状の片状穿孔	覆土上～中層	PL37
Q93	F	E	0.45	0.23	0.14	0.06	滑石	縦筋が中心部の環状の片状穿孔	覆土上～中層	PL37
Q94	E	土	0.37	0.25	0.14	0.05	滑石	縦筋が中心部の環状の片状穿孔	覆土上～中層	PL37

番号	器種	長さ	幅	孔径	高さ	材質	特徴	出土位置	備考
Q95	削形模造品	4.1	1.5	0.2	4.6	滑石	古銅製の模造品か、土製の複製品と思われる	中央部床面	PL38

番号	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	材質	特徴	出土位置	備考	
Q96	瓶	石	5.4	3.4	2.2	(30.5)	凝灰岩	自然面を利用、瓶口北面	覆土上～中層	

### 第83号住居跡（第112～114区）

位置 調査区西部，E4 b8区の平坦部に立地し，南西には第82号住居跡が位置している。

重複関係 東コーナーを第44号溝に掘り込まれている。

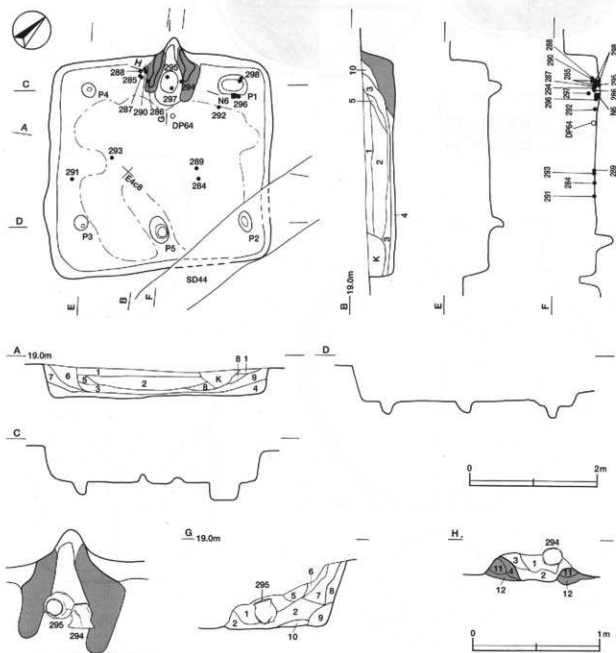
**規模と形状** 長軸3.56m, 短軸3.45mの方形で, 主軸はN-40°-Wである。壁高は7~56cmで, 各壁は直立している。

**床** ほぼ平坦であり, 中央部がよく踏み固められている。

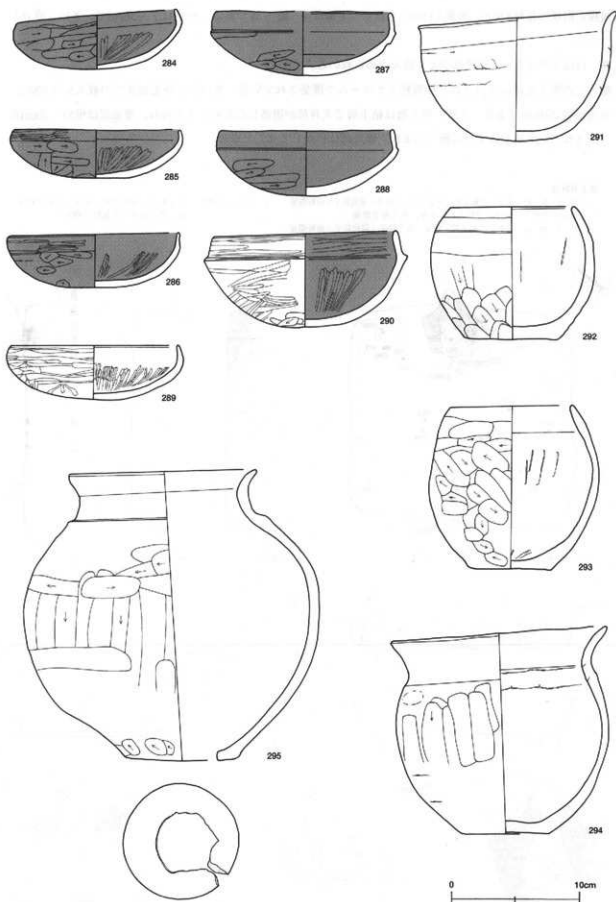
**竈** 北西壁中央部に付設され, 砂質粘土とロームで構築されている。焚口から煙道部までの最大長は109cm, 両袖幅は79cmである。上層の第5層は粘土層で天井部が崩落したものと考えられ, 煙道部は壁外へ30cm掘り込まれて, 火床面は平坦に掘り込まれ, 煙道部は外傾して立ち上がる。

**竈土層解説**

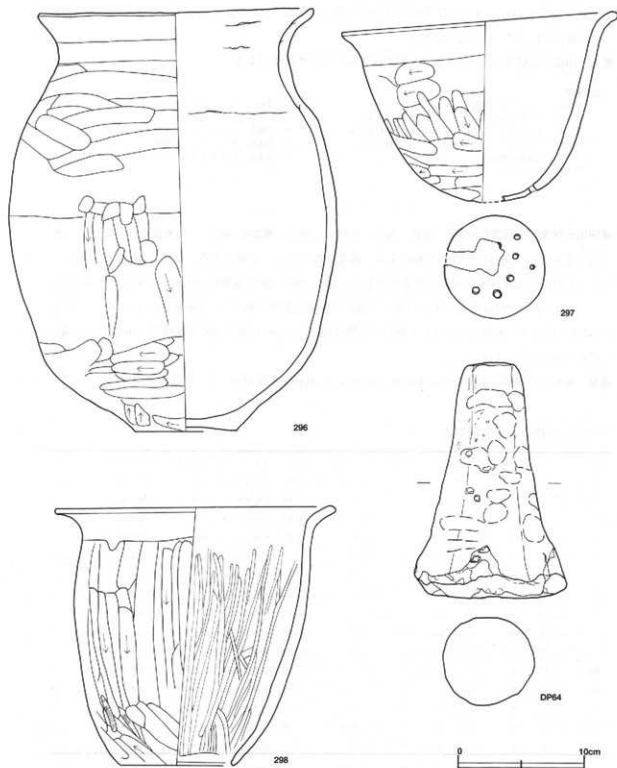
- |          |                             |          |                                    |
|----------|-----------------------------|----------|------------------------------------|
| 1 暗赤褐色   | 赤化した粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 4 にぶい赤褐色 | 粘土粒子・砂粒中量, 赤化した粘土粒子少量, 炭土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 にぶい赤褐色 | 赤化した粘土粒子少量, 粘土粒子微量          |          |                                    |
| 3 暗赤褐色   | 赤化した粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量  |          |                                    |



第112図 第83号住居跡実測図



第113图 第83号住居跡出土遺物実測図(1)



第114図 第83号住居跡出土遺物実測図(2)

- |        |                              |           |                       |
|--------|------------------------------|-----------|-----------------------|
| 5 褐色   | 粘土粒子・砂粒少量、ロームブロック・炭化粒子微量     | 9 暗赤褐色    | 炭化粒子・赤化した粘土粒子少量、炭化物微量 |
| 6 暗褐色  | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量          | 10 にぶい赤褐色 | 焼土粒子少量、炭化物微量          |
| 7 暗赤褐色 | 炭化粒子・赤化した粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 11 明褐色    | 粘土粒子・砂粒多量             |
| 8 暗赤褐色 | ローム粒子・炭化粒子・赤化した粘土粒子微量        | 12 褐色     | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物微量    |

ピット 5か所。P1～4は、深さ19～31cmで主柱穴である。P5は深さ30cmで南壁寄りの中央に位置し、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 10層に分層され、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック微量	6 黒褐色	ロームブロック中量
2 黒色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子中量
3 黒色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	8 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
4 暗褐色	ロームブロック中量、炭化した粘土粒子少量、炭化粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック少量
5 黒褐色	ロームブロック少量	10 暗褐色	粘土粒子多量、ローム粒子・炭化した粘土粒子中量

遺物出土状況 土師器片429点(坏45、碗1、高坏5、壺2、甕339、甗37)、須恵器片2点(坏1、甕1)、土師質土器片4点、陶器片3点、青磁片1点、縄文土器片5点、土製品1点(支脚)、炭化米が出土している。284・289は中央部床面から正位の状態で出土し、285～288・290は甗西側の床面から重なった状態で出土している。292・296・298は北コーナーの覆土下層から床面にかけて出土し、296内からはN6が出土した。291・293は南西壁寄りの床面からいずれも横位の状態で出土し、294・295・297は甗内部、DP64は甗部前の床面からそれぞれ出土している。

所見 規模は小規模でありながら床面及び甗内部から良好な土器が出土し、時期は6世紀後半と考えられる。

第83号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	形状	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴	出土位置	備考
284	土師器	坏	12.3	4.7	—	長石・石英	にぶい黄緑	普通	手捏(丸型)	中央部床面	98%, PL27
285	土師器	坏	13.1	3.9	—	長石	にぶい黄緑	普通	手捏(丸型)	甗西側床面	90%, PL27
286	土師器	坏	13.4	4.2	—	長石・石英	にぶい黄緑	普通	手捏(丸型)	甗西側床面	100%, PL27
287	土師器	坏	13.8	5.0	—	砂粒	にぶい黄緑	普通	手捏(丸型)	甗西側床面	80%, PL28
288	土師器	坏	13.7	3.2	—	石英	橙	普通	手捏(丸型)	甗内部床面	80%, PL28
289	土師器	坏	13.2	4.3	—	石英	橙	普通	手捏(丸型)	中央部床面	98%, PL27
290	土師器	坏	14.2	7.6	—	砂粒	にぶい橙	普通	手捏(丸型)	甗内部床面	90%, PL30
291	土師器	碗	15.4	10.3	—	長石・石英	にぶい橙	普通	手捏(丸型)	南西壁寄り床面	98%, PL30
292	土師器	小形壺	9.7	10.6	6.8	砂粒	にぶい橙	普通	手捏(丸型)	北コーナー床面	98%, PL29
293	土師器	小形壺	9.5	13.1	6.4	長石	にぶい黄緑	普通	手捏(丸型)	南西壁寄り床面	100%, PL30
294	土師器	甕	16.9	16.5	6.7	長石・石英	にぶい橙	普通	手捏(丸型)	甗底部	80%
295	土師器	壺	14.6	23.1	9.1	赤母・長石・石英	にぶい橙	普通	手捏(丸型)	甗底部	底部中央P.30
296	土師器	甕	21.5	33.5	8.0	長石	灰濁	普通	手捏(丸型)	北コーナー床面	60%, PL32
297	土師器	甕	21.9	13.2	—	石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	手捏(丸型)	甗底部	90%, PL32
298	土師器	甕	21.6	20.6	8.8	砂粒	橙	普通	手捏(丸型)	北コーナー床面	90%, PL31

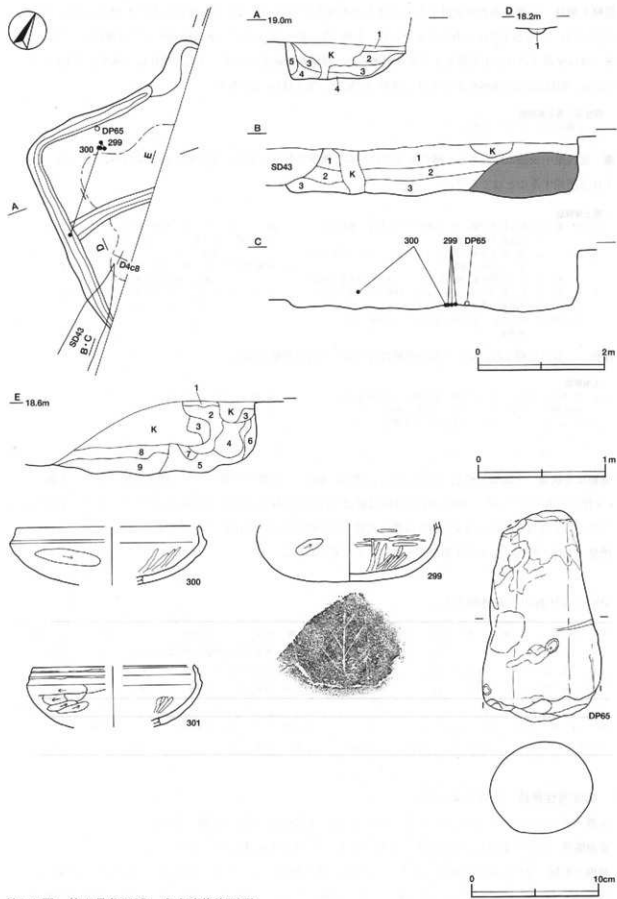
番号	器種	長さ	幅	高さ	胎土	色調	手法の特徴	出土位置	備考
DP64	支脚	18.6	12.3	7.0	1.270	長石・赤母	にぶい橙	削製板	甗手前床面

第84号住居跡(第115図)

位置 調査区西部、D4b7区の平坦部に立地し、南には第86号住居跡が位置している。

重複関係 南部を第43号溝に掘り込まれている。





第115图 第84号住居跡・出土遺物実測図

**規模と形状** 東部が調査区域外のため全体を把握することはできないが、確認された長軸は3.15m、短軸は2.52mであり、方形または長方形と考えられ、主軸はN-45°-Wである。壁高は56cmで、各壁は直立している。  
**床** ほほ平坦であり、中央部がよく踏み固められ、壁溝が周回している。また、間仕切り溝が確認され長さは135cm、幅は22cmで南西壁から中央に向かって延び、深さは10cmである。

**間仕切り溝土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

**壁** 北西壁中央部に付設され、砂質粘土とロームで構築されているが、竪東側が調査区域外に延びているため全体を把握することはできない。

**覆土層解説**

- |        |                                 |         |                                 |
|--------|---------------------------------|---------|---------------------------------|
| 1 暗褐色  | 粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量、炭化粒子微量   | 6 暗褐色   | ローム粒子多量、焼土粒子・粘土粒子少量             |
| 2 暗褐色  | 粘土粒子多量、焼土粒子中量、ローム粒子・砂粒少量、炭化粒子微量 | 7 にぶい褐色 | 粘土粒子多量、焼土ブロック中量、ローム粒子微量         |
| 3 暗褐色  | 粘土粒子中量、砂粒少量、ローム粒子・焼土粒子微量        | 8 暗褐色   | ローム粒子中量、焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子・砂粒微量   |
| 4 暗褐色  | 粘土粒子中量、ローム粒子・砂粒少量、焼土粒子・炭化粒子微量   | 9 暗褐色   | ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子中量、砂粒少量、炭化粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子・粘土粒子中量、ローム粒子・焼土ブロック微量      |         |                                 |

**覆土** 5層に分層され、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

**土層解説**

- |       |                       |       |                  |
|-------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量      | 5 暗褐色 | ローム粒子中量          |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量      |       |                  |

**遺物出土状況** 土師器片85点（環16、埴4、甕64、甌1）、土師質土器片3点、縄文土器片1点、土製品1点（支脚）が出土している。299～301・DP65は確認された北西壁中央寄りの床面から出土している。その他の土師器片、土師質土器片、縄文土器片は覆土上層から中層にかけての出土であり、後世の混入である。

**所見** 本跡の時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。

**第84号住居跡出土遺物観察表**

番号	性別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	施文	手法の特徴	出土位置	備考
299	土師器	環		(4.7)	—	石英・赤色粘土	橙	丹塗	器底面へ内面から外縁部まで	床面	30%
300	土師器	環	144	(14)		長石・石英	にぶい赤褐色	丹塗	器底面へ内面から外縁部まで	覆土上層～床面	20%
301	土師器	外	127	(4.8)	—	石英	にぶい橙	丹塗	器底面へ内面から外縁部まで	覆土上層～床面	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	胎土	色調	手法の特徴	出土位置	備考
DP65	支脚	脚：(16.8)	9.5	7.3	(11.0)	長石・石英	橙	丹塗	床面	30%

**第86号住居跡（第116・117区）**

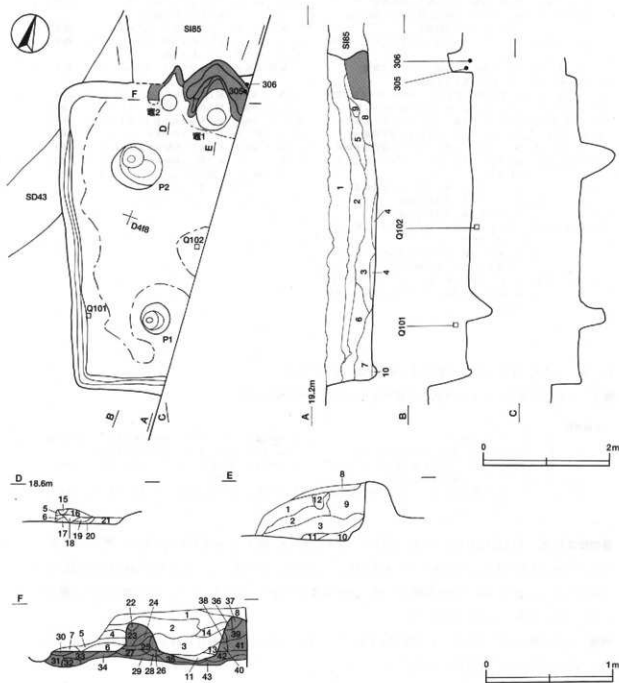
**位置** 調査区西部、D48区の平坦部に立地し、南には第83号住居跡が位置している。

**重複関係** 北部で第85号住居跡を掘り込み、西コーナーを第43号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 東部が調査区域外に延びているため全体を把握することはできないが、確認された長軸は4.94m、短軸は2.75mで、方形または長方形と考えられ、主軸はN-20°-Wである。壁高は60cmで、各壁はやや外傾している。

床 はほぼ平坦で、全体的によく踏み固められ、壁溝が周回している。

竈 北西壁に付設され、作り替えられた痕跡がみられる。西側の竈が旧竈であり、いずれも砂質粘土とロームで構築されている。両袖部幅は右袖部が調査区域外に延びているため不明であるが、竈1の焚口から煙道部までの最大長は110cmで、煙道部は壁外へ30cm掘り込まれており、火床面は平坦に掘り込まれ、煙道部がやや外傾して立ち上がる。竈2の両袖部幅は81cmで、火床面から煙道部までの最大長は72cmである。煙道部は壁外へ31cm掘り込まれて、火床面は平坦に掘り込まれ、煙道部が外傾して立ち上がる。第3層は竈1の燃焼部に堆積した焼土層であり、竈1の左袖部は、竈2の右袖部を再利用し、構築材として土師器片も用いている。



第116図 第86号住居跡実測図

第36～42層は右袖部で、焼土が比較的多く含まれているため竈2の左袖部を再利用した可能性が考えられる。第15～18層は竈2の燃焼部に堆積した焼土層の残土である。天井部は竈1・2ともに遺存していない。

#### 竈1・2土層解説

1 紫 紺 色	炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量	26 におい赤褐色	焼土粒子・焼土粒子・砂粒中量、炭化粒子微量
2 暗 紺 色	ローム粒子・粘土粒子・赤化した粘土粒子・砂粒微量	27 黒 紺 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物・砂粒微量
3 暗 赤 褐色	焼土粒子少量、炭化物・粘土粒子・赤化した粘土粒子・砂粒微量	28 暗 赤 褐色	粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗 紺 色	ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量	29 暗 紺 色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
5 暗 紺 色	ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	30 におい赤褐色	粘土粒子・砂粒多量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量
6 暗 赤 褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	31 暗 紺 色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
7 紺 色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	32 紺 色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
8 におい赤褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・砂粒微量	33 暗 紺 色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
9 暗 赤 褐色	焼土ブロック・赤化した粘土粒子・砂粒少量、ロームブロック・炭化物微量	34 暗 紺 色	ローム粒子多量
10 暗 赤 褐色	ロームブロック・赤化した粘土粒子少量、炭化粒子微量	35 暗 赤 褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、粘土粒子・砂粒微量
11 赤 褐色	赤化した粘土粒子中量、ローム粒子微量	36 暗 赤 褐色	粘土粒子・砂粒多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
12 暗 紺 色	ローム粒子・焼土粒子微量	37 におい赤褐色	粘土粒子・砂粒多量、焼土ブロック・炭化粒子微量
13 赤 褐色	粘土粒子多量、焼土ブロック中量、ローム粒子微量	38 におい赤褐色	焼土粒子・粘土粒子・砂粒多量、炭化粒子微量
14 暗 赤 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・粘土粒子少量	39 暗 紺 色	粘土粒子・砂粒多量、焼土ブロック・炭化粒子微量
15 暗 赤 褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子・砂粒微量	40 暗 赤 褐色	粘土粒子・砂粒多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
16 暗 赤 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	41 紺 色	粘土粒子・砂粒多量、焼土ブロック・炭化粒子微量
17 暗 赤 褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子・砂粒微量	42 黒 褐色	炭化粒子中量、ロームブロック少量、焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量
19 暗 赤 色	ロームブロック・焼土ブロック・砂粒微量	43 暗 紺 褐色	ロームブロック多量
20 紺 色	ロームブロック・炭化粒子微量		
21 紺 色	ローム粒子少量、炭化粒子微量		
22 暗 紺 褐色	炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量、ローム粒子・焼土ブロック微量		
23 黒 褐色	粘土粒子・砂粒中量、炭化粒子少量、ローム粒子・焼土ブロック・炭化物微量		
24 暗 赤 褐色	粘土粒子・砂粒中量、焼土ブロック・炭化粒子少量		
25 赤 色	粘土粒子・砂粒多量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量		

ピット 2か所。P1・2は、深さ41～56cmで木柱穴である。

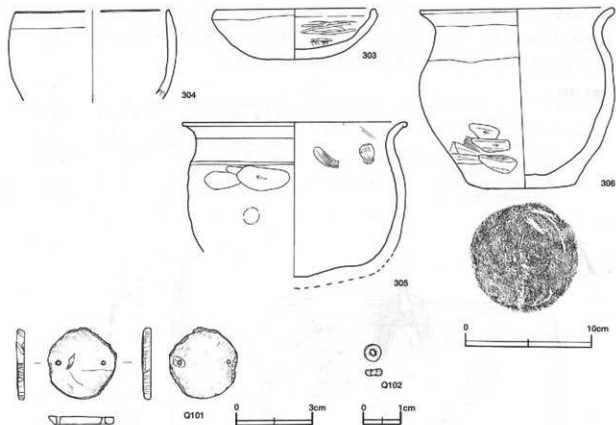
覆土 9層に分層され、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

#### 土層解説

1 黒 色	ロームブロック微量	6 暗紺褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	7 暗 紺 色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
3 黒 色	炭化物中量、ローム粒子少量、焼土ブロック微量	8 暗紺褐色	粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
4 暗 紺 色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	9 黒 褐色	粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5 黒 紺 色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片394点(埴29, 高杯37, 埴5, 甕318, 甗4), 須恵器6点(坏4, 甕2), 土師質土器片3点, 縄文土器片35点, 石製品2点(双孔円板1, 白玉1)が出土している。305・306は竈東側から斜位の状態で出土し, 303・304・Q101は覆土下層, Q102は掘り方から出土している。その他の遺物は覆土上層から中層のものが多く, 後世の混入である。

所見 本跡の覆土中には焼土・炭化物が含まれているが, これらは第85号住居跡からの混入である。本跡の時期は, 出土土器から6世紀後半と考えられる。



第117図 第86号住居跡出土遺物実測図

第86号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
303	土師器	坏	12.4	4.0	—	長石	にぶい陶	普通	底部円形断面、内面へうナデ	覆土下層	60%、PL28
304	土師器	壺	[12.0]	(7.0)	—	砂粒	橙	普通	口縁部残ナデ、底部円形断面ナデ	覆土下層	10%
305	土師器	甕	17.5	(12.3)	—	砂粒	にぶい黄橙	普通	底部円形へう断面ナデ	甕東側床面	70%、PL30
306	土師器	甕	15.2	14.4	8.4	長石・石英	灰黄陶	普通	底部円形ナデへう断面ナデ	甕東側床面	90%、PL32

番号	器種	径	厚さ	孔径	重さ	材質	特徴	出土位置	備考
Q101	穿孔円板	2.6	0.4	0.1	(3.8)	滑石	両面平形、断面方向の断面縦向き、片側穿孔	覆土下層	PL37

番号	器種	径	厚さ	孔径	重さ	材質	特徴	出土位置	備考
Q102	白玉	0.4	0.2	0.2	0.1	滑石	断面が縦横の空洞筒状、片面穿孔	甕り方面	

第87号住居跡 (第118・119図)

位置 調査区西部南側、E4c3区の平坦部に立地し、南東には第82号住居跡が位置している。

重複関係 北壁を第175号土坑、南壁を第136・176号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

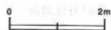
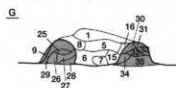
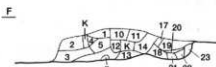
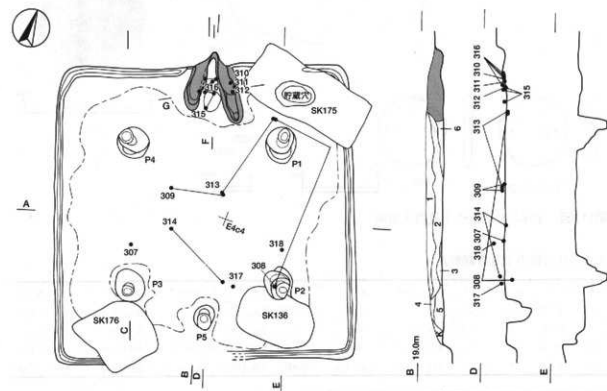
規模と形状 長軸6.32m、短軸6.28mの方形で、主軸は、N-21°-Wである。壁高は18~30cmで、各壁はやや外傾してる。

床 はほぼ平坦であり、床面全体がよく踏み固められ、壁溝が周囲している。

竈 北西壁中央部に付設され、砂質粘土とロームで構築されている。竈口から煙道部までの最大長は132cm、両袖部幅は112cmである。第2～8層は燃焼部に堆積した焼土層で、煙道部は壁外へ31cm掘り込まれて、竈き口からほぼ平坦に掘り込まれた後、煙道部はやや外傾して立ち上がる。

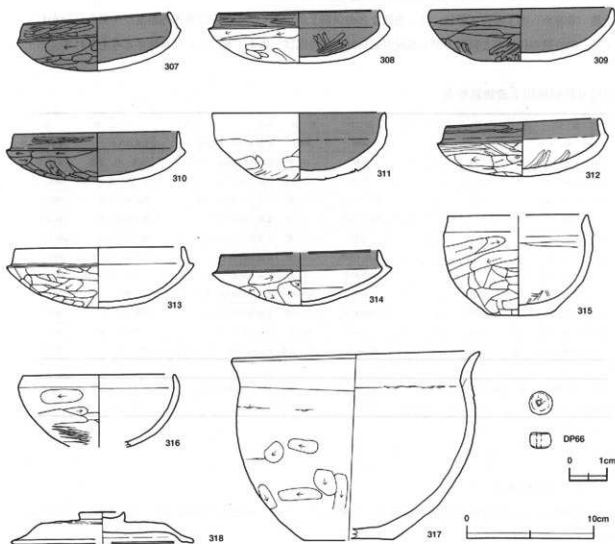
竈土層解説

- |        |                                |         |                              |
|--------|--------------------------------|---------|------------------------------|
| 1 黒褐色  | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒微量   | 5 濃い赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量          |
| 2 暗褐色  | ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量    | 6 赤褐色   | 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量、炭化物・ローム粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量、ロームブロック・炭化物微量 | 7 暗赤褐色  | 炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量、焼土ブロック微量      |
| 4 暗赤褐色 | 粘土粒子・砂粒少量、ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量  | 8 暗赤褐色  | ロームブロック・焼土粒子・炭化物・粘土粒子・砂粒微量   |
|        |                                | 9 暗赤褐色  | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒微量 |



第118図 第87号住居跡実測図

- 11 暗 褐 色 粘土粒子・砂粒少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 12 黒 褐 色 粘土粒子・砂粒少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 13 暗 赤 褐色 粘土粒子多量、焼土ブロック中量、ローム粒子微量
- 14 暗 赤 褐色 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量、ロームブロック・炭化物微量
- 15 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
- 16 暗 赤 褐色 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量、炭化物微量
- 17 暗 褐 色 粘土粒子・砂粒少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 18 暗 赤 褐色 焼土ブロック少量、炭化物・粘土粒子・砂粒微量
- 19 にぶい赤褐色 粘土粒子・砂粒多量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 20 灰 褐 色 粘土粒子多量、砂粒中量、焼土ブロック・炭化物微量
- 21 暗 赤 褐色 粘土粒子・砂粒多量、焼土ブロック・炭化物微量
- 22 暗 赤 褐色 粘土粒子・砂粒中量、焼土粒子少量、炭化物微量
- 23 暗 赤 褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量、炭化物微量
- 24 にぶい赤褐色 粘土粒子・砂粒中量、赤化した粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 25 暗 赤 褐色 赤化した粘土粒子・粘土粒子・砂粒多量、炭化粒子微量
- 26 暗 赤 褐色 粘土粒子・砂粒多量、赤化した粘土粒子少量、炭化物微量
- 27 にぶい赤褐色 粘土粒子・砂粒多量、赤化した粘土粒子少量、炭化物微量
- 28 暗 赤 褐色 粘土粒子・砂粒多量、赤化した粘土粒子少量、炭化物微量
- 29 極 暗 褐色 粘土粒子・砂粒少量、ローム粒子・炭化粒子・赤化した粘土粒子微量
- 30 暗 褐 色 粘土粒子・砂粒中量、赤化した粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 31 暗 褐 色 粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子・炭化粒子・赤化した粘土粒子微量
- 32 暗 赤 褐色 粘土粒子・砂粒中量、赤化した粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 33 にぶい赤褐色 粘土粒子・砂粒多量、赤化した粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 34 暗 赤 褐色 粘土粒子・砂粒多量、ロームブロック中量、赤化した粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 35 褐 色 粘土粒子・砂粒多量、赤化した粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量



第119図 第87号住居跡出土遺物実測図

ビット 5カ所。P1～4は主柱穴で、深さ66～83cmである。P5は深さ55cmで南東側の中央部に位置し、出入口施設に伴うビットと考えられる。

貯蔵穴 北東コーナーに付設され、第175号土坑に掘り込まれているため全体を把握することはできないが、底面は皿状を呈している。

覆土 8層に分層され、レンズ状の堆積を示した自然堆積である。

土層解説

- |       |                  |        |                  |
|-------|------------------|--------|------------------|
| 1 黒色  | 炭化粒子少量、ロームブロック微量 | 5 暗褐色  | ローム粒子少量、炭化粒子微量   |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 6 黒褐色  | 炭化粒子少量、ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量   | 7 極暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量   |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 8 黒褐色  | ロームブロック・炭化粒子微量   |

遺物出土状況 上部器片305点（坏127、碗11、高坏5、甕156、瓶6）、須恵器片6点（坏4、蓋2）、土師質土器片1点、陶器片1点、縄文土器片1点、土製品1点（小玉）が出土している。307～309・313・314は床面からの出土、310～312は遺北東部の床面から重なった状態で出土している。また、315・316は遺内から散在した状態で出土し、317・DP66は覆土下層からの出土である。311と316の体部下端には砥石に転用された擦痕がみられる。318は覆土上層から出土した後世の混入品である。

所見 本跡から出土した土器は、坏・碗類などの供膳土器が多く、これらは産内外部及び床面に分かれて出土し、同時期の住居跡と同様の出土状況が見られた。時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。

第87号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
307	下部器	坏	11.5	4.5		砂粒	黒灰	普通	灰褐色の灰土質胎土	中央部床面	98%、PL28
308	上部器	坏	12.8	4.2	—	砂粒	にぶい橙	普通	灰褐色の灰土質胎土	2段土中、床面	90%、PL29
309	下部器	坏	14.3	4.3	—	長石	にぶい青黒	普通	灰褐色の灰土質胎土	中央部下層～床面	98%、PL20
310	下部器	坏	12.8	3.9	—	長石・石英	にぶい橙	普通	灰褐色の灰土質胎土	遺北東部床面	98%、PL29
311	上部器	坏	13.5	3.5	—	長石・石英	にぶい橙	普通	灰褐色の灰土質胎土	遺北東部床面	98%、PL29
312	下部器	坏	12.0	4.5	—	長石	にぶい橙	普通	灰褐色の灰土質胎土	遺北東部床面	95%、PL29
313	上部器	坏	13.3	4.8	—	長石・石英	にぶい橙	普通	灰褐色の灰土質胎土	中央部下層～床面	80%、PL29
314	上部器	坏	12.4	4.3	—	赤色粘土	にぶい橙	普通	灰褐色の灰土質胎土	中央部下層～床面	80%、PL28
315	下部器	甕	11.0	8.0	5.0	長石	明赤陶	普通	灰褐色の灰土質胎土	遺北東部	50%
316	下部器	碗	11.9	5.8	—	赤色粘土	にぶい橙	普通	灰褐色の灰土質胎土	観音地部	60%、PL29
317	上部器	甕	19.6	15.0	7.1	長石	浅黄緑	普通	灰褐色の灰土質胎土	山崎寄り下層	0%、PL32
318	須恵器	蓋	14.5	2.5	—	雲母・長石	にぶい黄橙	普通	灰褐色の灰土質胎土	覆土上層	33%

番号	器種	径	厚さ	孔径	高さ	胎土	色調	手法的特徴	出土位置	備考
DP66	小	5	0.6	0.1	0.16	砂粒	にぶい橙	片面穿孔	覆土下層	

(2) 方形周溝墓

今回の調査で、古墳時代の方形周溝墓を3基確認した。以下、確認した遺構と出土した遺物について記載する。



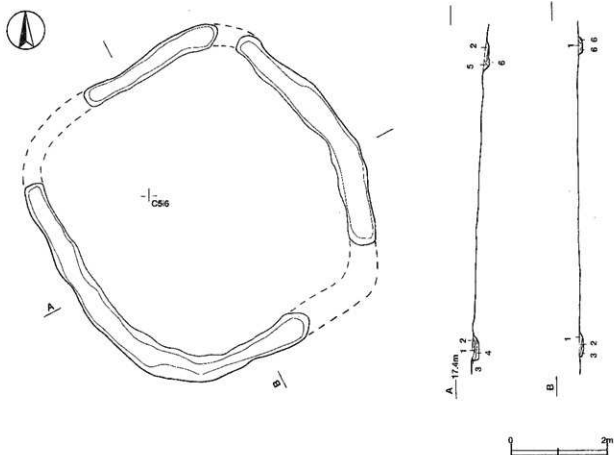
第1号方形周溝墓（第120図）

位置 調査区中央部、C516区の緩斜面部に立地し、南西には第2号方形周溝墓、南には第3号方形周溝墓がそれぞれ位置している。

規模と形状 耕作のため方台部は削平され、周溝の下端部を残すだけであるが、確認された方台部上面は南北6.80m、東西6.50mで、周溝を含めた上面は南北7.80m、東西7.60mであり、主軸はN-30°-Wである。周溝底面の比高差は東西が0.5mで東側が低く、南北が0.1mとはほぼ平行である。平面形は隅丸方形を呈し、北東溝の中央部が外側にやや彎曲している。北・東・西コーナーが耕作による削平のため遺存していないが、南コーナーが弧状を呈している。埋葬施設は確認されていない。

周溝・壁 溝は北・東・西コーナーが耕作による削平のため遺存していないが、各辺の掘り込みに対してコーナー部の掘り込みが浅く、本来周回していたと考えられる。周溝は上幅0.33~0.56m、下幅0.14~0.56mで、深さ10~16cmである。北西溝中央部と南コーナーの幅が最も狭く、底面は平坦で、壁は方台部側、外周部側ともに外傾して立ち上がっている。

覆土 6層に分層される自然堆積である。各層にローム粒子、ロームブロックが含まれているが、これらは方台部からの流れ込み、もしくは壁面からの崩れによる堆積と考えられる。



第120図 第1号方形周溝墓実測図

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

- 4 暗褐色 ローム粒子中量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量

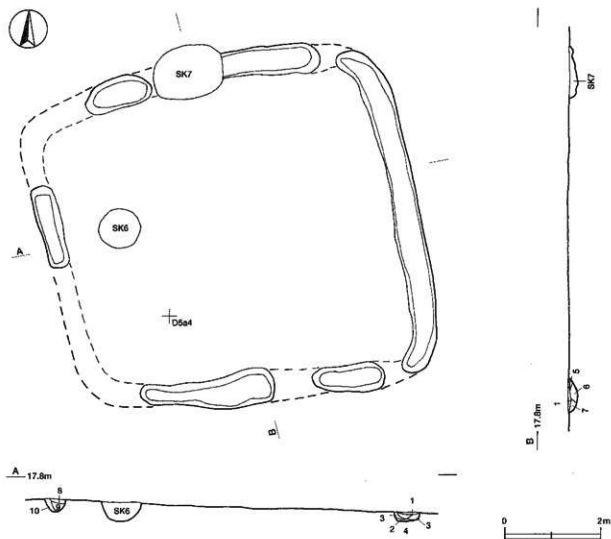
遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 本跡は耕作などによる削平のため全体の形状は把握できず、遺物の出土もないが、時期はその形状から古墳時代前期と推定される。

第2号方形周溝墓（第121図）

位置 調査区中央部、C5j4区の緩斜面部に立地し、北東には第1号方形周溝墓、南東には第3号方形周溝墓がそれぞれ位置している。

重複関係 方台部西側を第6号土坑に、北溝中央部を第7号土坑にそれぞれ掘り込まれている。



第121図 第2号方形周溝墓実測図

**規模と形状** 方台部上面は南北方向8.80m、東西方向8.20mで、周溝を含めた上面は南北9.90m、東西9.90mと推定され、主軸はN-11°-Wである。周溝底面の比高差は東西が0.25mで東側がやや低く、南北は平行である。平面形は隅丸方形で、北西コーナーと南西コーナーが耕作による削平のため遺存していない。埋葬施設は確認されていない。

**周溝・壁** 溝は南東コーナーから北西コーナーにかけて遺存していない部分があるが、各辺の掘り込みに対してコーナー部の掘り込みが浅く、本来周回していたと考えられる。周溝は、上幅0.42～0.76m、下幅0.20～0.50m、深さ20～24cmである。底面はほぼ平坦で南溝の南西コーナー寄りと西溝の南西コーナー寄りが最も狭く、壁は方台部側、外周部側ともに外傾して立ち上がっている。

**覆土** 10層に分層される自然堆積である。各層にローム粒子、ロームブロックが含まれているが、これらは方台部からの流れ込み、もしくは壁面からの崩れによる堆積と考えられる。

**土層解説**

1 黒褐色	ロームブロック少量	6 暗褐色	ロームブロック中量
2 黒褐色	ロームブロック少量	7 暗褐色	ロームブロック少量
3 暗褐色	ローム粒子少量	8 褐色	ローム粒子多量
4 暗褐色	ローム粒子中量	9 褐色	ローム粒子多量
5 黒褐色	ローム粒子少量	10 褐色	ローム粒子多量

**遺物出土状況** 遺物は出土していない。

**所見** 本跡は耕作などによる削平のため全体の形状は把握できず、遺物の出土もないが、時期はその形状から古墳時代前期と推定される。

### 第3号方形周溝墓（第122・123回）

**位置** 調査区中央部、D5 b6区の緩斜面部に立地し、北東には第1号方形周溝墓、南東には第3号方形周溝墓がそれぞれ位置している。

**重複関係** 北コーナーから方台中央部にかけて第2号住居跡、第8・9号土坑、南東コーナーを第4号溝にそれぞれ掘り込まれている。

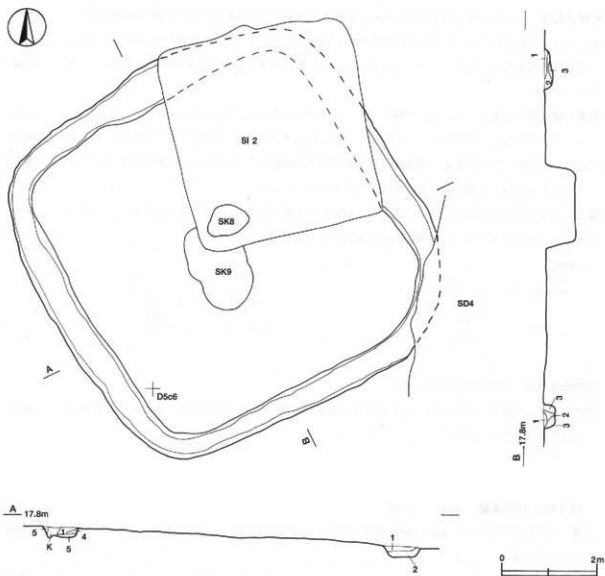
**規模と形状** 方台部上面は南北8.30m、東西8.30mで、周溝を含めた上面は南北9.30m、東西9.30mと推定され、主軸はN-30°-Wである。周溝底面の比高差は東西が0.4mと東側が低く、南北が0.1mとほぼ平行である。平面形は隅丸方形で、北東コーナーと南東コーナーが第2号住居跡や第4号溝に掘り込まれているため遺存していない。埋葬施設は確認されていない。

**周溝・壁** 溝は重複のため遺存していない部分もあるが、本来周回していたと考えられる。周溝は、上幅0.44～0.84m、下幅0.24～0.72m、深さ24cmであり、底面はほぼ平坦で南西コーナーが最も狭く、壁は方台部側、外周部側ともに外傾して立ち上がっている。

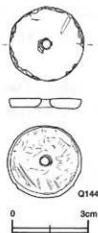
**覆土** 5層に分層される自然堆積である。各層にローム粒子、ロームブロックが含まれているが、これらは方台部からの流れ込み、もしくは壁面からの崩れによる堆積と考えられる。

**土層解説**

1 暗褐色	ローム粒子中量	4 暗褐色	ローム粒子少量
2 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	5 暗褐色	ローム粒子中量
3 黒褐色	ローム粒子少量		



第122図 第3号方形周溝墓実測図



**遺物出土状況** 瓦1点、石製品1点（紡錘車）が出土しているが、いずれも覆土上層から出土し、後世の混入である。

**所見** 本跡は耕作などによる削平のため全体の形状は把握できず、遺物の出土もないが、時期はその形状から古墳時代前期と推定される。

第123図 第3号方形周溝墓出土遺物実測図

第3号方形周溝墓出土遺物観察表

番号	器種	径	厚さ	孔径	高さ	材質	特徴	出土位置	備考
Q144	鈴 鉢 串	5.9	0.8	0.8	39.7	泥岩	薄い円盤形、黒文、両側穿孔	覆土上層	PL36

### (3) 土 坑

今回の調査で、古墳時代の土坑を10基確認した。以下、確認した遺構と出土した遺物について記載する。

#### 第1号土坑 (第124図)

**位置** 調査区中央部、D5j8区の緩斜面部に立地し、北には第8号住居跡、南には第9号住居跡が位置している。

**重複関係** 第7号住居跡の南東コーナー部を掘り込み、南側を第2・3号土坑、東側を第10号溝にそれぞれ掘り込まれている。

**規模と形状** 長径2.54m、短径2.40mの楕円形で、深さは67cmである。長径方向はN-77°-Eであり、底面は平坦で壁はやや外傾して立ち上がる。

**覆土** 2層に分層され、ローム土を多く含み、埋め戻しの堆積状況を示した人為堆積である。

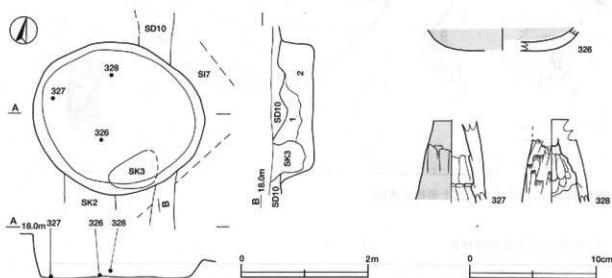
#### 土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量

2 暗褐色 ロームブロック中量

**遺物出土状況** 土師器片26点(坏1, 高坏10, 甕15)が出土している。326・327・328及び土師器片は覆土下層から底面で出土し、投棄されたものと考えられる。

**所見** 本跡の時期は、出土土器から5世紀前半と考えられる。



第124図 第1号土坑・出土遺物実測図

第1号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
326	土師器	坏	—	(1.9)	—	長石・石英	赤	普通	丸部へ削	中央部底面	10%
327	土師器	高坏	—	(6.6)	—	石英	浅黄	普通	縁部外側へナリ内側へナリ編織A様	西部底面	5%
328	土師器	高坏	—	(6.6)	—	長石・石英	橙	普通	縁部外側へナリ内側へナリ編織B様	北部下層	10%

第10号土坑 (第125図)

**位置** 調査区中央部、D5j8区の緩斜面部に立地し、北には第7号住居跡、南には第9号住居跡が位置している。

**重複関係** 中央部から北部を第5号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径0.70m、短径0.67mの円形で、深さは45cmである。底面は皿状で、壁はやや外傾して立ち上がる。

**覆土** 2層に分層され、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

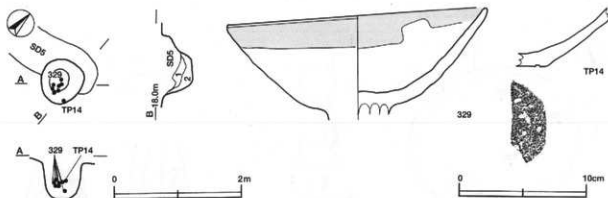
土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子中量

**遺物出土状況** 土師器片74点(高坏18、甕56)、須恵器片2点(甕)が出土している。329・TP14は中央部から南側部の下層から一括して投棄された様相を呈して出土し、その他も同様である。須恵器片は覆土上層から出土した後世の混入である。

**所見** 本跡の時期は、出土土器から5世紀前半と考えられる。



第125図 第10号土坑・出土遺物実測図

第10号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
329	土師器	高坏	20.6	(8.1)	—	石英	橙	普通	口縁部外側へナリ内側へナリナリ	中央部下層	50%
TP14	土師器	甕	—	(4.6)	—	長石	にぶい橙	普通	縁部削	中央部下層	5%、P1.25

### 第14号土坑（第126図）

**位置** 調査区中央部東側，D 6 j7区の緩斜面部に立地し，北には第20号住居跡，南東には第21号住居跡が位置している。

**規模と形状** 長径1.77m，短径1.74mの円形で，深さは12cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

**覆土** 3層に分層され，黒褐色系の腐植土を含む自然堆積である。

**土層解説**

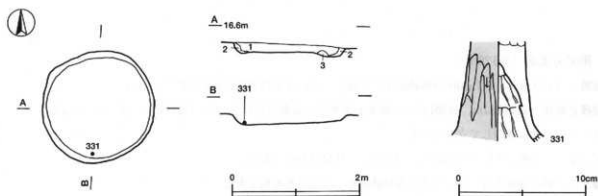
1 黒褐色 ロームブロック少量

2 暗褐色 ローム粒子少量

3 黒褐色 ローム粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片4点（高坏1，甕3），須恵器片1点（甕），土師質土器片1点が出土している。331及び土師器片は底面から出土した本跡に伴うものである。そのほかの遺物は覆土上層からの出土で，後世の混入である。

**所見** 本跡の時期は，出土土器から5世紀前半と考えられる。



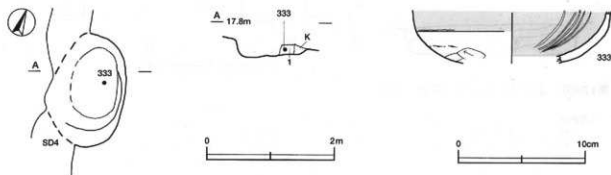
第126図 第14号土坑・出土遺物実測図

### 第14号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
331	土師器	高坏	—	(8.0)	—	長石・石英	浅黄橙	普通	敷瓦内面・7部内面・9部・10部	南部取面	20%

### 第16号土坑（第127図）

**位置** 調査区中央部，D 5 g8区の緩斜面部に立地し，北には第17号土坑が位置している。



第127図 第16号土坑・出土遺物実測図

**重複関係** 西部を第4号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径1.80m、短径0.64mの楕円形で、長径方向はN-15°-Wである。深さは15cmで、底面は平坦で、竪は外傾して立ち上がる。

**覆土** 単一層で、ロームブロックが比較的多く含まれ、埋め戻された可能性が考えられる。

**土層解説**

1 暗褐色 ロームブロック中量

**遺物出土状況** 土師器片16点（坏4、甕12）、須恵器片1点（甕）が出土している。333及び土師器片は覆土下層から出土した本跡に伴うものである。須恵器片は覆土上層から出土した後世の混入である。

**所見** 本跡の時期は、出土土器から5世紀後半と考えられる。

**第16号土坑出土遺物観察表**

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	産地	手法の特徴	出土位置	備考
333	土師器	坏		(4.1)		石灰	橙	香焼	外器面へうねり内へうねり	中央部底面	70%

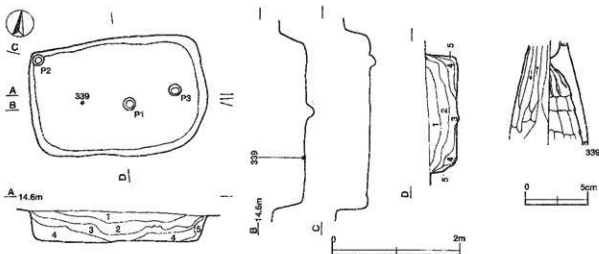
**第57号土坑（第128図）**

**位置** 調査区東部、D7g0区の緩斜面部に立地し、北には第44号住居跡が位置している。

**規模と形状** 長軸2.81m、短軸1.89mの薄丸長方形で、長軸方向はN-80°-Eである。深さは15cmで、底面は平坦で、各壁は外傾して立ち上がる。

**ピット** 3か所。P1～3は深さ4～13cmで、性格は不明である。

**覆土** 5層に分層され、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。



**第128図 第57号土坑・出土遺物実測図**

**土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量



**遺物出土状況** 土師器片70点(坏1, 高坏27, 埴9, 甕33), 須恵器片3点(甕1, 甕2)が出土し, 339及び土師器片は覆上下層から底面で出土し本跡に伴うものである。須恵器片は覆上上層から出土した後世の混入である。

**所見** 本跡の時期は, 出土土器から5世紀前半と考えられる。

#### 第57号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地味	手法の特徴	出土位置	備考
339	土師器	高坏	—	(R3)	—	長石・石英	橙	普通	埴埴片・高坏・高坏・高坏・高坏	中央部底面	10%

#### 第62号土坑 (第129図)

**位置** 調査区東部, D8f8区の緩斜面部に立地し, 北には第42号住居跡が位置している。

**規模と形状** 長径1.35m, 短径1.29mの円形で, 深さは29cmである。底面は平川で, 壁は外傾している。

**覆土** 3層に分層され, ロームブロックを比較的多く含み, 埋め戻しの堆積状況を示した人為堆積である。

##### 土層解説

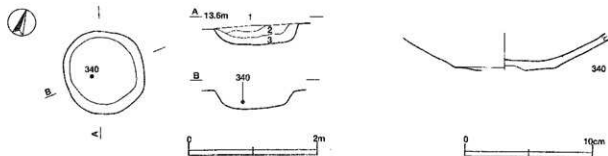
1 黒褐色 ロームブロック少量

2 黒褐色 ロームブロック中量

3 暗褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 土師器片9点(高坏4, 甕5)が出土している。340は覆土下層から出土した本跡に伴うものである。

**所見** 本跡の時期は, 出土土器から5世紀前半と考えられる。



第129図 第62号土坑・出土遺物実測図

#### 第62号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地味	手法の特徴	出土位置	備考
340	土師器	高坏	—	(29)	—	雲母・長石	に濃い橙	普通	埴埴片・高坏・高坏・高坏・高坏	中央部下層	10%

#### 第63号土坑 (第130図)

**位置** 調査区東部, D8e3区の緩斜面部に立地し, 北には第45号住居跡が位置している。

**規模と形状** 長径1.95m, 短径1.85mの円形で, 深さは30cmである。底面は皿状で, 中央部には径50cm, 深さ10cmほどの窪みがみられる。

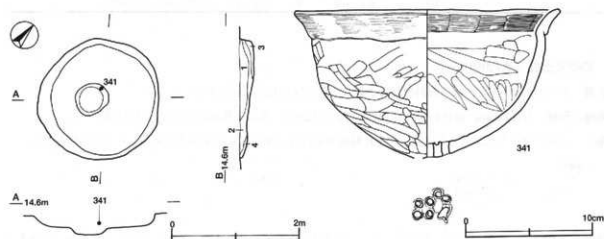
**覆土** 4層に分層され、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

**土層解説**

- |       |           |       |           |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量 | 3 暗褐色 | ローム粒子少量   |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |

**遺物出土状況** 土師器片23点(台付甕1, 瓶22)が出土している。341は中央部の覆土下層から横位の状態で出土した本跡に伴うものである。

**所見** 本跡の時期は、出土土器から5世紀代と考えられる。



第130図 第63号土坑・出土遺物実測図

第63号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
341	土師器	瓶	20.6	11.8	—	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口端器内面ナメ面ハシ目調整	中央部下層	98%多孔孔孔孔

第88号土坑 (第131図)

**位置** 調査区中央部、D7b8区の緩斜面部に立地し、東には第49号住居跡が位置している。

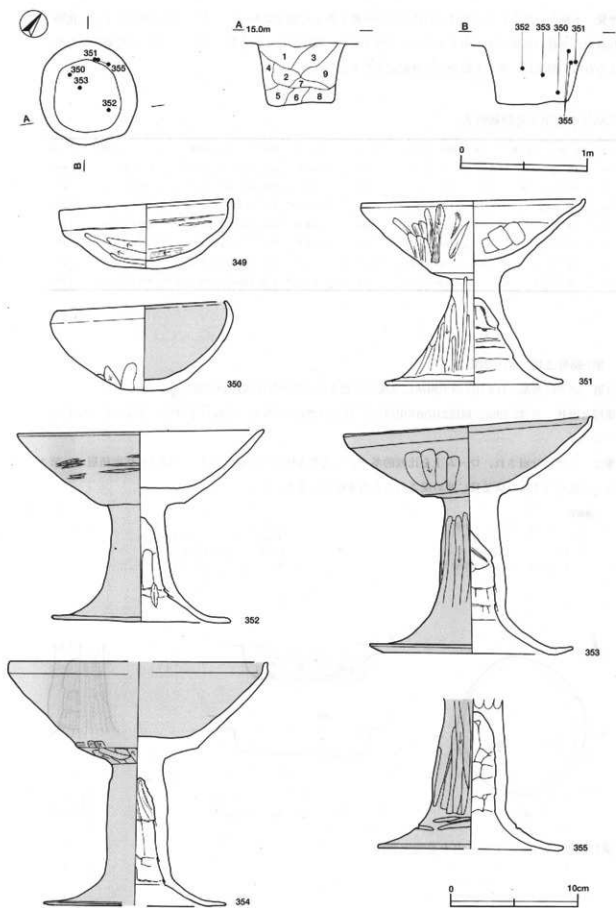
**規模と形状** 長径0.76m、短径0.67mの楕円形で、長径方向はN-27°-Wで深さは50cmである。底面は平坦で、壁はやや外傾して立ち上がる。

**覆土** 9層に分層され、覆土中に焼土・炭化物・ロームブロック・粘土を含んだ不自然な堆積状況を示していることから、埋め戻されたものと考えられる。

**土層解説**

- |        |                                  |        |                              |
|--------|----------------------------------|--------|------------------------------|
| 1 暗褐色  | 粘土ブロック多量、ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 | 6 極暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量             |
| 2 暗褐色  | 焼土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量        | 7 極暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量     | 8 極暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色  | ロームブロック中量、炭化粒子微量                 | 9 黒褐色  | ロームブロック中量、粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子少量、粘土粒子微量   |        |                              |

**遺物出土状況** 土師器片99点(坏6, 高杯93), 炭が出土している。349~355は覆土上層から下層の出土で、一括して投棄された様相を呈している。また、352・355には擦痕が認められ砥石として使用されたと考えられる。炭は底面から出土している。



第131图 第88号土坑·出土物实测图

所見 本跡から出土した土器は、高坏などの供献土器が大部分であった。また、覆土中に焼土や炭化物がみられるが、本跡の底面や壁、出土土器には火熱を受けた痕跡がなく、土器とともに一括して投棄されたものと考えられる。時期は、出土土器から5世紀前半と考えられる。

第88号土坑出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色澤	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
349	土師器	罎	13.7	5.5	—	石灰	浅黄橙	普通	無刻痕の滑らかな面へのナデ	覆土上部	98%PL30
330	土師器	椀	13.5	7.2	—	灰石	橙	普通	外周半周のナデ、内面へのナデ	北西部寄り下層	98%PL33
351	土師器	鉢	17.6	14.7	14.0	砂粒	にぶい黄橙	普通	外周半周の滑らかな面へのナデ	北東部中層	89%PL33
332	土師器	高坏	19.4	15.4	14.0	灰石	浅黄橙	普通	外周半周の滑らかな面へのナデ	東部寄り中層	86%PL33(原注)
353	土師器	高坏	19.7	18.8	16.1	灰石	浅黄橙	普通	外周半周の滑らかな面へのナデ	中央部中層	60%PL33
354	土師器	高坏	20.4	19.4	14.4	灰石・石灰	にぶい橙	普通	上面の半周の滑らかな面へのナデ	覆土中層	94%PL33
335	土師器	高坏	—	(11.0)	(14.6)	石灰	にぶい黄橙	普通	無刻痕の滑らかな面へのナデ	北西部寄り上層	30%灰石(原注)

第198号土坑 (第132図)

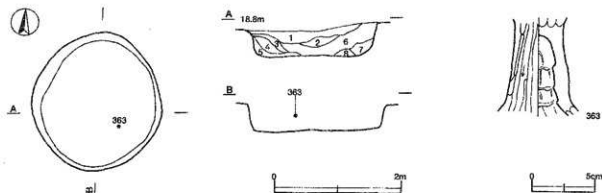
位置 調査区西部、D43区の平地部に立地し、北東には第79号住居跡が位置している。

規模と形状 長径2.19m、短径2.07mの円形で、深さは29cmである。底面は平坦で、壁はやや外傾して立ち上がる。

覆土 8層に分層され、ローム土を比較的多く含む人為堆積であるが、第1・2層は自然堆積層で、第3～8層は遺物が含まれた構築後に埋め戻された人為堆積層と考えられる。

土層解説

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1 褐色 ロームブロック中量  | 5 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 褐色 ローム粒子少量    | 6 黒褐色 ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子少量   | 7 深暗褐色 ローム粒子少量  |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量 | 8 褐色 ローム粒子中量    |



第132図 第198号土坑・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 土師器片65点（高坏8，埴4，甕53），土師質土器片2点が出土している。363などの土師器片は覆土中層から下層で出土し，投棄されたものと考えられ，覆土上層から出土した土師質土器片は後世の混入である。

**所見** 本跡の時期は，出土土器から5世紀前半と考えられる。

#### 第198号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
363	土師器	高坏	—	(7.8)	—	砂粒	浅黄橙	普通	胴部外面へ丸内面ナデ	中央部中層	30%

#### 第213号土坑（第133図）

**位置** 調査区西部，D4h2区の平坦部に立地し，北には第87号住居跡が位置している。

**規模と形状** 長軸1.11m，短軸0.94mの隅丸長方形で，長軸方向はN-85°-Wである。深さは55cmであり，底面は平坦で，壁はやや外傾して立ち上がる。

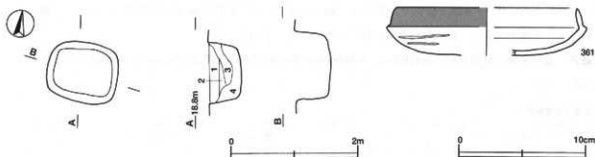
**覆土** 4層に分層され，第1層はロームを比較的多く含んだ堆積層で，第2～4層はレンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

##### 土層解説

- |                |                |
|----------------|----------------|
| 1 褐色 ロームブロック中量 | 3 褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量  | 4 褐色 ロームブロック中量 |

**遺物出土状況** 土師器片21点（坏13，甕8），土師質土器片3点が出土している。361は覆土下層から出土し，土師質土器片は覆土上層の出土で後世の混入である。

**所見** 本跡の時期は，出土土器から6世紀後半と考えられる。



第133図 第213号土坑・出土遺物実測図

#### 第213号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
361	土師器	坏	[14.3]	3.8	—	石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	胴部外面へ丸内面ナデ	覆土下層	30%

#### 4 奈良・平安時代の遺構と遺物

今回の調査で、奈良・平安時代の竪穴住居跡16軒、掘立柱建物跡6棟、土坑6基、溝1条を確認した。以下、確認された遺構と遺物について記述する。

##### (1) 竪穴住居跡

###### 第2号住居跡（第134・135図）

**位置** 調査区域の中央部、D5a6区の緩やかな斜面部に立地し、南西には第3号住居跡が位置している。

**重複関係** 北西コーナーから南東コーナーにかけて第3号方形掘溝を掘り込み、南西コーナーを第8・9号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸4.41m、短軸1.07mの長方形で、主軸はN-15°-Wである。壁高は25~37cmで、各壁はほぼ直立する。

**床** ほぼ平坦で、P5から竈の前にかけてよく踏み固められ、壁溝が凹回している。

**竈** 北壁中央部に砂質粘土とロームで構築され、焚口から煙道部まで84cm、両袖部幅91cmである。天井部は崩落しており、第5・6層は燃焼部に堆積した焼土ブロックを多く含む層である。煙道部は壁外へ16cmほど掘り込んでおり、火床面から緩やかに立ち上がっている。

###### 遺土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量	10 灰褐色	粘土粒子多量、ロームブロック・砂粒少量
2 暗褐色	ロームブロック・砂粒少量、焼土ブロック・粘土ブロック微量	11 暗赤褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量
3 灰褐色	粘土粒子中量、ロームブロック・砂粒少量、焼土ブロック微量	12 褐色	ローム粒子中量
4 褐色	ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量	13 灰褐色	ローム粒子・粘土粒子多量、焼土ブロック・砂粒少量
5 暗赤褐色	焼土ブロック多量	14 暗赤褐色	焼土ブロック多量
6 暗赤褐色	焼土ブロック中量、灰少量	15 灰褐色	ローム粒子・粘土粒子多量、焼土ブロック微量
7 暗褐色	ローム粒子・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量	16 暗赤褐色	ローム粒子多量、粘土粒子中量、焼土ブロック微量
8 褐色	粘土粒子中量、ローム粒子・砂粒少量、粘土粒子微量	17 暗褐色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量、焼土ブロック微量
9 暗赤褐色	粘土粒子多量、焼土ブロック中量、砂粒少量	18 暗褐色	ローム粒子中量、粘土粒子少量、砂粒微量
		19 濃い赤褐色	焼土粒子多量
		20 暗褐色	ローム粒子少量、粘土粒子・砂粒微量

**ピット** 5か所。P1~4は主柱穴で、深さ31~56cmである。P5は深さ28cmで南壁際の中央部に位置し、竈に対して一直線上に並び、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**貯蔵穴** 竈の東側に付設され、長径92cm、短径66cmの楕円形である。深さは32cmで、底面は平坦であり壁は外傾している。

###### 貯蔵穴土層解説

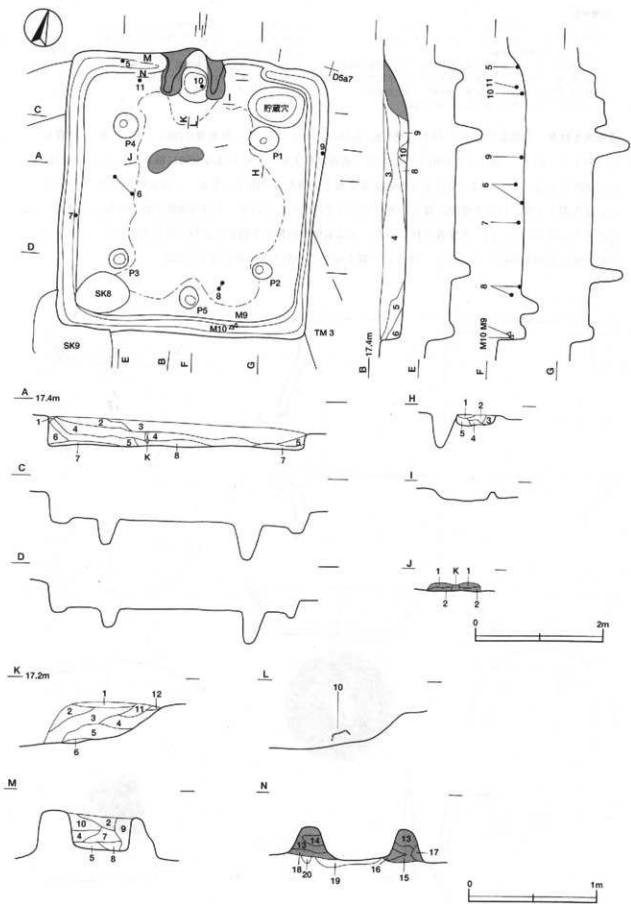
1 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量、粘土粒子・砂粒微量	4 褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量、粘土粒子・砂粒微量	5 褐色	ロームブロック中量
3 褐色	ロームブロック中量		

**粘土塊** 本跡中央部からやや北側に粘土塊が出土し、住居廃絶後に竈の天井部が崩落して流れ出したものと考えられる。

###### 粘土塊土層解説

1 灰褐色	粘土粒子多量、砂粒少量	2 暗褐色	ローム粒子・粘土粒子・灰少量
-------	-------------	-------	----------------

**覆土** 10層に分層され、レンズ状の堆積状況を示しているが、ロームブロック、焼土、炭化物を多量に含み、人為堆積と考えられる。

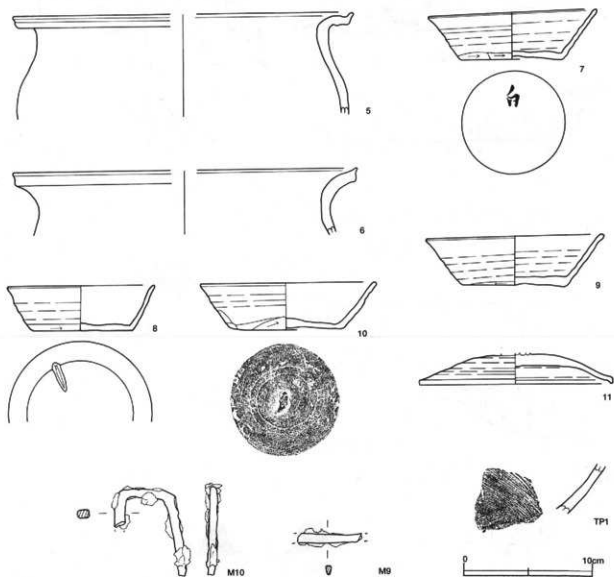


第134图 第2号住居跡実測图

土層解説

- |       |                               |        |                                     |
|-------|-------------------------------|--------|-------------------------------------|
| 1 褐色  | ローム粒子多量、ロームブロック少量             | 7 暗褐色  | ロームブロック中量、炭化粒子微量                    |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 8 暗褐色  | ロームブロック・焼土ブロック少量                    |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量       | 9 暗褐色  | ロームブロック少量、焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量    |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量       | 10 灰褐色 | 粘土ブロック中量、炭化粒子少量、ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量         |        |                                     |
| 6 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量              |        |                                     |

遺物出土状況 土師器片230点(坏47, 甕178, 高坏3, 鉢1, 蓋1), 須恵器片78点(坏77, 蓋1), 鉄製品2点(刀子1, 門1), 鉄滓1点が出土している。遺物は覆土中～上層のほぼ全域に散在しており, そのほとんどが細片である。6・8は中央部寄りの床面及び覆土下層からの出土である。5は北壁際覆土下層から出土, 10は竈内覆土下層, 11は北壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。7は北壁際の覆土下層から逆位の状態で出土し, 底部には「白」と墨書されている。9は東壁際の覆土下層から正位の状態で出土し, M9・10は南壁際の覆土中層から出土している。TP1は, 覆土中からの出土で後世の混入である。



第135図 第2号住居跡出土遺物実測図



所見 本跡は壁際の覆土下層から良好な土器が出土し、時期は8世紀中頃と考えられる。

第2号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	器体	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
5	土 埴 器	壺	20.8	( 8.2)	—	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部が浅く内面が	北壁際下層	2%
6	土 埴 器	壺	27.2	( 1.9)	—	雲母・長石・石英	橙	普通	口縁部が浅く内面が	中央部下層から床面	5%
7	須 恵 器	杯	13.2	4.9	8.0	赤・長石・石英	黄灰	普通	口縁部が浅く内面が	南壁際下層	40% P1, P2
8	須 恵 器	杯	11.7	3.6	7.8	長石・石英	灰白	普通	口縁部が浅く内面が	中央部下層から床面	40% P1, P2
9	須 恵 器	杯	14.0	4.1	8.0	長石・石英	灰白	普通	口縁部が浅く内面が	南壁際下層	40% P1, P2
10	須 恵 器	杯	13.8	3.7	9.0	雲母・長石	灰	普通	口縁部が浅く内面が	北壁際下層	100% P1, P2
11	須 恵 器	壺	13.4	( 2.5)	—	長石・石英	灰	普通	口縁部が浅く内面が	室内下層	89% P1, P2
TP1	土 埴 器	壺	( 4.0)	—	—	長石・砂鉄	褐色	普通	4.0cm口径	覆土中	—

番号	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	材質	特徴	出土位置	備考
M9	刀	( 5.0)	( 0.8)	0.4	(4.7)	鉄	華部系鋼片、華反欠損	南壁際中層	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	材質	特徴	出土位置	備考
M10	門 金 具	( 7.0)	( 5.3)	0.9	(4.3)	鉄	新田氏方印、口、宇佐月島遺跡火皿	北壁際中層	86% P1, P2

### 第3号住居跡 (第136・137図)

位置 調査区域の中央部、D5d4区の緩やかな斜面部に立地している。

重複関係 南部で第4号住居跡と第5号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.64m、短軸4.36mの方形で、主軸は、N-10°-Wである。壁高は5~26cmで、各壁はほぼ直立している。

床 ほぼ平坦であり、P5から遺周辺部にかけてよく踏み固められ、壁溝が周回している。

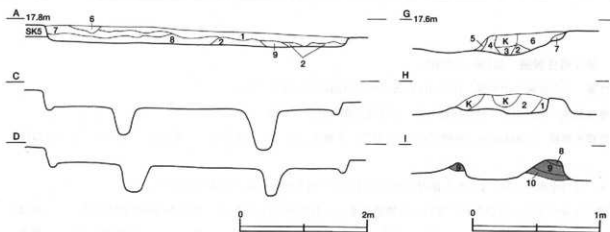
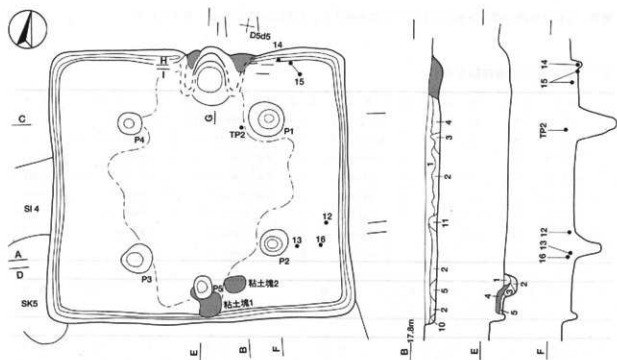
竈 北壁中央部に付設され、焚口から煙道部までの長さが92cmである。竈全体の遺存状態が悪く、袖部は痕跡を残すだけである。第2・3層の下部が火熱を受け、火床部と考えられる。また、煙道部は外傾して緩やかに立ち上がる。

#### 遺土層解説

- |          |                           |          |                                 |
|----------|---------------------------|----------|---------------------------------|
| 1 灰 黄 褐色 | 砂鉄少量、黒七土子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 8 暗 赤 褐色 | 砂鉄中量、ローム粒子・焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗 赤 褐色 | ローム粒子・砂鉄少量、焼土ブロック・炭化粒子微量  | 9 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック多量、砂鉄中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗 赤 褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量     | 10 暗 褐色  | ロームブロック中量、粘土粒子・砂鉄少量、炭化粒子微量      |
| 4 暗 赤 褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量   |          |                                 |
| 5 暗 褐色   | ロームブロック少量                 |          |                                 |
| 6 暗 褐色   | ロームブロック少量、焼土ブロック微量        |          |                                 |
| 7 褐色     | ローム粒子中量、砂鉄微量              |          |                                 |

ピット 5か所。P1~4は、深さ44~63cmで主柱穴である。P5は深さ24cmで南壁際の中央部に位置し、竈に対して一直線上に並び、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

粘土塊 南壁中央部に粘土塊が2か所に出土している。粘土塊1は第4層で出入り口施設と考えられるP5に流れ込んでおり、第5層の下には本跡の硬化面が確認されていることなどから、竈構架材として使用されていた粘土が住居廃絶時に床面に残されたか、住居廃絶後に投棄されたものと考えられ、粘土塊2もこれと同様である。



第136図 第3号住居跡実測図

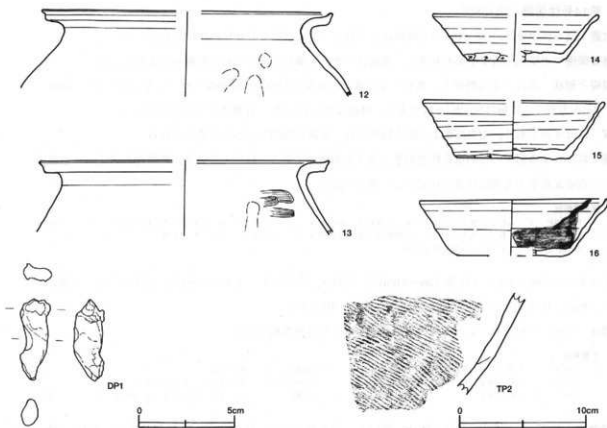
粘土塊・P5土層解説

- |                 |                           |
|-----------------|---------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量 | 4 灰褐色 ロームブロック・粘土粒子少量、砂粒微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量 | 5 黒褐色 ロームブロック少量           |
| 3 極暗褐色 ローム粒子少量  |                           |

覆土 11層に分層される。第3・4層は、粘土粒子、砂粒を含み、竈から流出した層と考えられる。第5層は粘土塊2である。第6・9・11層は、ロームブロックを含んだ不自然な堆積状況から人為堆積と考えられ、人為的に埋め戻された後に第1・2層が堆積した状況を示している。

土層解説

- |                              |                               |
|------------------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量       | 7 極暗褐色 ロームブロック少量              |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量              | 8 黒褐色 ロームブロック微量               |
| 3 灰褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・砂粒少量    | 9 褐色 ローム粒子多量、ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 4 灰褐色 ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量      | 10 褐色 ロームブロック中量               |
| 5 褐灰褐色 粘土ブロック多量、ローム粒子少量、砂粒微量 | 11 黒褐色 ロームブロック少量              |
| 6 暗褐色 ロームブロック中量              |                               |



第137図 第3号住居跡出土遺物実測図

**遺物出土状況** 土師器片402点(坏8, 碗1, 鉢3, 高坏46, 増2, 甕342), 須恵器片45点(坏40, 蓋2, 甕3), 土製品1点(勾玉カ), 礫1点が出土している。遺物は中央部から東部に比較的多く出土しており, そのほとんどが破片である。14は北壁の壁溝覆土中から正位の状態出土し, 15は14の東側床面から出土している。TP2は竈手前の覆土中層からの出土で, 12, 13, 16は南東コーナー寄りの覆土下層から出土している。DP1は覆土中からの出土である。

**所見** 本跡は覆土の堆積状況から埋め戻されたと考えられ, 遺物も投棄されたものであり, 時期は出土土器から8世紀中頃と考えられる。

第3号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
12	土師器	甕	[228]	(6.4)	—	雲母・長石	にぶい橙	普通	口縁部が赤褐色で内面が黄褐色	南東コーナー下層	5%
13	土師器	甕	[226]	(5.8)	—	雲母・長石	にぶい黄	普通	口縁部が赤褐色で内面が黄褐色	南東コーナー下層	5%
14	須恵器	坏	[130]	3.8	[7.4]	長石・赤色靱子	灰	普通	口縁部が赤褐色で内面が黄褐色	北壁床面	40%, PL21
15	須恵器	坏	[143]	4.6	9.0	雲母・長石	黄灰	普通	口縁部が赤褐色で内面が黄褐色	北壁床面	50%
16	須恵器	坏	14.8	4.6	8.9	雲母	灰黄	普通	口縁部が赤褐色で内面が黄褐色	南東コーナー下層	70%内面が赤褐色
TP2	須恵器	甕	—	(8.2)	—	雲母・長石	黄灰	普通	口縁部が赤褐色で内面が黄褐色	竈手前中層	20%, PL34

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	胎土	色調	手法の特徴	出土位置	備考
DP1	不明	4.3	1.5	1.4	7.4	長石	浅黄橙	ナデ	覆土中	100%

#### 第14号住居跡 (第138図)

**位置** 調査区中央部、D5g0区の緩斜西部に立地し、北には第6号住居跡が位置している。

**重複関係** 東壁から西壁を第6号溝に、北東コーナーを第9号溝にそれぞれ割り込まれている。

**規模と形状** 耕作による削平と、第6・9号溝との重複のため全体は把握されていないが、長軸4.88m、短軸4.74mの方形で、主軸はN-25°-Wである。壁高は10-15cmで、各壁はほぼ直立している。

**床** ほぼ平坦であり、中央部がよく踏み固められ、壁溝が凹凹していたと考えられる。

**竈** 耕作による削平のため遺存状態が悪く全体を明確にすることはできないが、燃焼部と考えられる覆土が僅かに残る北西壁中央部に付設されていたと考えられる。

##### 電土層解説

- |        |                          |       |                        |
|--------|--------------------------|-------|------------------------|
| 1 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土ブロック少量、炭化粒子・砂粒微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・砂粒微量 |
| 2 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土ブロック、炭化粒子少量、砂粒微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量                |
| 3 暗褐色  | ローム粒子中量、焼土粒子微量           |       |                        |

**ビット** 7か所。P1-4は深さ36-64cmで、主柱穴である。P5は深さ12cmで、南壁中央部に位置し、出入り口施設に伴うビットと考えられる。P6・7は不明である。

**覆土** 6層に分層され、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

##### 土層解説

- |       |                    |       |                             |
|-------|--------------------|-------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量                     |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量     | 5 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量              |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量            | 6 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 |

**遺物出土状況** 土師器片128点(坏18、甕110)、須恵器片5点(坏1、甕4)、鉄製品2点(不明)、縄文土器片1点、陶器片が出土している。56は竈燃焼部から出土し、本跡に伴うものと考えられる。覆土中から出土した土師器片の多くは細片であり、断面が摩滅し、後世の混入と考えられる。また、須恵器片、M12・13、陶器片も同様である。

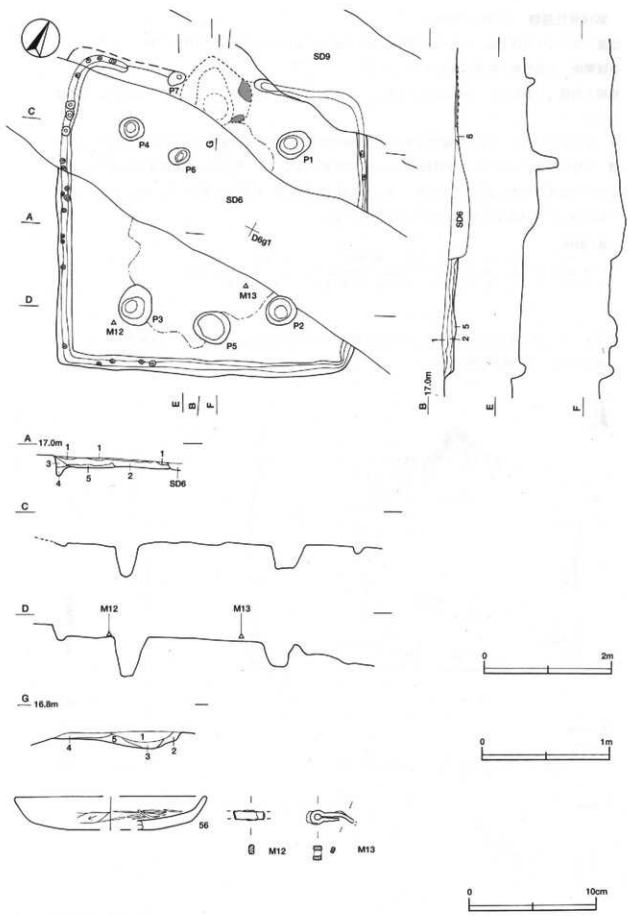
**所見** 本跡の時期は、竈燃焼部出土の土器から8世紀前半と考えられる。

#### 第14号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	縦径	胎土	色澤	変成	手法の特徴	出土位置	備考
56	土師器	坏	15.0	2.7		長石・石英	明赤褐色	普通	体部外周へうす内面へうす	燃焼部	5%

番号	種類	長さ	幅	厚さ	高さ	材質	特徴	出土位置	備考
M12	刀	(24)	0.6	0.4	(1.2)	鉄	表面の破片、裏面・刃部欠損	覆土中	30%

番号	種類	長さ	幅	厚さ	高さ	材質	特徴	出土位置	備考
M13	不明	(34)		0.7	(24)	鉄	先端輪状、片側欠損	覆土中	PL30



第138图 第14号住居跡・出土遺物実測図

### 第16号住居跡 (第139・140図)

**位置** 調査区中央部北側, C5e9区の緩斜面部に立地し, 南西には第1号住居跡が位置している。

**重複関係** 北部を第4号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸3.47m, 短軸3.35mの方形で, 主軸はN-3°-Wである。壁高は27~32cmで, 各壁は直立している。

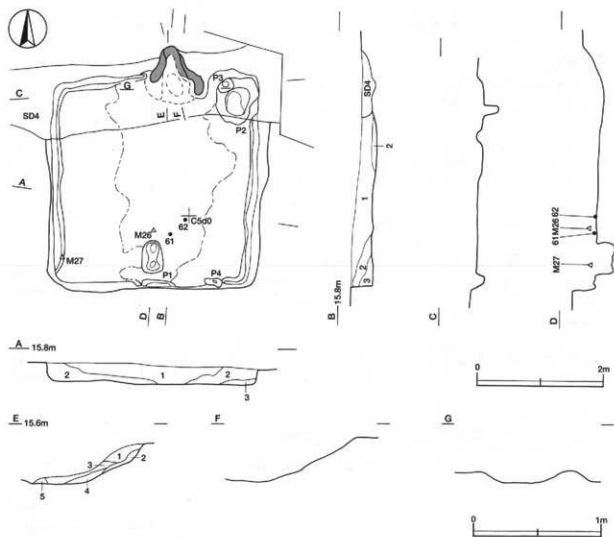
**床** ほぼ平坦であり, P1から竈周辺までよく踏み固められ, 壁溝は南壁の一部を除いてほぼ全周している。

**竈** 北壁中央部に付設され, 砂質粘土とロームで構築されている。焚口から煙道部までの最大長は94cmほどで, 天井部及び袖部は遺存していない。第3・4層は, 燃焼部に堆積した焼土を多く含む層で, 煙道部は壁外へ43cm延び, 火床面から緩やかに立ち上がっている。

#### 竈土層解説

- |        |                              |        |                                |
|--------|------------------------------|--------|--------------------------------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量      | 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色  | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量    | 5 黒褐色  | 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量           |
| 3 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量, 炭化粒子微量 |        |                                |

**ピット** 4か所。柱穴は確認されず, P1は南壁寄りの中央であることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2~4は性格不明である。



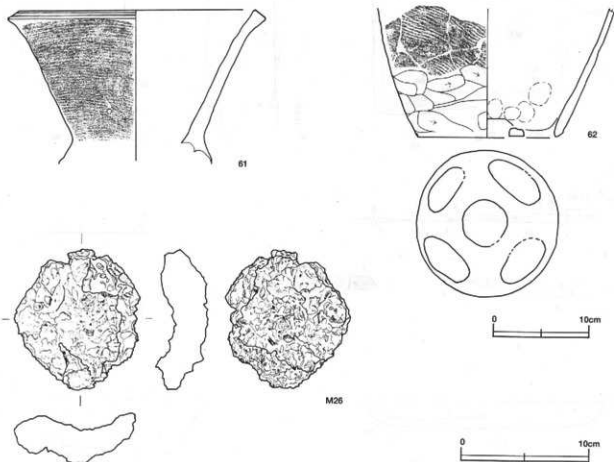
第139図 第16号住居跡実測図

覆土 3層に分層され、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量 3 暗褐色 ローム粒子中量  
2 黒褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片25点(莖)、須恵器片41点(坏5、捏ね鉢1、甕8、瓶27)、椀状鉄滓1点、鉄滓1点  
が出土している。61は逆位の状態、62は正位の状態でいずれも中央部からやや南壁よりの床面から出土し、い  
ずれも本跡に伴うものと考えられる。M26・27及びその他の遺物は、覆土中からの出土で後世の混入である。  
所見 時期は床面より出土した土器から8世紀中頃と考えられる。また本跡の覆土下層より椀状鉄滓などが出  
土しているため、本跡周辺部に鍛冶施設が存在していた可能性が考えられる。



第140図 第16号住居跡出土遺物実測図

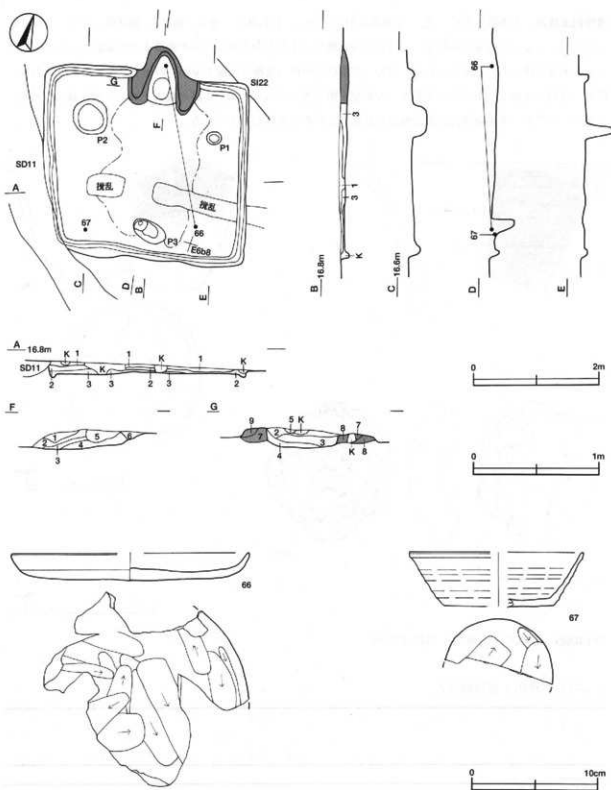
第16号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
61	須恵器	捏ね鉢	18.6	(12.2)	—	雲母・長石・石英	灰赤	普通	基部が縦壁の中心部から出土	南壁寄り床面	90%、PL22
62	須恵器	甕	—	(13.5)	15.0	雲母・長石・石英	灰黄	普通	基部が縦壁の中心部から出土	南壁寄り床面	30%、PL22

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	材質	特徴	出土位置	備考
M26	椀状鉄滓	11.1	9.9	4.1	42.1	鉄	表面中央部に窪み有り	覆土中	PL28

第19号住居跡 (第141図)

位置 調査区中央部東側, E 6 a7区の緩斜面部に立地し, 北東には第22号住居跡, 南西には第23号住居跡が位置している。



第141図 第19号住居跡・出土遺物実測図



**重複関係** 北東コーナーで第22号住居跡を掘り込み、南西部を第11号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸3.24m、短軸2.97mの方形で、主軸はN-14°-Wである。壁高は5～10cmで、各壁は直立している。

**床** ほぼ平坦であり、P1から竈周辺まではよく踏み固められ、壁高が凹入している。

**竈** 北西壁中央部に付設され、砂質粘土とロームで構築されている。焚口から煙道部までの最大長93cm、両袖部幅111cmで、天井部は崩落している。第3・4層は、燃焼部内の焼土を多く含む層で、煙道部は壁外へ43cm延び、火床面から緩やかに立ち上がっている。

**出土層解説**

- |            |                                 |            |                               |
|------------|---------------------------------|------------|-------------------------------|
| 1 暗 褐色 色   | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・砂粒微量          | 5 暗 赤 褐色 色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 |
| 2 にぶい赤褐色   | 粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量、炭化粒子微量   | 6 暗 赤 褐色 色 | 焼土ブロック中量、炭化粒子・粘土粒子微量          |
| 3 暗 褐色 色   | 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 灰 褐色 色   | 焼土ブロック・粘土粒子少量                 |
| 4 暗 赤 褐色 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、砂粒微量          | 8 にぶい赤褐色 色 | ローム粒子・焼土粒子少量、砂粒微量             |
|            |                                 | 9 暗 赤 褐色 色 | 焼土ブロック中量、粘土粒子微量               |

**ピット** 3か所。P1・2は柱穴であり、深さは23～44cmである。P3は深さ35cmで南壁寄りの中央に位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**覆土** 3層に分層され、非積状況と含有物から自然非積と考えられる。

**土層解説**

- |         |                  |         |                  |
|---------|------------------|---------|------------------|
| 1 黒褐色 色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 3 暗褐色 色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 色 | ロームブロック少量        |         |                  |

**遺物出土状況** 土師器片129点（坏9、高坏4、埴2、甕114）、須恵器片35点（坏33、甕1）、縄文土器片1点、陶器片1点、磁器片1点が出土している。66・67は覆土下層から出土し、いずれも木跡に伴うものと考えられる。遺物の多くは細片で、後世の混入である。

**所見** 本跡の時期は出土土器から8世紀中頃と考えられる。

**第19号住居跡出土遺物観察表**

番号	種別	図号	寸法	重量	産地	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
66	土師器	壺	18.6	21	16.7	雲母・長石・石英	にぶい色	普通	1層部付の美瑠・東ノ原?	覆土下層	20%
67	須恵器	杯	13.8	4.3	8.6	雲母	灰白	普通	1層部付の美瑠・東ノ原?	北コーナー下層	40%、PL23

**第21号住居跡（第142・143図）**

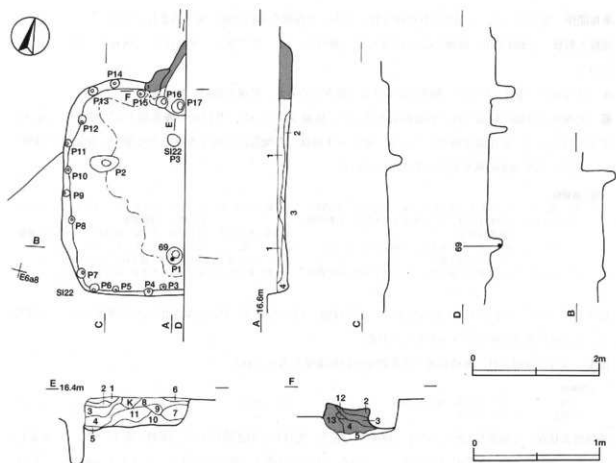
**位置** 調査区中央部東側、D6j8区の緩斜面部に立地し、北には第20号住居跡が位置している。

**重複関係** 南西部で第22号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 東部は調査区域外のため全体形状を明確にすることができないが、確認された長軸3.42m、短軸1.88mで方形または長方形と考えられる。主軸は、N-13°-Wである。壁高は10～17cmで、各壁はほぼ直立している。

**床** ほぼ平坦であり、P1から竈周辺までよく踏み固められている。

**竈** 北壁に付設され、砂質粘土とロームで構築されている。焚口から煙道部までの最大長は108cmで、両袖部幅は竈東部が調査区域外のため確認できない。第1・2層は粘土粒子、砂粒を比較的多く含んだ天井部の崩落層で、第3・4・10・11層は燃焼部に堆積した焼土を多く含む層である。煙道部は壁外へ63cmほど延び、火床面から平坦に掘り込まれた後、緩やかに立ち上がっている。



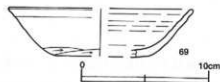
第142図 第21号住居跡実測図

**覆土層解説**

- |        |                                   |         |                             |
|--------|-----------------------------------|---------|-----------------------------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子少量, 焼土粒子・砂粒微量                | 9 暗褐色   | ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 焼土粒子・砂粒微量  |
| 2 灰褐色  | 粘土粒子中量, ローム粒子・砂粒少量, 焼土粒子微量        | 10 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量       |
| 3 暗赤褐色 | 粘土粒子中量, 焼土ブロック・砂粒少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 11 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量          | 12 灰褐色  | 粘土粒子中量, 焼土粒子・砂粒少量, ローム粒子微量  |
| 5 暗褐色  | ロームブロック少量, 焼土粒子微量                 | 13 灰褐色  | 粘土ブロック・砂粒少量, ローム粒子・焼土粒子微量   |
| 6 黒褐色  | ローム粒子少量                           |         |                             |
| 7 黒褐色  | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量              |         |                             |
| 8 暗褐色  | ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量  |         |                             |

**ピット** 17か所。P2は支柱穴であり、深さ25cmである。P1は深さ20cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。P3～15は、確認された壁下を巡るように位置することから壁柱穴と考えられ、P16・17は竈を掘り込んでいたため後世のものである。

**覆土** 4層に分層され、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。



**土層解説**

- |       |                          |
|-------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量                |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・粘土粒子中量, 炭化物・砂粒少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量   |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量                |

第143図 第21号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片28点(壺), 須恵器片9点(坏), 陶器片1点が出土している。69はP1覆土中から出土し, 陶器片は覆土中から出土した混入品である。

所見 本跡は東部が調査区域外のため形状を明確にすることができなかったが, 時期は8世紀中頃と考えられる。

#### 第21号住居跡出土遺物観察表

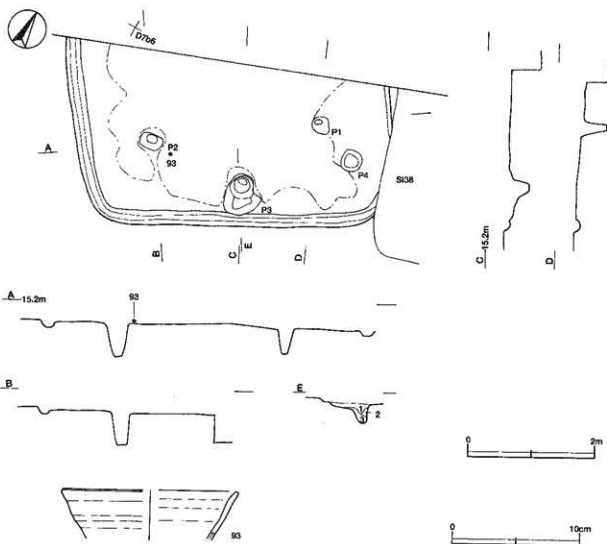
番号	類別	器種	口径	器高	口径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
69	須恵器	坏	14.4	3.8	7.8	砂粒	灰白	普通	器底の20cm程, 7海手付近(へり部), P1下層		28%

#### 第37号住居跡 (第144図)

位置 調査区東部北側, D7 b6区の緩斜面部に立地し, 南東には第33号住居跡が位置している。

重複関係 南東コーナーを第38号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による削平と北部が調査区域外のため全体の形状を明確にすることができなかったが, 確認された長軸は5.02m, 短軸は2.85mで, 方形または長方形と考えられる。主軸は, N-34°-Wであり, 壁高は3~6cmである。



第144図 第37号住居跡・出土遺物実測図

床 ほぼ平川で、確認された床面全体がよく踏み固められ、壁溝が全周していたと考えられる。

ピット 4か所。P1・2は主柱穴で、深さは43~56cmである。P3は深さ35cmで、南壁中央部に位置することから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P4は深さ15cmで性格は不明である。

P3土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量  
2 暗褐色 ロームブロック中量

- 3 褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片38点(坏1, 壺37), 須恵器片13点(坏8, 壺1, 甕4), 土師質土器片1点, 磁器片1点, 陶器片1点, 縄文土器片1点が出上している。93は南コーナー寄りの床面から出上し, その他の遺物は確認面及びP1・4の覆土中から出上している。

所見 耕作による削平と北部が調査区域外のため全体の形状を明確にすることができず, 出土遺物も木跡に伴うものが少なく, 時期は床面から出土した土器片から8世紀代と考えられる。

第37号住居跡出土遺物観察表

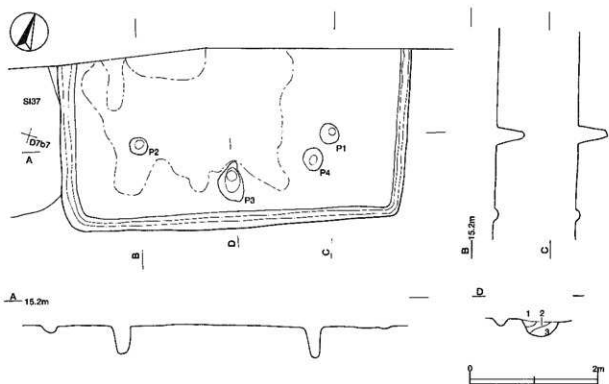
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	下底の特徴	出土位置	備考
93	須恵器	坏	13.8	4.0		長形	灰	柱溝 体部ワクロ底形		南コーナー-床面	5%

第38号住居跡 (第145図)

位置 調査区東部北側, D7a7区の緩斜面部に立地し, 南東には第33号住居跡が位置している。

重複関係 南西コーナーで第37号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 耕作による削平と北東部が調査区域外のため全体の形状を明確にすることができなかったが, 確認された長軸は5.40m, 短軸は2.85mで, 方形または長方形と考えられる。主軸はN-14°-Wであり, 壁高は



第145図 第38号住居跡実測図

4cmである。

床 ほぼ平坦で、中央部から南西壁がよく踏み固められ、塋溝が隔間していたと考えられる。

ピット 4か所。P1・2は主柱穴で、深さは44～48cmである。P3は深さ28cmで、南壁中央部に位置することから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P4は深さ16cmで性格は不明である。

#### P3土層解説

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック多量 | 3 暗褐色 ロームブロック多量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量 |                 |

遺物出土状況 土師器片40点（高坏1，甕39），須恵器片5点（坏），陶器片2点が確認面及びP2～4の覆土中から出土している。出土した土師器製の体部片には赤変した粘土粒子が付着したものが混入している。

所見 耕作による削平と北東部が調査区域外のため形状を明確にすることができず、出土遺物も本跡に伴うものがないが、本跡が第37号住居跡を掘り込んでいることと出土土器から、時期は8世紀代と考えられる。

### 第39号住居跡（第146・147図）

位置 調査区中央部、C5J0区の緩斜面部に立地し、北には第20号住居跡が位置している。

重複関係 北西コーナーで第89号土坑を掘り込み、中央部を第90号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.96m、短軸2.61mの長方形と考えられ、主軸はN-9°-Wである。壁高は17～46cmで、各壁はやや外傾している。

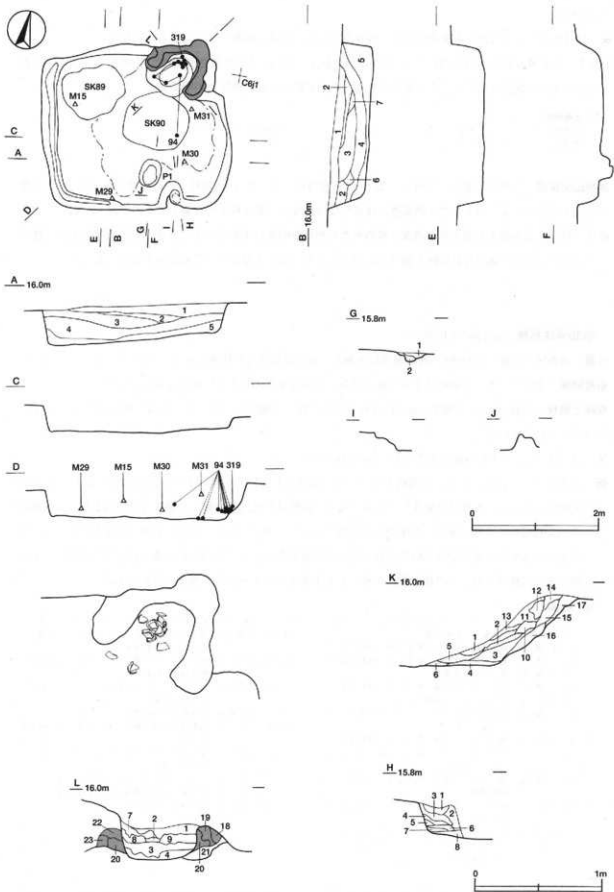
床 ほぼ平坦で、P1から窓周辺までよく踏み固められている。

竈 北東コーナーに付設され、砂質粘土とロームで構築されている。焚口から煙道部までの最大長は123cm、両袖部幅は117cmで、天井部は崩落している。第1～10層は燃焼部に堆積した焼土を多く含む層で、煙道部はコーナーを利用して壁外へ延び、火床面から外傾して立ち上がっている。また、右袖部の竈材には焼土ブロックが含まれて赤変し、北壁中央部の壁を掘り込んだ痕跡がみられることなどから竈の作り替えが想定され、当初北壁中央部に構築され、その後左袖部を残したまま北東コーナーに作り替えたものである。

#### 竈土層解説

- |                                      |                                       |
|--------------------------------------|---------------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子中量、ローム砂子・粘土粒子・砂粒少量 | 14 灰褐色 粘土粒子多量、焼土ブロック・砂粒中量             |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子多量、砂粒中量            | 15 暗赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化物・粘土粒子・砂粒少量  |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック中量、粘土粒子・砂粒少量            | 16 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 |
| 4 暗赤褐色 焼土ブロック少量                      | 17 暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子中量、ローム粒子・粘土粒子少量  |
| 5 暗赤褐色 焼土ブロック多量、粘土粒子・砂粒少量            | 18 濃い赤褐色 粘土粒子・砂粒多量                    |
| 6 黒褐色 ロームブロック中量                      | 19 褐色 砂粒多量、粘土粒子・粘土粒子中量、炭化粒子少量         |
| 7 暗赤褐色 粘土粒子多量、ロームブロック・焼土ブロック少量       | 20 濃い赤褐色 粘土粒子・砂粒多量、焼土ブロック中量、炭化粒子少量    |
| 8 暗赤褐色 焼土ブロック多量、粘土粒子・砂粒少量            | 21 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量               |
| 9 暗褐色 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量、ロームブロック少量     | 22 暗褐色 粘土粒子・砂粒多量、焼土粒子少量               |
| 10 暗赤褐色 焼土ブロック多量、炭化粒子・粘土粒子少量、砂粒微量    | 23 暗褐色 粘土粒子・砂粒中量、ロームブロック少量            |
| 11 黒褐色 焼土ブロック・ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量      |                                       |
| 12 暗赤褐色 粘土粒子多量、焼土ブロック・砂粒中量           |                                       |
| 13 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・砂粒少量    |                                       |

ピット 1か所確認され、深さは23cmで底面が硬化し、南壁中央部寄りに位置することから出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第146图 第39号住居跡実測図

P1土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量

2 暗褐色 ロームブロック多量

**土塊** 南壁南東コーナー寄りにロームブロックで構築されたしまりの強い高さ25cm、長さ26cm、短径16cmの土壇状の高まりが確認された。土壇に含まれた灰、焼土粒子、炭化物は竈からかき出されたものか、もしくは作り替えられた時の残土と考えられ、位置などから出入口に伴う踏み台状の施設と考えられる。

土塊土層解説

1 黒褐色 灰多量、焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量  
 2 黒褐色 ロームブロック中量  
 3 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量  
 4 黒褐色 ロームブロック中量、炭化物少量

5 黒褐色 ロームブロック中量  
 6 黒褐色 ロームブロック多量、焼土粒子少量  
 7 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量  
 8 褐色 ロームブロック多量

**覆土** 7層に分層され、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

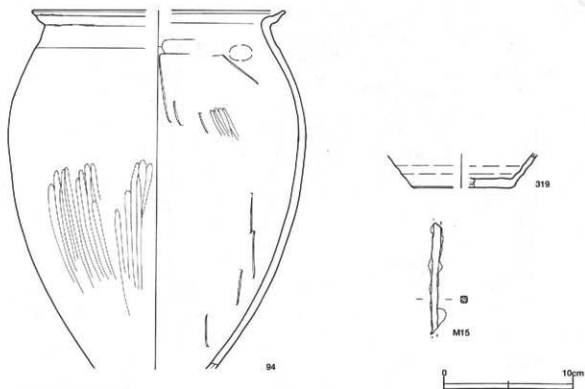
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量  
 2 黒褐色 ロームブロック微量  
 3 暗褐色 ロームブロック中量  
 4 黒色 ロームブロック中量

5 黒褐色 ロームブロック中量  
 6 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量  
 7 黒色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量

**遺物出土状況** 土師器片72点（坏9、甕63）、須恵器片19点（坏11、高台付坏2、蓋1、甕5）、鉄製品1点（長頭鎌カ）、鉄滓4点が出土している。94は竈内部から土圧でつぶれた状態で出土し、319は竈燃焼部から出土している。土師器片、須恵器片、M15・29・30・31・32は覆土中層から出土し、混入品である。

**所見** 調査区域内にコーナー竈を持つ同時期の住居は検出されていないが、時期は出土土器から8世紀後半と考えられる。また、鉄滓が覆土中から4点出土しているため、本跡の周辺部に後世の鍛冶的な施設が存在していた可能性が考えられる。



第147図 第39号住居跡出土遺物実測図

第39号住居跡出土遺物観察表

番号	税別	形番	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	下駄の特徴	出土位置	備考
94	土師器	壺	[19.6]	(28.5)	—	灰母・灰石・石英	にぶい・細	普通	底面の凹凸が不明	電機機部	30%
319	土師器	杯	—	(2.7)	[7.6]	灰母・灰石	にぶい・普通	普通	底面の凹凸が不明	電機機部	30%

番号	器種	長さ	幅	高さ	素材	特徴	出土位置	備考
M15	長直線	(8.8)	0.7	0.5 (9.3)	鉄	断面形方形、基部欠損	西壁中層	PL30

第41号住居跡 (第148・149図)

位置 調査区東部東側、D8d6区の緩斜面部に立地し、南東には第42号住居跡が位置している。

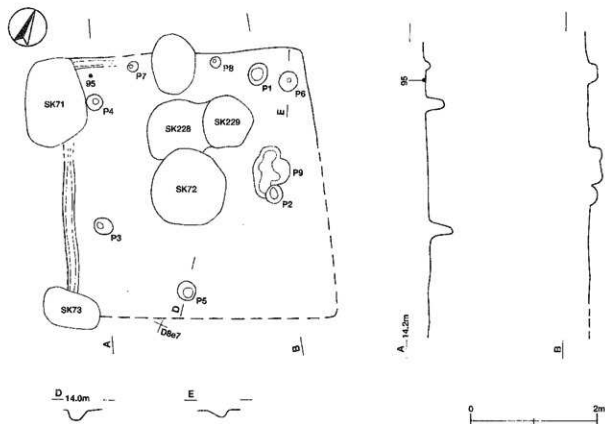
重複関係 中央部を第72・228・229号上坑、北西コーナーを第71号上坑、南西コーナーを第73号上坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 耕作による削平や土坑との重複のため全体の形状を明確にすることはできなかったが、長軸4.18m、短軸4.10mの方形と推定される。主軸はN-28°-Wであり、壁高は2cmほどである。

床 ほぼ平坦であり、床面まで部分的に削平されている。壁溝は西壁下に確認されている。

竈 長径93cm、短径69cmの火床面を残すだけで犬井部及び袖部は削平されている。

ピット 9か所。P1～4は、深さ16～39cmで主柱穴と考えられるが配置と掘り込みの違いから断定できない。P5は深さ19cmで、南壁寄りの中央に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられ、P7・8は深さ15～31cmで竈を挟むように位置し、竈に伴う棚の柱穴と考えられる。P6・9の性格は不明である。



第148図 第41号住居跡尖測図